山形県埋蔵文化財センター調査報告書第144集

空沢遺跡発掘調査報告書

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

空沢遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 144 集

2005

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

空沢（からさわ）遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 144 集

平成 17 年

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

11

注口土器

注口土器出土状況　貯蔵穴ＳＫ 72（北西から）

貯蔵穴群と陥穴列（北西から）

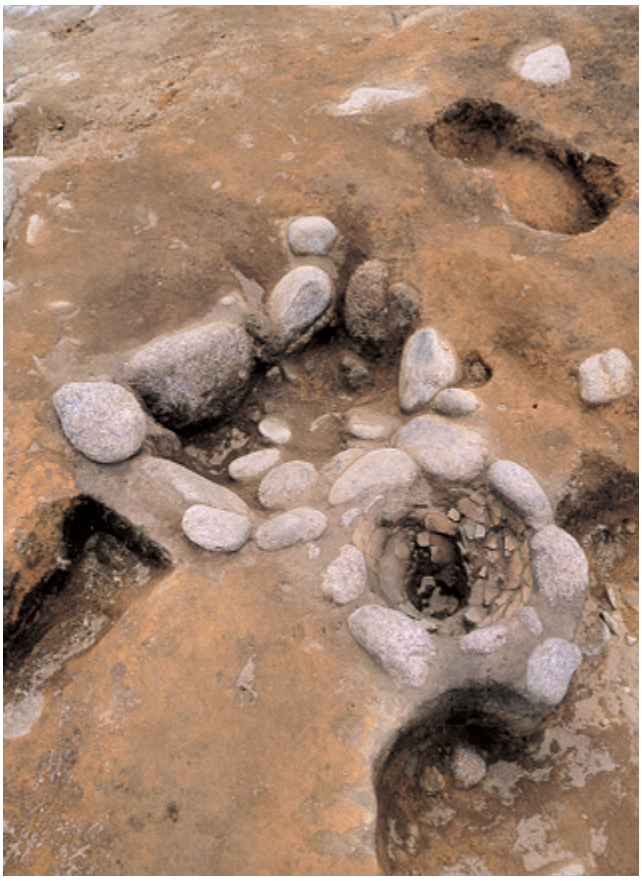
調査区遠景（西から）

調査区遠景（東から）

調査区全景（上が北）

竪穴住居ＳＴ 82（北から）

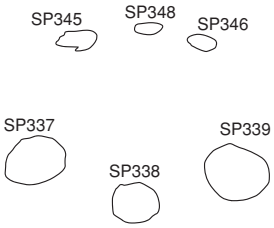
複式炉ＥＬ 368 に埋設された土器



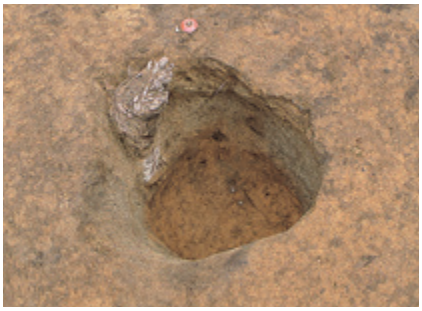
竪穴住居ＳＴ 82 の複式炉ＥＬ 368（北から）

掘立柱建物ＳＢ 367（南東から）

柱穴ＳＰ 337 出土土器（左：3　右：4）



柱穴ＳＰ 345



柱穴ＳＰ 348

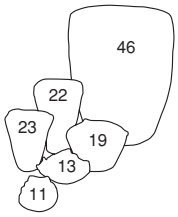
柱穴ＳＰ 346

柱穴ＳＰ 337

柱穴ＳＰ 338

柱穴ＳＰ 339

後期前半の土器群



獣面把手（ＳＫ 76）

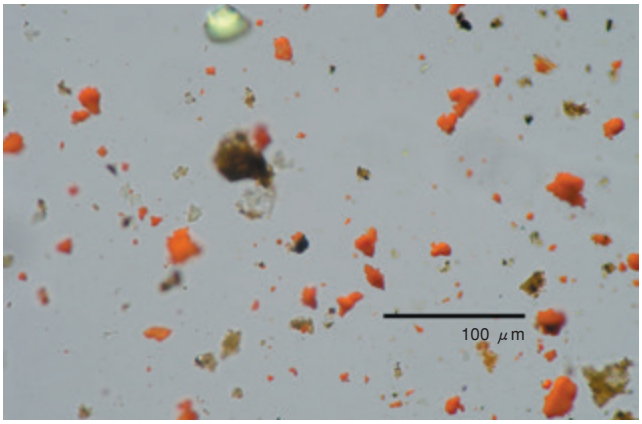
ベンガラが塗彩された土器

水晶

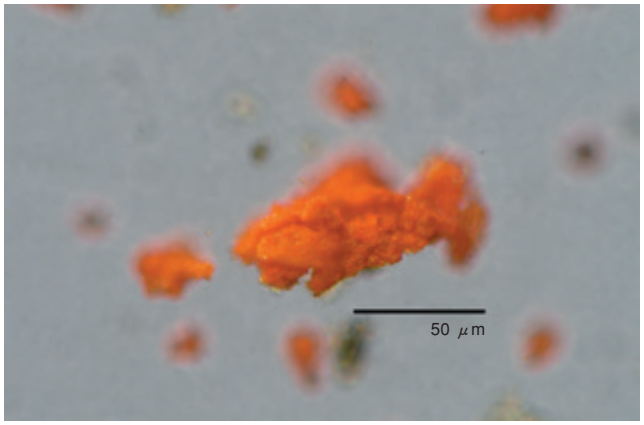
炭化したクリ（左上：258　右上：259　左下：260）

炭化したクルミの殻（貯蔵穴ＳＫ 314）

1　注口土器（11）

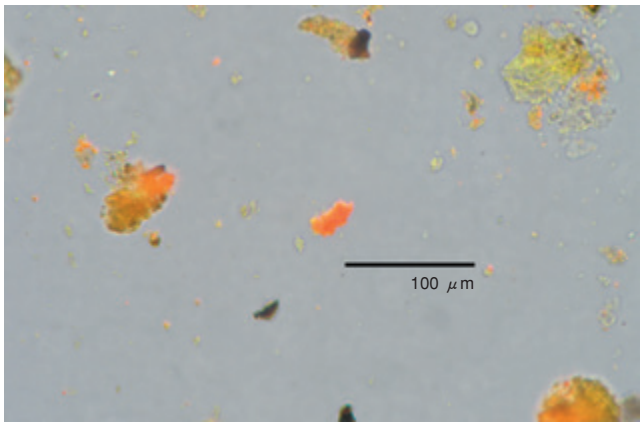


2　注口土器塗彩赤色顔料光学顕微鏡写真 1

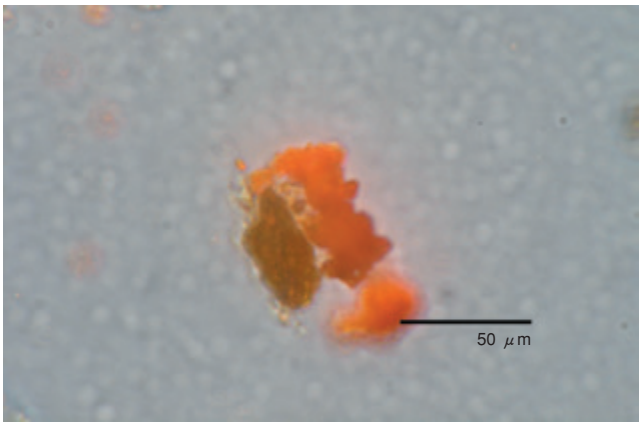


3　注口土器塗彩赤色顔料光学顕微鏡写真 2

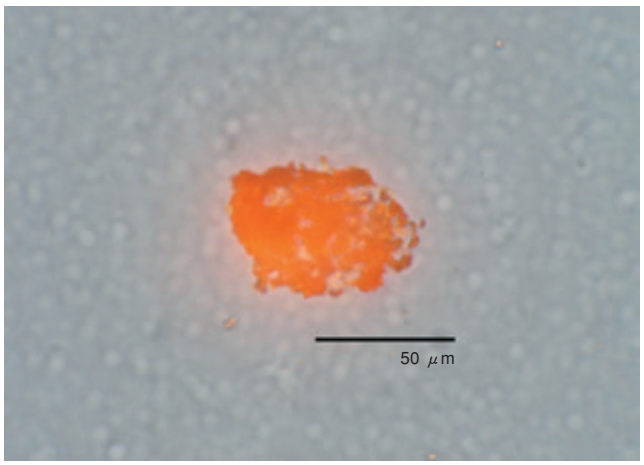
4　沈線に赤色顔料塗彩のある土器片（155）



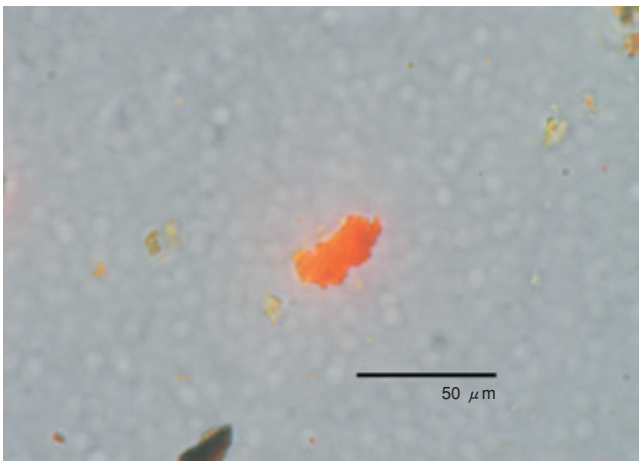
5　土器沈線塗彩赤色顔料光学顕微鏡写真 1



6　土器沈線塗彩赤色顔料光学顕微鏡写真 2



7　土器沈線塗彩赤色顔料光学顕微鏡写真 3



8　土器沈線塗彩赤色顔料光学顕微鏡写真 4

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、空沢遺跡の調査成果をまとめたものです。

空沢遺跡は、山形県南西部に位置する長井市に所在します。長井市は「水と緑と花のまち」とも呼ばれる自然豊かな美しい郷です。きれいな水は精密機械工業を地場産業として根付かせ、またあやめ公園は、3.3 ヘクタールの公園内に 500 種 100 万本のあやめが咲き競う日本一のあやめ公園として広く知られています。

この度、平成 15 年度山形県企業局による新野川第一発電所建設に伴い、工事に先立って空沢遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、縄文時代の遺構として竪穴住居、掘立柱建物、陥穴、貯蔵穴と考えられる土坑などが検出され、集落と狩猟場の二つの側面がうかがえます。遺物は縄文土器、石器などが出土しました。縄文土器は縄文時代早期から晩期にわたる様々な時期のものが見られ、特に中期末から後期初頭にかけての土器は、この地の土器型式を研究する上で重要な資料となります。

これらの調査成果からは、この山間の地がときには小規模ながら人々が暮らす集落として、ときには食料を獲得するための狩猟場として、長い期間にわたり断続的に利用されてきたことが分かります。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及・学術研究・教育活動などの一助となれば幸いです。

なお、「空沢遺跡」という名称は平成 16 年度から「高蹴遺跡」に代わって用いられることになった名称です。平成 15 年度以前の文献などには「高蹴遺跡」の名称で記載されています。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成 17 年 3 月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

理事長　　日野　雅夫

本書は、新野川第一発電所建設に係る「空沢遺跡」の発掘調査報告書である。
既刊の年報、調査説明資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
調査は山形県企業局の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
出土遺物・調査記録類は、報告書作成後、山形県教育委員会に移管する。

調 査 要 項

遺　跡　名	空沢（からさわ）遺跡
遺 跡 番 号	昭和 61 年度新規登録
所　在　地	山形県長井市寺泉字空沢西・入野川向
調査委託者	山形県企業局
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター
受 託 期 間	平成 15 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日
現 地 調 査	平成 15 年 6 月 9 日～ 10 月 31 日
調査担当者	
平成 15 年度	調 査 第 一 課 長　野尻　侃（山形県企業局関連事業担当）
	調 査 研 究 主 幹　長橋　至
	主任調査研究員　須賀井　新人
	調 査 研 究 員　水戸部　秀樹（調査主任）
	副　調　査　員　鈴木　健太郎
平成 16 年度	調 査 第 一 課 長　野尻　侃（山形県企業局関連事業担当）
	主任調査研究員　黒坂　雅人
	調 査 研 究 員　水戸部秀樹（調査主任）
調 査 指 導	山形県教育庁社会教育課文化財保護室
調 査 協 力	山形県企業局電気課
	長井市教育委員会
	置賜教育事務所

凡　　例

1　本書の執筆分担は、以下のとおりである。

第Ⅰ章～第Ⅲ章	水戸部秀樹
第Ⅳ章、第１節	水戸部秀樹・阪英子
第Ⅳ章、第２・３節	鈴木健太郎
第Ⅴ章	手代木美穂（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター）
第Ⅵ章	水戸部秀樹

2　遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第Ｘ系（世界測地系）により、高さは標高で表す。また、方位は座標北を表す。

3　本書で使用した遺構の分類記号は下記のとおりである。

ＳＴ…竪穴住居	ＳＢ…掘立柱建物	ＳＫ…土坑
ＳＰ…ピット	ＳＸ…性格不明遺構	ＥＬ…炉

4　遺構・遺物実測図の縮尺、網点などの用法は各図に示した。

5　土層図の色調記載については、1997 年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準土色帖」によった。

6　発掘調査および本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力、ご助言をいただいた。（敬称略）

石井寛、井上直夫、井本昭、岩崎義信、牛嶋茂、岡田愛、木田真、杉本和樹、鈴木正博、竹田純子、巽淳一郎、田中耕作、手代木美穂、土肥孝、戸田哲也、中村一郎、松井敏也

7　委託業務は下記のとおりである。

基準点測量業務	株式会社横川測量設計事務所
地形・遺構測量（俯瞰撮影）業務	日本特殊撮影株式会社
報告書編集業務	株式会社セビアス

目　　次

Ⅰ　調査の経緯……1
Ⅱ　遺跡の概要……3
Ⅲ　遺　構……9
Ⅳ　遺　物……15
Ⅴ　理化学的分析……21
Ⅵ　総　括……23

遺物観察表……26
遺構実測図……31（付図）
遺物実測図……91
報告書抄録……巻末

表

表1　貯 蔵 穴……13
表2　分析結果……22
表3　縄文土器……26
表4　円盤状土製品……28
表5　石　器……29

図　　版

第 1 図　調査区概要図 ……2
第 2 図　長井盆地の地形分類図 ……4
第 3 図　遺跡位置図 ……6

遺構実測図

第 4 図　遺構実測図の割付図 ……31
第 5 ～ 10 図　遺構実測図 ……32
第 11 ～ 15 図　調査区壁土層図 ……38
第 16 図　竪穴住居ＳＴ 82・複式炉ＥＬ 368・貯蔵穴ＳＫ 70 ‥43
第 17 図　掘立柱建物ＳＢ 367 ……44
第 18 図　集石土坑ＳＫ 77・347 ……45
第 19 図　陥穴Ａ群（ＳＫ 214・216・ 2 ・209）……46
第 20 図　陥穴B群（SK 255・254・38・26）貯蔵穴SK 194 ‥‥47
第 21 図　陥穴Ｂ群（ＳＫ 10・11・25・18）……48
第 22 図　陥穴Ｂ群（ＳＫ 27・29・34・48）……49
第 23 図　陥穴Ｂ群（ＳＫ 153）陥穴Ｃ群（ＳＫ 74）
陥穴Ｄ群（ＳＫ 91）貯蔵穴ＳＫ 90……50
第 24 図　陥穴Ｂ群（ＳＫ 153・87）陥穴Ｄ群（ＳＫ 91）
貯蔵穴ＳＫ 90 ……51
第 25 図　陥穴Ｃ群（ＳＫ 308）陥穴Ｄ群（ＳＫ 309）
貯蔵穴ＳＫ 307 ……52
第 26 図　陥穴Ｃ群（ＳＫ 58・62）陥穴Ｄ群（ＳＫ 84）……53
第 27 図　陥穴Ｃ群（ＳＫ 83・102）……54
第 28 図　陥穴Ｃ群（ＳＫ 73・65）貯蔵穴ＳＫ 72……55
第 29 図　陥穴Ｃ群（ＳＫ 112・133）陥穴Ｄ群（ＳＫ 132）‥‥56
第 30 図　陥穴Ｃ群（ＳＫ 142・143）陥穴Ｄ群（ＳＫ 141）‥‥57
第 31 図　陥穴Ｄ群（ＳＫ 265・266・267）……58
第 32 図　陥穴Ｄ群（ＳＫ 268・269・270）……59
第 33 図　陥穴Ｄ群（ＳＫ 89・104）貯蔵穴ＳＫ 196……60
第 34 図　陥穴Ｄ群（ＳＫ 106・61）貯蔵穴ＳＫ 107……61
第 35 図　陥穴Ｄ群（ＳＫ 66・140・85）……62
第 36 図　陥穴Ｅ群（ＳＫ 69）……63
第 37 図　貯蔵穴ＳＫ 9 ・28・33・39・76……64
第 38 図　貯蔵穴ＳＫ 79・86・95・96・98 ……65
第 39 図　貯蔵穴ＳＫ 80・144・186・199 ……66
第 40 図　貯蔵穴ＳＫ 144・186・199 ……67
第 41 図　貯蔵穴ＳＫ 99・101・117・126・137・145 ……68
第 42 図　貯蔵穴ＳＫ 119・120・193　集石土坑ＳＫ 165 ……69
第 43・44 図　貯蔵穴ＳＫ 109・116・131・150・154
167・173・180　土坑ＳＫ 151・184 ……70
第 45 図　貯蔵穴ＳＫ 152・170・174 ……72

第46図　貯蔵穴ＳＫ175・188　石囲炉ＥＬ177
土坑ＳＫ176 ……73
第47図　貯蔵穴ＳＫ190・206・207・256 ……74
第48図　貯蔵穴ＳＫ257・258・259 ……75
第49図　貯蔵穴ＳＫ262・263・264・271 ……76
第50図　貯蔵穴ＳＫ275・276・278・279 ……77
第51図　貯蔵穴ＳＫ280・281・282・286 ……78
第52図　貯蔵穴ＳＫ287・288・289 ……79
第53図　貯蔵穴ＳＫ291・293 ……80
第54図　貯蔵穴ＳＫ295・311・312・314 ……81
第55図　貯蔵穴ＳＫ318・324・325・326 ……82
第56図　貯蔵穴ＳＫ331・334・335・336 ……83
第57図　貯蔵穴ＳＫ343・349 ……84
第58図　貯蔵穴ＳＫ350・351・352 ……85
第59図　貯蔵穴ＳＫ354・355 ……86
第60図　貯蔵穴ＳＫ364・365 ……87
第61図　土坑ＳＫ３・６・32・37・64・68……88
第62図　土坑ＳＫ75・253・274・320・330・357 ……89
第63図　土坑ＳＫ35・210・219 ……90

遺物実測図

第64図　縄文土器分類図（縮尺は不同）……91
第65図　複式炉ＥＬ368・竪穴住居ＳＴ82
掘立柱建物ＳＢ367・陥穴出土の土器 ……92
第66図　貯蔵穴ＳＫ28・72・76出土の土器 ……93
第67図　貯蔵穴ＳＫ90出土の土器 ……94
第68図　貯蔵穴ＳＫ96・107・116・119出土の土器……95
第69図　貯蔵穴ＳＫ120・131・144・150・154・173・175
190・193・196出土の土器 ……96
第70図　貯蔵穴ＳＫ188出土の土器……97
第71・72図　貯蔵穴ＳＫ199出土の土器……98
第73図　貯蔵穴ＳＫ206・263・271・280・293・314
318出土の土器 …… 100
第74図　貯蔵穴ＳＫ331・350・354出土の土器…… 101
第75図　土坑ＳＫ３・4・40・160・212・222・229
316・323出土の土器 …… 102
第76図　ピットＳＰ156・225・238
倒木痕ＳＸ172出土の土器…… 103
第77図　遺構外出土の土器（早・前期の土器
馬高式土器　大木８ａ・ｂ式土器）…… 104
第78図　遺構外出土の土器（大木10式土器　後期初頭の土器
南境１式土器　宝ヶ峯１・２式土器）…… 105
第79図　遺構外出土の土器（後期・晩期・そのほかの土器）
円盤状土製品 …… 106
第80図　石鏃・尖頭器・石篦…… 107
第81図　石篦・石匙・石錐…… 108
第82図　石錐・掻器・削器…… 109
第83図　磨製石斧・スタンプ形石器・両面調整石器 …… 110
第84図　磨石 …… 111
第85図　磨石・石皿…… 112
第86図　石皿 …… 113
第87図　石皿・水晶・炭化したクリ…… 114

写真図版

巻頭写真１　注口土器11
巻頭写真２　貯蔵穴群と陥穴列
巻頭写真３　調査区遠景
巻頭写真４　調査区全景　竪穴住居ＳＴ82　複式炉ＥＬ368
複式炉ＥＬ368に埋設された土器１
巻頭写真５　掘立柱建物ＳＢ367　深鉢３・４
巻頭写真６　後期前半の土器群
巻頭写真７　獣面把手　ベンガラが塗彩された土器　水晶
炭化したクリ　炭化したクルミの殻
巻頭写真８　赤色顔料光学顕微鏡写真

遺　構

写真図版１　集石土坑　陥穴Ａ群
写真図版２・３　陥穴Ｂ群
写真図版４　陥穴Ｃ・Ｄ群
写真図版５・６　陥穴Ｃ群
写真図版７・８　陥穴Ｄ群
写真図版９　陥穴Ｄ群　陥穴Ｅ群
写真図版10～26　貯蔵穴
写真図版27・28　そのほかの土坑

遺　物

写真図版29　竪穴住居ＳＴ82　陥穴ＳＫ61・89・104
141・209　貯蔵穴ＳＫ28・72
写真図版30　貯蔵穴ＳＫ76・90・96
写真図版31　貯蔵穴ＳＫ107・116・119・120・131
写真図版32　貯蔵穴ＳＫ144・150・154・173・175
188・190・193・196
写真図版33　貯蔵穴ＳＫ199
写真図版34　貯蔵穴ＳＫ199・206・263・271・280
293・314・318

写真図版 35　貯蔵穴ＳＫ 331・350・354
土坑ＳＫ３・４・40・160・212
写真図版 36　土坑ＳＫ 222・229・316・323
ピットＳＰ 156・225・238　倒木痕ＳＸ 172
写真図版 37　遺構外出土の遺物
（早・前期の土器　馬高式土器　大木８ａ式土器）
写真図版 38　遺構外出土の土器
（大木８ｂ式土器　大木 10 式土器
中期末から後期初頭の土器　南境１式土器）
写真図版 39　遺構外出土の土器（南境１式土器
宝ヶ峯１・２式土器　そのほかの土器）
写真図版 40　遺構外出土の遺物（後期後半の土器　晩期の土器
そのほかの土器　円盤状土製品）
写真図版 41　石鏃　尖頭器　石篦
写真図版 42　石匙　掻器　削器　石錐
写真図版 43　両面調整石器　磨製石斧　石皿　磨石
スタンプ形石器
写真図版 44　赤色顔料電子顕微鏡写真

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

空沢（からさわ）遺跡の発掘調査は、山形県企業局（以下「企業局」という。）による新野川第一発電所建設工事に伴って行なわれた。空沢遺跡周辺からは以前から縄文土器や石器などが出土することが知られていたが、昭和61年度に山形県教育委員会（以下「県教委」という。）が実施した埋蔵文化財包蔵地基礎調査（長井地区）により、その存在が確認されることとなった（県教委1987）。

新野川第一発電所建設

昭和63年度には、発電所が建設される予定となったことから、企業局の依頼により試掘調査が実施された。その結果、地表下約20cmから土器・石器が出土し、柱穴などの遺構も検出された（県教委1989）。さらに平成14年度にも企業局および長井市教育委員会の立会いのもと、県教委による試掘調査が行なわれた。調査では縄文時代早期から晩期の土器と石器、遺構では竪穴住居のほか土坑や落ち込みなどが検出された。この試掘調査によって、発電所建設予定地は埋蔵文化財包蔵地として保護の対象となり、事業の実施に当たって埋蔵文化財の保存協議が必要との所見が示された（県教委2004）。

企業局と県教委による協議の結果、発電所建設計画では遺跡自体の保存が困難であるため、記録による保存を行なうこととなった。

記録による保存

上記の協議結果を受け、平成15年度に企業局からの委託による発掘調査が、財団法人山形県埋蔵文化財センターにより実施されることになった。調査に先立ち、平成15年6月3日に長井市古代の丘資料館において、山形県教育庁社会教育課文化財保護室、企業局電気課、長井市教育委員会および財団法人山形県埋蔵文化財センターによる事前打合せ会が開催された。その中で事前に調整された調査期間、調査方法、調査事務所設置箇所、調査事務所への進入路などについての確認を行なった。

なお､「空沢遺跡」という名称は平成16年度から「高蹴（たかへぐり）遺跡」に代わって用いられることになった。よって平成15年度以前の文献などには本遺跡は「高蹴遺跡」の名称で記載されている。

高蹴（たかへぐり）遺跡

2　調査の経緯

調査は平成15年6月9日から同年10月15日までの予定で開始されたが、後日遺跡の内容が当初想定された遺構数・規模を大きく上回ることが明らかになったため、企業局と協議の上、同年同月31日まで調査期間を延長した。これに伴い調査予算の増額補正を行なった。また、平成15年度内に発掘調査・整理作業を終え、報告書を刊行する予定であったが、報告書の刊行のみ平成16年度に行なうこととした。

平成15年8月24日（日曜日）には現地にて調査説明会が開催され、約100名の参加者が来跡した。また報道機関による取材も数社あり、テレビ、新聞などで説明会の様子が紹介された。

約100名の参加者

3　調査の方法

調査区の周囲は、西側と南側では野川、東側では民家と畑地、北側では上位の段丘面へと向かう急斜面に接している。そのため調査区外に調査区内から除去した表土を置くスペースを確保で

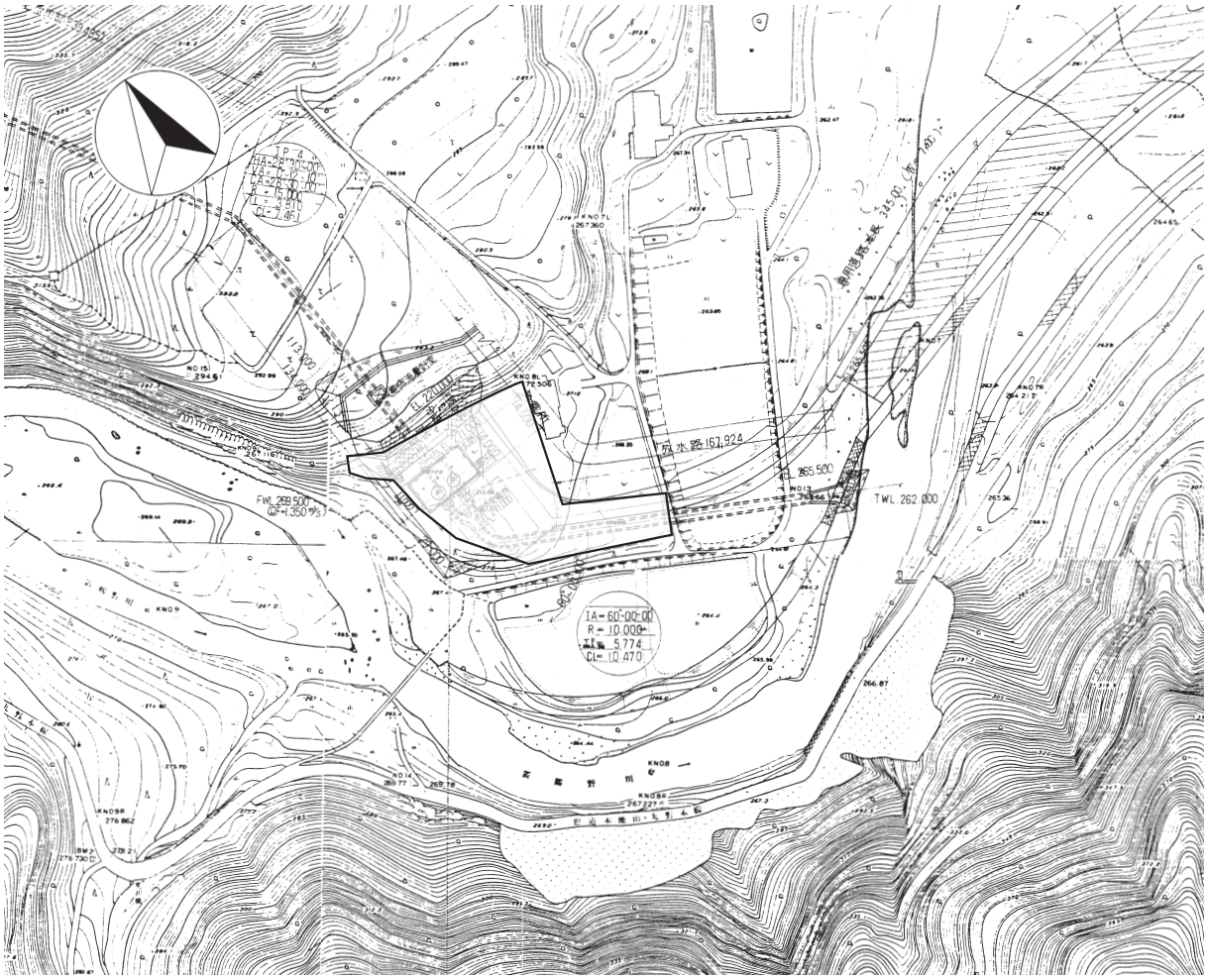
きなかった。よって、調査工程を二回に分けて進めることとした。まず、調査区南側から除去した表土を調査区北側に仮置きし、南側およそ四分の三の面積を調査した。次に仮置きした残土と調査区北側から除去した表土を調査が終了した南側部分に移動した。その後、調査区北側四分の一の調査を行なった。このように二工程に分けた調査であるため、上空から遺跡全体を撮影しても調査区全体を入れることはできなかった。「巻頭写真４」の上段の遺跡全景写真は二回に分けて撮影した写真を合成したものである。

世界測地系グリッドの設定

調査区内に設置したグリッドは２m四方とした。グリッドの方角は平面直角座標系第Ⅹ系（世界測地系）に沿う。グリッドの名称はハイフンによって繋げられた二組の数字（例：12 - 34）で表した。二組の数字のうち前者は南北に増減する数字を、後者は東西に増減する数字を示す。グリッド名が示す範囲は、それぞれの数字が示す南北軸と東西軸の交点の第一象限となる２m四方の４㎡である。

前述したように調査工程は二回に分けて行なった。その都度重機による表土除去、遺構検出、遺構調査、遺構断面図・遺構平面図の作成、遺構断面・遺構の完掘状況・遺物出土状況の写真撮影などの調査・記録作業を行なった。ラジオコントロールヘリコプターを用いた空中写真撮影も二回に分けて行なった。

遺物の出土地点の記録については、遺構から出土したものは遺構と層位とグリッドにより、遺構外から出土したものはグリッドと層位によった。



第１図　調査区概要図（１：3,000）

Ⅱ　遺跡の概要

1　地理的環境

空沢遺跡は山形県長井市寺泉字空沢西と入野川向にまたがって位置している。調査区南側の一段低い部分が入野川向、北側の高い部分が空沢西となる。調査区中心部の経緯度は北緯38度5分42秒、東経139度57分49秒である。

遺跡のある長井市は山形県の南西部に位置し、北は西村山郡朝日町・西置賜郡白鷹町、東は南陽市・東置賜郡川西町、南は西置賜郡飯豊町、西は同郡小国町に接する。長井盆地の中心を占め、置賜郡域の北西部に当たる。東部を北流する最上川は、南部で白川、中央部で野川をそれぞれ左岸に合せ、北隣の白鷹町へと向かう。

長井盆地

長井盆地は置賜地方北部にある地溝状盆地で、長井市を中心に白鷹町・飯豊町にわたる。南北約20km、東西の幅は北部で約8km、南部で12kmと北に狭い長方形をなす。盆地の西側に朝日山地との境を画する大断層があり、これに沿って大小の扇状地が形成されている。盆地北半は最上川の氾濫原・段丘面・崖錐が発達し、畑地が広がっている。一方、南半は水田中心の土地利用となっている。

野川

本遺跡は最上川に注ぐ野川の左岸に位置している。野川は大朝日岳（1870m）の南面に水源を発する一級河川である。指定流路延長は22.65km、流域面積は約130平方kmに及ぶが、その八割は峻険な山岳地で谷も深く、洪水の被害も絶えることがなかった。近世中期以降、記録に残る主な洪水だけでも宝暦七年（1757）・明和六年（1769）・文政七年（1824）・天保元年（1830）・万延元年（1860）と5度を数えている。一方で貴重な用水源でもあり、栃木堰・九野本堰・平山堰などが設けられ生活に欠くことのできない川でもあった。

長井ダム
野川第一発電所
新野川第一発電所

昭和26年（1951）以降、県営野川総合開発事業が発足し、管野・木地山の二つのダムが完成したが、第三のダムとして国土交通省により長井ダムが建設中である。現在は管野ダムの水を野川第一発電所が、木地山ダムの水を野川第二発電所が使用している。新野川第一発電所建設は長井ダム建設による野川水系再開発の一環として昭和63年度に着手されたものである。

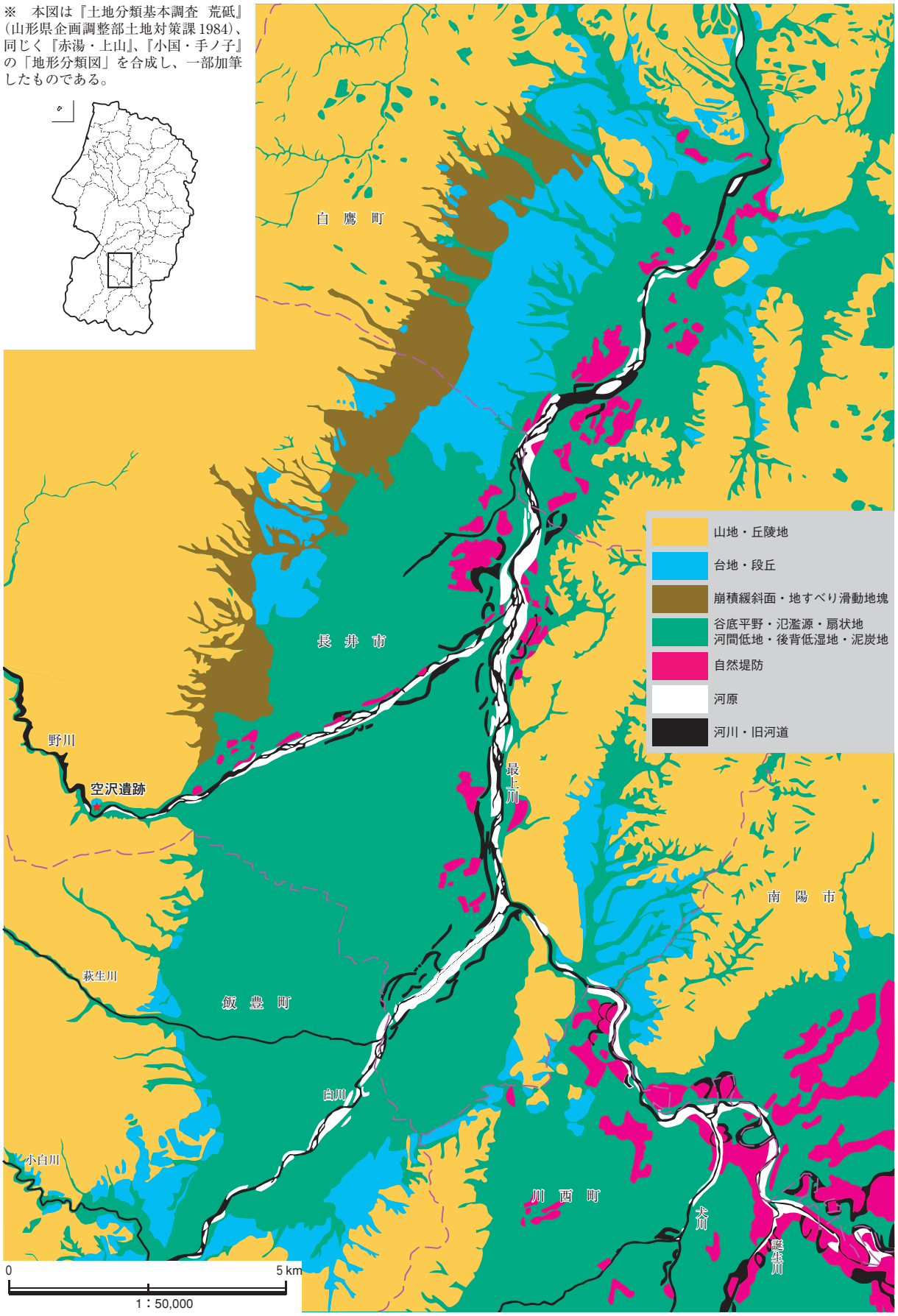
水源を発した野川は、上流部で曲流し、かつ下刻作用により深い谷を穿った。木地山ダム、管野ダムを経て谷口付近に至り、平野部で狭い低地を形成した後扇状地に達する。川幅を広げた野川は平野部を潤し、長井市の中心部で最上川に合流する。

空沢遺跡は、谷口より1.5kmほど遡った所で、東流する野川が大きく南に曲流する部分の北側に張り出した段丘面に位置する。空沢遺跡が所在する段丘のように遺跡の立地に適した地形は、野川流域ではここより上流には存在しない。

桂谷遺跡

空沢遺跡より上流で確認されている遺跡は桂谷遺跡のみであり、縄文時代の包蔵地として登録されているが、剥片が採集されているに過ぎず詳細は不明である。谷口より上流に7kmほどのところで、管野ダムと木地山ダムのおよそ中間である野川第二発電所から、合地沢へ向かってややさかのぼった傾斜面に位置しており、地形的にも小規模な遺跡であると判断される。

野川や背後に控える朝日山系の豊かな自然は、当然縄文時代にも存在したと考えられ、重要な食料資源となっていたことは空沢遺跡で見られる多数の貯蔵穴や陥穴からも推定できる。



第２図　長井盆地の地形分類図（１：50,000）

2　歴史的環境

空沢遺跡（93）が位置する長井盆地には周知の遺跡は多数存在するが、縄文時代の遺跡については盆地の西縁部で朝日山地との境界部分に特に集中している。中でも勧進代（かんじんだい）から草岡にかけての段丘面上に濃厚な分布を示している（第３図　遺跡位置図）。また、平野部では野川が最上川に合流する成田付近の自然堤防上に数遺跡が確認されている。ほかに長井盆地東縁部にも点在する。

勧進代から草岡

昭和53年に刊行された『山形県遺跡地図』（県教委1978）までの分布調査では、空沢遺跡の存在は確認されておらず、そのため遺跡番号も未登録である。本遺跡の発見は、前章で触れたとおり昭和61年度の県教委による埋蔵文化財包蔵地基礎調査（長井地区）によるものである。そのため現状では仮に「昭和61年度新規登録」として報告されている。

空沢遺跡は、長井盆地でも勧進代から草岡までの縄文時代の遺跡が密集する段丘面からやや離れた分布を示している。最も近い遺跡は野川の谷口付近に位置する中世の小豆澤館跡（94）であるが、縄文時代の遺跡では、中・後期の中川原遺跡（109）、中期の台の上遺跡（110）、中・後期の剣堂遺跡（111）などが谷口から500ｍほど南の山麓にある。さらに南の山麓沿いにもまばらながら縄文時代の遺跡が点在している。

※遺跡名の後の括弧内数字は「第３図　遺跡位置図」の番号に対応する。

縄文時代の遺跡が密集する勧進台・草岡までは、野川の谷口から山麓沿いに北へ2250ｍほどであるが、その間にも遺跡は点在する。中期の大沢第２遺跡（84）、早・前・中期の九兵衛山遺跡（85）が空沢遺跡に最も近い。

周辺の遺跡で特筆すべきは、半截木柱遺構が検出された長者屋敷遺跡（48）である。半截木柱遺構とは、縦割りした木材を柱として据えた柱穴のことで、県内初の検出例でもある。遺構の直径は0.8ｍ～１ｍ、深さは0.8ｍ～1.2ｍ、推定された柱の直径は0.5ｍ～0.8ｍである。４基の半截木柱遺構により構成され、建物ではなく巨木柱列と考えられており、その配置は二至二分時期の日の出・日の入りの方角を示していることが確認されている（岩崎2002）。

半截木柱遺構
長者屋敷遺跡
二至二分

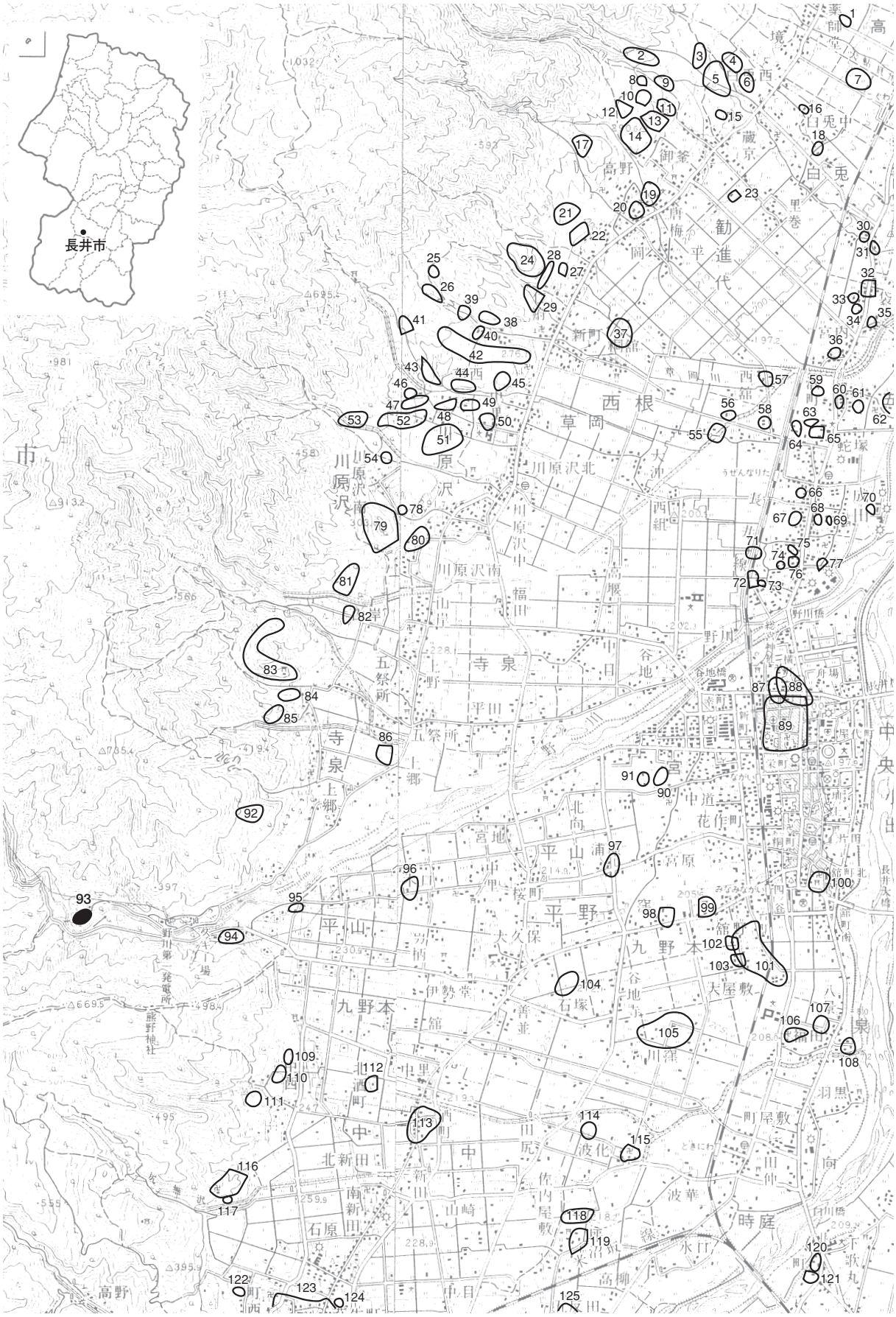
長者屋敷遺跡は野川の谷口から山麓沿いに北へ2400ｍほどの草岡に位置する。旧石器時代から縄文時代、弥生時代にかけての複合遺跡である。主体は縄文時代中期末で、竪穴住居が20棟以上検出されており、直径50ｍ～60ｍの環状集落であることが分かっている。また、竪穴住居には大木９・10式の土器が埋設された複式炉が構築されている。ほかに旧石器時代のナイフ形石器、縄文時代前期の土壙墓からは玦状耳飾２点、弥生時代中期のアメリカ式石鏃、縄文時代中・晩期の土器片内部に漆が付着した漆液容器などが出土している（岩崎2000ｂ）。　遺跡の規模やシンボル的な構造物が想定される半截木柱遺構などの存在から、近在するほかの遺跡からは抜きん出た拠点的な集落と考えられる。

拠点的な集落

さらに草岡周辺では、長者屋敷遺跡の東側に縄文時代晩期中葉の中里遺跡（49）がある。昭和59年の発掘調査では、集石遺構・配石遺構・土壙（墓）などが検出されている（佐藤ほか1985）。また、平成14年の調査では、晩期前葉の土坑群が検出されている（岩崎2003）。その北側に位置する新田（しんでん）遺跡（42）からは早期中葉の竪穴住居が３棟検出されており、貝殻腹縁文が施された土器が出土している。ほかにも中期末・晩期中葉の集落跡とされる長者原遺跡（52）、旧石器・縄文時代の長者原Ｂ遺跡（47）、縄文時代の戸根林Ｂ・Ｃ遺跡（28・29）などが確認されている。

草岡の北側の勧進代には、中期末から後期前葉の集落跡と考えられている唐梅（かろめ）遺跡（19）がある。空沢遺跡で出土した土器の主たる時期と同時期の土器が出土しており、特に注意される遺跡である。信濃川・阿賀野川流域に分布する後期前葉の三十稲場式土器なども出土しており、空沢

唐梅遺跡
三十稲場式土器



第３図　遺跡位置図（１：25,000）　国土地理院発行２万５千分の１地形図「長井」・「羽前上郷」を使用

遺跡との密接な繋がりが推定される。

同じく勧進代字岡では中期末から後期前葉の問答山遺跡が長井市教育委員会により新規発見遺跡として報告されている（第３図には未掲載）。発掘調査では竪穴住居が２棟検出され、うち１棟には複式炉が構築されていた。出土した土器は大木９・10式である。

勧進代の北隣の白兎では縄文時代後期中葉から晩期の弁天前遺跡（３）の試掘調査が行なわれている。後期中葉の加曽利Ｂ式に併行する土器、同じく後葉の瘤付土器、晩期の粗製土器などが出土している（岩崎 2000 ａ）。

平野部の遺跡

平野部での調査事例として、野川と最上川が合流する地点の南側である十日町に位置する宮遺跡（88）がある。野川の自然堤防沿いに立地しており、東西 100 ｍの規模を持つものと推定されている。これまで三度の発掘調査が行なわれ、竪穴住居や土坑などが検出されており、中期前葉から中葉の大規模集落遺跡と考えられている（岩崎 2003）。野川と最上川が合流する地点の北側の成田では、縄文時代前期前半の三嶋遺跡（76）が調査されている。土壙墓と考えられる遺構からは、羽状縄文が施された前期初頭から前半の土器が出土している（岩崎 1999）。

上記のように空沢遺跡より出土した早期から晩期に及ぶ広範な時期範囲の土器群に関連していると考えられる遺跡は、同遺跡の周辺に数多く見られることが確認できよう。

番号	遺跡名	時代	種別	番号	遺跡名	時代	種別	番号	遺跡名	時代	種別
1	備後館		館跡	43	片倉	縄文	散布地	85	九兵衛山	縄文（早・前・中期）	包蔵地
2	光明寺跡	室町・安土桃山	寺跡	44	西寺山	縄文	散布地	86	寺泉古館		館跡
3	弁天前	縄文	散布地	45	南寺山	縄文・平安	集落跡	87	横町	平安	包蔵地
4	三五屋敷	縄文	散布地	46	畑ヶ沢	縄文	散布地	88	宮	縄文（中期）	集落跡
5	明神堂	室町・安土桃山	祭祀	47	長者原Ｂ	旧石器・縄文	散布地	89	小桜城	平安・中世・近世	館跡・包蔵地
6	砂畑	江戸	散布地	48	長者屋敷	旧石器・縄文・弥生	集落跡	90	堀端	奈良・平安	集落跡
7	小田館		館跡	49	中里	縄文	集落跡	91	圷ノ上	奈良・平安	集落跡
8	蔵京Ａ	縄文（晩期）	集落跡	50	中里Ｂ	縄文	散布地	92	南鴨石館		砦
9	北堂Ａ	縄文	散布地	51	松山	縄文	散布地	93	**空沢（高蹴）**	縄文	集落跡
10	北堂Ｂ	縄文	散布地	52	長者原	縄文	集落跡	94	小豆澤館		砦
11	蔵京Ｂ	旧石器・縄文	集落跡	53	二階棚	縄文	散布地	95	小坂館		館跡
12	三吉西	縄文	散布地	54	道合	縄文	散布地	96	片倉館		館跡
13	北堂Ｃ	旧石器・縄文	包蔵地	55	手塚館		館跡	97	浦原館		館跡
14	勧進代山館	中世	館跡	56	大屋敷	室町・安土桃山	館跡	98	金城館		館跡
15	薬師林	縄文・江戸	散布地	57	野際	縄文・室町・安土桃山	散布地	99	正福寺館		館跡
16	外屋敷	縄文	包蔵地	58	平吹館		館跡	100	白山館		館跡
17	中峯	縄文	散布地	59	的場	平安	集落跡	101	南台	古墳・平安	散布地
18	半在家	縄文	散布地	60	酒町	平安	散布地	102	遠藤屋敷	中世	館跡
19	唐梅	縄文	包蔵地	61	蛇塚	室町・安土桃山	散布地	103	大屋敷	中世	館跡
20	高野	縄文	散布地	62	岡	平安	散布地	104	登之越	縄文（後期）	包蔵地
21	平林	縄文	散布地	63	唐人屋敷	縄文・室町・安土桃山	散布地	105	谷地中	縄文（晩期）	包蔵地
22	岡	縄文	散布地	64	掃部館		館跡	106	館之越	縄文（中期）	集落跡
23	金田館		館跡	65	山口館		館跡	107	堂之越		祭祀
24	戸根林館		砦	66	中宿	縄文	散布地	108	遠藤館	室町・安土桃山	館跡
25	椀平Ａ	縄文	散布地	67	本宿西	縄文・江戸	散布地	109	中川原	縄文（中・後期）	集落跡
26	椀平Ｂ	縄文	散布地	68	本宿東	近世	包蔵地	110	台の上	縄文（中期）	集落跡
27	仁府	室町・安土桃山	祭祀	69	的場	縄文	散布地	111	剣堂	縄文（中・後期）	集落跡
28	戸根林Ｂ	縄文	散布地	70	開	室町・安土桃山	祭祀	112	中村荒館		館跡
29	戸根林Ｃ	縄文	散布地	71	飯沢北館		館跡	113	中村館		館跡
30	小豆沢	奈良・平安	散布地	72	飯沢館		館跡	114	検断屋敷	中世	散布地
31	三五ヘエ坂	江戸	散布地	73	伊津那大権現	江戸	祭祀	115	時庭館	中世	館跡
32	色摩館		館跡	74	成田館		館跡	116	天養寺館		館跡
33	袋西	縄文	散布地	75	唐網	縄文	散布地	117	観音堂	縄文	集落跡
34	袋	縄文	散布地	76	三嶋	縄文	散布地	118	黒沢北館		館跡
35	四ッ谷館	室町・安土桃山	館跡	77	塔様	縄文	包蔵地	119	黒沢館		館跡
36	宮内	江戸	散布地	78	神明森	縄文	散布地	120	界斎	縄文	散布地
37	草岡館		館跡	79	白山森館		城砦	121	古屋敷	室町・安土桃山	館跡
38	西光寺西	縄文	散布地	80	黒附	縄文	集落跡	122	柳沢Ａ	縄文（中・後期）	集落跡
39	岩ヶ山	縄文	散布地	81	小峯	旧石器・縄文	散布地	123	萩生城		館跡
40	西岩ヶ沢	縄文	散布地	82	大林	縄文	散布地	124	石箱	縄文（中・後期）・平安	集落跡
41	梨ノ木平	縄文	散布地	83	小屋館		砦	125	黒沢中館		館跡
42	新田	縄文	集落跡	84	大沢第２	縄文（中期）	集落跡				

3　調査の概要

A　基本層序

二段の段丘面

調査区は二段の段丘面にわたって設定されているが、いずれも調査前の現状は畑地であった。そのうち高位の段丘面は既に耕作が行なわれなくなっており、雑草が生い茂っている状態であった。x = − 211,120 m付近を境に段丘面が二段に分かれており、南側が標高およそ 268.5 m、北側の標高が 271.5 mを中心としておりその差は約 3 mとなる。段丘崖の標高差は約 2 m（第 15 図）である。調査区の北側にはさらに高位の段丘面があり、調査事務所などを設置した。

調査区付近ではこのように都合三段の段丘面が見られる。本書ではそれぞれ「上位・中位・下位段丘面」と表記する。グリッド杭を設置するより前の段階で遺物包含層から出土した遺物は、それぞれの段丘面に仮の名称を付して取り上げを行なった。上位段丘を「上段」、中位段丘を「中段」、下位段丘を「下段」と称した。ただし、上位段丘面は遺跡範囲ではない。表 3 ～ 5 に示した遺物の出土地点名として「中段」・「下段」としたものはこれによるものである。

調査区壁土層図は第 11 ～ 15 図である。第 11 図にそれぞれの土層図のセクションポイントの位置を示した。基本層序として調査区壁に沿って一部深く掘り下げた箇所と、撹乱により深く掘削されていた箇所の土層図を第 12 図の四段目と第 14 図の一段目に併載している。

地表面から地山までは深さ約 0.4 ～ 1 mを測る。地表面から深さ約 20 ～ 50cm が耕土、その下に厚さ約 10 ～ 30cm の遺物包含層が調査区全般にわたって確認できたが、遺物の出土数量は地点によりばらつきがある。

遺跡周辺の地形は、北から南へ、西から東へと緩やかに傾斜している。調査区北端は上位段丘との段丘崖に接しており、第 14 図の 9 ・11・12・14 層に見られるように上方からの二次堆積層が顕著に見られた。この層からの遺物の出土はなかった。下位段丘面では、第 15 図の 12・14・15 層が二次堆積層である。こちらの二次堆積層からは遺物の出土があり、上方からの土砂とともに堆積したものと考えられる。

崩落しやすい地山

調査区壁土層図ａ－ａ’・ｂ－ｂ’では、57 層以下が地山である。黄色系の砂層のほかに一部粘土層が入る。また 60 層以下は石が多く含まれ河岸段丘の特徴を表している。地山が砂礫層であるため、非常に水はけが良く雨天時でも調査を行なうことが可能であった。

B　遺構と遺物の分布

出土遺物は 80 箱

下位段丘面では遺構・遺物とも少なかったが、中位段丘面からは多数の遺構が検出された。遺物の出土箱数は 80 箱であり、その大半は中位段丘面上の遺物包含層と遺構からの出土である。特に調査区中央部西側付近の貯蔵穴が密集している箇所からのものが多い。80 箱の遺物のうち

磨石と石皿が多い

50 箱は石器であり、磨石と石皿がその大半を占める。これらは検出された多数の貯蔵穴との深いかかわりを示していると考えられる。

独立棟持柱

主な遺構は、複式炉を持つ竪穴住居 1 棟、独立棟持柱を持つ掘立柱建物 1 棟、陥穴 50 基、貯蔵穴 90 基である。また、貯蔵穴であると判断できなかった削平を受けた浅い土坑が 16 基検出された。ほかにも多数の土坑・ピットが検出されており、中位段丘面は遺構が非常に密集している状況を呈していた。調査区土層図ｂ－ｂ’の 45 ～ 50 層は陥穴（ＳＫ 213）であると考えられ、遺跡範囲が調査区の東側へと続いている証左となる。

Ⅲ 遺　構

1　竪穴住居

ＳＴ 82（第 16 図　巻頭写真 4）　検出された竪穴住居はＳＴ 82 の 1 棟のみである。中位段丘南端で検出され、そのため段丘崖に接している。崖際に立地しているため、遺構の南端部は既に崖下へ崩落していた。遺構の掘り込みは少なく最深部でも 15cm 程度である上に、地形が東側へと傾斜していることもあり、遺構の東端部は検出できなかった。平面形は隅丸方形、推定される直径は 3 mである。中央から南東方向に複式炉ＥＬ 368 が構築されている。また、床面上を精査しても柱穴や貼床土などは検出されなかったが、ＳＴ 82 の下に貯蔵穴であると考えられる土坑ＳＫ 70 が検出された。

浅い竪穴住居

複式炉ＥＬ 368 は土器埋設石組部、敷石石組部、掘り込み部からなる上原型複式炉と呼称されるものである。長軸 1.44 m、短軸 0.68 m、土器埋設石組部は住居の中央に位置し、埋設された土器の周囲に石を一周分配置している。土器内面は剥落し、石囲部は内側が赤色化しており、熱を受けた痕跡は明瞭であった。一方、敷石石組部の敷石は、石組内全面ではなく土器埋設石組部側に部分的に敷かれているのみであった。やはり内面は熱を受け赤色化していた。掘り込み部は非常に浅い。図中では掘り込み部にも石が示されているが、これは地山の礫層が表出しているためであり、意図的に配置されたものではない。ＥＬ 368 の南東側も段丘崖へ崩落していると考えられ、掘り込み部の末端側の形状は失われている。

上原型複式炉

断面図によりＥＬ 368 を観察すると、土器埋設石組部が最も高い位置にあり、敷石石組部が最も低い位置にある。また､その中間の位置に掘り込み部の高さがある。ＥＬ 368 の覆土である 6・7・8 層には炭化物が多く含まれている。上記の被熱の痕跡とともに火を焚いた痕跡であると考えられる。

火を焚いた痕跡

埋設された深鉢 1 は大木 10 式古段階のものであり、すなわちこの住居の構築時期を示す。器体の上半部と底部を除いた下半部のみを用いている。

住居の構築時期

2　掘立柱建物

ＳＢ 367（第 17 図　巻頭写真 5）　独立棟持柱を持つ掘立柱建物が 1 棟のみ検出された。柱穴の数は 6 基である。梁行 1 間×桁行 1 間、さらに両妻の外側に柱穴が 1 基ずつ配置され、柱穴の配置は亀甲形を呈す。柱間は、桁行 3.4 m、北西側の梁行 3.04 m、南東側の梁行 2.84 m、棟持柱同士の間隔は 4.84 mである。建物の方位は北で西に 52 度 6 分 45 秒振れる。主柱穴の底面の標高は 271.04 ～ 271.12 m、独立棟持柱の柱穴の標高は 271.4 mで後者が 30cm ほど高い。柱根自体はいずれの柱穴からも出土しなかった。また、建物内部の施設に関する遺構も検出されなかった。

独立棟持柱を持つ掘立柱建物

亀甲形の柱配置

柱穴ＳＰ 346 では検出面で直径 30cm の柱痕が確認された。柱穴内部には、その柱痕の位置を取り囲むように拳大から人頭大の石が詰め込まれている。柱は出土しなかったが、検出面と断面で柱痕を確認できたほか、柱を支えるために充填された石が柱痕の周囲から多数検出されたことから、柱穴であることは疑いない。

柱の固定

硬質化した柱の痕跡

柱穴ＳＰ 339 の柱痕は直径 32cm、柱穴の底部には柱の重みで硬質化したと考えられる箇所が直径 12cm の範囲で検出された。柱痕の周囲はＳＰ 346 と同じく石と土で埋め戻されている。

柱穴の規模の違い

柱穴ＳＰ 338 が独立棟持柱に相当するものと考えられる。検出面と断面で柱痕を確認することができた。ＳＰ 348 も同じく独立棟持柱であるが、この 2 基はほかの柱穴に比べて明らかに規模が小さい。また、柱穴底面での柱の重量による硬質化も見られなかった。

大洞ＢＣ式期

柱穴ＳＰ 337 でも柱痕と底面の硬化面が確認された。柱の固定に多数の石を詰めることはなかったが、１点の大型の石（直径 40cm）が柱痕に接するように落とし込まれていた。この柱穴からは深鉢 3 ・ 4 が出土している。いずれも縄文時代晩期の大洞ＢＣ式に属するものであり、この掘立柱建物が構築された時期を示していると考えられる。

柱穴ＳＰ 345 では柱痕・硬化面とも検出されなかった。ＳＰ 346・339 と同じく柱穴中央部を取り囲む位置に石が詰め込まれており、柱の直径もおよそ 30cm と推定できる。

柱穴ＳＰ 348 では断面図を作成していないが、柱穴の配置と規模などから、ＳＢ 367 を構成する独立棟持柱の柱穴であると考えられる。

重量配分の違い？

独立棟持柱を持つ掘立柱建物の上部構造については諸説あるが､未だ明確な結論を得ていない。ＳＢ 367 の主柱穴と独立棟持柱の柱穴とでは、多くの相違点がある。 4 基の主柱穴がほぼ同じ規模であり、柱の周囲に石を詰めるという掘方の埋め戻し方法も同じであるが、独立棟持柱の柱穴は主柱穴より明らかに規模が小さく石を詰めることもなされていない。また、柱穴底面の硬化面が独立棟持柱の柱穴では見られない。独立棟持柱よりも、主柱に対して大きな重量配分となる地上建物が想定される。

3 土　　坑

土坑は 234 基検出した。内訳は、集石土坑 3 基、陥穴 50 基、貯蔵穴 90 基、そのほかの土坑が 91 基である。

A 集石土坑

集石土坑ＳＫ 77（第 18 図　写真図版１）　2 基の土坑が重複した状態で検出されたが、一括して石が埋め込まれた様相を呈しているため一つの遺構として扱った。拳大から人頭大の石が多数出土した。中には磨石 241、石皿 254･255 が含まれている。集石の配置に規則性は見受けられず、土坑内に廃棄された結果であると推定される。

集石土坑ＳＫ 165（第 42 図　写真図版 12）後に掘り込まれた貯蔵穴ＳＫ 119 と重複している。拳大から人頭大の石が隙間なく詰め込まれている。ＳＫ 165 の周辺は貯蔵穴が密集しており、ＳＫ 165 も同じく貯蔵穴として構築され、後に石を廃棄され埋め戻されたものと考えられる。

火を焚いた土坑

集石土坑ＳＫ 347（第 18 図　写真図版１）　土坑の底面に拳大から人頭大の扁平な石を敷き詰めている。集石直上の 4 ・ 5 層には炭化物や焼土が多く含まれており、火を焚いた結果であると考えられる。住居内ではないため屋外炉の可能性がある。

B 陥　穴

陥穴列の検出

陥穴は全部で 50 基検出し、A群からＥ群に分類を行なった。A群 4 基、B群 14 基、C群 12 基、D群 18 基、Ｅ群 2 基であり、各群はそれぞれ列状に並んで構築されている。ただし、Ｅ群はいずれにも属さない単独の陥穴をまとめたものである。平面形は長方形で、底面に逆茂木痕が検出

されたものが多い。逆茂木痕の中には、逆茂木を固定するためのものと考えられるが、拳大までの小石を多数詰め込んだものもある。覆土内には地山崩落土と見られる黄褐色系の砂、あるいは砂質土が下半部の層に含まれているものが多い。上半部の層では腐葉土である黒色系のシルトが堆積している。

逆茂木の固定

地山の崩落土

陥穴Ａ群（第19図　写真図版１）　下位段丘面上で４基の陥穴が南北方向に並んで検出された。北からＳＫ214･216･２･209が本群である。陥穴同士の間隔は、ＳＫ214からＳＫ２までは5.2ｍ、ＳＫ２からＳＫ209までは３ｍである。陥穴Ａ群のみ下位段丘面に位置する。陥穴の覆土は、上端付近から崩落した地山である褐色系の砂質土を多く含んでいる。よってこれらの陥穴は、検出時では長楕円形を呈しているが、本来は底面の形状と同じく長方形、あるいは隅丸長方形であったと考えられる。ＳＫ214以外では底面中央部付近に逆茂木跡と見られるピットが検出された。本群の陥穴は４基のみだが、さらに北側の調査区外に続くものと見られる。

調査区外に続く

陥穴Ｂ群（第20～24図　写真図版２・３）　調査区北西部分で14基の陥穴が、半円状に並んで検出された。北西から時計回りにＳＫ255・254・38・26・10・11・25・18・27・29・34・48・87･153が本群である。ＳＫ87だけは列からやや外れた位置に構築されている。それぞれの間隔は、２～6.8ｍであり一定していない。平均値は４ｍである。

半円状に並ぶ

陥穴の上端付近は、やはり崩落しており長楕円形を呈すが本来の形状ではない。崩落していない部分の平面形は長方形で、底面もほぼ同じ形であることから、長方形の箱状の陥穴であると考えれらる。

ＳＫ38は、底面の東西両端部が中央部より30cmほど深く掘り下げられている点が同群のほかの陥穴とは異なる。逆茂木痕は中央部に１か所検出された。ＳＫ11は貯蔵穴と重複しており、断面形がフラスコ状を呈している。東端部にわずかだが陥穴の形状を残している。逆茂木痕は検出されなかった。陥穴底面からさらに深くまで貯蔵穴が掘り込まれているためである。これらＳＫ38とＳＫ11以外の陥穴は概して同じ特徴である。底面は平坦で、その中央部に逆茂木痕であるピットが検出されている。ＳＫ153は陥穴Ｄ群のＳＫ91と貯蔵穴ＳＫ90と重複した状態で検出された。新旧関係は古い方からＳＫ91、ＳＫ153、ＳＫ90の順となる。

遺物はＳＫ87から削器214が出土しているが、ほかに時期の特定できるような遺物はない。

少ない出土遺物

陥穴Ｃ群（第23・25～30図　写真図版４～６）　12基の陥穴が、中位段丘面上の調査区で北北東から南南西に並んで検出された。北からＳＫ308・58・62・74・83・102・73・65・112・133・142・143が本群である。それぞれの間隔は2.4～6.4ｍ、平均値は3.7ｍである。ＳＫ133とＳＫ142の間には倒木痕があるため、最も大きい間隔の6.4ｍとなった。かつてこれらの間に存在したもう１基の陥穴が、後に倒木痕によって失われたのか、あるいは倒木痕を作った樹木自体を避けて陥穴が構築された可能性もある。

平面形はＢ群に比して縦に長い長方形である。陥穴の形状は、Ｂ群と同じように箱型を呈している。上端は崩落により失われているが、形状をとどめている箇所からは長方形の底面に向けてわずかにすぼまる程度である。底面は平坦なものと、両端部および中央部が深く掘り込まれるものの２種類がある。ＳＫ308・58・62・74・133・143が底面が平坦な陥穴であり、これら以外は後者に相当する。その場合、逆茂木は深く掘り込まれない箇所に設置される。逆茂木痕は、ＳＫ142を除いて本群全ての陥穴の底面から２か所ずつ検出された。

逆茂木痕は２基ずつ

ＳＫ308はＤ群のＳＫ309と重複する。新旧関係ではＳＫ308の方が新しい。同様にＳＫ62は、Ｄ群のＳＫ84の後に掘り込まれている。ＳＫ133もＤ群のＳＫ132より後である。ＳＫ73は、

後に掘り込まれた貯蔵穴ＳＫ 72 と重複している。

遺物はＳＫ 102 から磨石 239、ＳＫ 142 から磨石 242、ＳＫ 143 から尖頭器 171 が出土している。ほかにＳＫ 73・74・142 から前期の土器片が数点出土した。

陥穴Ｃ群と並行

陥穴Ｄ群（第 23 ～ 26･29 ～ 35　写真図版 7 ～ 9）　18 基の陥穴が、Ｃ群と並行して検出された。それぞれＣ群の陥穴と隣り合った位置に構築されており、有機的な関係を持つことも想定される。北からＳＫ 265・266・267・268・269・309・270・84・91・89・104・106・61・66・132・140・141・85 が本群に相当し、Ｃ群の西側に隣接する。陥穴同士の間隔は 2.2 ～ 4.4 m、平均値は 3.2 mである。

陥穴Ｃ群に近い形状

陥穴の規模、平面形、箱型をなす形状などはいずれもＣ群とほぼ同じである。底面の形状は平坦なものが主である。ＳＫ 106 は両端が中央部より深く掘り込まれ、ＳＫ 61 は西半部、ＳＫ 132 は東半部が深く掘り込まれる。逆茂木痕は、本群の全陥穴で確認された。ＳＫ 84・132・141・85 では 1 か所、ほかは 2 か所ずつである。

ＳＫ 309 は、Ｃ群の陥穴ＳＫ 308 と貯蔵穴ＳＫ 307 と重複しており、ＳＫ 308・307 より古いことが確認された。同様に、ＳＫ 84 はＣ群の陥穴ＳＫ 62 より、ＳＫ 91 はＢ群の陥穴ＳＫ 153 より、ＳＫ 104 は貯蔵穴ＳＫ 196 より、ＳＫ 106 は貯蔵穴ＳＫ 107 より、ＳＫ 132 はＣ群の陥穴ＳＫ 133 より古いことが、重複関係より明らかとなった。

遺物はＳＫ 61 から深鉢 5 、ＳＫ 89 から深鉢 6 、ＳＫ 104 から深鉢 7 ・石錐 203、ＳＫ 106 から石鏃 167・水晶 257、ＳＫ 141 から深鉢 8 などが出土した。

陥穴Ｅ群（第 13・36 図　写真図版 9）　前述の各群が列状に並んで検出されたのに対し、陥穴列に含まれない単体のものをＥ群とした。ＳＫ 69 とＳＫ 213 の 2 基が相当するが、両者とも調査区の東端部で検出されており、調査区の外に列が続いていることも想定される。ＳＫ 69 はＢ群の陥穴と形状、規模とも近い。底面が平坦で中央に 1 か所の逆茂木痕を有することもＢ群と同じである。ＳＫ 213 は調査区東壁面で検出された。西端部のみの検出となったが、規模や形状、遺構の長軸方向の方位などはＣ・Ｄ群に近い。

Ｃ　貯 蔵 穴　（第 20・23 ～ 25・28・33・34・37 ～ 60　写真図版 10 ～ 26）

フラスコ状土坑
地山の崩落

貯蔵穴は 90 基を検出した。特に中位段丘面上の調査区の西半部に多い。貯蔵穴とした土坑は、下端より上端の方が狭いフラスコ状のものである。本遺跡の地山は調査区全面にわたり砂、あるいは砂質土であるため、遺構の上端付近は非常に崩れやすい。よって地山の崩落により本来の形状をとどめていないと考えられる円筒状の土坑も貯蔵穴に含めた。ただし、規模や底面の形状、覆土の内容が本遺跡で検出したフラスコ状の貯蔵穴に合致していないものは含まれていない。

次頁に本遺跡で検出した全貯蔵穴の観察表を掲載した。「断面形」の列には「円筒形」と「フラスコ状」があるが、上端は崩落により原形をとどめないものが多いため、中央付近から下端までの形状で判断し分類した。「底面形状」の列の「ピット」は底面に 1 か所以上のピットを有するもの、何も有しないものは「平坦」とした。「深さ」は検出面からの測定値である。「覆土の概要」は、覆土が主に腐葉土起源である「黒色系シルト」からなるものと、黒色系シルトのほかに地山起源である黄色系砂質土、あるいは黄色系粘質土が混入する「黄色系砂・粘質土多い」の二者に大別した。「出土土器の時期」は、それぞれの貯蔵穴から出土した遺物の中で、最も新しいと考えられるものの時期を示した。

断面形はフラスコ状が 46 基、円筒形が 44 基とほぼ半々である。しかし、円筒形とした貯蔵

表1　貯 蔵 穴　※深さ、底面径の単位はセンチメートル

遺構番号	グリッド番号	断面形	底面形状	深さ	底面径	覆土の概要	出土遺物番号	出土土器の時期
S K 9	53 - 40	円筒形	ピット	48	140	黄色系砂・粘質土多い		
S K 28	37 - 30	円筒形	平坦	84	68	黒色系シルト	10	後期前半
S K 33	43 - 38	円筒形	平坦	48	80	黒色系シルト		
S K 39	37 - 29	フラスコ状	平坦	92	140	黒色系シルト		
S K 70	59 - 36	円筒形	平坦	24	100	黄色系砂・粘質土多い		
S K 72	49 - 46	フラスコ状	ピット	116	188	黄色系砂・粘質土多い	11・12・13	後期初頭
S K 76	50 - 55	円筒形	平坦	76	140	黄色系砂・粘質土多い	14・15・16	後期前半
S K 79	51 - 43	円筒形	平坦	52	60	黄色系砂・粘質土多い		
S K 80	54 - 52	円筒形	平坦	85	105	黒色系シルト		後期初頭
S K 86	58 - 35	フラスコ状	平坦	100	108	黄色系砂・粘質土多い		後期初頭
S K 90	45 - 47	円筒形	平坦	84	152	黒色系シルト	17・18・19・20・21	後期中葉
S K 95	46 - 48	円筒形	平坦	56	116	黄色系砂・粘質土多い		
S K 96	46 - 49	円筒形	平坦	44	108	黄色系砂・粘質土多い	23	後期中葉
S K 98	43 - 46	円筒形	平坦	44	80	黄色系砂・粘質土多い		
S K 99	47 - 50	円筒形	平坦	60	112	黒色系シルト		後期初頭
S K 101	44 - 49	フラスコ状	平坦	104	120	黄色系砂・粘質土多い		
S K 107	49 - 47	フラスコ状	平坦	80	132	黄色系砂・粘質土多い	24・25・26・176	後期初頭
S K 116	48 - 53	フラスコ状	平坦	115	125	黄色系砂・粘質土多い	27・233・256	後期初頭
S K 117	50 - 51	フラスコ状	ピット	104	156	黄色系砂・粘質土多い		
S K 119	46 - 53	円筒形	平坦	112	180	黄色系砂・粘質土多い	28・209・222・236・240	中期末
S K 120	47 - 54	円筒形	ピット	104	172	黄色系砂・粘質土多い	29・30・31・180・184・223・244	後期初頭
S K 126	45 - 53	円筒形	ピット	68	104	黄色系砂・粘質土多い		
S K 131	47 - 54	フラスコ状	ピット	90	125	黄色系砂・粘質土多い	32	後期前半
S K 137	45 - 52	フラスコ状	ピット	84	120	黄色系砂・粘質土多い		
S K 144	51 - 54	フラスコ状	平坦	125	135	黄色系砂・粘質土多い	33・34・35・36・232・251・258・259・260	後期中葉
S K 145	49 - 52	フラスコ状	ピット	124	112	黄色系砂・粘質土多い	164	不明
S K 150	47 - 54	フラスコ状	平坦	80	140	黄色系砂・粘質土多い	37・199	後期前半
S K 152	48 - 50	円筒形	ピット	82	160	黄色系砂・粘質土多い	162	不明
S K 154	49 - 51	フラスコ状	平坦	90	140	黄色系砂・粘質土多い	38	晩期前葉
S K 167	47 - 55	円筒形	ピット	70	150	黄色系砂・粘質土多い		前期
S K 170	45 - 54	フラスコ状	ピット	68	98	黄色系砂・粘質土多い		
S K 173	48 - 51	円筒形	平坦	50	105	黒色系シルト	39・40・41・163・248	後期中葉
S K 174	50 - 45	円筒形	ピット	72	68	黒色系シルト		前期
S K 175	54 - 51	円筒形	平坦	68	116	黒色系シルト	42	後期中葉
S K 180	48 - 51	円筒形	ピット	85	105	黄色系砂・粘質土多い		後期初頭
S K 183	49 - 54	円筒形	平坦	79	68	黄色系砂・粘質土多い		
S K 186	52 - 53	フラスコ状	平坦	140	125	黒色系シルト		
S K 188	48 - 55	円筒形	平坦	76	104	黄色系砂・粘質土多い	46・166	後期初頭
S K 190	50 - 55	フラスコ状	ピット	52	80	黄色系砂・粘質土多い	43・192	晩期前葉
S K 193	47 - 53	円筒形	ピット	85	96	不明	44・230	早期
S K 194	40 - 32	円筒形	平坦	62	72	黒色系シルト		
S K 196	47 - 48	フラスコ状	ピット	76	128	黄色系砂・粘質土多い	45	後期初頭
S K 199	53 - 53	フラスコ状	平坦	120	135	黒色系シルト	47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・57 58・59・60・190・202・228・229・235・243	後期中葉
S K 206	65 - 31	円筒形	平坦	64	100	黒色系シルト	61・62	晩期中葉
S K 207	41 - 39	フラスコ状	平坦	76	128	黄色系砂・粘質土多い		
S K 256	34 - 33	円筒形	平坦	48	64	黄色系砂・粘質土多い		
S K 257	37 - 35	フラスコ状	ピット	120	190	黄色系砂・粘質土多い		
S K 258	37 - 37	フラスコ状	ピット	120	116	黒色系シルト		
S K 259	35 - 37	フラスコ状	ピット	76	120	黄色系砂・粘質土多い		
S K 262	37 - 39	円筒形	平坦	68	164	黄色系砂・粘質土多い		後期初頭
S K 263	36 - 42	フラスコ状	ピット	72	140	黄色系砂・粘質土多い	63	早期
S K 264	35 - 42	フラスコ状	平坦	76	88	黒色系シルト		
S K 271	38 - 45	円筒形	平坦	56	72	黒色系シルト	64	後期後葉
S K 275	36 - 46	円筒形	平坦	64	128	黄色系砂・粘質土多い		
S K 276	35 - 45	フラスコ状	平坦	52	120	黄色系砂・粘質土多い		
S K 278	33 - 46	円筒形	ピット	72	120	黄色系砂・粘質土多い		
S K 279	33 - 46	フラスコ状	平坦	48	124	黄色系砂・粘質土多い		
S K 280	35 - 50	フラスコ状	ピット	68	140	黄色系砂・粘質土多い	65	早期
S K 281	35 - 50	フラスコ状	ピット	104	160	黄色系砂・粘質土多い		前期
S K 282	33 - 47	フラスコ状	ピット	60	136	黄色系砂・粘質土多い		
S K 286	40 - 47	フラスコ状	平坦	88	116	黄色系砂・粘質土多い		
S K 287	38 - 43	フラスコ状	ピット	56	128	黄色系砂・粘質土多い		
S K 288	38 - 43	円筒形	ピット	72	108	黄色系砂・粘質土多い		
S K 289	39 - 42	フラスコ状	ピット	136	152	黄色系砂・粘質土多い		
S K 291	41 - 50	フラスコ状	平坦	88	164	黄色系砂・粘質土多い		
S K 293	36 - 51	円筒形	平坦	100	140	黄色系砂・粘質土多い	66・200	晩期
S K 295	36 - 53	フラスコ状	ピット	84	136	黄色系砂・粘質土多い		前期
S K 307	40 - 45	円筒形	ピット	104	176	黄色系砂・粘質土多い		前期
S K 311	40 - 48	フラスコ状	ピット	80	156	黄色系砂・粘質土多い		早期
S K 312	40 - 52	フラスコ状	平坦	88	140	黄色系砂・粘質土多い		
S K 314	42 - 53	円筒形	平坦	56	124	黄色系砂・粘質土多い	67・68	晩期中葉
S K 318	38 - 52	円筒形	平坦	64	60	黄色系砂・粘質土多い	69	晩期中葉
S K 324	43 - 55	フラスコ状	平坦	124	156	黄色系砂・粘質土多い		不明
S K 325	43 - 55	フラスコ状	ピット	100	140	黄色系砂・粘質土多い		早期
S K 326	40 - 55	円筒形	平坦	96	120	黄色系砂・粘質土多い		不明
S K 331	43 - 57	円筒形	平坦	40	84	黄色系砂・粘質土多い	70・71・72	後期中葉
S K 334	38 - 53	フラスコ状	平坦	96	140	黄色系砂・粘質土多い		
S K 335	41 - 55	円筒形	ピット	44	116	黄色系砂・粘質土多い		
S K 336	42 - 55	円筒形	ピット	72	120	黄色系砂・粘質土多い		
S K 343	39 - 51	円筒形	平坦	88	160	黄色系砂・粘質土多い		
S K 349	45 - 57	フラスコ状	ピット	92	124	黄色系砂・粘質土多い		
S K 350	40 - 57	フラスコ状	平坦	56	104	黒色系シルト	73・74・75・194	晩期前葉
S K 351	40 - 58	フラスコ状	ピット	64	128	黄色系砂・粘質土多い		
S K 352	41 - 57	フラスコ状	ピット	112	160	黄色系砂・粘質土多い		
S K 354	30 - 61	フラスコ状	平坦	64	136	黄色系砂・粘質土多い	76・77	不明
S K 355	35 - 59	フラスコ状	ピット	124	172	黄色系砂・粘質土多い		
S K 364	36 - 58	フラスコ状	平坦	88	132	黄色系砂・粘質土多い		
S K 365	46 - 50	円筒形	ピット	96	96	黄色系砂・粘質土多い		
S K 369	47 - 55	円筒形	ピット	70	120	不明		
S K 370	48 - 55	円筒形	ピット	66	104	不明		

穴の中には本来フラスコ状であったものも含まれると考えられる。フラスコ状から円筒形へと変容した主たる要因は上端の崩落であり、「覆土の概要」の列に「黄色系砂・粘質土多い」と記載された貯蔵穴がそれに該当する。また、おおよそ構築当時のフラスコ状の形状を保ちながらも、覆土に地山起源土である黄色系砂・粘質土が多く含まれるＳＫ 72・101・117・154・196・207・259・280・281・282・286・289・334・349・352 などがある。中には覆土の半分以上が地山起源土のものもあり、全て地山の崩落土だけとは考えにくい貯蔵穴も存在する。ＳＫ 349 で貯蔵穴と周囲の地山を併せて観察した結果、５層とした貯蔵穴の覆土は、それよりも下位に位置する 14 層（地山）と同じ土質であることが分かった。崩落した地山がより上位の位置に再堆積することは考えられず、人為的な埋め戻し行為があったと考えざるを得ない。また、これら地山起源土を用いた埋め戻し行為による覆土の中には、遺物や石、炭化物などが混入することは稀である。一方、最も多くの遺物が出土したＳＫ 199 の覆土は、黒色系シルトが主であり、かつ遺物のほかに石・炭化物・焼土なども多く含まれており対照的である。つまり、生活の中で生じた不要物を逐次廃棄したのではなく、別の貯蔵穴などを掘り込んだ際の残土を一括して廃棄したものと考えられる。調査区の西半部は特に貯蔵穴が密集しているが、これはほかの貯蔵穴に残土を廃棄しながら、新たに貯蔵穴を構築していった結果によると考えられる。崩落していない貯蔵穴までなぜ新たに作り替える必要があったかは、今後の検討課題としたい。

覆土のほとんどが地山崩落土のもの

人為的な埋め戻し

底面のピット

底面にピットを有する貯蔵穴は 40 基である。中には底面が礫層まで達しているものもあるため、底面でのピットの検出が困難な貯蔵穴も存在した。よって、40 基を上回る可能性もある。底面径は 60 ～ 190cm、平均値は 142cm である。貯蔵穴の深さは 24 ～ 140cm であるが、いずれも検出面からの深さであり、当時の生活面が失われている以上、本来の深さを知ることはできないため参考までとしたい。

出土遺物から貯蔵穴の時期を見ると、その多くが後期前葉に集中し、一部に晩期のものが存在する。一部最新の遺物が早期や前期となるものがあるが、直接遺構の時期を示すものかどうかは注意を要する。後期の貯蔵穴と最新の土器が早・前期である貯蔵穴とでは、特に差異は認められないため、ここでは構築時期の遺物が混入しなかった遺構として扱い、後期の貯蔵穴として考えたい。

貯蔵穴ＳＫ 188 の覆土上に石囲炉ＥＬ 177 が検出された。覆土内には炭化物が多く含まれているため、炉として使用したものと考えられる。掘り込みが削平された住居内の施設か、あるいは屋外炉の可能性もあるが、調査では判然としなかった。

炭化したクリ・クルミ

貯蔵した食料自体は出土しなかったが、覆土内から炭化したクリ（258 ～ 260）・クルミ（巻頭写真７）が出土している。クリはＳＫ 144 から、クルミはＳＫ 314 から出土した。

Ｄ　そのほかの土坑（第 61 ～ 63 図　写真図版 27・28）

そのほかの土坑として一括した中には次の３種が含まれる。掘り込みが浅く遺構の断面形が明らかでないもの、断面形が盃形をなすもの、底面が丸底のものの３種である。

第 61・62 図に掘り込みの浅い土坑を掲載した。削平を受けず遺存状態が良ければ、貯蔵穴として認識できたものも幾つか含まれるものと考えられる。

土坑ＳＫ 35・176 を盃形として分類した。上端、下端とも平面形は円形だが、底面に隅丸長方形の掘り込みが付加されている。ＳＫ 176 では付加された掘り込みの底面に、さらに小型のピットが掘り込まれる。また、ＳＫ 176 は後に掘り込まれた後期中葉のＳＫ 175 と重複している。

Ⅳ　遺　　物

出土した遺物はコンテナ（55 × 39 × 14cm）で 80 箱を数える。石器が 50 箱、土器が 30 箱、ほかに炭化したクリ・クルミが少量出土した。報告書に掲載したものは、縄文土器 165 点、石器 92 点、炭化したクリ 3 点である。縄文土器については遺構ごとにまとめて記述したが、そのほかの遺物については種類ごとにまとめた。また、各遺物の詳細は遺物観察表を参照されたい。

1　縄文土器

出土した縄文土器は多岐にわたり、早期・前期・中期・後期・晩期のものがあるが、主体をなすのは後期前葉である。遺構出土の土器 97 点は出土した遺構ごと、遺構外出土の土器 68 点は分類ごとに掲載している。円盤状土製品は本節の最後にまとめた。

土器の分類は右表のように行なった。土器の特徴に従い、属する時期ごとにⅠ群からⅥ群まで分類し、さらに各群内で土器型式による細分を行なった。Ⅳ群 b 類については、未だ県内においては定着した型式名がないため、本書では「後期初頭の土器」として一括した。称名寺式土器、綱取Ⅰ式土器、三十稲場式土器古段階などの型式におおよそ併行すると考えられている（須賀井ほか 2000）。

第 64 図　縄文土器分類図参照

Ⅰ群　早期に属する土器	a 類	田戸上層式土器
	b 類	鵜ヶ島台式土器
	c 類	茅山下層式土器
Ⅱ群　前期に属する土器	a 類	上川名式土器
	b 類	そのほかの前期の土器
Ⅲ群　中期に属する土器	a 類	馬高式土器
	b 類	大木 8 a 式土器
	c 類	大木 8 b 式土器
	d 類	大木 10 式土器
	e 類	そのほかの中期の土器
Ⅳ群　後期に属する土器	a 類	三十稲場式土器
	b 類	後期初頭の土器
	c 類	南境 1 式土器（堀之内 1 式併行）[1]
	d 類	南境 2 式土器（堀之内 2 式併行）
	e 類	宝ヶ峯 1 式土器（加曽利Ｂ 1 式併行）
	f 類	宝ヶ峯 2 式土器（加曽利Ｂ 2 式併行）
	g 類	瘤付土器第Ⅰ～Ⅱ段階の土器
	h 類	瘤付土器第Ⅲ段階の土器
	i 類	そほかの後期の土器
	j 類	後期の粗製土器
Ⅴ群　晩期に属する土器	a 類	大洞Ｂ式土器
	b 類	大洞ＢＣ式土器
	c 類	大洞Ｂ～ＢＣ土器
	d 類	大洞ＢＣ～Ｃ 1 式土器
	e 類	大洞Ｃ 2 式土器
	f 類	そのほかの晩期の土器
Ⅵ群　そのほかの縄文土器		

A　遺構出土の土器

複式炉ＥＬ 368（第 65 図 1）　Ⅲ群 d 類とした 1 は、竪穴住居ＳＴ 82 内に構築された複式炉ＥＬ 368 に、器体上半部と底部を除いた状態で埋設されていた。体部には、縄文が充填されたＳ・Ｃ字状の沈線による区画文が施文される。磨消部は丁寧に調整されている。

竪穴住居ＳＴ 82（第 65 図 2）　覆土内からの出土で、口縁部上端に付される環状把手部分であると考えられる。Ⅲ群 e 類とした。

掘立柱建物ＳＢ 367（第 65 図 3・4）　ＳＢ 367 を構成する柱穴ＳＰ 337 から出土した。2 点とも細い陰刻により羊歯状文が施される。両者ともⅤ群 b 類とした。

陥　穴（第 65 図 5 ～ 9）　5（陥穴Ｄ群ＳＫ 61）・8（陥穴Ｄ群ＳＫ 141）はⅠ群 b 類、内外面とも貝殻条痕文が施される。また、胎土には繊維が含まれていた痕跡を有する。6（陥穴Ｄ群ＳＫ 89）・9（陥穴Ａ群ＳＫ 209）はⅡ群 b 類。胎土に混入された繊維の痕跡がある。ほかの陥穴から出土する土器が早・前期の土器に集中するのに対して、陥穴Ｄ群ＳＫ 104 からは、後期の 7 が出土している。同じＤ群の陥穴から出土した遺物は早・前期のものばかりであり、混入により出土したとも考えられるため、ここではＳＫ 104 の帰属時期の指標としては使用しない。

胎土に繊維痕

貯蔵穴ＳＫ 72（第 66 図 11 ～ 13）　11 は完形で出土した注口土器である。体部にヒレ状の隆帯

が末端部に付く波濤文が、4単位分施文される。注口部は内湾しながら直立しており、そのまま口縁部と接続している。注口部の逆側でも体部と口縁部が橋状把手により接続している。各接続部直上の口縁部には横位の孔が設けられる。注口部と橋状把手は対角上に位置するが、90度回ったもう一つの対角上の体部にも粘土を付して孔を作出している。直上の口縁部にも縦位の孔が設けられる。これら6か所の孔に紐などを通し吊り下げるなど使用法が推定できよう。体部文様部分と口縁部にはベンガラが塗彩される。底部はわずかに上底となる。Ⅳ群b類とした。

ベンガラ

13も注口土器である。体部は外傾しながら直線的に立ち上がり、屈曲を伴い内湾する。屈曲部は鍔状になる。口縁部、体部の鍔状の部分ともに波状となっており、本来は4単位の波状を呈していたと考えられる。体部の文様は沈線と刺突からなる。体部外面は、吹きこぼれに起因すると見られる炭化物（厚さ1～2mm）によって覆われている。また、被熱による剥離も著しく、器厚は大きく減少している。Ⅳ群b類とした。

火にかけた注口土器

12は無文部分の側縁が微隆起線文となっている。地文は撚糸文が施されている。Ⅲ群d類。

貯蔵穴ＳＫ76（第66図14～16） 14と15はⅡ群a類の深鉢で同一個体である。文様は縄の側面圧痕により、地文は異原体を用いた羽状縄文により施文される。また、胎土には繊維を混入した痕跡を有する。16はⅣ群c類の器体を失った獣面把手部分のみの資料である。首の部分には2か所の孔が設けられている。首の背部には「8」字状の隆帯が付され、首の両脇、後頭部、鼻上には刺突文が連続して施される。

獣面把手

貯蔵穴ＳＫ90（第67図17～22） 17はⅣ群C類の粗製土器だが、口縁部には3単位の突起を有する。18・19はⅣ群d類、前者は東北地方北部の十腰内Ⅰ式の系統、後者は堀之内2式土器に近似する。20～22はⅣ群e類、20はやはり十腰内Ⅰ式の系統で、22は加曽利Ｂ1式に近似する。21は横位に展開する平行沈線文による波状文を有する鉢である。

貯蔵穴ＳＫ96（第68図23） 口縁部内側に刻目文、外面に平行沈線文が施される。口縁部は3単位の緩やかな波状をなす。波頂部には2か所ずつ刺突文が施される。Ⅳ群e類とした。

三十稲場式土器

貯蔵穴ＳＫ107（第68図24～26） 24には、新潟県に分布の中心を持つ三十稲場式古段階（田中1990）に特徴的な刺突文が、器面全体に施文されている。Ⅳ群a類とした。25・26は同一個体で、Ⅳ群b類とした。口縁部の無文帯とその中に施文される垂下する沈線、さらに26の体部に施文された波濤文などは、直前の大木10式土器から受け継ぐ要素である。

貯蔵穴ＳＫ119（第68図28） Ⅲ群d類とした。中でも大木10式新段階に相当する。体部の無文帯の末端部にはヒレ状の隆帯が付される。

貯蔵穴ＳＫ120（第69図29～31） 30はⅢ群d類、31はⅣ群b類である。後者は直角に近い方形区画文を持ち、後期初頭と考えられる（菅原1999）。

貯蔵穴ＳＫ131（第69図32） 後期前半の深鉢の口縁部に付される装飾突起であると考えられるが、体部を欠くため詳細は不明である。四方に向かって立ち上がる形態をなす。Ⅳ群i類。

貯蔵穴ＳＫ144（第69図33～36） 33は31と同様の方形区画文が施文されるⅣ群b類。34は、波頂部直下に円孔を有する。口縁部文様帯から波頂部に接続する隆帯は、大木10式の新段階から受け継ぐ要素である。同じくⅣ群b類。

蓋

貯蔵穴ＳＫ196（第69図45） 三十稲場式古段階の蓋である。刺突文を特徴とする。Ⅳ群a類。

貯蔵穴ＳＫ188（第70図46） 口縁部には、鉤形の無文帯が8単位設けられ、その間が方形区画文となる。無文帯の側縁は沈線文で囲われている。Ⅳ群b類とした。

貯蔵穴ＳＫ199（第71図47～第72図60） 最も多くの遺物が出土した遺構である。その中で

14 点を掲載した。47 はⅣ群 b 類、体部に方形区画文を、口縁部に無文帯と垂下する隆帯を有する。補修孔 1 か所。48 も方形区画文を有する深鉢、Ⅳ群 b 類。横位と縦位の隆線の接続部分に刺突が施される。地文は撚糸文Ｌである。50・51 は口縁部が「く」字形に強く外反するⅣ群 c 類の深鉢である。51 の波頂部には円孔を有し、その両脇に刺突が施される。53 は、縦位の蛇行する沈線が施されるⅣ群 c 類の深鉢。55 ～ 57 はⅣ群 f 類、55 の平行沈線文の間には連続した刺突が施される。58 ～ 60 は粗製土器、Ⅳ群 j 類。共伴する遺物から、後期前葉から中葉の土器と見られる。

貯蔵穴ＳＫ 263（第 73 図 63） Ⅰ群 c 類で、胎土に繊維が混入された痕跡を有する。

貯蔵穴ＳＫ 280（第 73 図 65） Ⅰ群 c 類で、内面に貝殻条痕文、胎土に繊維痕を有する。

貯蔵穴ＳＫ 314（第 73 図 67・68） 67 は内外面に貝殻条痕文が施されるⅠ群 c 類の深鉢。68 はⅤ群 e 類の深鉢、完形の状態で出土した。口唇部には刻目が一周する。

貯蔵穴ＳＫ 318（第 73 図 69） 口唇部に刻目が施される。口縁部に 3 条の沈線が施文され、中段と下段の沈線間には刺突が行なわれる。Ⅴ群 e 類とした。

貯蔵穴ＳＫ 331（第 74 図 70 ～ 72） 70 の口縁部には異原体を用いた羽状縄文が施される。Ⅳ群 f 類。 **異原体の羽状縄文**

貯蔵穴ＳＫ 350（第 74 図 73 ～ 75） 74 はⅤ群 a 類。75 はⅤ群 b 類で、内面は黒色処理が施される。 **黒色処理**

土 坑（第 75 図 78 ～ 88） ＳＫ 3 出土の 78、ＳＫ 4 出土の 79 はともにⅢ群 c 類。頸部に無文帯を有し、外反する波頂部には渦巻文が施される。ＳＫ 212 出土の 83 もⅢ群 c 類、外反する口縁部に隆沈線による渦巻文が施される。ＳＫ 222 出土の 84 と 85 は同一個体、Ⅳ群 j 類。口縁部は無文で口唇部は内傾する。地文は、結節を有する 2 段ＬＲが先行して横方向に施文され、次に網目状撚糸文が縦方向に施される。ＳＫ 316 出土の 87 には内外面に貝殻条痕文が施される。体部には繊維痕を有する。外面には横位に微隆起線文が 3 条施文される。Ⅰ群 b 類。ＳＫ 323 出土の 88 はⅤ群 a 類、口縁部には沈線、体部の縄文は結節を持つ 2 段ＬＲである。 **網目状撚糸文**

ピット・倒木痕（第 76 図 89 ～ 93） ＳＰ 156 出土の 89 はⅣ群 c 類、口縁部に無文帯を有するが、波頂部直下には縦位に連続する 3 か所の刺突が施される。ＳＰ 225 出土の 90・91 は同一個体で、Ⅲ群 d 類である。沈線による「Ｓ」字状のアルファベット状文様内に縄文が充填される。焼成も良く、器面は丁寧に調整されている。倒木痕ＳＸ 172 出土の 93 はⅡ群 a 類、地文は施されず、沈線と刺突文のみで施文が行なわれている。

Ｂ 遺構外出土の土器

早・前期の土器（第 77 図 94 ～ 104） 94 ～ 96 はⅠ群 a 類、貝殻腹縁文が施される。97 ～ 101 はⅠ群 c 類である。97 の内面には縦位の貝殻条痕文、外面には 3 単位の連続刺突文が「X」字状に施される。98 の内面には貝殻条痕文、また胎土には繊維痕を有する。99 ～ 101 は内外面に貝殻条痕文が施される。99 は波頂部に当たり、非常に肉厚で中心に稜をなす。波頂部上面と口縁部、中心の稜に沿って連続刺突文が施される。98・99 の胎土には繊維痕がある。101 は破損後に被熱を受けている。102･103 はⅡ群 a 類。102 は胎土に繊維痕を有する。103 の口縁部には刻目、体部には縄の側面圧痕が施される。

馬高式土器（第 77 図 105 ～ 108） 105・106 には、三角状の口縁部に沿って半肉彫的な隆線による文様が施されている。107 は口縁部に半肉彫的な隆線が、その下位に半截竹管文による沈線が **馬高式土器**

縦位に施される。108 は王冠型土器の口縁部の把手であり、半肉彫的な隆線により施文が行なわれる。

大木 8 a 式土器（第 77 図 109・110） 109 は口縁部に「S」字状突起が付される。110 は口縁部に格子状の刺突が施される。

大木 8 b 式土器（第 77 図 111 ～ 116） 111 は内湾する口縁部に隆沈線による横位渦巻文が施される。112 は外反する波状口縁で、波頂部には刺突が施される。113 には底部まで達する隆沈線が施される。114 は口縁部に沿って隆沈線が施される。115 は無文帯である頸部と胴部が 2 本の隆沈線で区画される。胴部の文様は縦位渦巻文と不整な楕円区画文で構成される。116 は渦巻文を有する把手部分である。

大木 10 式土器（第 78 図 117 ～ 119） 117 は沈線にる区画文内部に縄文が充填される。118・119 ともⅢ群 e 類で、大木 10 式前後の資料と考えられる。

後期初頭の土器（第 78 図 120・121） 120 は隆線、121 は沈線による方形区画文を有する。120 の区画文内部は撚糸文である。

南境 1 式土器（第 78 図 122 ～ 131） 122 は口縁部に無文帯を置き、その下位に横位沈線を 2 条施す。123 は口縁部が「く」字状に強く外反する。124 には頸部無文帯を渡る、捻りを有する橋状把手が付される。125 は波頂部直下に円孔を有する。127 ～ 131 までは同一個体。 3 条一組の平行沈線により施文される。

橋 状 把 手

宝ヶ峯 1 式土器（第 78 図 132 ～ 134） 132 は体部に平行沈線を施す。133・134 は外傾する口縁部に隆帯を付す。134 は外傾しながらも内湾する花弁状の器形であると考えられる。

宝ヶ峯 2 式土器（第 78 図 135・136） 両者とも口縁部は無文で体部に縄文帯を有する。その境界には連続刺突文が施される。無文部分は他所より器厚を減じられている。

そのほかの土器（第 79 図 137 ～ 144・158・159） 137 ～ 142 はⅣ群 j 類、後期に属すると考えられる粗製土器である。137 は条線文、ほかは細沈線が施される。143・144 はⅣ群 i 類。158・159 はⅥ群、粗製土器である。

内 面 の 輪 積 痕

後期後葉の土器（第 79 図 145 ～ 149） Ⅳ群 g 類。146 は注口土器で、内面に輪積痕が明瞭に残る。147・148 は同一個体。

晩期の土器（第 79 図 150 ～ 157） 150 はⅤ群 a 類、151 はⅤ群 b 類、152 はⅤ群 c 類、153 ～ 155 はⅤ群 e 類。155 は壺で、沈線内にベンガラが塗彩されている（詳細は次章）。156・157 はⅤ群 f 類で本遺跡において最も新しい土器となる。156 の体部には異原体を用いた羽状縄文が施される。

ベ ン ガ ラ が 塗 彩

C 円盤状土製品（第 79 図）

160 ～ 165 がこれに当たる。160 ～ 163 は打ち欠きにより成形している。164・165 は打ち欠きの後、一部に研磨を施し成形している。160 には異原体による羽状縄文が施される。161 の胎土には繊維痕がある。164 には条線文が施されている。

2 石 器

本遺跡では平成 14 年度の試掘調査で出土した分も含め、約 1,500 点の石器が出土した。この内の 92 点を掲載した。

石 鏃（第 80 図 166 ～ 170） 出土数は 5 点で、形態により凹基無茎鏃と平基無茎鏃（鈴木

1995）に分類した。石材は頁岩を利用する。

166 ～ 169 は基部に抉入があり茎部を持たない凹基無茎鏃である。いずれも基部の抉入が比較的小さい。166・167 は裏面に剥離面を大きく残す。166 は刃部側縁が丸みを持つ。167 は基部の抉入が特に小さい。169 は刃部先端を欠損している。

170 は基部が直線的で茎部がない平基無茎鏃である。平面形は二等辺三角形を呈し、側縁は直線的である。

尖 頭 器（第 80 図 171・172） 両者とも両面に平坦剥離が施される。 172 は上半部が欠損している。

石　　箆（第 80 図 173 ～第 80 図 188） 173 ～ 179 は平面形が台形をなすものである。表裏両面に加工が施される。173 は裏面に素材面を残す。174 ～ 179 は刃部が急角度となるよう調整される。175 は刃部の擦痕が顕著である。178 は上部が欠損する。

180 ～ 183 は側縁が内湾するものである。181 は裏面に素材面を大きく残す。 **トランシェ様石器**

184・185 は小型のものである。184 は裏面に主要剥離面を残し、刃部は直刃である。185 の裏面には加工が施されない。刃部は凸弧状で、平面形は楕円形に近い。186 ～ 188 は小型で扁平なものである。いずれも上半部が欠損している。

石　匙（第 81 図 189 ～ 193） 主に縦長を呈する身部の短辺につまみが設けられている。189 は、つまみ部分を中心に表裏両面に加工が施される。190 ～ 192 は表面にのみ加工が施される。 3 点とも下半部を欠損する。193 は表面にのみ加工が施され、主要剥離面を大きく残す。つまみは剥離を数度行なっただけの簡易な手法により作出される。

石　錐（第 81 図 194 ～第 82 図 207） 分類は矢島國雄・前山精明による方法（矢島・前山 1995）に従った。分類名も同様。

194 はＡ 2 類、全体の形状が棒状をなし、錐部は一端のみに作られ、他端は鈍頭をなすものである。器面全体に加工が施されるのを原則とする。

195・196 はＢ 2 類、明瞭なつまみ状の頭部を持ち、錐部は長く、頭部は素材の形状をとどめるものである。195 は裏面のみ加工が施される。196 は錐部の作りが粗い。

197・198 はＣ 1 類、加工の施された明瞭なつまみ状の頭部を持ち、錐部の著しく短いものである。197 の頭部は両面加工で、錐部は複数作出されている。198 は裏面に主要剥離面を残す。

199・200 はＣ 2 類、素材剥片の形状をそのまま残すが、明瞭なつまみ状の頭部を持ち、錐部は著しく短いものである。199 は方形の剥片の一片に錐部が設けられる。200 は長方形の剥片の一角にわずかな剥離を施し錐部を作出している。

201 はＤ 1 類、錐部はしだいに太くなり、頭部の区分が不明瞭なもので、両面もしくは片面の全体が加工を施される。裏面に剥離面を大きく残し、錐部の両側縁に表裏両面から加工が施される。先端は著しく摩滅している。 **先 端 の 摩 滅**

202 ～ 205 はＤ 2 類、錐部がしだいに太くなり、頭部の区分が不明瞭なもので、錐部の両側縁に加工が施されるが、素材の形状をとどめるものである。202 ～ 204 は、先細りの剥片を素材としている。205 は大型の錐部を持つ。主要な加工は裏面に施される。

206・207 はＥ類、剥片の先端に微弱な調整加工を加えたものである。いずれも剥片の末端部を利用し、わずかな加工を施すのみである。

掻　器（第 82 図 208 ～ 211） 208 は両側縁が内側に湾曲する小型のもの。凸弧状の刃部は急角度に設定されている。209 は矩形、210・211 は縦長の矩形を呈する。刃部および側縁の成形も急

角度の加工による。

削　器（第 82 図 212 ～ 215）　212・213 は両側縁加工のもの、 214・215 は片側縁加工のものである。

磨製石斧（第 83 図 216 ～ 220）　216・217 は基部へ向かい幅が狭くなる分銅形を呈している。中央部は厚く、刃部は弧状で、上半部を欠損している。216 は断面形が楕円形を呈する。基部は欠損後に再度加工が施されている。

再　加　工

218 ～ 220 は両側縁が平行な短冊形のものである。いずれも上半部が欠損しており、断面形は扁平である。218 の裏面は凹状である。219 には整形時の敲打痕が残る。220 の周囲に行なわれている剥離は再加工時に行なったものである。

スタンプ形石器（第 83 図 221）　1 点のみ出土した。棒状礫を使用し、断面形は楕円形を呈する。周縁には整形の際の敲打痕が残る。底面の平坦面に使用痕があり、堅果類を潰すなどの加工の際に生じたものと考えられる。

両面調整石器（第 83 図 222 ～ 224）　222 は表面、223 は表裏両面に素材面を残すが、 3 点とも両面に調整加工が施されている。いずれも素材は緑色凝灰岩であり、磨製石斧の未製品であると考えられる。

磨製石斧の未製品

磨　石（第 84 図 225 ～第 85 図 248）　225 ～ 234 は円形の磨石。片面あるいは両面に明瞭な擦痕がある。中央部に著しい敲打痕を持つものもあり、これらは凹石と呼ばれる場合もある。

凹　石　と　も

多　様　な　磨　石

235 ～ 240 は棒状の磨石で、断面形は楕円形、三角形、方形などがある。237 は全面に擦痕を持つ。238 は表面に顕著な敲打痕を有し、下半部を欠損する。239 は下半部を欠損する。擦痕は全面に及ぶ。240 は側面に明瞭な擦痕を持ち、稜が顕著である。

241 ～ 245 は大型で不定形の磨石である。242 は断面形が長方形で表裏両面の擦痕が顕著である。244 は表面の擦痕が顕著である。225 ～ 227・229 ～ 231・236・238・245 は片面あるいは両面に 1 か所以上の顕著な敲打痕がある。

246 ～ 248 は小型の磨石。248 は両面の擦痕が顕著である。

皿状ではない石皿

石　皿（第 85 図 249 ～第 87 図 256）　249 ～ 252 は扁平で小型の石皿である。片面あるいは両面に磨面を持つ。253 ～ 256 は大型で扁平な石皿である。253 は不整形の石を用いている。表面に顕著な擦痕がある。254 は円形の石を用い表面の擦痕が顕著である。255 は表裏両面の擦痕が顕著である。256 は楕円形の石を用い、表面に顕著な擦痕を有する。

水　晶（第 87 図 257）

陥穴ＳＫ 106 出土の水晶である。加工は施されていないが、人為的に遺跡内に持ち込まれたものと考えられる。

3　植物遺体（第 87 図 258 ～ 260　巻頭写真 7）

貯蔵物ではない

植物遺体として堅果類が出土しており、貯蔵穴ＳＫ 144 から出土した炭化したクリ 3 点を図示する。外皮は剥がれた状態である。

貯蔵穴ＳＫ 314 からは炭化したクルミの殻が多数出土しており、他にＳＫ 80・188・206 からの出土がある。いずれも炭化物を多く含む層に混入していたためで、炭化物や焼土とともに廃棄されたものと考えられる。貯蔵物そのものではない。

Ⅴ　理化学的分析

1　空沢遺跡出土土器に塗彩された赤色顔料の科学分析

平成 15 年度山形県長井市空沢遺跡（財団法人山形県埋蔵文化財調査センター発掘調査）より出土した土器に塗彩されていた赤色顔料についての科学分析結果を報告する。資料は 4 点で、縄文時代後期、晩期の遺物とされている。

A　出土赤色顔料について

出土赤色顔料はその色合いや使用方法などについて考古学のみならず、人類学、民俗学などにも多くの分野の研究対象となり、その研究報告が見られる。日本における科学的な分析は 19 世紀のモースらによる大森貝塚出土赤色顔料が最初とされている。科学分野においてもこれまで多くの研究結果が発表されており、現在では出土赤色顔料の分析における主流の研究テーマは光学顕微鏡、走査型電子顕微鏡を用いた粒子形態観察、X 線分析による定性分析、X 線回折による鉱物同定等であり、文献からの原料・生成方法の推定も行われている。

赤色顔料

生成法

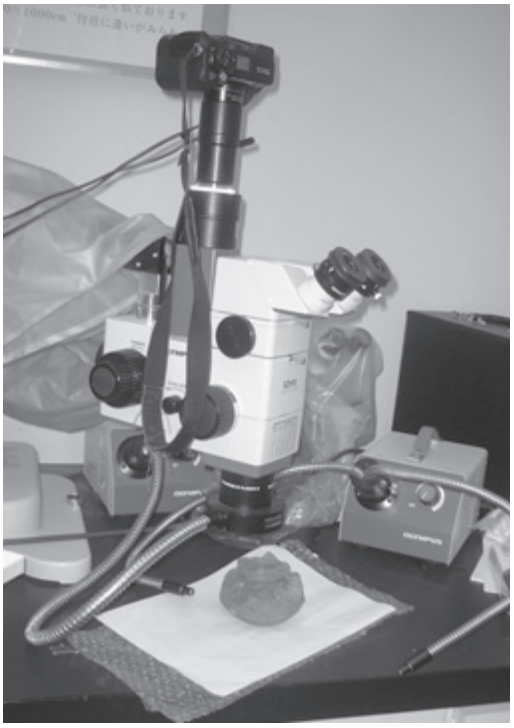
既往の研究より本報告資料と同時期の出土赤色顔料としては「水銀朱＝ＨｇＳ（通称：朱）」「鉄系赤色顔料＝α -Fe2O3 など（通称：ベンガラ）」に大別できる。その利用方法は土器への塗彩、赤色漆中の顔料、墓への散布などさまざまな状態で報告されている。さらに、朱の生成法は石器を用いた鉱物の粉砕・水簸する方法、ベンガラは朱と同様の方法と共に、鉄分が豊富な土壌に加熱することにより赤色顔料とする方法などが実験的に示されている。その原料や生成方法が出土赤色顔料の科学的分析により推定できれば、その顔料が出土した遺跡の一面を明らかにすることも可能であると考える。

B　分析資料

分析資料は 4 点である。資料 A は注口土器に塗彩されたもの、資料Ｂ～Ｄは土器文様の沈線に塗彩された赤色顔料であった。（巻頭写真８：１・４）

C　分析方法および結果

分析方法は光学顕微鏡および電子顕微鏡による粒子形態観察と X 線分析による定性分析を用いた。試料は土器に塗彩された赤色顔料であるため、土などの混在を防ぐことが必要であった。よって、資料とする赤色顔料の採取は東北芸術工科大学所有 OLYMPUS 製実体顕微鏡下で観察しながら慎重に行った (右図)。光学顕微鏡観察は山形県埋蔵文化財センター所有



実体顕微鏡下での資料採取

表２　分析結果

資料	粒子径（μｍ）	粒子の形態	定性分析による主成分
A	10 ～ 50	板状	Fe
B	3 ～ 60	パイプ状及び板状	Fe
C	3 ～ 60	パイプ状及び板状	Fe
D	3 ～ 50	パイプ状及び板状	Fe

OLYMPUS 製金属顕微鏡を用いて落射光および透過光にて観察した。電子顕微鏡観察は東北芸術工科大学所有 HITACHI 製走査型電子顕微鏡を用い、X 線分析は同走査型電子顕微鏡に付属するエネルギー分散型 X 線分析装置を利用した。以上の分析より得られた結果を表２に示す。

D　考　察

蛍光 X 線分析により顔料の主成分は Fe であり、全資料共に鉄を主成分とするベンガラであると同定した。電子顕微鏡による観察では資料Ｂ・Ｃ・Ｄから特徴的なパイプ状粒子を確認した。これは赤色顔料の原料として鉄バクテリアを推定できる決め手となる。鉄バクテリアは川面で鉄をエネルギーとして生命を維持しており、被熱により褐色から赤色に変化する（岡田文男 1997）。これを赤色顔料として用いた場合、粒子は鉄バクテリアの形骸を残したパイプ状の粒子を確認することが可能である。本分析資料からは光学顕微鏡観察からはパイプ状ベンガラが確認できず（巻頭写真８：２・３・５・６・７）、電子顕微鏡でのみ観察可能であった（写真図版 44：３・４・５・６）。

注

1）　これら南境１・２式、宝ヶ峯１・２式の型式名は小林圭一氏が提唱したものである。次の文献による。『第 14 回縄文セミナー後期後半の再検討―記録集―』縄文セミナーの会　2001 年　143 頁。この中で氏は南境式については保留としているが、やはり堀之内１・２式に対応させ、南境１・２式として型式を設定すべきとの指摘を受けた。

引用文献

岩崎義信　2002 『縄文人と巨大木柱　- 特別な意味合いの日 - 』 長井市教育委員会
岩崎義信　2003 『市内遺跡発掘調査報告書（11）』（長井市埋蔵文化財調査報告書第 22 集）　長井市教育委員会
佐藤正四郎ほか　1985 『中里・新田遺跡発掘調査報告書』（山形県長井市埋蔵文化財発掘調査報告書第３集）　長井市教育委員会
岩崎義信　1999 『市内遺跡発掘調査報告書（７）』（山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第 16 集）　長井市教育委員会
岩崎義信 2000 a　『市内遺跡発掘調査報告書』（山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第 17 集）　長井市教育委員会
岩崎義信 2000 b　『長者屋敷遺跡発掘調査報告書』（山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第 18 集）　長井市教育委員会
大田区立郷土博物館　1987 『特別展　縄文の神秘―注口土器』４頁
岡田文男　1997 『パイプ状ベンガラの復元』 日本文化財科学会第 14 回大会
岡田康博　2002 「７．掘立柱建物」『青森県史　別編　三内丸山遺跡　第Ⅳ章　第１節　７項』 青森県史友の会
柴田徹　1991 「考古学のための岩石鑑定ミニ図鑑―王子ノ台遺跡出土石器をもとにした―」『東海大学校地内遺跡調査報告２』東海大学校地内遺跡調査委員会　東海大学校地内遺跡調査団
須賀井新人ほか　2000 『野向遺跡・市野々向原遺跡・千野遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 71 集）　財団法人山形県埋蔵文化財センター
菅原哲文　1999 「山形県における縄文時代中期の土器様相―中期後半の編年を中心として―」『山形考古　第６巻第３号』 山形考古学会
鈴木道之助　1995 「石鏃」『縄文文化の研究　７　道具と技術』 雄山閣
田中耕作　1990 「三十稲場式土器研究の現状と課題」『新潟考古学談話会会報　第５号』 新潟考古学談話会
冨樫泰時　1976 「トランシェ様石器について」『東北考古学の諸問題』東北考古学会
冨樫泰時　2003 「掘立柱建物考（縄文時代）―秋田県の例を中心に―」『秋田県立博物館研究報告　第 28 号』 秋田県立博物館
水戸部秀樹　2003 『かっぱ遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 114 集）　財団法人山形県埋蔵文化財センター
矢島國雄・前山精明　1995 「石錐」『縄文文化の研究　７　道具と技術』 雄山閣
山形県教育委員会　1978 『山形県遺跡地図』
山形県教育委員会　1987 『分布調査報告書（14）』（山形県埋蔵文化財調査報告書第 110 集）
山形県教育委員会　1989 『分布調査報告書（15）』（山形県埋蔵文化財調査報告書第 136 集）
山形県教育委員会　2004 『分布調査報告書（30）』（山形県埋蔵文化財調査報告書第 204 集）

Ⅵ 総　　括

調査区の東外側へと遺跡は続くが、遺構の密度は減少している。最も遺構・遺物が多く分布していたのは調査区の西半部であり、遺跡はその西外側にも続いていたことは明白である。しかし、調査区の西外側はすぐそばまで野川が迫っており、遺跡の中心部はある程度野川の浸食作用により失われていると考えるほかない。だが、遺跡は狭い谷部に張り出した舌状台地に位置しているため、浸食作用により失われた部分があるとしても、本来の遺跡の広がりに大きな違いはなかったものと考えられる。

野川の侵食作用

調査で検出された主な遺構は、竪穴住居、掘立柱建物、貯蔵穴、陥穴である。時期の古いものから総括してみたい。

陥穴から出土した土器は、早期から前期の時期に属するものである。陥穴は、調査区内にＡ群からＤ群の４列が検出された。ほかに列に属さない陥穴が２基存在する。各列の構築順は古いものからＤ群→Ｃ群→Ｂ群となることが、重複する陥穴により判明した。Ａ群とは重複する陥穴群はない。Ｃ群とＤ群の各陥穴は隣り合うものが多いが、作り替えによるものか、あるいは同時期に作られたものかは、さらに検討を要する。

陥穴の構築順

検出した陥穴は50基で、県内のほかの遺跡と比較しても数は多く、早期から前期にかけての時期では、陥穴を使った食料獲得のための重要な地点であったことは疑いないと言える。

重要な狩猟場

中期末では、大木10式古段階の深鉢が埋設された複式炉を持つ竪穴住居が１棟検出されているが、同段階の遺構・遺物は少なく、本遺跡は短期間の小規模な居住域として利用されていたと考えられる。

後期初頭および南境１式段階が最も遺構・遺物ともに多く確認された時期である。遺構は貯蔵穴が主である。貯蔵穴は全部で90基検出されたが、遺物が出土したものは数が限られており、帰属する時期を知るには限界がある。いくつかは晩期の貯蔵穴も見られたが、遺物の出土量から見ると、やはりその多くは後期初頭と南境１式段階であると考えれられる。この時期では、住居などは検出されず居住域として利用されたかは判然としない。出土した多数の磨石・石皿を含めて考えると、あるいは遺跡付近から採集した木の実類を貯蔵し、加工するのみの利用形態が行なわれていたとも推定できる。ここでは、居住を本来的な目的としない、食料採集・貯蔵・加工の拠点としての役割を有していたと考えたい。

集落ではなく

晩期の遺構は掘立柱建物ＳＢ367が１棟と貯蔵穴７基である。時期は大洞ＢからＣ１式段階までである。掘立柱建物は独立棟持柱を持つものであり、ほかに県内では最上町のかっぱ遺跡（水戸部2003）で７棟確認されている。また、秋田県鹿角市の特別史跡大湯環状列石での検出例なども良く知られている。秋田県の掘立柱建物を検討した冨樫氏の論考（冨樫2003）では、掘立柱建物の用途（独立棟持柱を持つものと持たないものを併せて）は、土壙墓との位置的関係から先祖を祭る際に必要なものとして建てられたとしている。しかし、本遺跡、かっぱ遺跡とも土壙墓は確認されておらず、葬送に関する施設とは考えにくい。同じく、三内丸山遺跡の掘立柱建物（いずれも独立棟持柱を持たない）の中でも墓地から離れたものが検出されているが、これらについては、クリなどの木の実やサケなどの貯蔵施設の可能性が指摘されている（岡田2002）。

掘立柱建物

貯蔵施設

本遺跡の掘立柱建物の付近で検出されているのは、土壙墓ではなく、貯蔵穴が７基である。こ

れらをもって単純に貯蔵施設と考えてしまうことはできないが、早期・前期・後期にわたり、食料生産と加工の拠点となってきた本遺跡の性格から類推すれば、貯蔵施設としての掘立柱建物の存在も許容できるのではないだろうか。

掘立柱建物の用途については、直接知る手がかりとなる遺物の出土もない上に、地上式の建物でもあるため、今後も確定しがたいと思われるが、墓域との関連に限らずとも、貯蔵施設などの可能性も含めて多方面からの検討が必要であることが、この度の調査によりあらわになった課題と言えよう。

2 0 型 式

出土した遺物はコンテナ（55 × 39 × 14cm）で 80 箱、石器が 50 箱、土器が 30 箱、ほかに炭化したクリ・クルミが少量である。土器の出土量は少ないが、早期から晩期まで多くの時期にわたるため、土器型式の分類ではその数 20 に上る。主体となるのは中期末から後期中葉であり、ほかの時期の型式は数点ずつにとどまる。

後期初頭の土器

中期末から後期初頭にかけては、連続した各型式の土器を得られたため、該期の土器型式の変移にかかわる良好な資料となった。Ⅳ群ｂ類とした後期初頭の土器群は、これまで県内では出土することの少なかったものであり、特に与えられた型式名もなく、併行する他地域の土器型式との類似性に由来する同時性をもって位置付けられてきた。本遺跡の資料を持っても少ない資料であるが、今後当地域における後期初頭の土器群の様相を明確にし、必要な場合においては新たに型式を設定することが重要な課題となろう。

方 形 区 画 文

Ⅳ群ｂ類とした土器は主に菅原氏の指摘（菅原 1999）を基に分類した。すなわち方形区画文の中でも、直角に近いようなタイプの方形区画文が施文される土器については、後期初頭に位置付けられる可能性があるとしたものである。第 68 図 25・26、第 69 図 31・33、第 70 図 46、第 71 図 47・48 などがこれに該当する。

定型化した注口土器

注口土器 11 は体部にヒレ状の隆帯を持つという中期の大木 10 式新段階の特徴を有しているが、器形は後期の堀之内 1 式に顕著となる定型化した注口土器、つまり球状・ソロバン玉状の胴部に注ぎ口が付き、口縁部には把手が付けられるタイプである。中期にも注口土器は存在するが、深鉢・鉢・浅鉢などの器形に注口部が付けられるものであり、定型化していたとは言い難い。11 については確かに定型化した注口土器と呼ぶことができるが、注口部は把手と接続しているというより、注口部が把手そのものである。注口土器の変移の目安として注口部と把手が接続した状態から次第に離れていくという見方があるが、だとすれば 11 は中でも最も古い形状を示していると考えられる。また、橋状把手は三十稲場式や南境 1 式にも見られる特徴である。

同 形 同 文

類例には神奈川県港北ニュータウン・リ - 2 遺跡出土の注口土器がある（大田区立郷土博物館 1987）。図録に掲載された写真では、ほぼ同じ器形、文様であると言える。大きさは若干こちらの方が大きいようであるが、写真を見た限りではベンガラなどが塗彩されてる様子はなく、時期は称名寺式として紹介されている。

称 名 寺 式 併 行

本遺跡出土の注口土器 11 は中期末と後期初頭の両段階の特徴を持つが、類例も含めて考えるとやはり後期初頭の称名寺式併行段階に位置付けるのが妥当と考えられる。また、中期末のヒレ状の隆帯文様なども後期初頭まで存続することが確認できよう。

火にかけた注口土器

11 と同じ遺構から出土した 13 も同段階の注口土器である。類例は小国町千野遺跡（須賀井ほか 2000：第 83 図 101）で出土している。報告書では綱取Ⅰ式ないし三十稲場式とし、称名寺式併行段階に当てている。また、この土器も外面に顕著な煤の付着が認められたと報告されており、加熱調理などに使用した可能性が考えられる。本遺跡の 13 も吹きこぼれに起因すると見られる炭化物の付着が著しい。従来注口土器は加熱調理などには使用しないと考えられていたが、ある

いはこの時期、この器形特有の使用法があった可能性も否定できないであろう。同じ時期、同じ遺構から出土した二つの注口土器11・13は、注口土器の名で一括されてしまうが、片や全面に丁寧な調整を施した上にベンガラを塗彩し、しかもこれと言った使用痕も認められない。一方13には、沈線と刺突による単純な文様を施文するにとどまり、しかも体部のほぼ全面にわたる厚さ1～2mmの炭化物の付着がある上、被熱による剥離も著しい。このことから、注口土器の中にも使用法に応じて複数のタイプがあった可能性が指摘できよう。

二つの注口土器

石器で特徴的なのは第81図180～183の側縁が内湾する石篦である。これらは東北北部から北海道南部の早期末に見られるトランシェ様石器と呼ばれる器種に該当する（冨樫1976）。素材剥片を取得した際の縁辺を刃部として利用することが特徴で、基本的に形は台形であり、機能は獣などの肉や毛皮を切るものとされている。分布域は山形県まで広がるようであるが、時期的には本遺跡の出土土器などとも合致する。該期の遺構は陥穴のみであるが、関連する使用法としては、獲得した獣の解体、土堀具、逆茂木の加工などが想起されるが、この問題についても今後使用痕などの観察を含めた検討が必要となろう。

トランシェ様石器

空沢遺跡では、中期末の大木10式古段階の深鉢が複式炉に埋設された竪穴住居以外に、明確に居住域として利用された遺構は認められなかった。本章では、遺跡の性格として早・前期には陥穴を利用した狩猟場、中期末から後・晩期では貯蔵穴と磨石・石皿などを利用した食料採集・貯蔵・加工の拠点であるとした。狩猟場を居住域とすることはないので早・前期においては問題ない。しかし、中期以降において検出された住居が1棟であるのに対し、貯蔵穴が90基では通常の生活を営む居住域としては考えにくいと思われるからである。

では、本遺跡を食料生産の拠点として利用した当時の人々は、何処を本拠としていたのだろうか。最も可能性が高いと考えられるのは、第2章第2節でも述べた縄文時代の遺跡が密集する勧進代・草岡周辺ではないだろうか。中期末の拠点的な集落と考えられる半截木柱遺構が検出された長者屋敷遺跡をはじめ、本遺跡で確認された時期と重なる時期の遺跡が一通り揃っている。地形的にも発達した段丘面に位置しており、大規模な集落を築きやすい環境にあると言える。長井盆地内では空沢遺跡に最も近い遺跡の密集地帯である。しかし、その付近には朝日山地の食料資源を利用するために分け入るべき河川・沢は、比較的小さいものしかなく、さらに多くの資源を求めて山深く入るとすれば多大な困難が伴うものと予想される。そのためにも朝日山地の深部に入るためのルートが必要であったと考えられる。朝日山地の主峰大朝日岳に源を発する野川の左岸に位置する本遺跡は、勧進代・草岡から約4kmの距離であり、移動は可能であると考えられる。野川の谷伝いであれば、容易ではないにしろより山深くまで入ることは不可能ではないだろう。新潟県側に主要な分布を示す馬高式土器・三十稲場式土器が本遺跡でも出土していることから、そのまま朝日山地を越え新潟県側へ抜けるルートが存在した可能性もある。朝日山地の食料資源をより有効に活用するため、空沢遺跡を経由、あるいは機能的な拠点としながら、周辺および、さらに山奥から採集した食料の貯蔵・加工が行なわれていたのではないだろうか。このことが空沢に遺跡が営まれた最大の要因と考えられる。周辺の遺跡群の多くは朝日山地の東麓付近に立地しているが、空沢遺跡は谷口から上流に約1.5kmほど遡ったところに位置している。立地の面からも遺跡の特殊性が看取されよう。

本拠地

特殊な立地

最後に、本遺跡は勧進代・草岡周辺の諸遺跡を拠点とした当時の人々が営んだと見られる、特定の機能を帯びた幾つかの衛星的な遺跡の一つとして位置付けたい。

衛星的な遺跡

表３　縄文土器

※器高の列の括弧で括った値は残存高を、口径・底径の列では図上復元による推計値を表す。単位はミリメートル。

番号	分類	細分	器形	出土遺構	層位	グリッド	器高	口径	底径	残存部位	地文	備考
1	Ⅲ群	d類	深鉢	ＥＬ368	床面に埋設	59 - 36	(154)			体部下半	２段ＬＲ	複式炉の埋設土器、被熱
2	Ⅲ群	e類	深鉢	ＳＴ82	覆土	59 - 36	(41)			把手		把手部分のみ
3	Ⅴ群	b類	深鉢	ＳＰ337	覆土	33 - 55	(36)			体部上半		掘立柱建物ＳＢ367の柱穴
4	Ⅴ群	b類	深鉢	ＳＰ337	覆土	33 - 55	(30)			口縁部		掘立柱建物ＳＢ367の柱穴
5	Ⅰ群	b類	深鉢	ＳＫ61	覆土	50 - 48	(67)			体部上半		内外面に貝殻条痕文
6	Ⅱ群	b類	深鉢	ＳＫ89	覆土	45 - 48	(32)			口縁部	１段Ｒ	
7	Ⅳ群	e類	深鉢	ＳＫ104	覆土	47 - 48	(60)			口縁部	１段Ｌ	
8	Ⅰ群	b類	深鉢	ＳＫ141	覆土	56 - 49	(182)			口縁部～体部上半		内外面に貝殻条痕文
9	Ⅱ群	b類	深鉢	ＳＫ209	覆土	71 - 27	(56)			口縁部	２段ＬＲ	ほか破片多数
10	Ⅳ群	i類	深鉢	ＳＫ28	覆土	37 - 30	(38)			口縁部	１段Ｌ	
11	Ⅳ群	b類	注口土器	ＳＫ72	覆土	49 - 46	78	49	20	完形		赤色顔料（ベンガラ）を塗彩
12	Ⅲ群	d類	深鉢	ＳＫ72	覆土	49 - 46	(42)			口縁部～体部上半	Ｌ - 右巻き	ＳＫ109出土土器と接合、同一個体がＳＫ116から出土
13	Ⅳ群	b類	注口土器	ＳＫ72	覆土	-	(94)		50	口縁部～底部		外面に多量の炭化物が付着
14	Ⅱ群	a類	深鉢	ＳＫ76	覆土	50 - 55	(115)			体部上半	２段ＬＲ・ＲＬ	15と同一個体
15	Ⅱ群	a類	深鉢	ＳＫ76	覆土	50 - 55	(102)			体部上半	２段ＬＲ・ＲＬ	14と同一個体
16	Ⅳ群	c類	不明	ＳＫ76	覆土	50 - 55	(66)			口縁部		獣面把手のみ
17	Ⅳ群	c類	深鉢	ＳＫ90	覆土	45 - 47	(217)	(300)		口縁部～体部下半	２段ＬＲ	ほか破片多数
18	Ⅳ群	d類	深鉢	ＳＫ90	覆土	45 - 47	(142)			口縁部～体部上半	２段ＬＲ	
19	Ⅳ群	d類	深鉢	ＳＫ90	覆土	45 - 47	(96)	(156)		口縁部～体部上半	不明	
20	Ⅳ群	e類	深鉢	ＳＫ90	覆土	45 - 47	(83)			口縁部～体部上半	２段ＬＲ	
21	Ⅳ群	e類	鉢	ＳＫ90	覆土	45 - 47	(42)		40	体部下半	２段ＬＲ	
22	Ⅳ群	e類	深鉢	ＳＫ90	覆土	45 - 47	(193)	127		完形	２段ＬＲ	
23	Ⅳ群	e類	深鉢	ＳＫ96	覆土	46 - 49	151	125	55	完形	２段ＬＲ	
24	Ⅳ群	a類	深鉢	ＳＫ107	覆土	50 - 47	(35)			体部下半		
25	Ⅳ群	b類	深鉢	ＳＫ107	覆土	50 - 47	(242)	(268)		口縁部～体部下半	２段ＲＬ	26と同一個体
26	Ⅳ群	b類	深鉢	ＳＫ107	覆土	50 - 47	(186)			口縁部～体部上半	２段ＲＬ	25と同一個体
27	Ⅳ群	b類	深鉢	ＳＫ116	覆土	48 - 53	(43)			口縁部		
28	Ⅲ群	d類	深鉢	ＳＫ119	覆土	46 - 53	(82)			体部上半	２段ＲＬ	
29	Ⅱ群	a類	深鉢	ＳＫ120	覆土	47 - 54	(17)			口縁部		
30	Ⅲ群	d類	深鉢	ＳＫ120	覆土	47 - 54	(96)			口縁部	２段ＬＲ	
31	Ⅳ群	b類	深鉢	ＳＫ120	覆土	47 - 54	(100)			体部	２段ＬＲ	
32	Ⅳ群	i類	不明	ＳＫ131	覆土	47 - 54	(40)			口縁部		ほか破片多数
33	Ⅳ群	b類	深鉢	ＳＫ144	覆土	51 - 54	(107)			体部下半	２段ＲＬ	
34	Ⅳ群	b類	深鉢	ＳＫ144	覆土	51 - 53	(77)			口縁部	２段ＬＲ	
35	Ⅳ群	i類	深鉢	ＳＫ144	覆土	51 - 53	(20)			体部		
36	Ⅳ群	f類	深鉢	ＳＫ144	覆土	51 - 53	(73)			体部下半		
37	Ⅳ群	i類	深鉢	ＳＫ150	覆土	47 - 54	(156)			口縁部～体部上半	Ｌ - 左巻き	ほか破片多数
38	Ⅴ群	a類	深鉢	ＳＫ154	覆土	49 - 51	(44)			口縁部	２段ＬＲ	
39	Ⅳ群	i類	深鉢	ＳＫ173	覆土	48 - 51	(59)			口縁部	２段ＬＲ	
40	Ⅳ群	i類	深鉢	ＳＫ173	覆土	48 - 51	(58)			体部下半	１段Ｌ	
41	Ⅳ群	i類	深鉢	ＳＫ173	覆土	48 - 51	(34)			体部上半		内外面に条痕文
42	Ⅳ群	f類	深鉢	ＳＫ175	覆土	54 - 51	(45)			体部上半	２段ＬＲ	
43	Ⅴ群	d類	深鉢	ＳＫ190	覆土	50 - 55	(22)			体部	２段ＬＲ	
44	Ⅰ群	c類	深鉢	ＳＫ193	覆土	47 - 53	(30)			口縁部		内外面に貝殻条痕文
45	Ⅳ群	a類	蓋	ＳＫ196	覆土	47 - 48	(25)			口縁部		ＳＫ180出土土器と接合
46	Ⅳ群	b類	深鉢	ＳＫ188	覆土	48 - 55	(369)	285		口縁部～体部下半	２段ＬＲ	
47	Ⅳ群	b類	深鉢	ＳＫ199	覆土	52 - 53	(74)			口縁部	２段ＬＲ	未貫通の補修孔が一か所
48	Ⅳ群	b類	深鉢	ＳＫ199	覆土	53 - 53	(65)			体部上半	Ｌ - 右巻き	
49	Ⅳ群	i類	深鉢	ＳＫ199	覆土	52 - 53	(50)			口縁部	２段ＬＲ	外面に煤が付着
50	Ⅳ群	c類	深鉢	ＳＫ199	覆土	53 - 53	(75)			口縁部	２段ＬＲ	123と同一個体
51	Ⅳ群	c類	深鉢	ＳＫ199	覆土	52 - 53	(175)			口縁部～体部下半	２段ＬＲ	
52	Ⅳ群	i類	深鉢	ＳＫ199	覆土	52 - 53	(44)			体部	２段ＲＬ	
53	Ⅳ群	c類	深鉢	ＳＫ199	覆土	52 - 53	(42)			体部	２段ＬＲ	
54	Ⅳ群	i類	深鉢	ＳＫ199	覆土	52 - 53	(35)			口縁部～頚部	２段ＬＲ	
55	Ⅳ群	f類	深鉢	ＳＫ199	覆土	52 - 53	(53)			頚部	２段ＲＬ	
56	Ⅳ群	f類	深鉢	ＳＫ199	覆土	52 - 53	(95)			口縁部	２段ＬＲ	
57	Ⅳ群	f類	深鉢	ＳＫ199	覆土	53 - 53	(182)			口縁部～体部上半	２段ＬＲ	

番号	分類	細分	器形	出土遺構	層位	グリッド	器高	口径	底径	残存部位	地文	備考
58	Ⅳ群	j類	深鉢	ＳＫ199	覆土	52 - 53	(290)			口縁部～体部下半	２段ＬＲ	
59	Ⅳ群	j類	深鉢	ＳＫ199	覆土	52 - 53	302	272	103	口縁部～底部	２段ＬＲ	
60	Ⅳ群	j類	深鉢	ＳＫ199	覆土	53 - 53	(187)			口縁部～体部下半	２段ＬＲ	
61	Ⅵ群		深鉢	ＳＫ206	覆土	65 - 31	(368)	318		口縁部～体部下半	２段ＬＲ	土器上半部に多量の煤が付着
62	Ⅴ群	e類	深鉢	ＳＫ206	覆土	65 - 31	(72)			口縁部～体部上半	２段ＬＲ	
63	Ⅰ群	c類	深鉢	ＳＫ263	覆土	36 - 42	(41)			体部下半		
64	Ⅳ群	h類	深鉢	ＳＫ271	覆土	-	(59)			体部上半		
65	Ⅰ群	c類	深鉢	ＳＫ280	覆土	35 - 50	(57)			口縁部		内面に貝殻条痕文
66	Ⅴ群	g類	壺	ＳＫ293	覆土	36 - 50	(42)			体部上半	２段ＬＲ	
67	Ⅰ群	c類	深鉢	ＳＫ314	覆土	-	(43)			体部上半		内外面に貝殻条痕文
68	Ⅴ群	e類	深鉢	ＳＫ314	覆土	42 - 53	137	163	65	完形	２段ＬＲ	
69	Ⅴ群	e類	深鉢	ＳＫ318	覆土	38 - 52	(124)	(252)		口縁部～体部下半	２段ＲＬ	
70	Ⅳ群	f類	深鉢	ＳＫ331	覆土	43 - 57	(57)			口縁部	２段ＬＲ・ＲＬ	異原体を用いた羽状縄文
71	Ⅳ群	i類	深鉢	ＳＫ331	覆土	43 - 57	(61)			口縁部	２段ＬＲ	口縁部の左右両破面に補修孔
72	Ⅵ群		深鉢	ＳＫ331	覆土	43 - 57	(94)			口縁部	２段ＲＬ	
73	Ⅵ群		深鉢	ＳＫ350	覆土	35 - 52	310	283	73	完形	２段ＬＲ	
74	Ⅴ群	a類	深鉢	ＳＫ350	覆土	40 - 57	(30)			口縁部	２段ＬＲ	
75	Ⅴ群	b類	深鉢	ＳＫ350	覆土	40 - 57	(30)			口縁部	２段ＬＲ	内面黒色処理
76	Ⅵ群		深鉢	ＳＫ354	覆土	29 - 46	(128)		88	体部下半～底部		
77	Ⅵ群		深鉢	ＳＫ354	覆土	30 - 61	(247)			口縁部～体部下半		
78	Ⅲ群	c類	深鉢	ＳＫ3	覆土	68 - 28	(27)			口縁部～頚部	不明	
79	Ⅲ群	c類	深鉢	ＳＫ4	覆土	68 - 29	(47)			口縁部	２段ＬＲ	
80	Ⅳ群	i類	深鉢	ＳＫ40	覆土	40 - 41	(26)			口縁部		
81	Ⅵ群		深鉢	ＳＫ160	覆土	49 - 54	(232)			口縁部～体部下半	２段ＲＬ	
82	Ⅵ群		深鉢	ＳＫ212	覆土	66 - 26	(150)			体部下半～底部	２段ＬＲ	
83	Ⅲ群	c類	深鉢	ＳＫ212	覆土	66 - 29	(68)			口縁部	２段ＬＲ	
84	Ⅳ群	j類	深鉢	ＳＫ222	覆土	66 - 35	(327)		84	頚部～底部	２段ＬＲ Ｌ - 右巻・左巻	網目状撚糸文　85と同一個体
85	Ⅳ群	j類	深鉢	ＳＫ222	覆土	66 - 34	(126)			口縁部	２段ＬＲ	84と同一個体
86	Ⅲ群	e類	器台	ＳＫ229	覆土	67 - 35	(54)			台部	２段ＬＲ	
87	Ⅰ群	b類	深鉢	ＳＫ316	覆土	37 - 50	(52)			頸部		内外面に貝殻条痕文
88	Ⅴ群	a類	深鉢	ＳＫ323	覆土	36 - 52	(123)			口縁部～体部下半	２段ＬＲ	
89	Ⅳ群	c類	深鉢	ＳＰ156	覆土	48 - 50	(203)			口縁部～体部上半	２段ＬＲ	
90	Ⅲ群	d類	深鉢	ＳＰ225	覆土	63 - 32	(87)			口縁部	２段ＲＬ	91と同一個体、ほか破片多数
91	Ⅲ群	d類	深鉢	ＳＰ225	覆土	63 - 32	(95)			体部下半	２段ＲＬ	90と同一個体
92	Ⅳ群	j類	深鉢	ＳＰ238	覆土	60 - 49	(56)			口縁部		
93	Ⅱ群	a類	深鉢	ＳＸ172	覆土	53 - 46	(69)			口縁部		
94	Ⅰ群	a類	深鉢	中段	遺物包含層	-	(33)			口縁部		貝殻腹縁文
95	Ⅰ群	a類	深鉢	中段	遺物包含層	-	(37)			口縁部		貝殻腹縁文
96	Ⅰ群	a類	深鉢	撹乱		45 - 36	(36)			体部		貝殻腹縁文
97	Ⅰ群	c類	深鉢	中段北西	耕土	-	(68)			口縁部		内面に貝殻条痕文
98	Ⅰ群	c類	深鉢	ＴＴ２南	遺物包含層	-	(60)			口縁部		外面に貝殻条痕文、試掘調査で出土した資料
99	Ⅰ群	c類	深鉢	中段	遺物包含層	-	(49)			口縁部		内外面に貝殻条痕文
100	Ⅰ群	c類	深鉢		耕土	-	(74)			体部下半		内外面に貝殻条痕文
101	Ⅰ群	c類	深鉢	中段北西	耕土	-	(55)			体部下半		内外面に貝殻条痕文、破面にも被熱
102	Ⅱ群	a類	深鉢	中段	遺物包含層	-	(32)			口縁部		
103	Ⅱ群	a類	深鉢		遺物包含層	58 - 49	(46)			口縁部	２段ＬＲ	
104	Ⅱ群	b類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(48)			口縁部	２段ＲＬ	ほか破片多数
105	Ⅲ群	a類	深鉢		遺物包含層	65 - 29	(60)			口縁部	不明	
106	Ⅲ群	a類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(59)			口縁部		
107	Ⅲ群	a類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(39)			口縁部	不明	
108	Ⅲ群	a類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(66)			口縁部		
109	Ⅲ群	b類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(46)			口縁部	不明	
110	Ⅲ群	b類	浅鉢	中段	遺物包含層	-	(37)			口縁部	２段ＬＲ	
111	Ⅲ群	c類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(89)			口縁部～頚部	２段ＬＲ	
112	Ⅲ群	c類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(64)			口縁部	２段ＲＬ	
113	Ⅲ群	c類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(23)		(71)	底部	２段ＬＲ	
114	Ⅲ群	c類	深鉢	ＴＴ5中	遺物包含層	-	(48)			口縁部		試掘調査で出土した資料
115	Ⅲ群	c類	深鉢	ＴＴ5中	遺物包含層	-	(131)			口縁部～体部上半	２段ＲＬ	試掘調査で出土した資料

番号	分類	細分	器形	出土遺構	層位	グリッド	器高	口径	底径	残存部位	地文	備考
116	Ⅲ群	c類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(60)			口縁部		
117	Ⅲ群	d類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(62)			体部上半	2段ＬＲ	
118	Ⅲ群	e類	深鉢	ＴＴ5	遺物包含層	-	(31)			口縁部	2段ＬＲ	試掘調査で出土した資料
119	Ⅲ群	e類	器台		遺物包含層	43 - 55	(45)			台部		
120	Ⅳ群	b類	深鉢	ＴＴ3北半	遺物包含層	-	(56)			口縁部	Ｒ - 左巻き	試掘調査で出土した資料
121	Ⅳ群	b類	深鉢		遺物包含層	54 - 55	(46)			口縁部		
122	Ⅳ群	c類	深鉢		遺物包含層	54 - 55	(163)			口縁部～体部上半	2段ＬＲ	
123	Ⅳ群	c類	深鉢		遺物包含層	53 - 54	(104)			体部上半	2段ＬＲ	50と同一個体
124	Ⅳ群	c類	深鉢		遺物包含層	52 - 54	(79)			口縁部		
125	Ⅳ群	c類	深鉢		遺物包含層	53 - 54	(47)			口縁部		
126	Ⅳ群	c類	深鉢		耕土	49 - 56	(60)			体部	2段ＬＲ	
127	Ⅳ群	c類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(44)			体部上半	2段ＲＬ	ほか破片多数、127～131まで同一個体
128	Ⅳ群	c類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(32)			体部上半	2段ＲＬ	ほか破片多数
129	Ⅳ群	c類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(45)			体部上半	2段ＲＬ	ほか破片多数
130	Ⅳ群	c類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(68)			体部上半	2段ＲＬ	ほか破片多数
131	Ⅳ群	c類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(63)			体部上半	2段ＲＬ	ほか破片多数
132	Ⅳ群	e類	深鉢	中段	遺物包含層	-	(37)			体部下半	2段ＬＲ	
133	Ⅳ群	e類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(51)			口縁部	2段ＲＬ	
134	Ⅳ群	e類	深鉢	中段	遺物包含層	-	(45)			口縁部		
135	Ⅳ群	f類	深鉢	中段北西	耕土	-	(40)			口縁部		
136	Ⅳ群	f類	深鉢	中段北西	遺物包含層	-	(112)	(430)		口縁部～体部上半	2段ＬＲ	
137	Ⅳ群	j類	深鉢	中段北西	遺物包含層	-	(64)			口縁部	不明	
138	Ⅳ群	j類	深鉢	西トレンチ	遺物包含層	-	(52)			口縁部		
139	Ⅳ群	j類	深鉢	中段北西	遺物包含層	-	(63)			体部下半		
140	Ⅳ群	j類	深鉢		遺物包含層	66 - 35	(36)			体部下半		
141	Ⅳ群	j類	深鉢	中段	遺物包含層	-	(50)			体部		
142	Ⅳ群	j類	深鉢	ＴＴ5西	遺物包含層	-	(67)			体部上半		
143	Ⅳ群	i類	深鉢		耕土	49 - 56	(35)			口縁部	1段Ｌ	
144	Ⅳ群	i類	深鉢	中段	遺物包含層	-	(32)		97	底部		上底
145	Ⅳ群	g類	深鉢		遺物包含層	60 - 46	(43)			口縁部		
146	Ⅳ群	g類	注口土器	中段	遺物包含層	-	(38)			体部上半	2段ＬＲ	内面の輪積痕が明瞭
147	Ⅳ群	g類	深鉢		耕土	49 - 56	(37)			口縁部		148と同一個体
148	Ⅳ群	g類	深鉢		耕土	49 - 56	(32)			体部上半	2段ＬＲ	147と同一個体
149	Ⅳ群	g類	深鉢	中段北西	耕土	49 - 56	(58)			体部下半	2段ＬＲ	
150	Ⅴ群	a類	深鉢	中段北西	耕土	-	(41)			口縁部	2段ＬＲ	
151	Ⅴ群	b類	深鉢		遺物包含層	48 - 55	(39)			口縁部		
152	Ⅴ群	c類	鉢	下段	遺物包含層	-	(25)		(52)	底部	2段ＲＬ	
153	Ⅴ群	e類	深鉢		遺物包含層	48 - 55	(26)			口縁部		
154	Ⅴ群	e類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(54)			口縁部～体部上半	2段ＬＲ	
155	Ⅴ群	e類	壺	中段	遺物包含層	-	(52)			体部		沈線内に赤色顔料（ベンガラ）が塗彩
156	Ⅴ群	f類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(64)			口縁部	2段ＬＲ・ＲＬ	異原体を用いた羽状縄文
157	Ⅴ群	f類	深鉢	下段	遺物包含層	-	(28)			口縁部	2段ＬＲ	
158	Ⅵ群		深鉢	中段北西	遺物包含層	-	(147)			口縁部～体部上半	2段ＬＲ	内面の輪積痕が明瞭
159	Ⅵ群		深鉢		遺物包含層	48 - 55	(108)			口縁部～体部上半	2段ＬＲ	

表 4　円盤状土製品

※長さ・幅・厚さの単位はミリメートル。

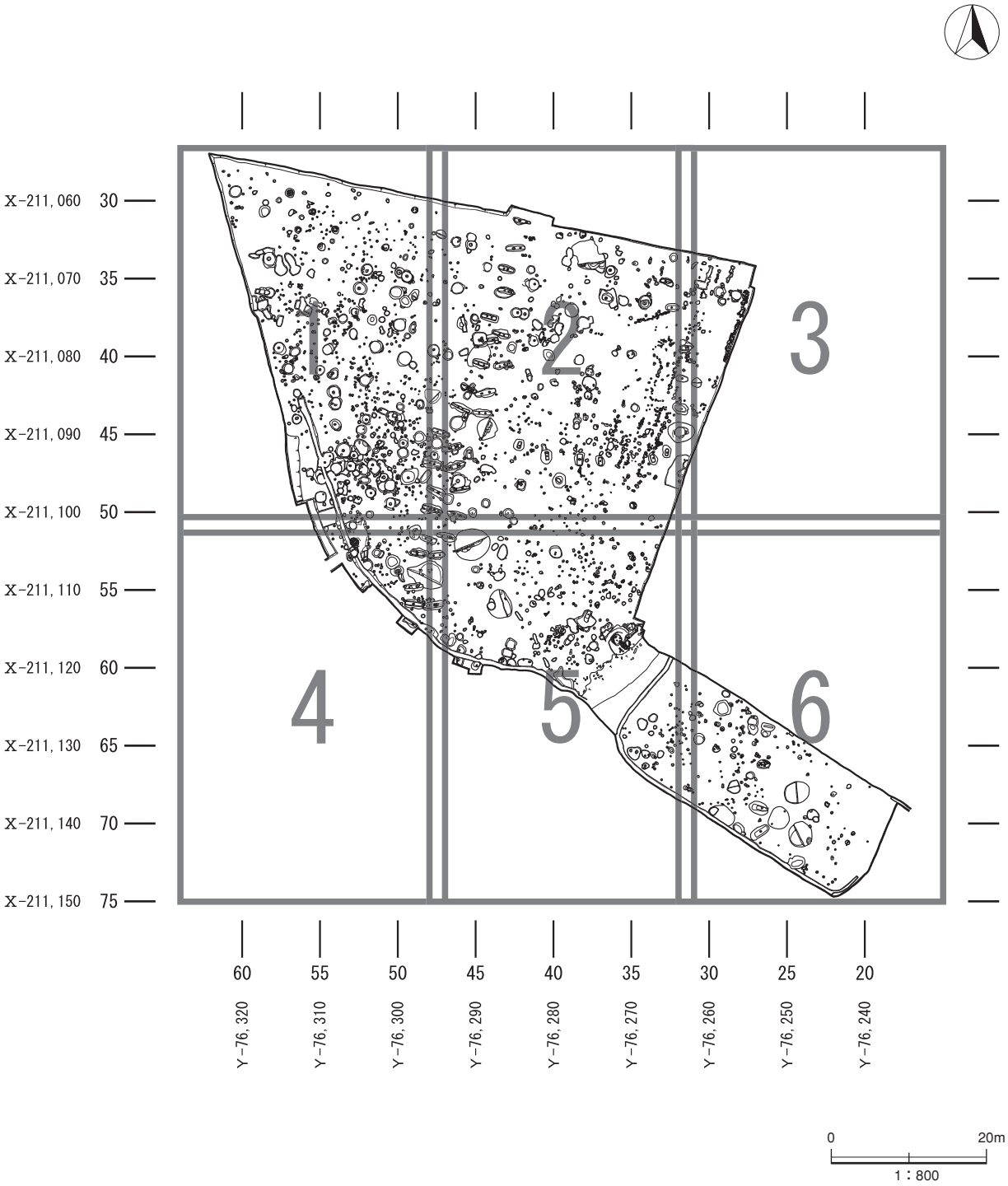
番号	出土遺構	層位	グリッド	長さ	幅	厚さ	地文	備考
160	ＳＫ 200	覆土	53 - 52	41	39	10	2段ＬＲ・ＲＬ	羽状縄文、打ち欠きによる成形
161	中段北西	遺物包含層	-	47	37	12	不明	打ち欠きによる成形
162	ＳＫ 152	覆土	48 - 50	41	42	12		打ち欠きによる成形
163	ＳＫ 173	覆土	48 - 51	37	43	9	2段ＬＲ	打ち欠きによる成形
164	ＳＫ 145	覆土	-	42	45	11		打ち欠きの後に周囲を研磨
165	中段北西	遺物包含層	-	47	48	9	不明	打ち欠きの後に周囲の一部を研磨

表5　石　器

※長さ・幅・厚さの単位はミリメートル、重量はグラム。石材鑑定は「考古学のための岩石鑑定ミニ図鑑 - 王子ノ台遺跡出土石器をもとにした - 」（柴田 1991）を参考に筆者が行なった。

番号	器種	分類	出土遺構	層位	グリッド	長さ	幅	厚さ	重量	石材	備考
166	石鏃	凹基無茎	ＳＫ 188	覆土	48 - 55	20.0	14.6	3.4	0.8	珪質頁岩	
167	石鏃	凹基無茎	ＳＫ 106	覆土	49 - 48	22.1	15.8	4.6	1.5	珪質頁岩	
168	石鏃	凹基無茎	ＳＫ 151	覆土	48 - 51	24.1	14.3	4.3	0.9	珪質頁岩	
169	石鏃	凹基無茎		遺物包含層	51 - 53	30.4	13.2	3.8	1.2	珪質頁岩	先端部欠損
170	石鏃	平基無茎	ＴＴ２南半	遺物包含層	-	27.9	18.8	5.5	2.1	珪質頁岩	試掘調査で出土した資料
171	尖頭器		ＳＫ 143	覆土	58 - 49	64.8	35.7	9.7	22.6	珪質頁岩	
172	尖頭器		中段北西	遺物包含層	-	56.0	42.5	16.3	42.4	珪質頁岩	上半部欠損
173	石篦	台形	中段	遺物包含層	-	95.7	38.9	13.4	50.1	珪質頁岩	
174	石篦	台形	下段	遺物包含層	-	106.1	43.1	16.0	84.0	珪質頁岩	
175	石篦	台形	下段	遺物包含層	-	71.6	31.4	14.1	27.8	珪質頁岩	
176	石篦	台形	ＳＫ 107	覆土	49 - 47	75.0	30.9	12.4	31.1	珪質頁岩	
177	石篦	台形	ＳＫ 157	覆土	60 - 45	77.5	39.4	18.5	47.1	珪質頁岩	
178	石篦	台形	下段	遺物包含層	-	64.8	40.9	17.2	41.7	珪質頁岩	
179	石篦	台形	中段	遺物包含層	-	97.5	50.3	17.6	81.5	珪質頁岩	
180	石篦	内湾形	ＳＫ 120	覆土	47 - 54	80.0	43.0	14.7	41.6	珪質頁岩	
181	石篦	内湾形	ＳＰ 305	覆土	41 - 53	74.4	39.8	18.8	44.2	珪質頁岩	
182	石篦	内湾形	北西	耕土	-	68.0	41.8	13.0	32.5	珪質頁岩	
183	石篦	内湾形	中段北西	遺物包含層	-	78.1	49.5	12.8	41.2	珪質頁岩	
184	石篦	小型	ＳＫ 120	覆土	47 - 54	46.0	33.2	15.0	17.5	珪質頁岩	
185	石篦	小型	中段	遺物包含層	-	44.2	22.0	10.8	9.2	珪質頁岩	
186	石篦	薄型	中段	遺物包含層	-	25.8	21.4	6.5	3.8	珪質頁岩	上半部欠損
187	石篦	薄型	中段	遺物包含層	-	26.0	28.1	6.1	5.6	珪質頁岩	上半部欠損
188	石篦	薄型	ＳＰ 49	覆土	54 - 40	27.3	33.8	6.8	6.7	珪質頁岩	上半部欠損
189	石匙	縦型	北壁	遺物包含層	-	50.7	25.9	6.3	5.7	珪質頁岩	
190	石匙	縦型	ＳＫ 199	覆土	53 - 53	47.0	18.7	8.2	6.3	珪質頁岩	先端部欠損
191	石匙	縦型	中段	遺物包含層	-	34.8	29.1	5.3	3.5	珪質頁岩	下半部欠損
192	石匙	縦型	ＳＫ 190	覆土	50 - 55	43.7	32.4	11.8	11.2	珪質頁岩	下半部欠損
193	石匙	縦型	ＴＴ２南半	遺物包含層	-	95.7	63.1	18.0	45.4	珪質頁岩	試掘調査で出土した資料
194	石錐	A2	ＳＫ 350	覆土	40 - 57	43.0	19.6	12.9	10.1	珪質頁岩	
195	石錐	B2	中段北西	遺物包含層	-	55.0	46.0	10.0	14.3	珪質頁岩	
196	石錐	B2		遺物包含層	60 - 46	88.4	80.5	17.6	49.8	珪質頁岩	
197	石錐	C1	ＴＴ２南半	遺物包含層	-	53.8	44.2	15.0	22.8	珪質頁岩	試掘調査で出土した資料
198	石錐	C1	中段	遺物包含層	-	31.7	20.0	6.1	3.8	珪質頁岩	
199	石錐	C2	ＳＫ 150	覆土	47 - 54	46.0	42.0	11.9	19.4	珪質頁岩	
200	石錐	C2	ＳＫ 293	覆土	36 - 51	47.2	70.0	15.0	25.4	珪質頁岩	
201	石錐	D1	中段	遺物包含層	-	29.3	25.9	9.8	4.9	珪質頁岩	
202	石錐	D2	ＳＫ 199	覆土	52 - 53	72.0	31.7	9.9	8.1	珪質頁岩	
203	石錐	D2	ＳＫ 104	覆土	47 - 48	66.2	23.5	17.9	12.2	珪質頁岩	
204	石錐	D2	下段	遺物包含層	-	64.0	42.0	8.8	11.5	珪質頁岩	
205	石錐	D2	下段	遺物包含層	-	73.8	62.1	22.1	53.9	珪質頁岩	
206	石錐	E	下段	遺物包含層	-	40.9	26.5	10.2	4.2	珪質頁岩	
207	石錐	E	表採		-	46.3	23.5	15.6	8.2	珪質頁岩	
208	掻器		ＳＫ 1	覆土	73 - 25	26.0	20.5	8.2	3.1	珪質頁岩	
209	掻器		ＳＫ 119	覆土	46 - 53	34.0	31.4	12.0	9.2	珪質頁岩	
210	掻器		下段	遺物包含層	-	60.9	39.0	13.0	25.3	珪質頁岩	
211	掻器		中段	遺物包含層	-	70.5	49.5	17.8	49.2	珪質頁岩	
212	削器	両側縁加工	ＳＰ 201	覆土	72 - 22	51.4	21.3	7.0	5.9	珪質頁岩	
213	削器	両側縁加工	ＳＫ 136	覆土	46 - 51	67.5	18.6	12.2	7.2	珪質頁岩	
214	削器	片側縁加工	ＳＫ 87	覆土	47 - 46	57.0	24.4	8.0	5.1	珪質頁岩	
215	削器	片側縁加工	西トレンチ	遺物包含層	-	83.0	41.9	15.0	35.3	珪質頁岩	
216	磨製石斧	分銅形	ＳＫ 157	覆土	-	100.0	45.5	28.9	189.9	緑色凝灰岩	
217	磨製石斧	分銅形		耕土	60 - 46	60.0	42.0	20.8	78.5	緑色凝灰岩	上半部欠損
218	磨製石斧	短冊形		遺物包含層	48 - 55	57.0	40.5	9.9	23.8	安山岩	上半部欠損
219	磨製石斧	短冊形	中段北西	遺物包含層	-	76.0	58.4	28.0	201.8	緑色凝灰岩	上半部欠損
220	磨製石斧	短冊形	中段	遺物包含層	-	84.2	52.6	35.0	210.3	緑色凝灰岩	上半部欠損
221	スタンプ形石器		西トレンチ	遺物包含層	-	94.2	66.4	49.0	468.4	安山岩	

番号	器種	分類	出土遺構	層位	グリッド	長さ	幅	厚さ	重量	石材	備考
222	両面調整石器		ＳＫ 119	覆土	-	200.0	115.0	75.0	1700.0	緑色凝灰岩	磨製石斧の未製品の可能性あり、表面に擦痕
223	両面調整石器		ＳＫ 120	覆土	-	195.0	82.0	45.0	1100.0	緑色凝灰岩	磨製石斧の未製品の可能性あり、両面に明瞭な擦痕
224	両面調整石器		ＳＫ 302	覆土	-	198.0	92.0	44.0	1200.0	緑色凝灰岩	磨製石斧の未製品の可能性あり
225	磨石		ＳＸ 14	覆土	-	89.0	78.0	42.0	421.0	安山岩	凹部あり
226	磨石		撹乱		-	117.0	93.0	63.0	820.0	安山岩	凹部あり
227	磨石		下段	遺物包含層	-	101.0	86.0	54.0	658.0	安山岩	凹部あり
228	磨石		ＳＫ 199	覆土	-	91.0	80.0	49.0	522.0	閃緑岩	凹部あり
229	磨石		ＳＫ 199	覆土	53 - 53	85.0	81.0	52.0	514.0	閃緑岩	凹部あり
230	磨石		ＳＫ 193	覆土	-	97.0	93.0	37.0	518.0	緑色凝灰岩	凹部あり
231	磨石			遺物包含層	50 - 51	112.0	110.0	70.0	1200.0	閃緑岩	凹部あり
232	磨石		ＳＫ 144	覆土	51 - 53	121.0	83.0	58.0	838.0	閃緑岩	凹部あり
233	磨石		ＳＫ 116	覆土	-	52.0	51.0	42.0	158.0	閃緑岩	
234	磨石		不明		-	76.0	59.0	51.0	333.0	閃緑岩	
235	磨石		ＳＫ 199	覆土	53 - 53	130.0	53.0	43.0	516.0	閃緑岩	棒状磨石、凹部あり
236	磨石		ＳＫ 119	覆土	-	132.0	65.0	50.0	693.0	石英斑岩	棒状磨石、凹部あり
237	磨石		ＳＫ 63	覆土	-	165.0	69.0	44.0	751.0	安山岩	棒状磨石
238	磨石			遺物包含層	58 - 59	138.0	57.0	73.0	883.0	安山岩	棒状磨石、稜あり、凹部あり
239	磨石		ＳＫ 102	覆土	-	151.0	68.0	63.0	1000.0	石英斑岩	棒状磨石、稜あり
240	磨石		ＳＫ 119	覆土	-	171.0	80.0	48.0	1000.0	閃緑岩	棒状磨石、稜あり、凹部あり
241	磨石		ＳＫ 77	覆土	-	150.0	140.0	88.0	2800.0	閃緑岩	大型、不定形
242	磨石		ＳＫ 142	覆土	-	129.0	88.0	34.0	590.0	安山岩	大型、不定形、凹部あり
243	磨石		ＳＫ 199	覆土	52 - 53	178.0	122.0	75.0	2400.0	閃緑岩	大型、不定形
244	磨石		ＳＫ 120	覆土	-	153.0	120.0	59.0	1500.0	閃緑岩	大型、不定形、凹部あり、被熱
245	磨石		ＴＴ２南半	遺物包含層	-	179.0	91.0	35.5	663.0	安山岩	大型、不定形、凹部あり
246	磨石		下段	遺物包含層	-	38.0	26.0	12.0	12.5	安山岩	小型
247	磨石		下段	遺物包含層	-	41.0	36.0	20.0	25.8	安山岩	小型
248	磨石		ＳＫ 173	覆土	48 - 51	55.0	53.0	10.0	32.1	安山岩	小型、扁平
249	石皿		下段	遺物包含層	-	178.0	141.0	67.0	2500.0	安山岩	皿部平坦
250	石皿		ＳＰ 20	覆土	56 - 36	191.0	185.0	54.0	3300.0	閃緑岩	皿部平坦
251	石皿		ＳＫ 144	覆土	51 - 53	211.0	184.0	57.0	4000.0	閃緑岩	皿部平坦
252	石皿		ＳＰ 168	覆土	-	167.0	106.0	62.0	1400.0	緑色凝灰岩	皿部平坦
253	石皿		ＳＫ 4	覆土	-	355.0	317.0	90.0	15000.0	緑色凝灰岩	皿部平坦
254	石皿		ＳＫ 77	覆土	-	332.0	285.0	112.0	18000.0	閃緑岩	皿部平坦
255	石皿		ＳＫ 77	覆土	-	374.0	232.0	111.0	14000.0	閃緑岩	皿部平坦
256	石皿		ＳＫ 116	覆土	-	478.0	269.0	154.0	27000.0	緑色凝灰岩	皿部平坦
257	水晶		ＳＫ 106	覆土	-	24.0	4.5	5.5	3.4	水晶	自然石、加工なし



※これらを結合した図（1：200）は付図に収録

第 4 図　遺構実測図の割付図

60
55
50
Y -76,320
Y -76,310
Y -76,300
X -211,060
30
X -211,070
35
X -211,080
40
X -211,090
45
X -211,100
50
SP358
SK354
SK347
SK356
SP346
SK357
SP348
SP339
SP345
SK362
SP338
SP337
SP290
SP285
SK333
SP297
SK330
SK280
SK323
SK281
SK355
SP310
SP298
SP300
SK364
SP299
SK295
SK293
SK334
SP296
SP301
SP317
SK319
SK316
SK343
SK332
SK328
SK327
SK318
SK302
SK320
SK344
SK303
SK311
SK351
SK350
SK291
SP341
SK326
SK312
SK292
SP340
SP359
SP329
SK335
SP322
SK352
SP353
SK336
SK360
SK325
SK314
SK331
SP171
倒木痕
SX97
SK324
SK101
SP363
SP130
SK123
SK129
SK125
SK128
SK137
SP134
SK124
SP169
SK170
SK126
SP93
SK349
SK119
SP135
SP178
SK89
SK165
SK127
SP179
SK96
SP168
SK365
SK120
SK193
SK116
SK136
SP121
SK95
SP108
SK103
SP92
SK369
SK109
SP94
SK167
SK180
SK196
SK151
SK99
SP111
SP156
SK187
SK104
SK370
SK131
SK147
SK188
SP149
SP189
SK150
SK184
SK152
SK161
SP139
SP113
SK145
SK154
SK106
SP155
SK148
SP192
SK61
SK76
SK160
SK117
SK183
SK173
SK144
SK159
SP182
SK67
SP110
SK190
柱痕
石
硬化面
土器
0
10m
1：200

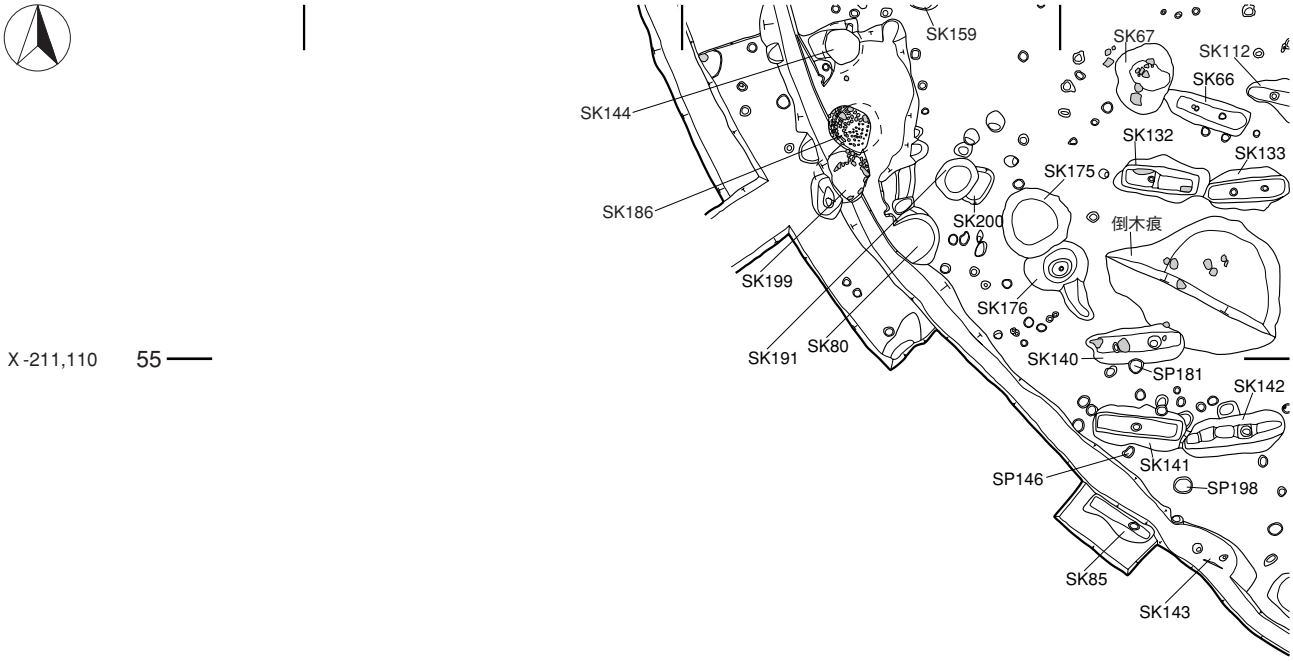
第５図　遺構実測図１

45
Y -76,290
40
Y -76,280
35
Y -76,270
SK265
SK279
SP283
SK282
SK278
SP284
SK266
倒木痕
SX260
SK267
SK264
SK276
SK259
SK256
SK268
SK263
SK255
SK275
SP252
SK269
SK288
SK287
SK271
SK262
SK258
SK257
SK254
SK272
SP273
SK309
SK308
SK307
SK194
SK311
SK315
SK289
SK207
倒木痕
SX16
SK37
SK38
SK274
SK286
倒木痕
SK270
SK58
SK40
SK52
SK26
SK84
SK31
SK32
SK62
倒木痕
SX97
SK98
SK57
倒木痕
SX13
SK6
SK10
SK91
SK74
SK128
SK153
SP60
SK33
SP59
SK90
SK56
SK11
SK89
SK95
SK83
倒木痕
SX88
SK48
SK87
SK34
SK29
SK25
SP30
SK17
SK196
SK104
SK102
SK71
SK18
SK35
SK27
SK72
SK147
SP7
SK73
SK68
SP12
SK19
SK106
SK107
SK174
SK64
SK79
SK8
SP110
SK65
倒木痕
SX172
SP50

第６図　遺構実測図２

30
Y -76,260
25
Y -76,250
20
Y -76,240
30
X -211,060
35
X -211,070
40
X -211,080
45
X -211,090
50
X -211,100
SP252
SK39
SK253
SK28
SK194
SK38
SK26
倒木痕
SX13
SK10
SK11
石
0
10m
1：200

第 7 図　遺構実測図 3



X -211,110 55

X -211,120 60

X -211,130 65

石

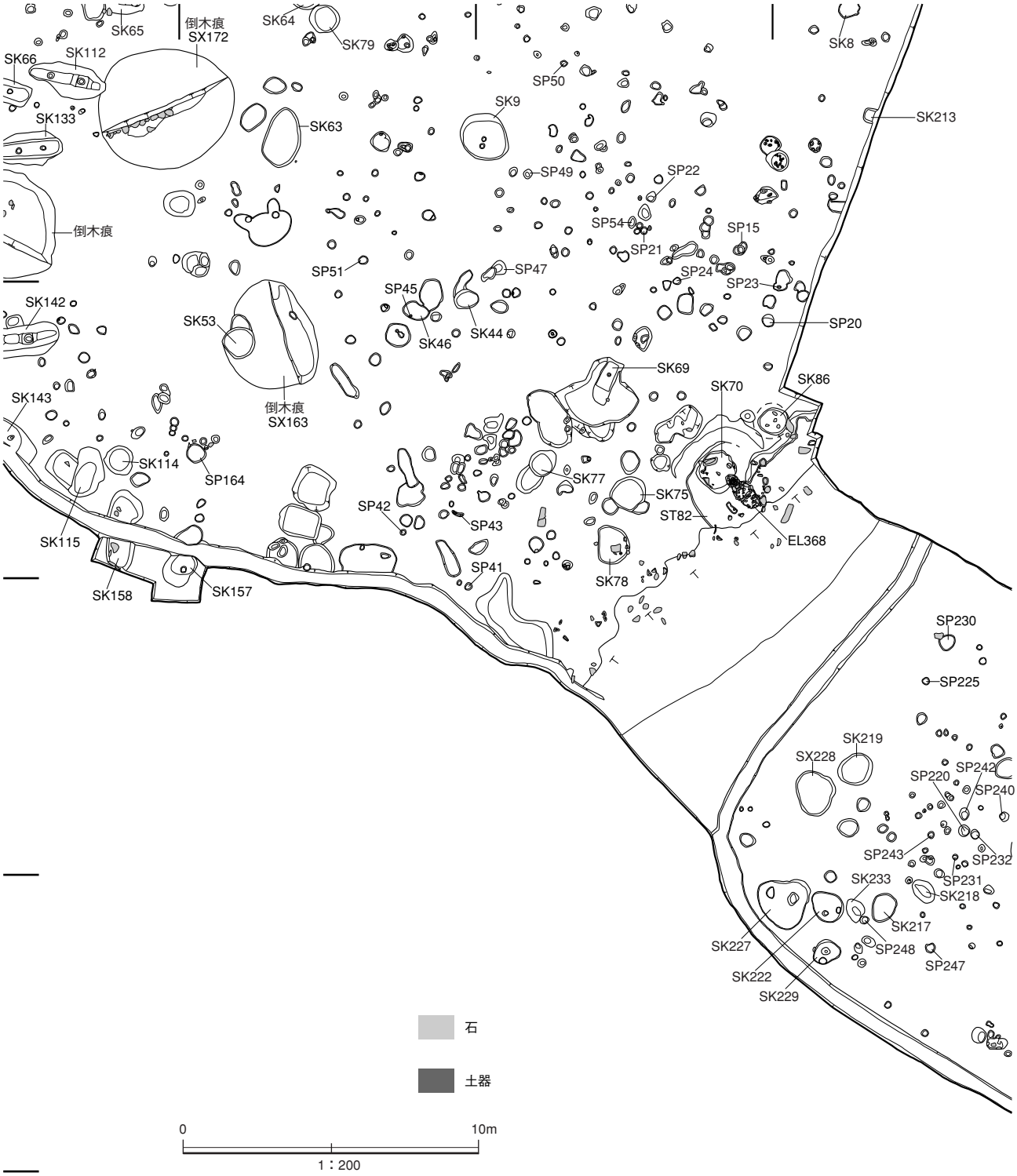
0 10m

1：200

Y -76,320 Y -76,310 Y -76,300

60 55 50

第 8 図　遺構実測図 4

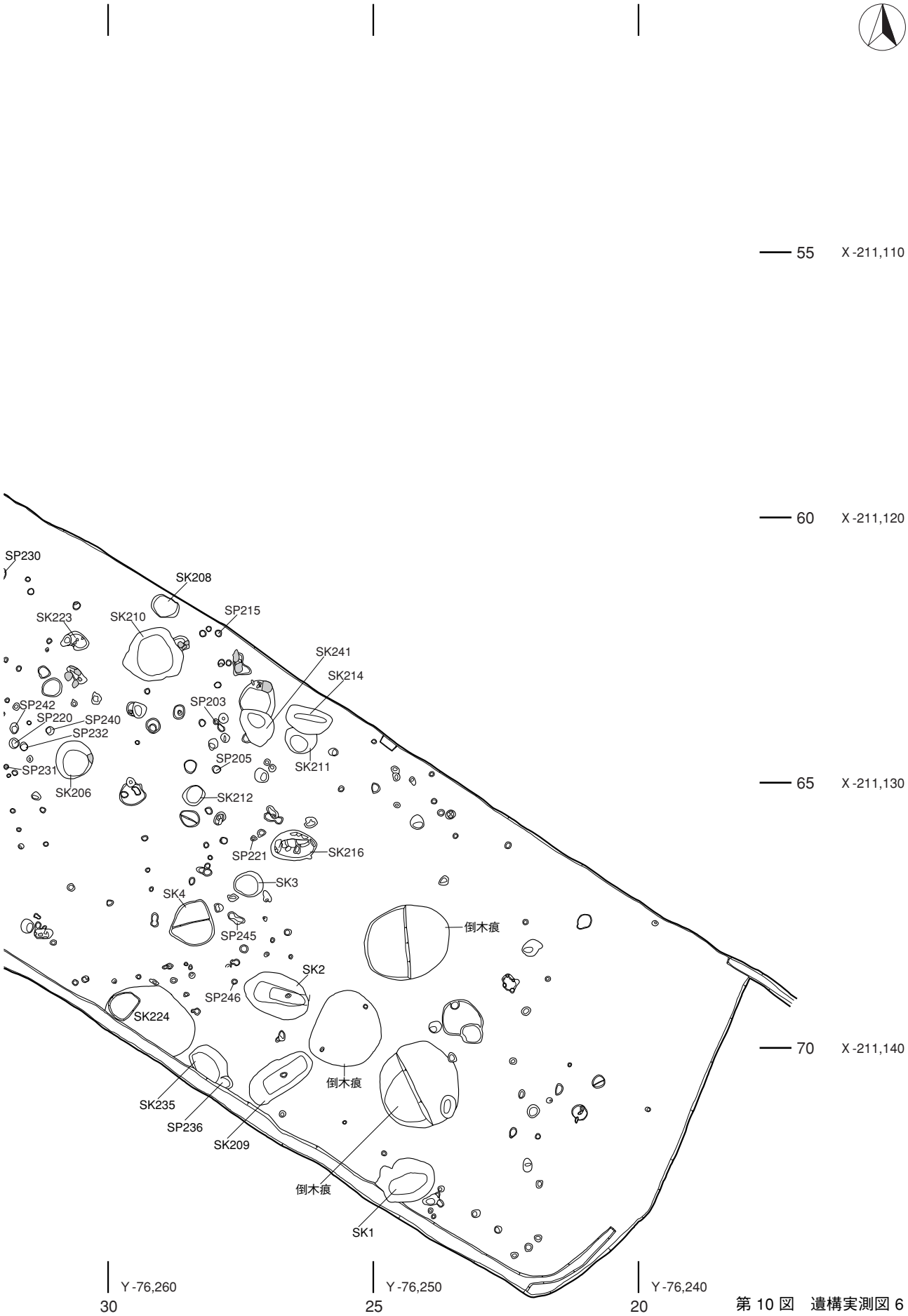


Y -76,290 45

Y -76,280 40

Y -76,270 35

第 9 図　遺構実測図 5

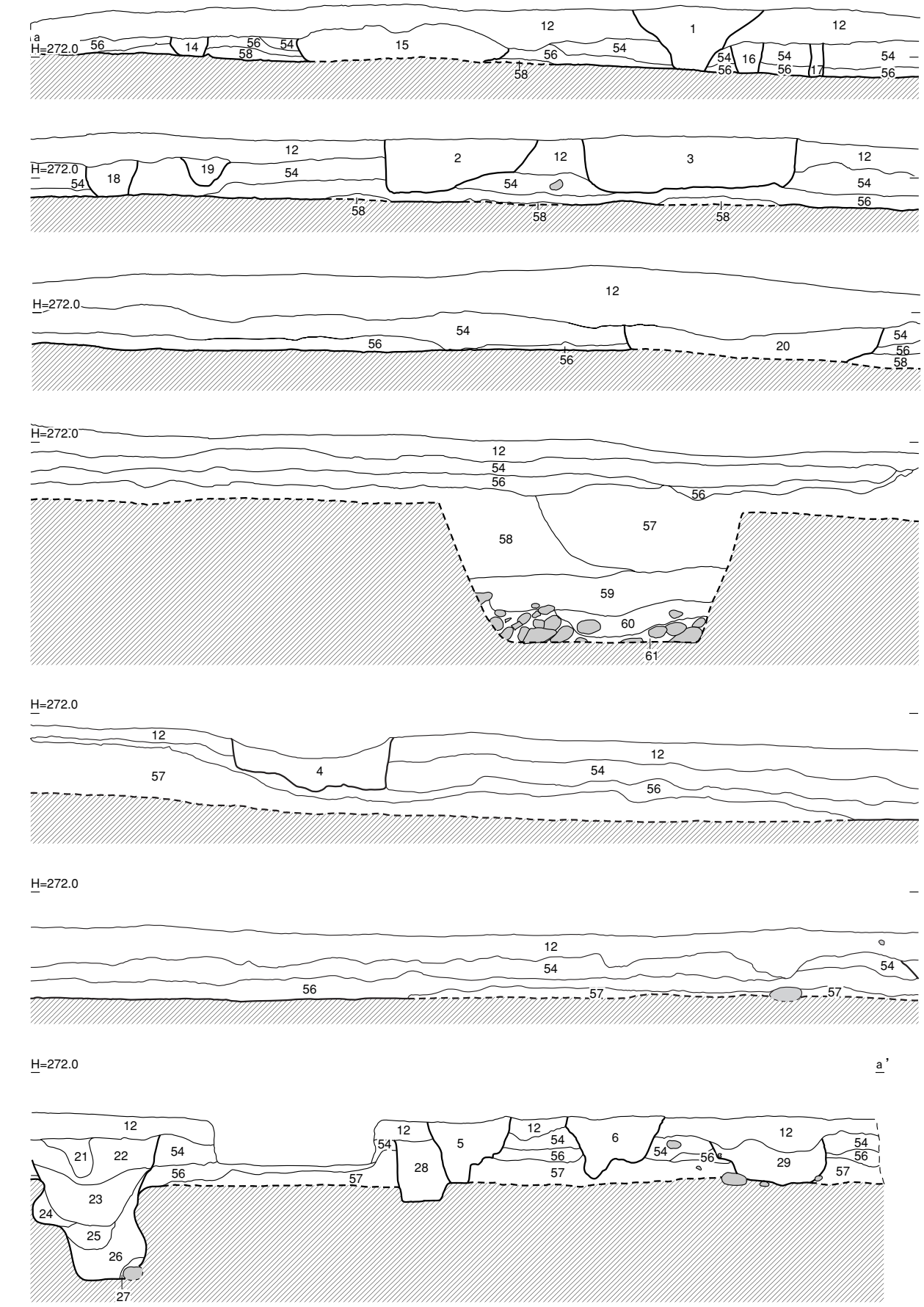

55 X -211,110
60 X -211,120
65 X -211,130
70 X -211,140
Y -76,260
Y -76,250
Y -76,240
30
25
20
SP230
SK208
SK223
SK210
SP215
SK241
SK214
SP242
SP220
SP240
SP232
SP203
SP205
SK211
SP231
SK206
SK212
SP221
SK216
SK3
SK4
SP245
倒木痕
SK2
SP246
SK224
倒木痕
SK235
SP236
SK209
倒木痕
SK1

第 10 図　遺構実測図 6

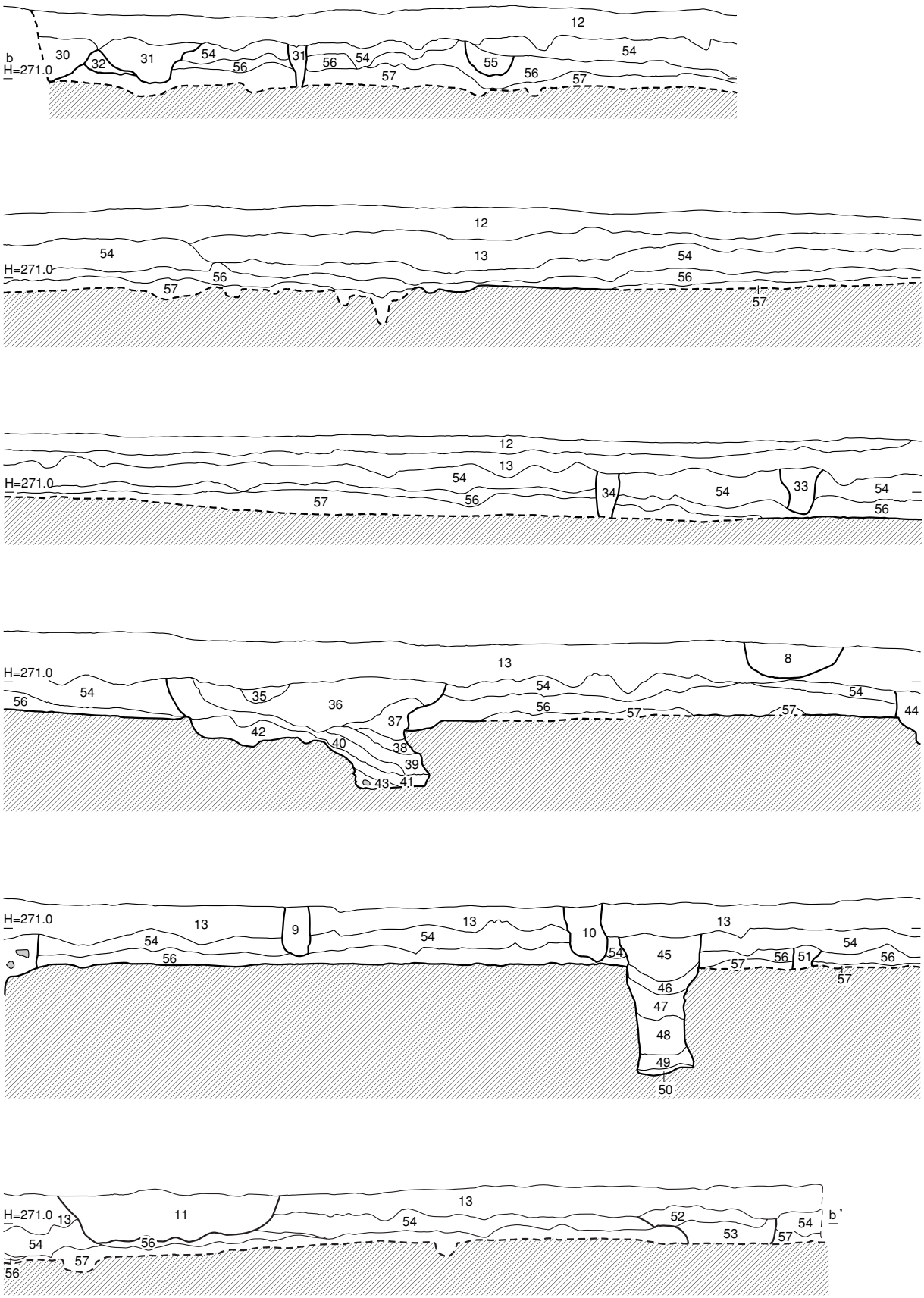
調査区壁土層図ａ－ａ’・ｂ－ｂ’

1. 撹乱
2. 撹乱
3. 撹乱
4. 撹乱
5. 撹乱
6. 撹乱
7. 撹乱
8. 撹乱
9. 撹乱
10. 撹乱
11. 撹乱
12. 10YR2/3　黒褐色 シルト　耕土
13. 10YR2/3　黒褐色 シルト　10YR3/3暗褐色シルトを含む 耕土
14. 10YR2/3　黒褐色 シルト　ピット
15. 10YR2/2　黒褐色 シルト　10YR3/3暗褐色シルトと炭化物を含む SK325
16. 10YR1.7/1 黒色　シルト　ピット
17. 10YR2/2　黒褐色 シルト　ピット
18. 10YR1.7/1 黒色　シルト　10YR2/3黒褐色シルトを含む ピット
19. 10YR2/3　黒褐色 シルト　10YR4/6褐色シルトを含む ピット
20. 10YR1.7/1 黒色　シルト　SK270
21. 10YR2/2　黒褐色 シルト　以下27層までＳＫ254
22. 10YR2/1　黒色　シルト
23. 10YR1.7/1 黒色　シルト
24. 10YR2/2　黒褐色 シルト　10YR5/6黄褐色シルトを含む
25. 10YR4/4　褐色　シルト　10YR5/6黄褐色シルトを含む
26. 10YR2/2　黒褐色 シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
27. 10YR4/4　褐色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
28. 10YR2/3　黒褐色 シルト　炭化物を含む ピット
29. 10YR2/2　黒褐色 シルト　炭化物を含む ピット
30. 10YR2/1　黒色　シルト　炭化物を含む ピット
31. 10YR2/2　黒褐色 シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む ピット
32. 10YR3/3　暗褐色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む ピット
33. 10YR2/1　黒色　シルト　ピット
34. 10YR2/1　黒色　シルト　ピット
35. 10YR2/2　黒褐色　シルト　以下43層まで倒木痕
36. 10YR1.7/1 黒色　シルト
37. 10YR2/1　黒色　シルト
38. 10YR2/2　黒褐色　シルト
39. 10YR2/3　黒褐色　シルト
40. 10YR2/2　黒褐色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
41. 10YR1.7/1 黒色　シルト　10YR3/3暗褐色シルトを含む
42. 10YR5/6　黄褐色　シルト　10YR2/1黒色シルトを含む
43. 10YR3/3　暗褐色　シルト　石を含む
44. 10YR2/1　黒色　シルト　ピット
45. 10YR2/1　黒色　シルト　以下50層までＳＫ213
46. 10YR2/2　黒褐色　シルト
47. 10YR2/2　黒褐色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
48. 10YR2/1　黒色　シルト　10YR5/6黄褐色粘土を含む
49. 10YR2/2　黒褐色　シルト　10YR5/6黄褐色粘土を含む
50. 10YR3/4　暗褐色　シルト
51. 10YR2/2　黒褐色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む ピット
52. 10YR3/3　暗褐色　シルト　ピット
53. 10YR3/3　暗褐色　シルト　10YR4/4褐色シルトを含む ピット
54. 10YR2/1　黒色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を少し含む 遺物包含層
55. 10YR1.7/1 黒色　シルト　10YR6/6明黄褐色砂を含む ピット
56. 10YR6/6　明黄褐色　砂　10YR2/2黒褐色シルトを含む 漸移層
57. 10YR6/6　明黄褐色　砂　以下地山
58. 10YR5/6　黄褐色　砂
59. 10YR5/6　黄褐色　粘土
60. 10YR6/4　にぶい黄橙色 砂　石を含む
61. 10YR6/3　にぶい黄橙色 砂　石を多く含む砂礫層

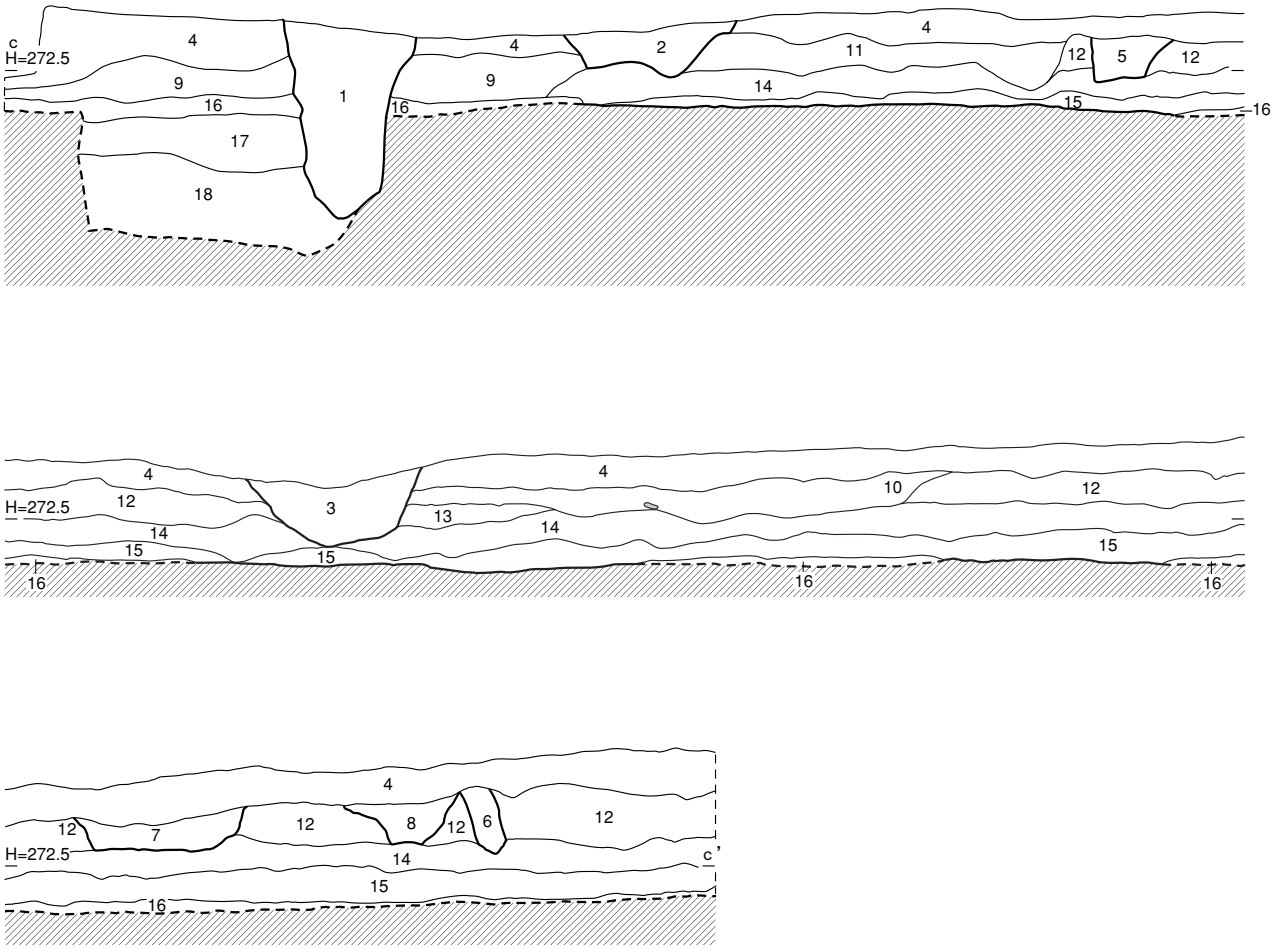
第 11 図　調査区壁土層図



第 12 図　調査区壁土層図 a ー a'



第 13 図　調査区壁土層図ｂ－ｂ'

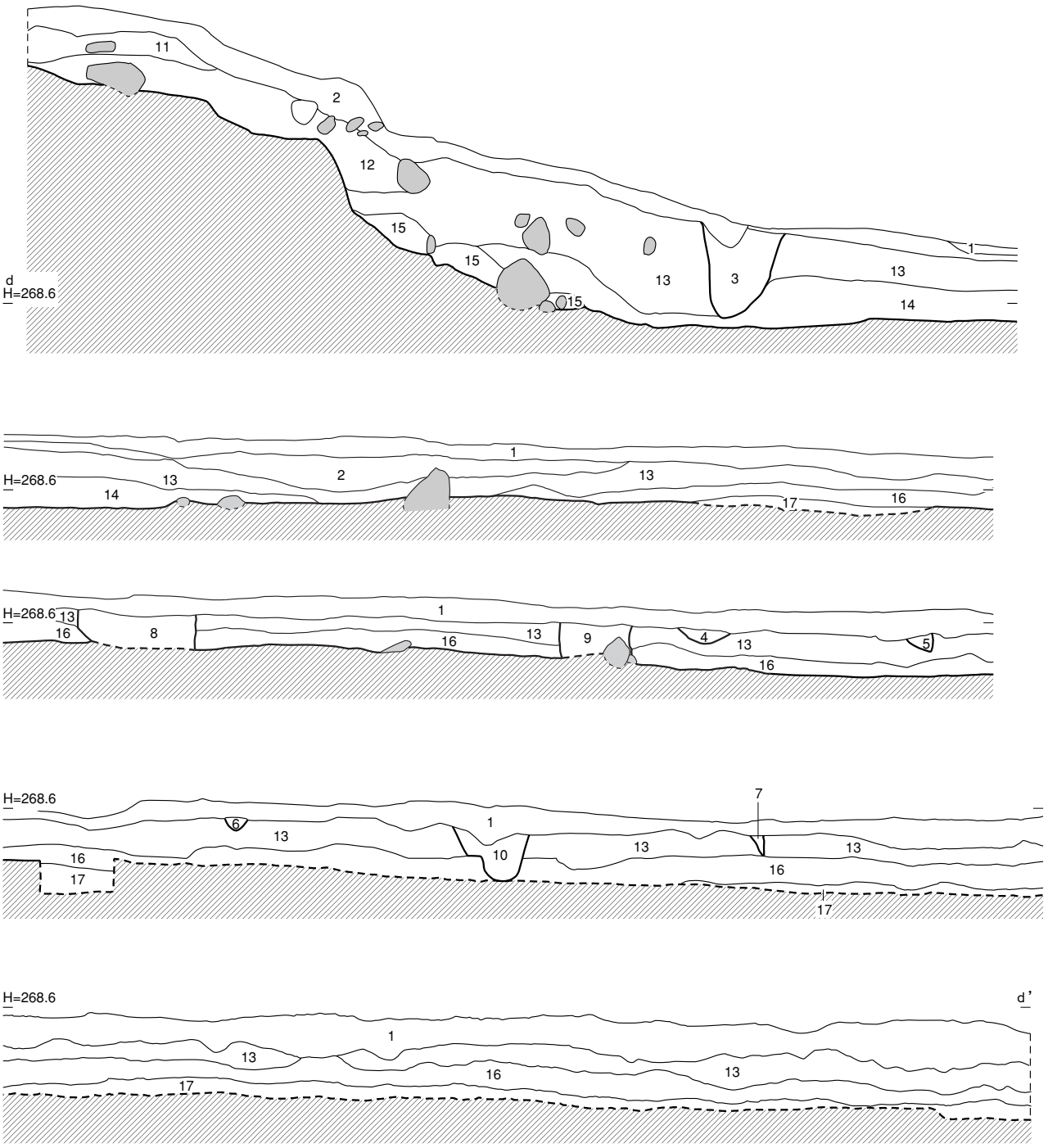


調査区壁土層図ｃ－ｃ'

1. 撹乱
2. 撹乱
3. 撹乱
4. 10YR2/2　黒褐色 シルト 耕土
5. 10YR3/4 暗褐色　シルト 撹乱
6. 10YR3/4 暗褐色　シルト 炭化物を含む 撹乱
7. 10YR2/3 黒褐色　シルト 石と炭化物を少し含む 土坑
8. 10YR2/3 黒褐色　シルト 炭化物を少し含む ピット
9. 10YR3/4 暗褐色　シルト 二次堆積層
10. 10YR3/3 暗褐色　シルト 遺物包含層
11. 10YR3/3 暗褐色　シルト 炭化物を含む 二次堆積層
12. 10YR4/6 褐色　シルト 石を含む　二次堆積層
13. 10YR3/2 黒褐色　シルト 遺物包含層
14. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む 遺物包含層
15. 10YR3/2 黒褐色　砂質土 漸移層
16. 10YR5/6 黄褐色　微砂　以下地山
17. 10YR5/6 黄褐色　砂
18. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂

0　2m
1：50

第 14 図　調査区壁土層図ｃ－ｃ'



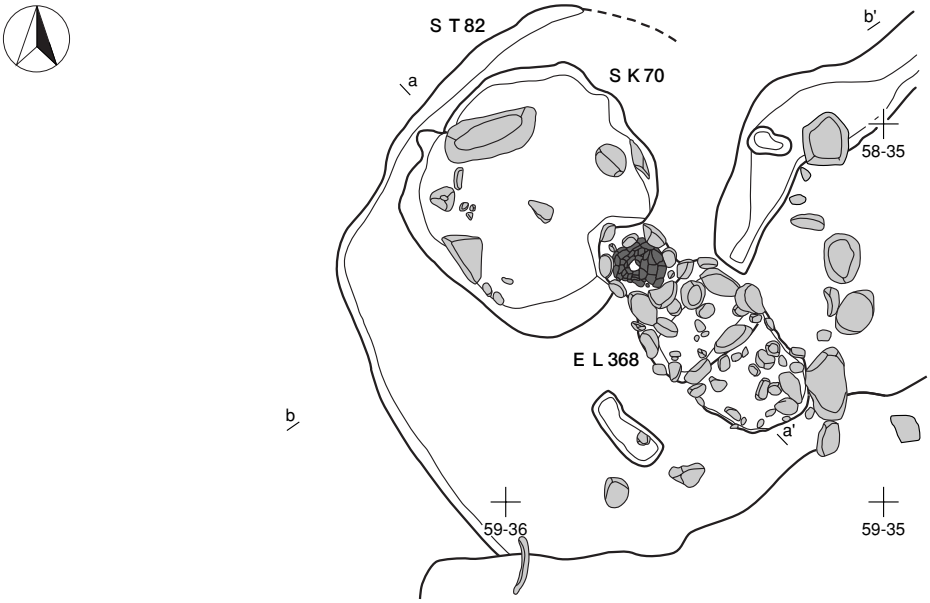
調査区壁土層図ｄ－ｄ'

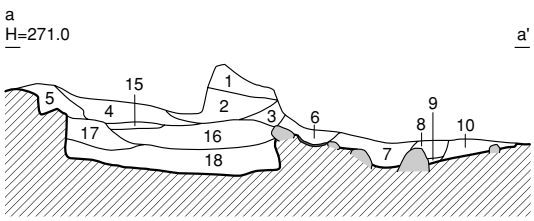
1. 10YR2/3 黒褐色　シルト 耕土
2. 10YR2/2 黒褐色　シルト 耕土
3. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR2/2黒褐色シルトを含む 撹乱
4. 10YR2/3 黒褐色　シルト 炭化物と焼土を含む 撹乱
5. 10YR3/4 暗褐色　シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む 撹乱
6. 10YR3/4 暗褐色　シルト 10YR4/6褐色シルトを含む 撹乱
7. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR4/6褐色粘土を含む 撹乱
8. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む 土坑
9. 10YR2/1 黒色　シルト 10YR2/3黒褐色シルトを含む 土坑
10. 10YR2/1 黒色　シルト 10YR3/3暗褐色シルトを含む 土坑
11. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR5/6黄褐色粘土を少し含む 遺物包含層
12. 10YR6/6 明黄褐色　粘土 10YR4/4褐色シルトと石を含む 二次堆積層
13. 10YR2/1 黒色　シルト 10YR3/4暗褐色シルトを少し含む 遺物包含層
14. 10YR3/4 暗褐色　シルト 10YR2/3黒褐色シルトと石を含む 二次堆積層
15. 10YR4/4 褐色　砂 石を多く含む 二次堆積層
16. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR4/4褐色シルトを少し含む 漸移層
17. 10YR5/6 黄褐色　砂 地山

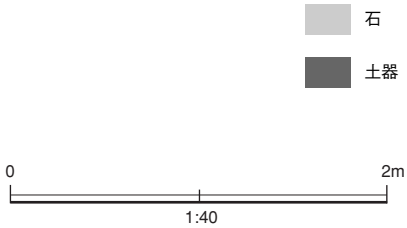
石

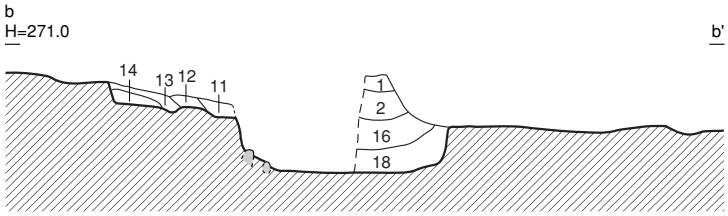
0　2m
1：50

第 15 図　調査区壁土層図ｄ－ｄ'





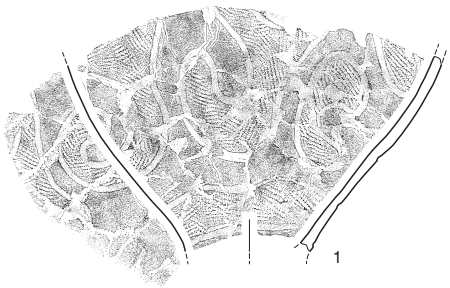




ＳＴ82出土土器（1：6）

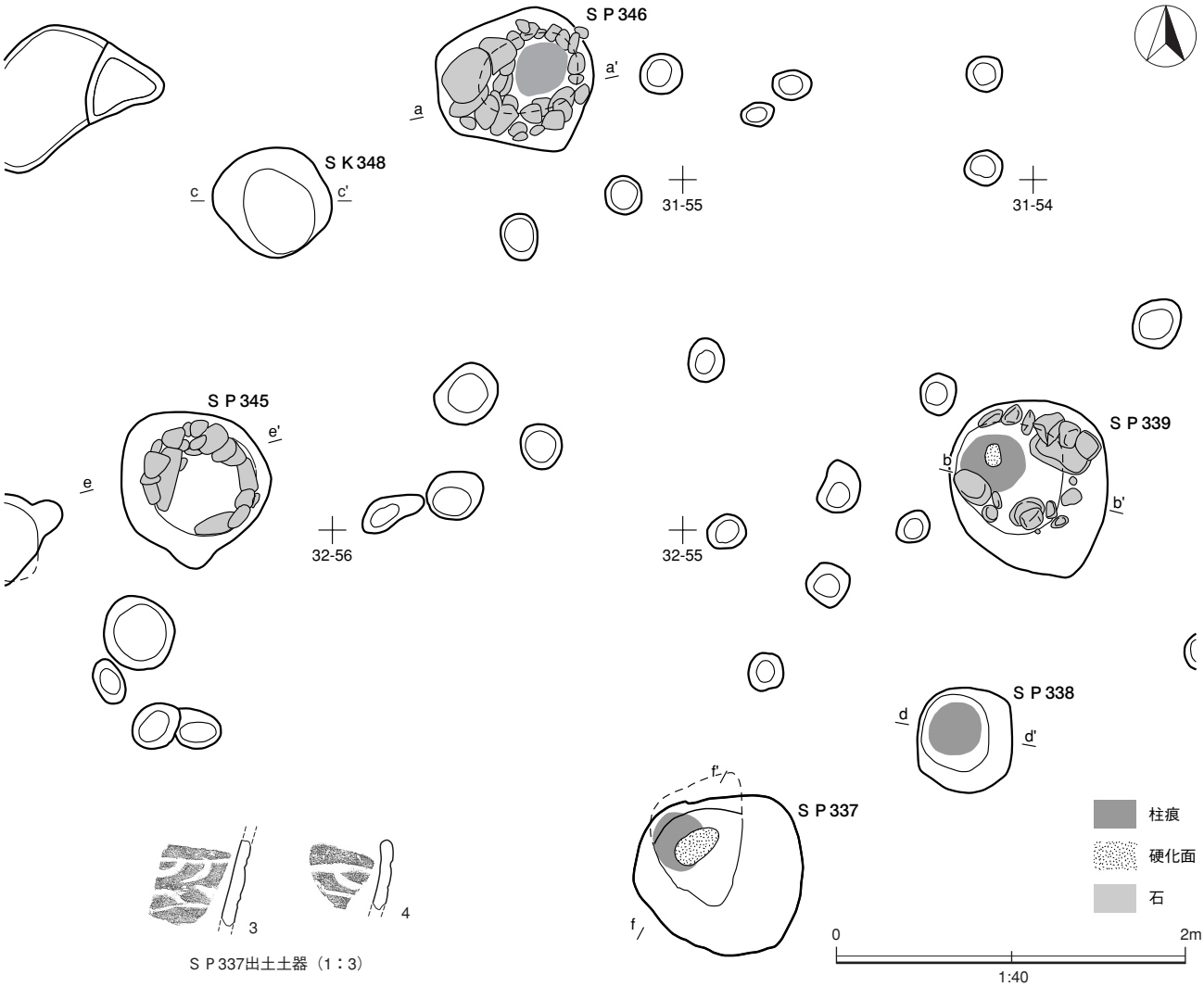
ＳＴ82・70

1. 10YR3/2 黒褐色　シルト　以下15層までST82
2. 10YR2/2 黒褐色　シルト　炭化物を含む
3. 10YR3/4 暗褐色　シルト
4. 10YR3/4 暗褐色　シルト
5. 10YR5/6 黄褐色　シルト
6. 10YR3/1 黒褐色　シルト　炭化物を含む
7. 10YR2/1 黒色　シルト　炭化物を含む
8. 10YR3/3 暗褐色　シルト　炭化物を含む
9. 10YR3/2 黒褐色　シルト
10. 10YR5/6 黄褐色　シルト　10YR3/2黒褐色シルトを含む
11. 10YR3/1 黒褐色　シルト
12. 10YR4/2 灰黄褐色　シルト
13. 10YR5/8 黄褐色　シルト
14. 10YR6/8 明黄褐色　シルト
15. 10YR5/8 黄褐色　シルト　炭化物を少し含む
16. 10YR3/4 暗褐色　シルト　炭化物を含む 以下SK70
17. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト
18. 10YR5/8 黄褐色　シルト

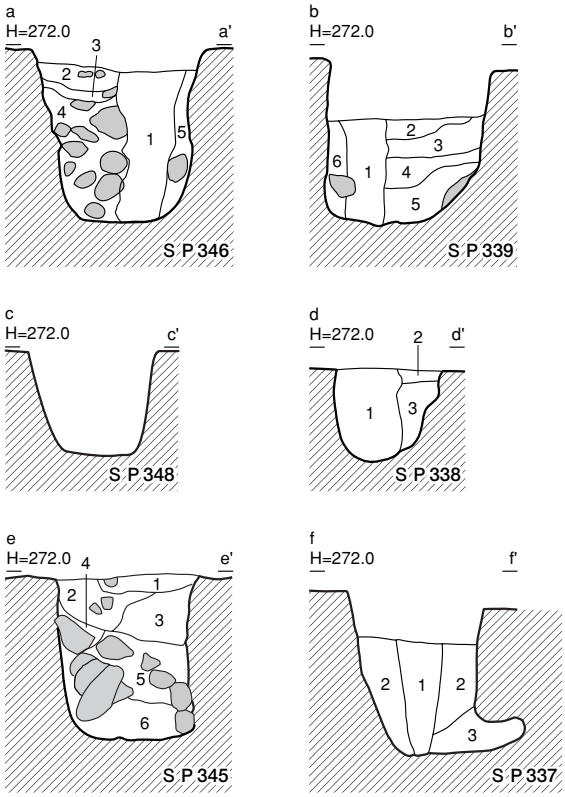


ＥＬ368の埋設土器（1：6）

第 16 図　竪穴住居ＳＴ 82 ・複式炉ＥＬ 368 ・貯蔵穴ＳＫ 70



S P 337出土土器（1：3）



S P 346 a－a'
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 柱痕
2. 10YR4/6 褐色 シルト 10YR2/2黒褐色シルトと石を含む 以下掘方
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト
4. 10YR4/4 褐色 砂質土 10YR4/6褐色シルトと石を多く含む
5. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色シルトを含む

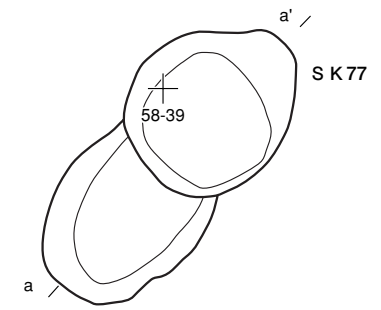
S P 339 b－b'
1. 10YR3/3 暗褐色 シルト 柱痕
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色粘土多く含む 以下掘方
3. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR2/1黒色シルトと10YR5/6黄褐色粘土を多く含む
4. 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR2/3黒褐色シルトを含む
5. 10YR3/2 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む
6. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む

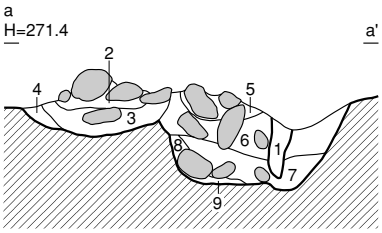
S P 338 d－d'
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 柱痕
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト 以下掘方
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む

S P 345 e－e'
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 以下掘方
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む
3. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
4. 10YR4/6 褐色 砂 石を含む
5. 10YR5/6 黄褐色 砂 石を多く含む
6. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む

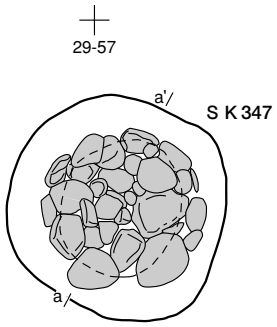
S P 337 f－f'
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色砂を少し含む 柱痕
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を少し含む 以下掘方
3. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む

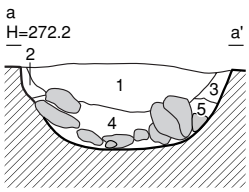
第 17 図　掘立柱建物ＳＢ 367





S K 77
1. 10YR4/6 褐色　砂質土 撹乱
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト 石を含む
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む
4. 10YR4/4 褐色　シルト
5. 10YR2/3 黒褐色 シルト 石を含む
6. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む 石を含む
7. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物を多く含む
8. 10YR3/4 暗褐色 砂質土
9. 10YR2/3 黒褐色 シルト



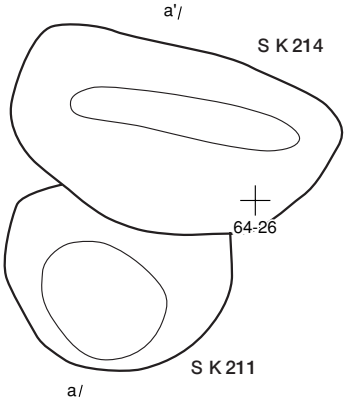


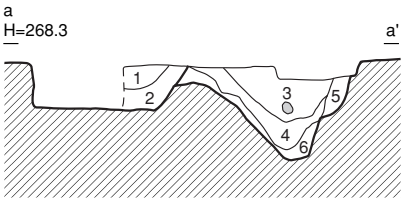
S K 347
1. 10YR2/1 黒色　シルト 10YR3/3暗褐色シルトを少し含む　以下覆土
2. 10YR3/3 暗褐色　砂質土
3. 10YR3/3 暗褐色　砂質土
4. 10YR2/1 黒色　シルト 炭化物を多く含む　10YR2/1黒色シルトを含む
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂　焼土を含む

石

0　2m
1:40

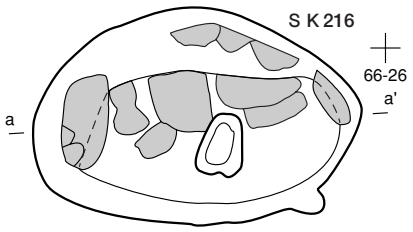
第 18 図　集石土坑ＳＫ 77 ・ 347

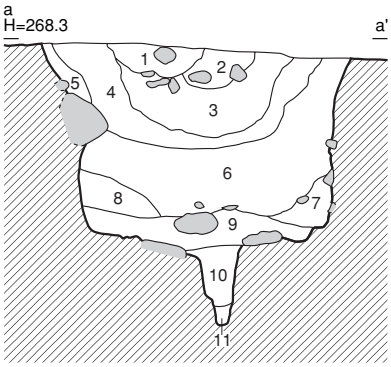




S K 214・211

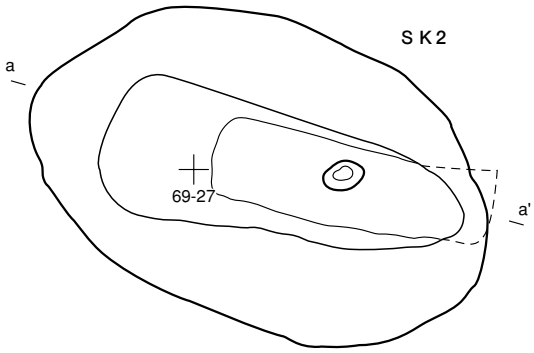
1. 10YR 2/2黒褐色砂質 シルト 炭化物を少し含む 以下２層までＳＫ211
2. 10YR 2/3黒褐色砂質 シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
3. 10YR 2/2黒褐色砂質 シルト 10YR3/3暗褐色砂質シルトを含む 以下ＳＫ214
4. 10YR 2/3黒褐色砂質 シルト 10YR3/4暗褐色砂を含む
5. 10YR 2/3黒褐色砂質 シルト 10YR4/4褐色砂を含む
6. 10YR 3/3暗褐色砂質 シルト

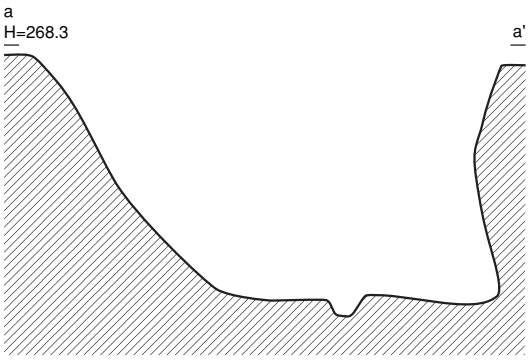


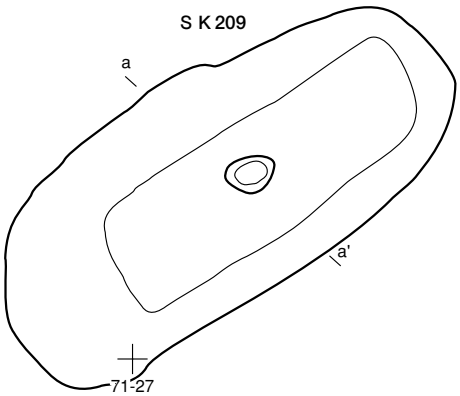


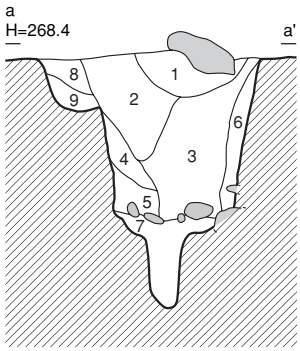
S K 216

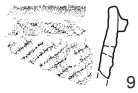
1.	10YR2/1黒色	シルト	炭化物と石を含む 以下覆土
2.	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物と石を少し含む
3.	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物と石を少し含む
4.	10YR2/2黒褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルトを含む
5.	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルトを含む
6.	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR4/4褐色砂質土を含む
7.	10YR4/4褐色	シルト	石を含む
8.	10YR2/2黒褐色	シルト	
9.	10YR3/3暗褐色	シルト	石を含む
10.	10YR4/2灰黄褐色	シルト	
11.	10YR3/2黒褐色	シルト	石を含む











ＳＫ209出土土器（1：6）

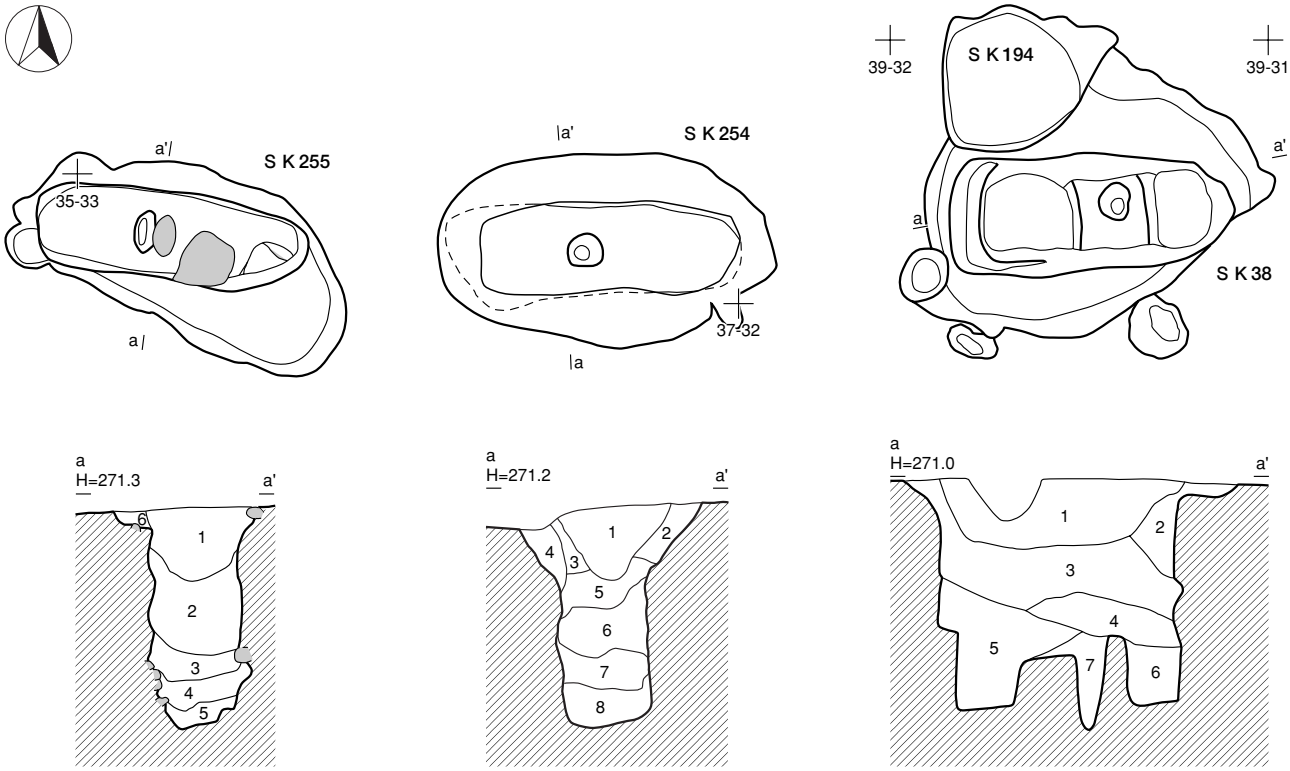
S K 209

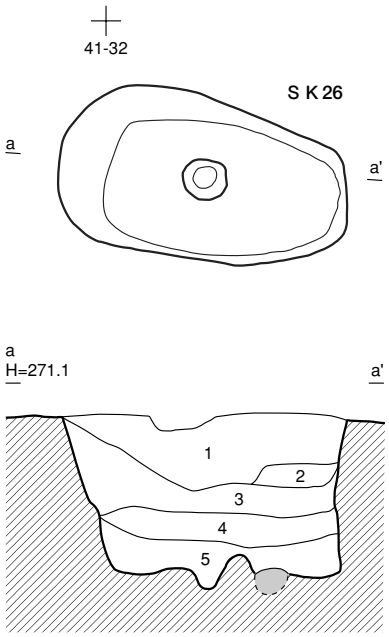
1.	10YR2/2黒褐色	シルト	以下覆土
2.	10YR2/1黒色	シルト	10YR2/3黒褐色シルトを含む
3.	10YR2/3黒褐色	シルト	石を含む
4.	10YR3/3暗褐色	砂質土	
5.	10YR3/4暗褐色	砂質土	
6.	10YR3/4暗褐色	砂質土	
7.	10YR4/3にぶい黄褐色	砂	石を多く含む
8.	10YR2/3黒褐色	シルト	
9.	10YR3/3暗褐色	砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂を含む

0 2m
1:40

石

第 19 図　陥穴Ａ群（ＳＫ 214 ・ 216 ・ 2 ・ 209）





S K 255

1. 10YR2/1 黒色 シルト 石を含む 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR4/6褐色粘質土を含む
3. 10YR1.7/1 黒色 シルト 石を含む
4. 10YR2/3 黒褐色 シルト
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘質土
6. 10YR3/3 暗褐色 シルト

S K 254

1. 10YR1.7/1 黒色 シルト 以下覆土
2. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR2/1黒色シルトを含む
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
4. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR2/3黒褐色シルトを含む
5. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を少し含む
6. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を少し含む
7. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR3/3暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色粘土を含む
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 10YR5/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色粘土を含む

S K 38

1. 10YR1.7/1 黒色 シルト 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂質土を含む
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/6褐色砂質土を含む
4. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR4/4褐色砂質土を含む
5. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂質土を含む
6. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む
7. 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR6/6明黄褐色砂質土を含む

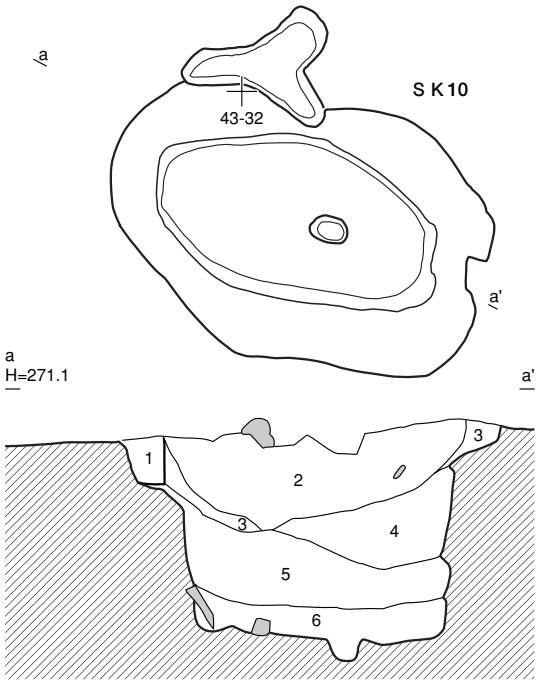
S K 26

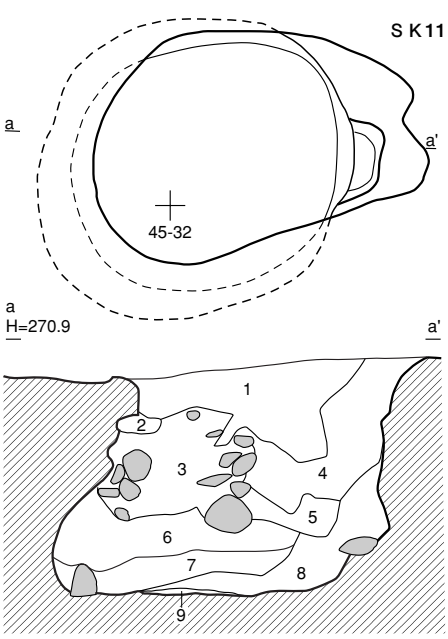
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR6/6明黄褐砂を少し含む
4. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR5/6黄褐色粘土を少し含む
5. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色砂を少し含む

石

0 2m
1:40

第 20 図 陥穴Ｂ群（Ｓ K 255 ・ 254 ・ 38 ・ 26） 貯蔵穴Ｓ K 194



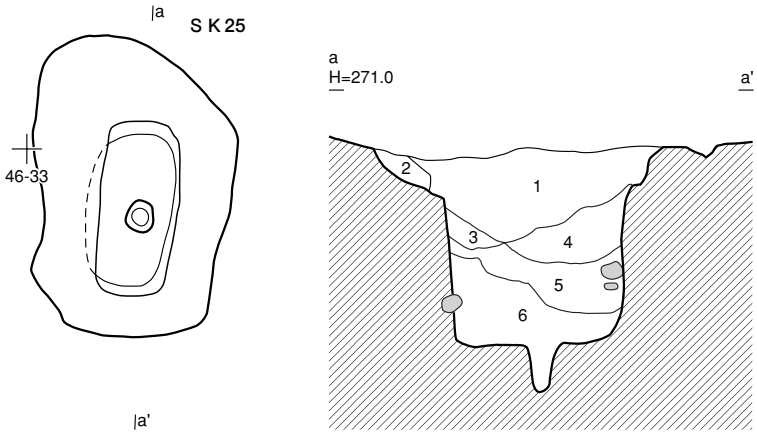


SK10

1. 10YR2/2 黒褐色 シルト ピット
2. 10YR1.7/1黒色 シルト 以下SK10
3. 10YR6/6 明黄褐色 砂
4. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色シルトと10YR1.7/1黒色シルトを含む
5. 10YR2/3 黒褐色 粘質土 10YR5/6黄褐色粘土を少し含む
6. 10YR2/1 黒色 粘質土

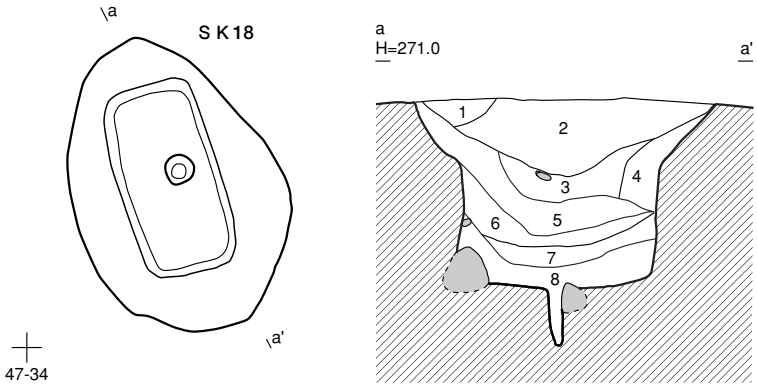
SK11

1. 10YR1.7/1黒色 シルト 炭化物を少し含む 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 石を多く含む
4. 10YR2/1 黒色 シルト 地山土含む 炭化物を少し含む
5. 10YR3/3 暗褐色 シルト 地山土含む 炭化物を少し含む
6. 10YR5/6 黄褐色 粘土 地山土を含む
7. 10YR5/6 黄褐色 砂質土 10YR4/2灰黄褐色シルトを含む
8. 10YR2/2 黒褐色 シルト 石を含む
9. 10YR1.7/1黒色 シルト



SK25

1. 10YR3/1黒褐色 シルト 石を少し含む 以下覆土
2. 10YR6/4にぶい黄橙色 シルト 地山土を含む
3. 10YR5/4にぶい黄褐色 シルト 地山土を含む
4. 10YR5/4にぶい黄褐色 シルト 地山土を含む 10YR6/4にぶい黄褐色砂を含む
5. 10YR2/1黒色 シルト 石を含む
6. 10YR3/1黒褐色 シルト 地山土を含む



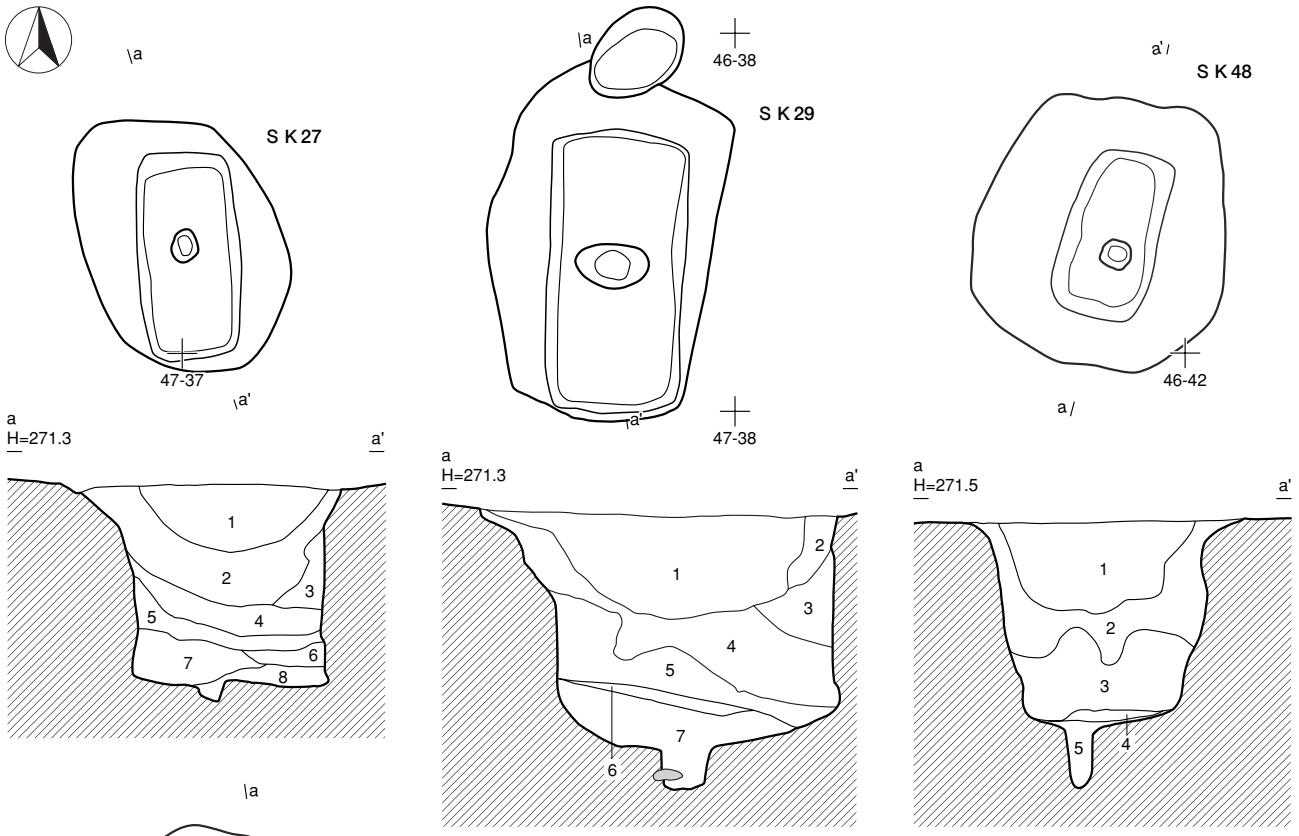
SK18

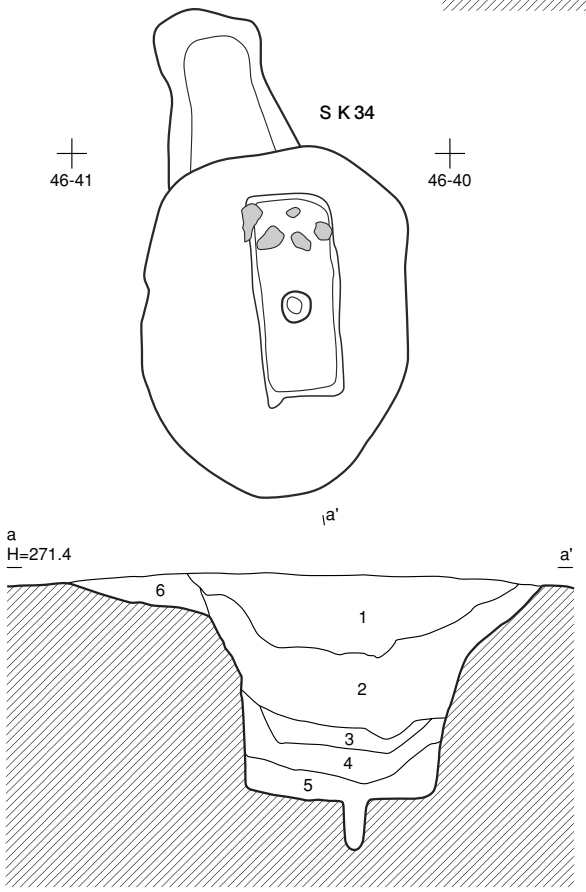
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 攪乱
2. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR4/4褐色シルトを少し含む 以下SK18
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR4/3にぶい黄褐色シルトを含む
4. 10YR4/6 褐色 砂質土
5. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/6褐色粘土を少し含む
6. 10YR2/3 黒褐色 シルト
7. 10YR5/6 黄褐色 砂質土
8. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色砂質土を含む

0 2m
1:40

石

第21図 陥穴B群（SK 10・11・25・18）





S K 27

1. 10YR2/1黒色　シルト　以下覆土
2. 10YR2/2黒褐色　シルト　10YR5/4にぶい黄褐色砂質土を含む
3. 10YR5/6黄褐色　砂質土
4. 10YR2/3黒褐色　シルト　10YR5/4にぶい黄褐色砂質土を含む
5. 10YR6/6明黄褐色　砂
6. 10YR2/3黒褐色　シルト　10YR4/6褐色砂を含む
7. 10YR2/2黒褐色　シルト
8. 10YR4/3にぶい黄褐色　砂質土

S K 29

1. 10YR2/2 黒褐色　シルト　以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色　シルト　10YR4/4褐色シルトを含む
3. 10YR4/4 褐色　砂質土
4. 10YR2/2 黒褐色　シルト　10YR6/6明黄褐色シルトと10YR4/4褐色砂質土を含む
5. 10YR6/6 明黄褐色 砂質土
6. 10YR6/6 明黄褐色 粘土　地山土
7. 10YR4/4 褐色　砂質土　10YR6/6明黄褐色砂質土と10YR2/3黒褐色シルトを含む

S K 34

1. 10YR2/1黒色　シルト　以下覆土
2. 10YR3/1黒褐色　シルト　10YR6/4にぶい黄橙色砂を含む
3. 10YR2/2黒褐色　シルト
4. 10YR6/6明黄褐色　砂　10YR2/3黒褐色シルト含む
5. 10YR2/2黒褐色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
6. 10YR4/3にぶい黄褐色　砂質土　10YR2/3黒褐色シルトを含む

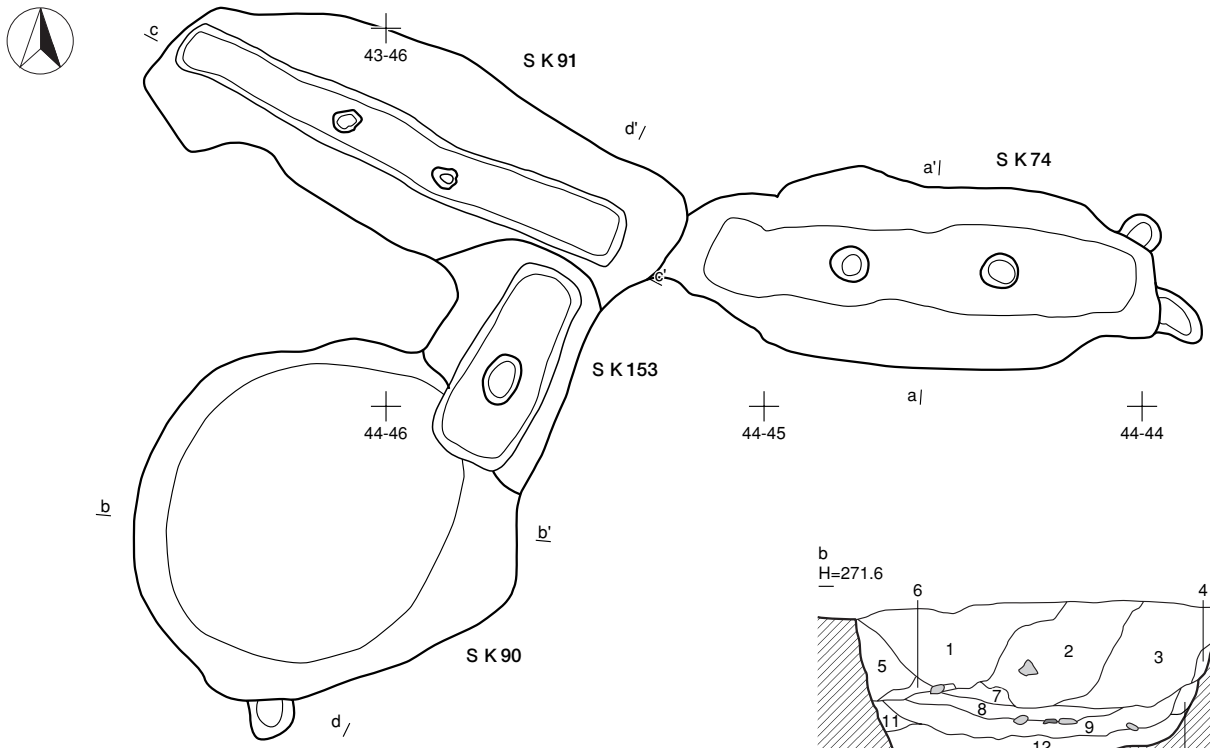
S K 48

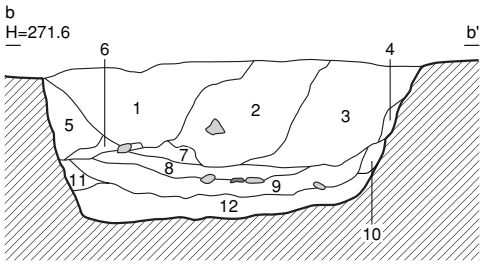
1. 10YR1.7/1黒色　シルト　以下覆土
2. 10YR2/3　黒褐色　シルト　10YR5/4にぶい黄褐色砂質土と10YR1.7/1黒色シルトを含む
3. 10YR6/4　にぶい黄橙色　砂　10YR6/6明黄褐色粘土を含む
4. 10YR5/4　にぶい黄褐色　粘土　10YR4/3にぶい黄褐色シルトを含む
5. 10YR3/2　黒褐色　シルト

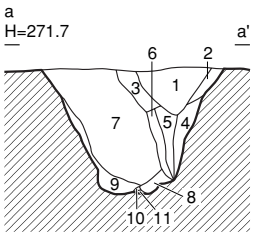
石

0　2m
1:40

第 22 図　陥穴Ｂ群（Ｓ Ｋ 27 ・ 29 ・ 34 ・ 48）







ＳＫ90 ｂ－ｂ'

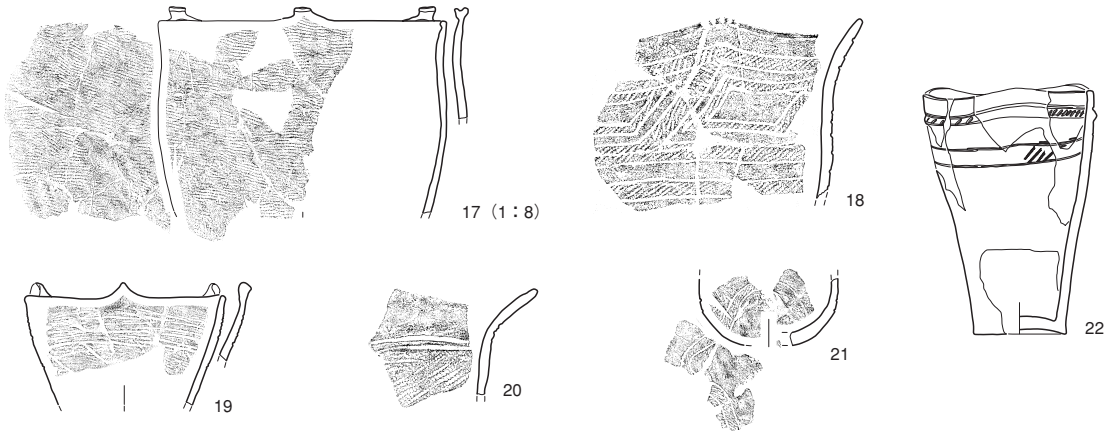
1. 10YR1.7/1黒色　シルト　炭化物と焼土を含む 以下覆土
2. 10YR3/3　暗褐色　シルト　炭化物と石を含む
3. 10YR2/1　黒色　シルト　10YR3/4暗褐色シルト 炭化物を少し含む
4. 10YR5/6　黄褐色　砂
5. 10YR5/6　黄褐色　砂　10YR2/3黒褐色シルトを含む
6. 10YR2/3　黒褐色　シルト
7. 10YR2/2　黒褐色　シルト
8. 10YR5/6　黄褐色　粘土　10YR2/3黒褐色シルトと土器を含む
9. 10YR2/1　黒色　シルト　炭化物を多く含む 土器と焼土を含む
10. 10YR6/6　明黄褐色　粘土
11. 10YR6/6　明黄褐色　砂
12. 10YR3/2　黒褐色　シルト　焼土を含む

ＳＫ74 ａ－ａ'

1. 10YR3/1黒褐色　シルト　炭化物少し含む 以下覆土
2. 10YR5/3にぶい黄褐色　砂質土
3. 10YR4/3にぶい黄褐色　砂質土
4. 10YR5/4にぶい黄褐色　砂質土　地山土を含む
5. 10YR3/1黒褐色　砂質土
6. 10YR5/6黄褐色　シルト
7. 10YR3/1黒褐色　シルト　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土と炭化物を含む
8. 10YR5/6黄褐色　シルト
9. 10YR4/4褐色　砂質土　地山土を含む
10. 10YR5/6黄褐色　シルト
11. 10YR2/1黒色　シルト

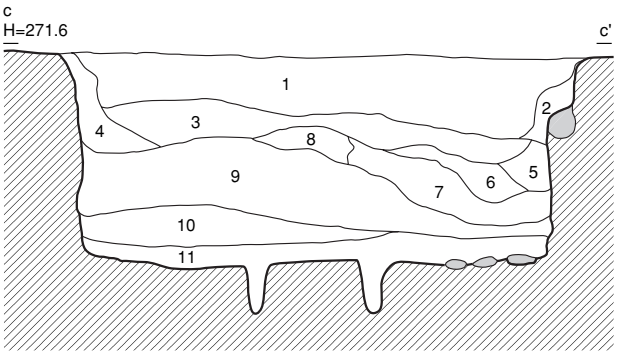
土器
石

0　2m
1:40



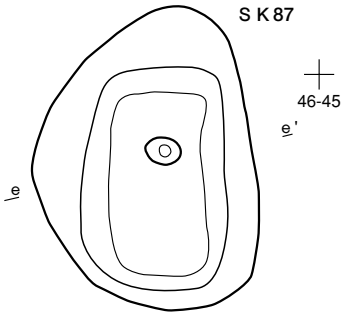
ＳＫ90出土土器（1：6）

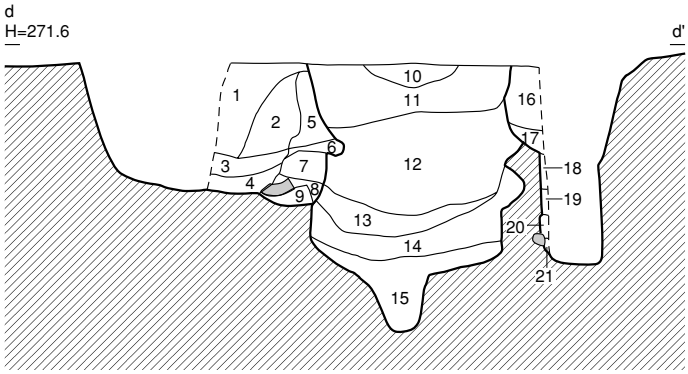
第 23 図　陥穴Ｂ群（ＳＫ 153）　陥穴Ｃ群（ＳＫ 74）　陥穴Ｄ群（ＳＫ 91）　貯蔵穴ＳＫ 90

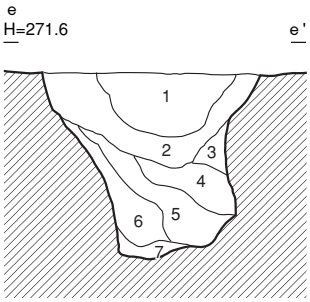


ＳＫ91 ｃ－ｃ'

1. 10YR2/2黒褐色　シルト　ａ－ａ'の16層 以下覆土
2. 10YR3/4暗褐色　シルト　ａ－ａ'の17層
3. 10YR2/3黒褐色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
4. 10YR2/3黒褐色　シルト　10YR6/6明黄褐色砂を含む
5. 10YR4/4褐色　シルト　10YR5/6黄褐色粘土を含む ａ－ａ'の18層
6. 10YR2/1黒色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
7. 10YR6/6明黄褐色　砂　10YR2/2黒褐色シルトを含む ａ－ａ'の19層
8. 10YR2/2黒褐色　シルト
9. 10YR2/3黒褐色　シルト　10YR6/6明黄褐色砂と10YR2/2黒褐色シルトを含む ａ－ａ'の20層
10. 10YR5/6黄褐色　砂
11. 10YR5/4にぶい黄褐色　シルト　10YR2/3黒褐色シルトを含む ａ－ａ'の21層







ＳＫ90・153・91 ｄ－ｄ'

1. 10YR2/1　黒色　シルト　10YR3/4暗褐色シルトと炭化物を少し含む 以下９層までSK90
2. 10YR2/3　黒褐色　シルト　10YR5/6黄褐色粘土と炭化物を含む
3. 10YR2/1　黒色　シルト　炭化物を多く含む 土器と焼土を含む
4. 10YR3/2　黒褐色　シルト　焼土を含む
5. 10YR5/6　黄褐色　砂　10YR3/3暗褐色シルトを含む
6. 10YR5/6　黄褐色　粘土　10YR4/4褐色シルトを含む
7. 10YR5/6　黄褐色　粘土
8. 10YR5/6　黄褐色　粘土　10YR2/2黒褐色シルトを含む
9. 10YR6/6　明黄褐色　砂
10. 10YR1.7/1黒色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む 以下15層までSK153
11. 10YR1.7/1黒色　シルト
12. 10YR2/1　黒色　シルト
13. 10YR2/1　黒色　シルト　10YR5/6黄褐色粘土を含む
14. 10YR2/1　黒色　シルト　10YR3/3暗褐色シルトを含む
15. 10YR5/2　灰黄褐色　砂
16. 10YR2/2　黒褐色　シルト　以下SK91
17. 10YR3/4　暗褐色　シルト
18. 10YR4/4　褐色　粘土　10YR5/6黄褐色粘土を含む
19. 10YR6/6　明黄褐色　砂　10YR2/2黒褐色シルトを含む
20. 10YR2/3　黒褐色　シルト　10YR6/6明黄褐色砂と10YR2/2黒褐色シルトを含む
21. 10YR5/4　にぶい黄褐色　シルト　10YR2/3黒褐色シルトを含む

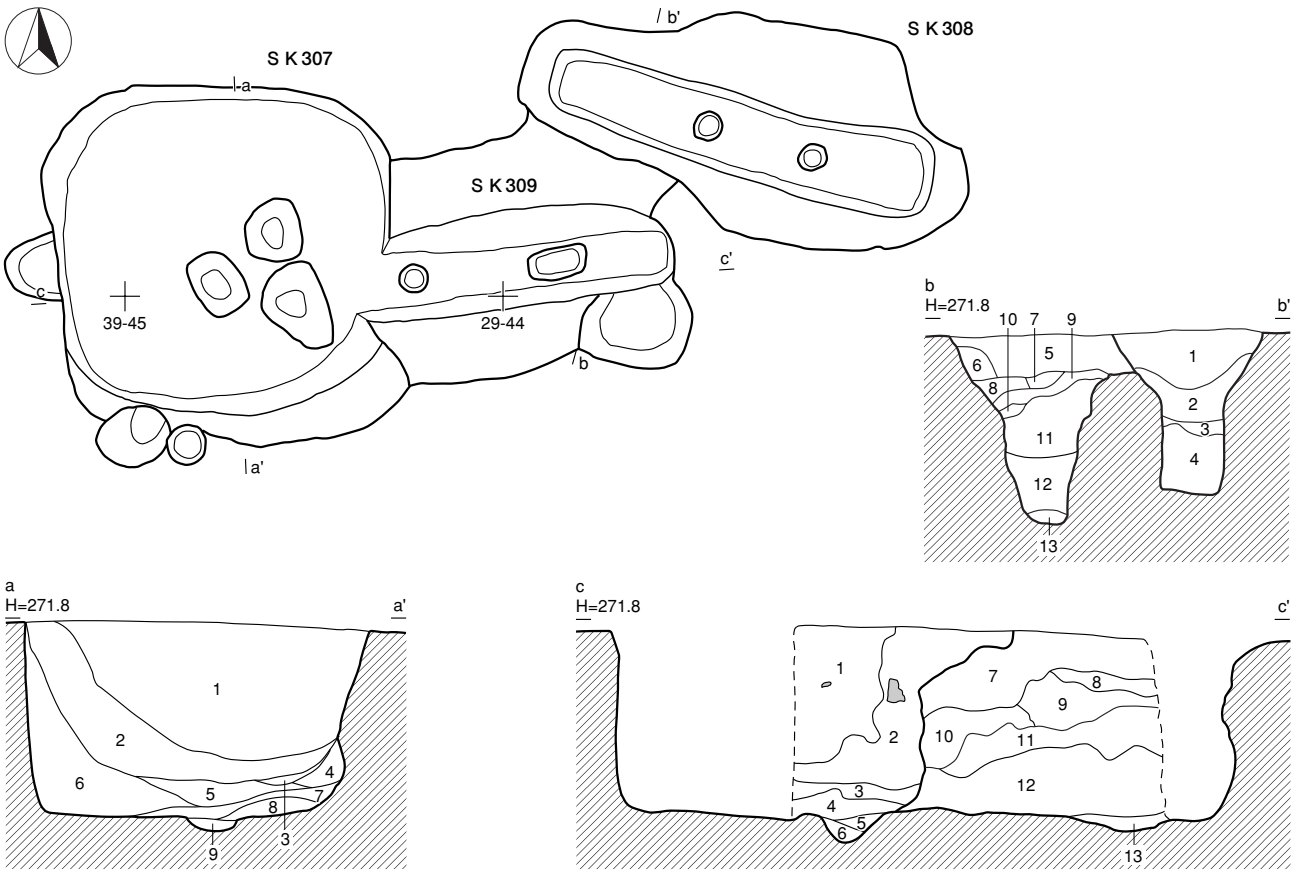
ＳＫ87 ｅ－ｅ'

1. 10YR2/1　黒色　シルト　以下覆土
2. 10YR2/2　黒褐色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
3. 10YR6/6　明黄褐色　砂
4. 10YR2/1　黒色　シルト
5. 10YR2/2　黒褐色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
6. 10YR6/6　明黄褐色　砂
7. 10YR2/3　黒褐色　シルト　10YR5/6黄褐色粘土を含む

石

0　2m
1:40

第 24 図　陥穴Ｂ群（ＳＫ 153 ・ 87）　陥穴Ｄ群（ＳＫ 91）　貯蔵穴ＳＫ 90



ＳＫ307 ａ－ａ’

1. 10YR2/1　黒色　シルト　10YR5/4にぶい黄褐色砂と10YR3/3暗褐色シルトと炭化物を含む 石を少し含む 以下覆土
2. 10YR1.7/1 黒色　シルト　10YR3/4暗褐色シルトを含む 炭化物を少し含む
3. 10YR4/4　褐色　砂　10YR2/2黒褐色シルトを含む
4. 10YR5/4　にぶい黄褐色 砂
5. 10YR3/3　暗褐色　砂質土　10YR5/4にぶい黄褐色細砂と10YR2/1黒色シルトを含む
6. 10YR5/4　にぶい黄褐色 砂
7. 10YR3/4　暗褐色　砂質土　炭化物を少し含む 10YR2/1黒色シルトを含む
8. 10YR5/4　にぶい黄褐色 砂
9. 10YR2/3　黒褐色　シルト　炭化物を少し含む

ＳＫ309・308 ｂ－ｂ’

1. 10YR2/2 黒褐色　シルト　10YR3/3暗褐色砂質土と炭化物を少し含む 以下４層までＳＫ308
2. 10YR4/4 褐色　砂質土　10YR2/2黒褐色シルトと炭化物を少し含む
3. 10YR5/6 黄褐色　砂
4. 10YR3/4 暗褐色　砂　10YR5/6黄褐色砂と10YR2/2黒褐色シルトを含む
5. 10YR2/1 黒色　シルト　炭化物を少し含む 以下ＳＫ309
6. 10YR3/3 暗褐色　シルト　10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
7. 10YR2/3 黒褐色　シルト　炭化物を少し含む
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂　炭化物を少し含む
9. 10YR2/1 黒色　シルト　炭化物と10YR2/3黒褐色砂を含む
10. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂　炭化物を少し含む
11. 10YR2/3 黒褐色　シルト　10YR4/4褐色砂質土を含む
12. 10YR5/6 黄褐色　砂
13. 10YR3/4 暗褐色　砂

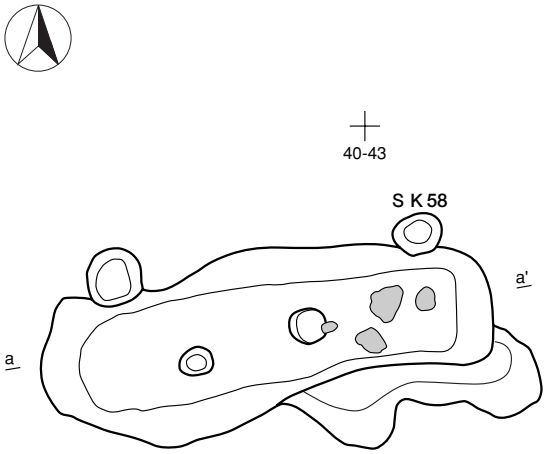
ＳＫ309・307 ｃ－ｃ’

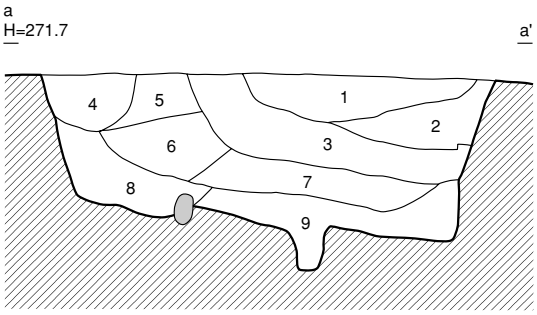
1. 10YR2/1　黒色　シルト　10YR5/4にぶい黄褐色砂と10YR3/3暗褐色シルトと炭化物を含む 石を少し含む ａ－ａ’の１層 以下６層までSK307
2. 10YR1.7/1 黒色　シルト　10YR3/4暗褐色シルトを含む 炭化物を少し含む ａ－ａ’の２層
3. 10YR3/3　暗褐色　砂質土　10YR5/4にぶい黄褐色細砂と10YR2/1黒色シルトを含む ａ－ａ’の５層
4. 10YR3/4　暗褐色　砂質土　炭化物を少し含む 10YR2/1黒色シルトを含む ａ－ａ’の７層
5. 10YR4/6　褐色　粘質土
6. 10YR2/2　黒褐色　シルト　10YR4/6褐色粘質土と炭化物を含む
7. 10YR2/1　黒色　シルト　炭化物を少し含む ｂ－ｂ’の５層 以下SK309
8. 10YR5/4　にぶい黄褐色 砂　炭化物を少し含む ｂ－ｂ’の８層
9. 10YR2/1　黒色　シルト　炭化物と10YR2/3黒褐色砂を含む ｂ－ｂ’の９層
10. 10YR5/4　にぶい黄褐色 砂　10YR2/3黒褐色砂を含む
11. 10YR2/3　黒褐色　シルト　10YR4/4褐色砂質土を含む ｂ－ｂ’の11層
12. 10YR5/6　黄褐色　砂　ｂ－ｂ’の12層
13. 10YR3/4　暗褐色　砂　ｂ－ｂ’の13層

石

0　2m
1:40

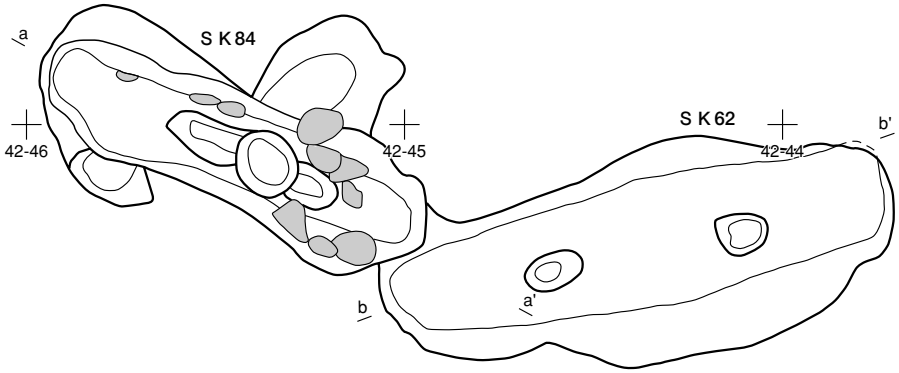
第 25 図　陥穴Ｃ群（ＳＫ 308）　陥穴Ｄ群（ＳＫ 309）　貯蔵穴ＳＫ 307

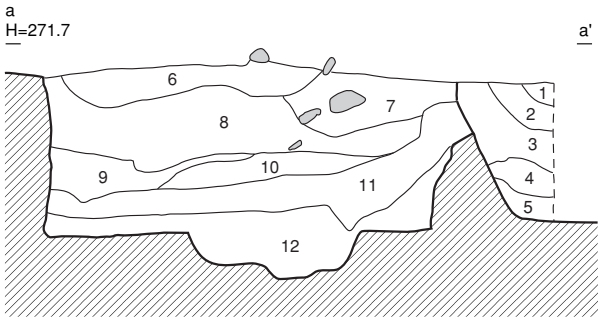




ＳＫ58 ａ－ａ’

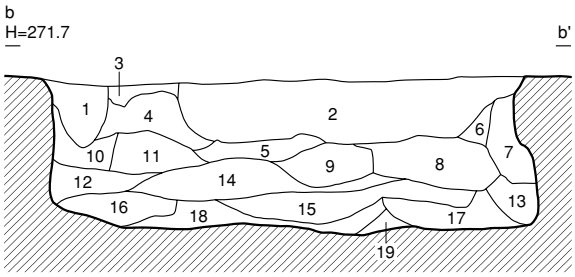
1.	10YR1.7/1	黒色	シルト 炭化物を少し含む 以下覆土
2.	10YR3/1	黒褐色	シルト 炭化物を少し含む 地山土を多く含む
3.	10YR2/2	黒褐色	シルト 炭化物を少し含む
4.	10YR2/1	黒色	シルト 炭化物を少し含む
5.	10YR2/3	黒褐色	シルト 炭化物を少し含む
6.	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト 炭化物と10YR5/6黄褐色砂質土を少し含む
7.	10YR5/6	黄褐色	砂質土 10YR2/3黒褐色シルトを含む
8.	10YR3/4	暗褐色	シルト
9.	10YR2/2	黒褐色	シルト 10YR5/6黄褐色シルトを含む





ＳＫ84・62 ａ－ａ’

1.	10YR1.7/1	黒色	シルト 以下７層までＳＫ84
2.	10YR1.7/1	黒色	シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
3.	10YR2/1	黒色	シルト
4.	10YR2/2	黒褐色	シルト 10YR4/6褐色砂を多く含む
5.	10YR2/2	黒褐色	シルト
6.	10YR2/3	黒褐色	シルト 10YR6/6明黄褐色砂を多く含む
7.	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
8.	10YR5/6	黄褐色	シルト 以下ＳＫ62 ｂ－ｂ’の３層
9.	10YR2/3	黒褐色	シルト ｂ－ｂ’の４層
10.	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む ｂ－ｂ’の11層
11.	10YR3/2	黒褐色	シルト 10YR2/2黒褐色シルトを含む ｂ－ｂ’の12層
12.	10YR2/3	黒褐色	シルト ｂ－ｂ’の16層

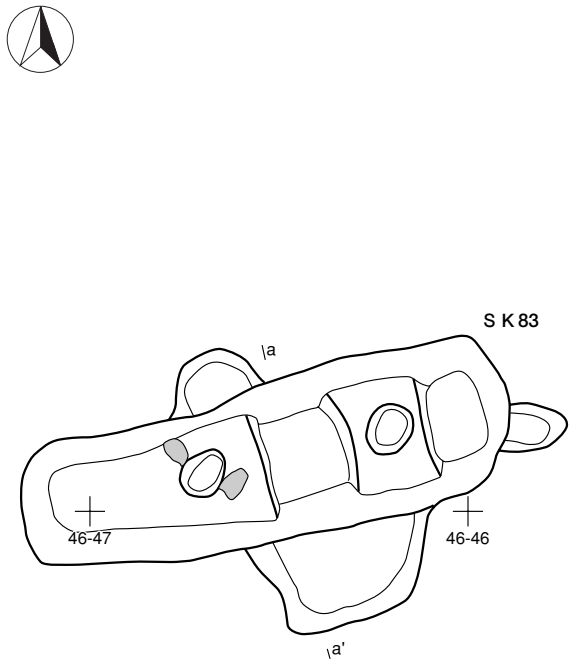


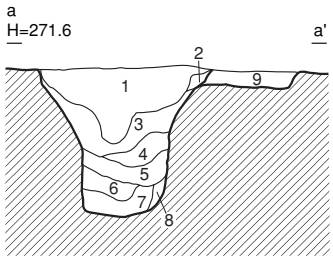
ＳＫ62 ｂ－ｂ’

1.	10YR3/4	暗褐色	シルト 以下覆土
2.	10YR1.7/1	黒色	シルト
3.	10YR5/6	黄褐色	シルト
4.	10YR2/3	黒褐色	シルト
5.	10YR2/3	黒褐色	シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
6.	10YR2/3	黒褐色	シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
7.	10YR2/2	黒褐色	シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
8.	10YR2/2	黒褐色	シルト
9.	10YR3/4	暗褐色	シルト
10.	10YR6/6	明黄褐色	砂
11.	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
12.	10YR3/2	黒褐色	シルト 10YR2/2黒褐色シルトを含む
13.	10YR4/4	褐色	シルト
14.	10YR5/6	黄褐色	砂 10YR3/3暗褐色シルトを含む
15.	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂 10YR4/4褐色シルトを含む
16.	10YR2/3	黒褐色	シルト
17.	10YR2/2	黒褐色	シルト 10YR3/3暗褐色シルトを含む
18.	10YR1.7/1	黒色	シルト 10YR4/4褐色シルトを含む
19.	10YR5/6	黄褐色	砂

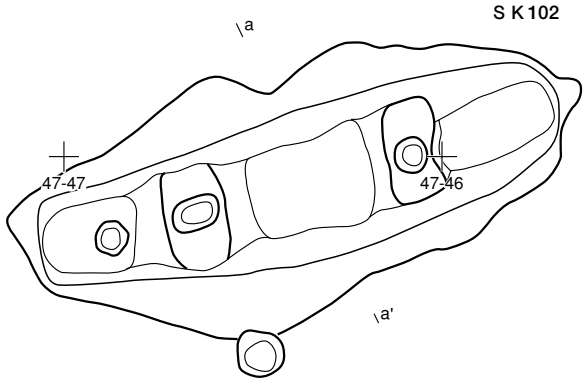
0 2m
1:40
石

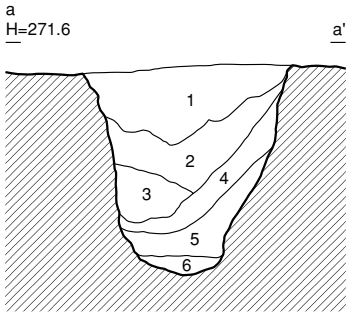
第 26 図　陥穴Ｃ群（ＳＫ 58 ・ 62）　陥穴Ｄ群（ＳＫ 84）





S K 83
1. 10YR1.7/1 黒色　シルト　以下８層までSK83
2. 10YR3/3　暗褐色　シルト
3. 10YR2/3　黒褐色　シルト　10YR5/4にぶい黄褐砂を含む
4. 10YR6/6　明黄褐色　砂
5. 10YR2/2　黒褐色　シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルト含む
6. 10YR6/6　明黄褐色　砂
7. 10YR2/2　黒褐色　シルト
8. 10YR5/6　黄褐色　粘土
9. 10YR3/3　暗褐色　シルト　ピット

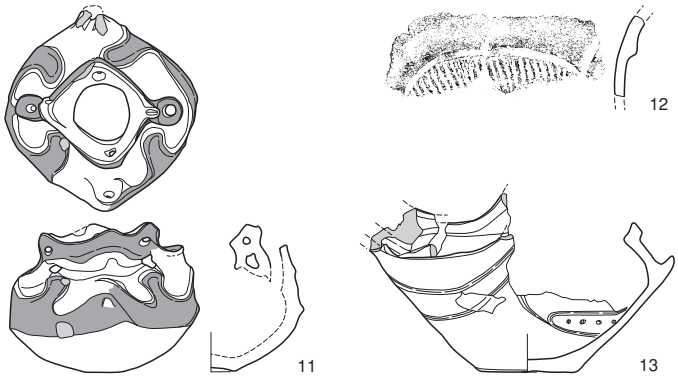




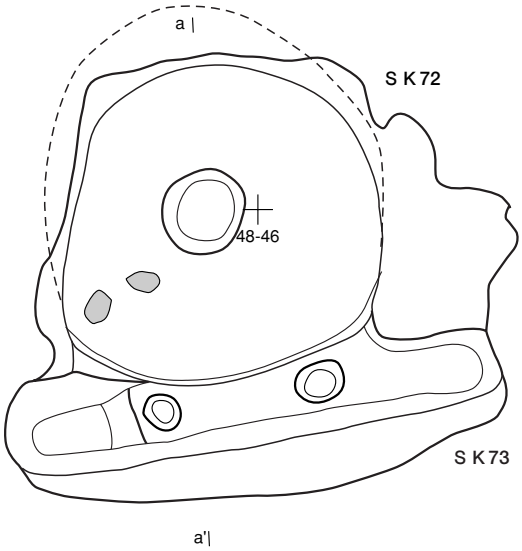
S K 102
1. 10YR2/3 黒褐色　シルト　10YR6/6明黄褐色砂を含む 以下覆土
2. 10YR2/1 黒色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
3. 10YR6/6 明黄褐色　砂　10YR2/3黒褐色シルトを含む
4. 10YR2/1 黒色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
5. 10YR5/6 黄褐色　砂　10YR5/4にぶい黄褐色細砂を含む
6. 10YR2/3 黒褐色　シルト　10YR5/6黄褐色粘土を含む

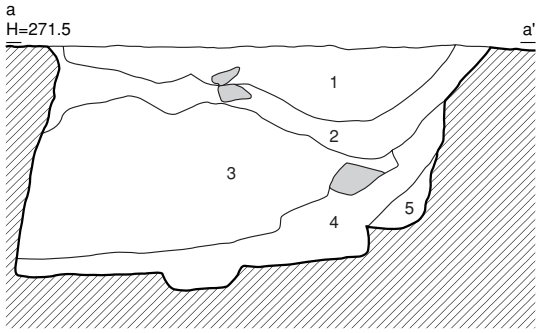
0　2m
1:40
石

第 27 図　陥穴Ｃ群（Ｓ Ｋ 83 ・ 102）



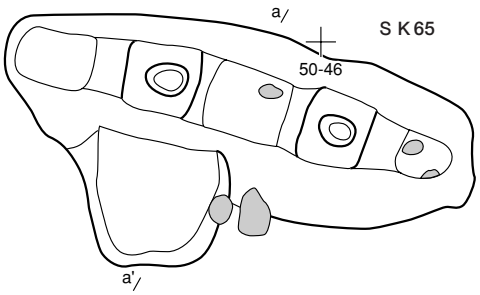
ＳＫ72出土土器（1：4）

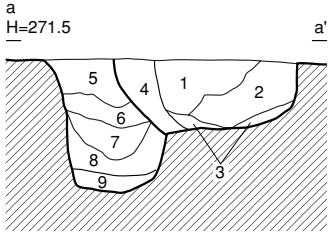




ＳＫ72・73

1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 以下４層までＳＫ72
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトを含む
3. 10YR5/6 黄褐色 砂
4. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色砂を含む
5. 10YR5/6 黄褐色 砂 SK73



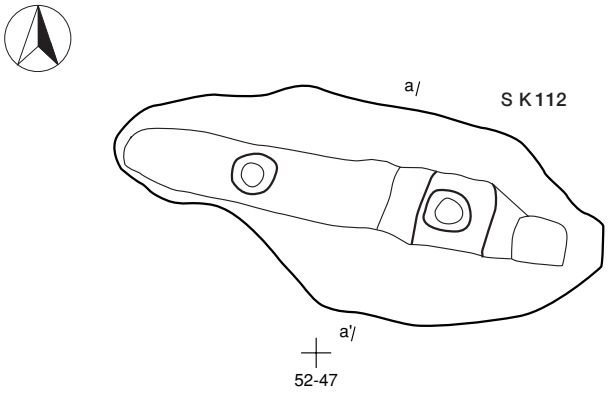


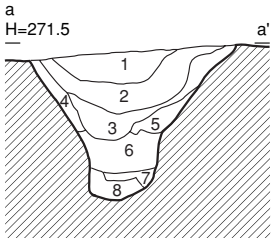
ＳＫ65

1. 10YR1.7/1 黒色 シルト 以下４層まで土坑
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
3. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR3/3暗褐色シルト含む
4. 10YR2/2 黒褐色 シルト
5. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR3/4暗褐色シルト含む 以下ＳＫ65
6. 10YR4/4 褐色 シルト
7. 10YR2/2 黒褐色 シルト
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂
9. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR4/6褐色砂を含む

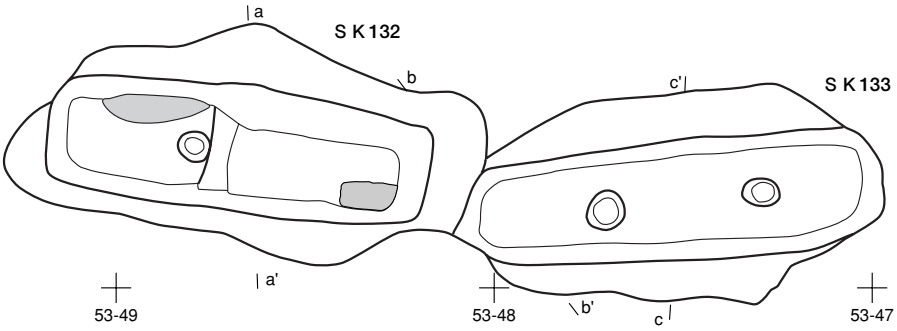
0 2m
1:40
石

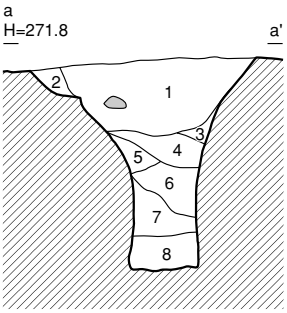
第 28 図　陥穴Ｃ群（ＳＫ 73 ・ 65）　貯蔵穴ＳＫ 72



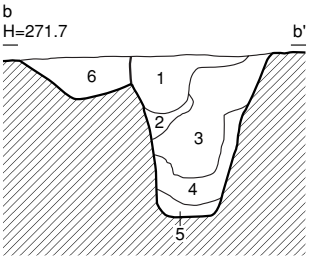


S K112
1. 10YR1.7/1 黒色　シルト　以下覆土
2. 10YR2/1　黒色　シルト　10YR3/3暗褐色シルト含む
3. 10YR2/3　黒褐色　シルト　10YR4/6褐色砂を含む
4. 10YR6/6　明黄褐色　砂
5. 10YR5/6　黄褐色　砂
6. 10YR3/3　暗褐色　シルト　10YR6/6明黄褐色砂を含む
7. 10YR2/2　黒褐色　シルト　10YR6/6明黄褐色粘土を含む
8. 10YR2/3　黒褐色　シルト

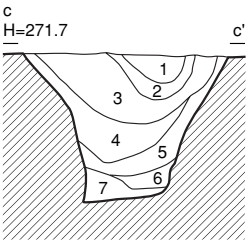




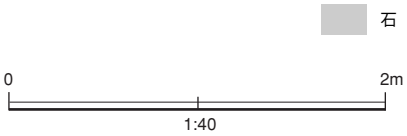
S K132 a－a'
1. 10YR3/1　黒褐色　シルト　炭化物を少し含む 地山土を含む 以下覆土
2. 10YR2/3　黒褐色　シルト
3. 10YR3/2　黒褐色　砂質土　地山土を含む
4. 10YR2/1　黒色　シルト　炭化物を含む
5. 10YR6/4　にぶい黄橙色　砂質土　地山土を含む
6. 10YR2/2　黒褐色　シルト
7. 10YR6/6　明黄褐色　砂質土　地山土を含む
8. 10YR1.7/1 黒色　砂質土　地山土を含む



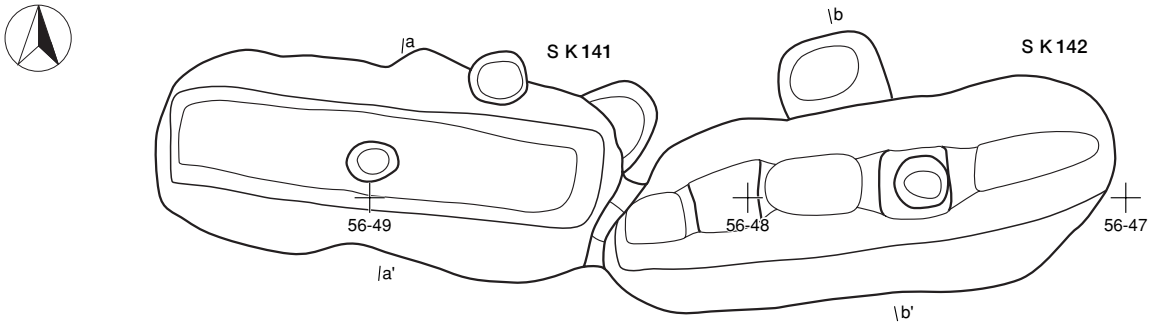
S K132・133 b－b'
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト 以下５層までＳＫ133
2. 10YR4/6 褐色　砂質土 地山土を含む
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む
4. 10YR4/4 褐色　砂質土 地山土を含む
5. 10YR2/3 黒褐色 シルト
6. 10YR2/3 黒褐色 シルト 地山土(10YR4/6褐色砂質土を含む) ＳＫ132

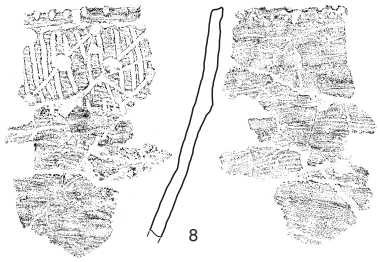


S K133 c－c'
1. 10YR3/1　黒褐色　シルト　以下覆土
2. 10YR3/2　黒褐色　シルト
3. 10YR2/1　黒色　シルト　炭化物と石を含む
4. 10YR2/2　黒褐色　シルト　地山土を含む
5. 10YR4/2　灰黄褐色　砂質土　地山土を含む
6. 10YR1.7/1 黒色　砂質土　地山土を含む
7. 10YR5/2　灰黄褐色　砂質土　地山土を含む

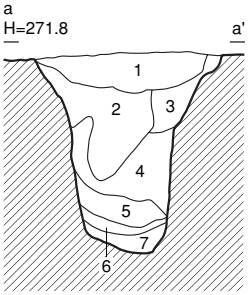


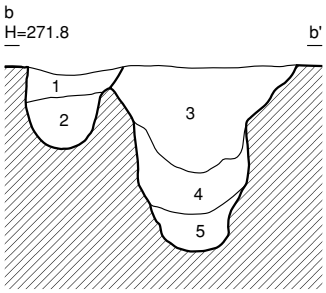
第 29 図　陥穴Ｃ群（ＳＫ 112 ・ 133）　陥穴Ｄ群（ＳＫ 132）





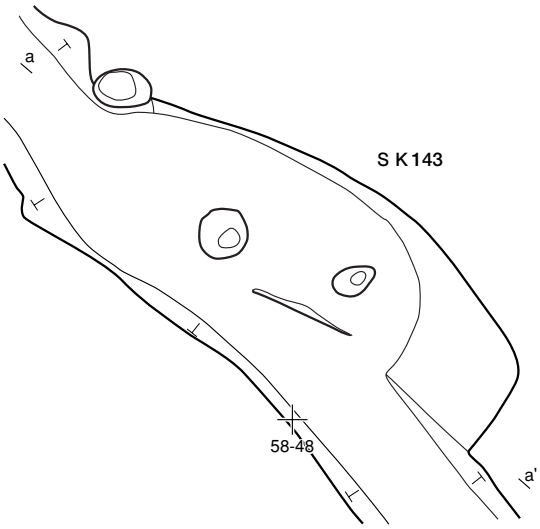
SK141出土土器（1：6）

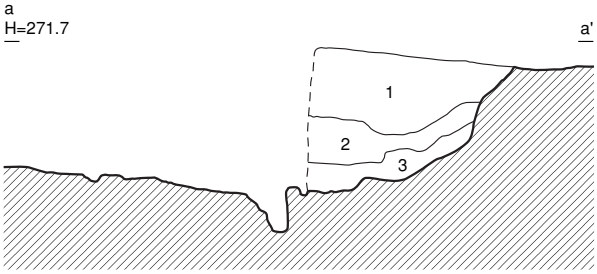




SK141　a－a'
1. 10YR2/3 黒褐色　シルト 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色　シルト
3. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む
4. 10YR3/4 暗褐色　シルト
5. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR2/1黒色シルトを含む
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂
7. 10YR3/3 暗褐色　シルト

SK142　b－b'
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 以下 2 層までピット
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト
3. 10YR2/1 黒色　シルト 10YR4/4褐色シルトを含む 以下SK142
4. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂と10YR2/2黒褐色シルトを含む
5. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む



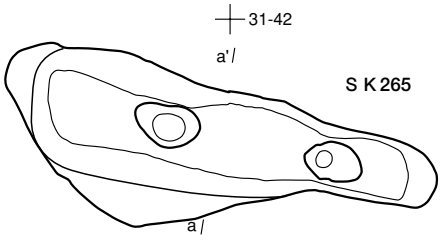


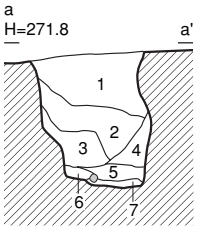
SK143
1. 10YR2/1 黒色　シルト 炭化物を含む 以下覆土
2. 10YR3/4 暗褐色 砂質土 炭化物を少し含む
3. 10YR4/4 褐色　砂質土 地山土を含む

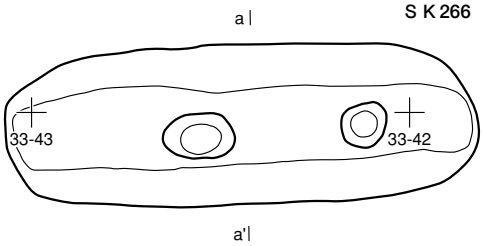
石

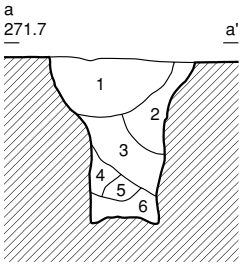
0　2m
1:40

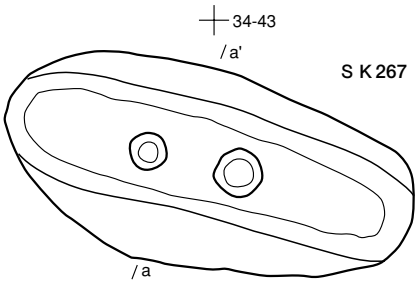
第 30 図　陥穴C群（SK 142 ・ 143）　陥穴D群（SK 141）

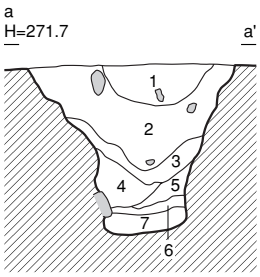


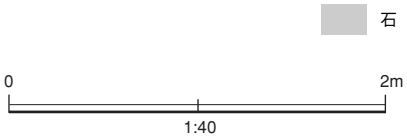










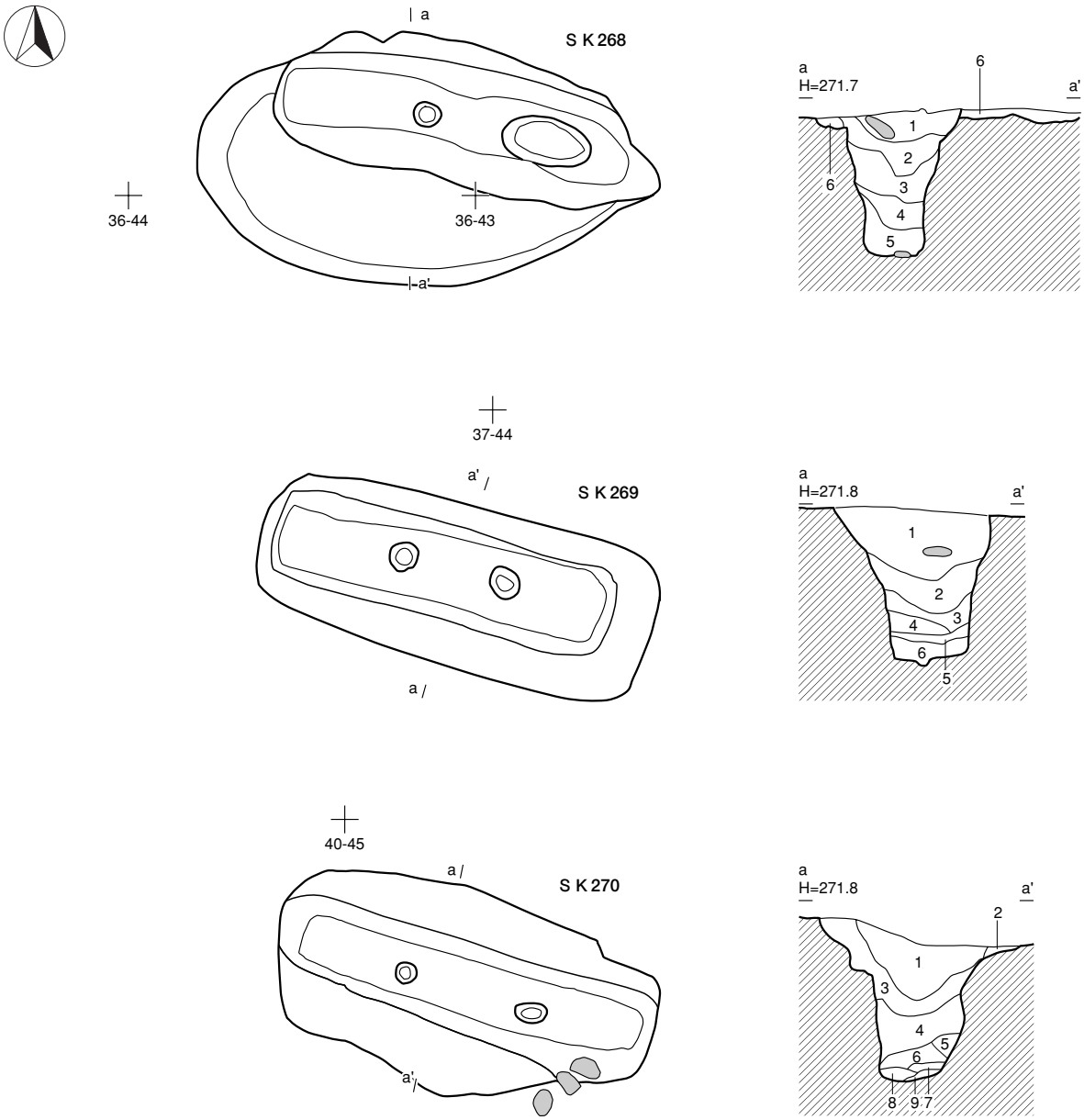


S K 265
1. 10YR1.7/1 黒色　シルト　以下覆土
2. 10YR2/1　黒色　シルト　石を少し含む
3. 10YR3/3　暗褐色 砂質土　10YR2/2黒褐色シルトを含む
4. 10YR2/2　黒褐色 シルト
5. 10YR2/2　黒褐色 シルト　炭化物と10YR5/6黄褐色粘質土を含む
6. 10YR2/1　黒色　シルト
7. 10YR4/6　褐色　粘質土　石を少し含む

S K 266
1. 10YR1.7/1 黒色　シルト　10YR3/4暗褐色シルトを含む 以下覆土
2. 10YR2/2　黒褐色 シルト　10YR3/4暗褐色シルトを多く含む
3. 10YR1.7/1 黒色　シルト　10YR3/4暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色粘土を含む
4. 10YR2/2　黒褐色 シルト　10YR3/4暗褐色シルトを含む
5. 10YR4/6　褐色砂
6. 10YR2/2　黒褐色 シルト　10YR5/6黄褐色粘土を含む

S K 267
1. 10YR2/1　黒色　シルト　以下覆土
2. 10YR2/1　黒色　シルト　10YR3/3暗褐色粘質土と10YR4/6褐色粘質土を含む 石と炭化物を少し含む
3. 10YR2/2　黒褐色　シルト　10YR4/3にぶい黄褐色砂を含む
4. 10YR3/3　暗褐色　シルト　10YR2/2黒褐色粘質土を含む
5. 10YR5/4　にぶい黄褐色 砂
6. 10YR4/6　褐色　シルト
7. 10YR1.7/1 黒色　シルト　炭化物を少し含む

第 31 図　陥穴Ｄ群（Ｓ Ｋ 265 ・ 266 ・ 267）



S K 268
1. 10YR1.7/1 黒色 シルト 石を含む 以下覆土
2. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む
3. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR3/4暗褐色シルトと10YR2/3黒褐色シルトを含む
4. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR3/4暗褐色シルトを多く含む
5. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む
6. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR3/4暗褐シルトを含む

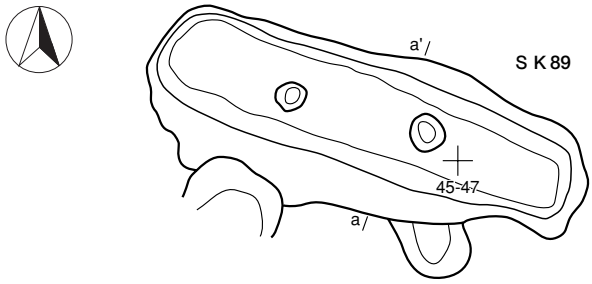
S K 269
1. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土と石を含む 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR3/4暗褐色砂質土を含む
3. 10YR2/3 黒褐色 砂質土 10YR4/3にぶい黄褐色砂を含む
4. 10YR4/4 褐色 砂
5. 10YR2/2 黒褐色 砂質土
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂 10YR2/2黒褐色砂質土を含む

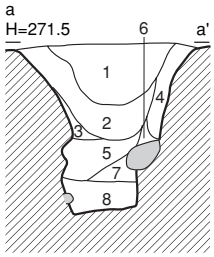
S K 270
1. 10YR1.7/1 黒色 シルト 炭化物を含む 以下覆土
2. 10YR3/3 暗褐色 シルト
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂質土と炭化物を少し含む
4. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む
5. 10YR2/2 黒褐色 シルト
6. 10YR4/4 褐色 砂質土
7. 10YR3/4 暗褐色 砂質土
8. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む
9. 10YR5/6 黄褐色 砂質土

石

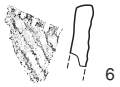
0 2m
1:40

第 32 図 陥穴Ｄ群（Ｓ Ｋ 268 ・ 269 ・ 270）

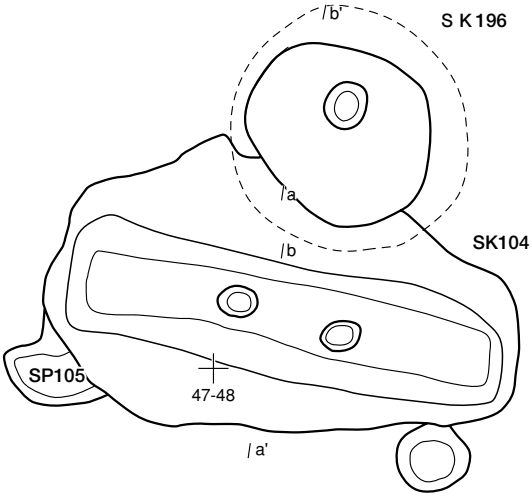




ＳＫ89
1. 10YR2/3 黒褐色　シルト 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
3. 10YR6/6 明黄褐色 砂
4. 10YR3/4 暗褐色　シルト
5. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
6. 10YR5/6 黄褐色　粘土
7. 10YR5/6 黄褐色　砂
8. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む

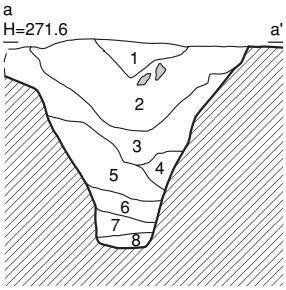


ＳＫ89出土土器（1：4）

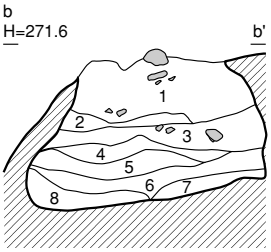


ＳＫ104出土土器（1：4）

ＳＫ196出土土器（1：4）



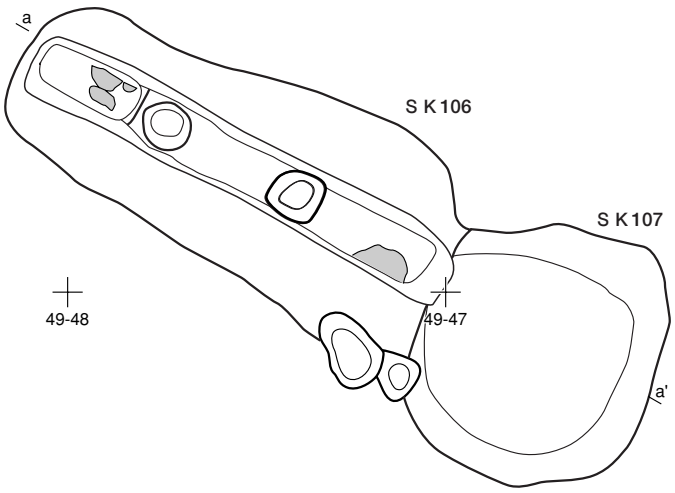
ＳＫ104 ａ－ａ'
1. 10YR5/6 黄褐色　シルト 石を多く含む 以下覆土
2. 10YR4/6 褐色　シルト
3. 10YR4/4 褐色　シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂質土と石を多く含む
4. 10YR4/6 褐色　シルト 10YR1.7/1黒色シルトと10YR5/6黄褐色砂質土を含む
5. 10YR5/6 黄褐色　砂質土
6. 10YR3/4 暗褐色　砂質土 10YR2/1黒色シルトを含む
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
8. 10YR5/6 黄褐色　砂質土

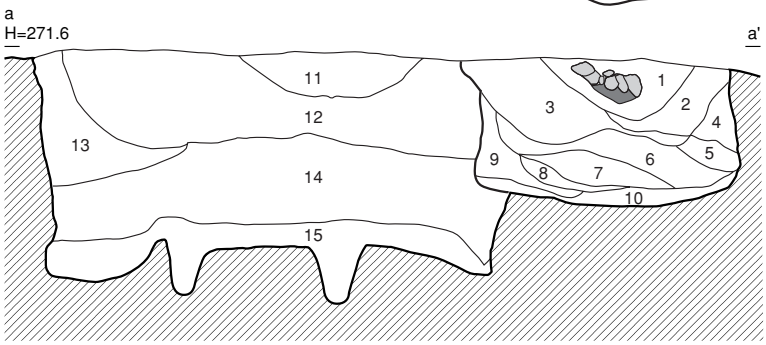


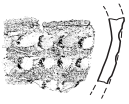
ＳＫ196 ｂ－ｂ'
1. 10YR2/2 黒褐色　シルト 以下覆土
2. 10YR2/1 黒色　シルト 石を含む
3. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
4. 10YR5/6 黄褐色　砂
5. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR4/6褐色砂を含む
6. 10YR5/6 黄褐色　砂
7. 10YR5/6 黄褐色　細砂
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト

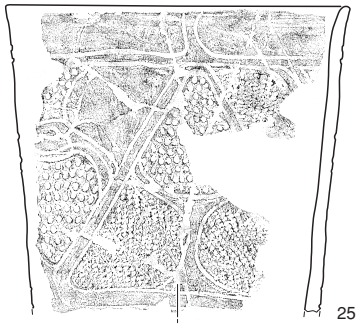
0　2m
1:40
石

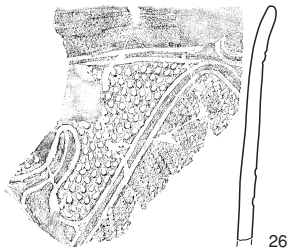
第 33 図　陥穴Ｄ群（ＳＫ 89 ・ 104）　貯蔵穴ＳＫ 196









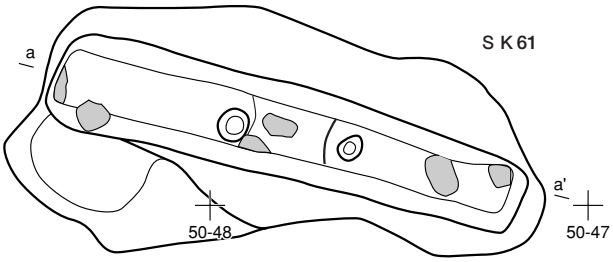


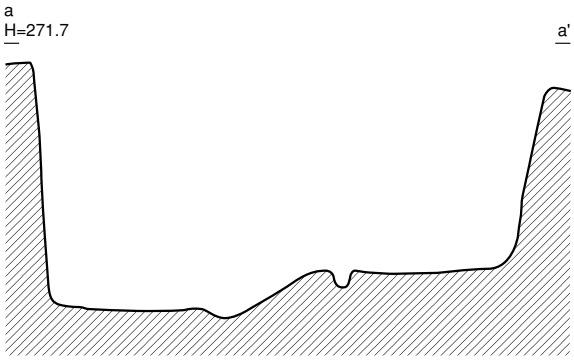
土坑ＳＫ107出土土器（1：6）

土坑ＳＫ61出土土器（1：6）

ＳＫ106・107

1. 10YR1.7/1 黒色　シルト　土器と石を含む 以下10層までSK107
2. 10YR2/2　黒褐色 シルト
3. 10YR2/3　黒褐色 シルト
4. 10YR5/6　黄褐色 砂
5. 10YR2/3　黒褐色 シルト　10YR4/6褐色砂を含む
6. 10YR2/3　黒褐色 シルト　10YR4/6褐色粘土を含む
7. 10YR4/6　褐色　砂
8. 10YR3/4　暗褐色 シルト　10YR7/6明黄褐色砂を含む
9. 10YR2/3　黒褐色 シルト
10. 10YR2/2　黒褐色 シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
11. 10YR2/3　黒褐色 シルト　以下ＳＫ106
12. 10YR1.7/1 黒色　シルト
13. 10YR2/3　黒褐色 シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
14. 10YR2/2　黒褐色 シルト　10YR4/6褐色砂を含む
15. 10YR3/3　暗褐色 シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む

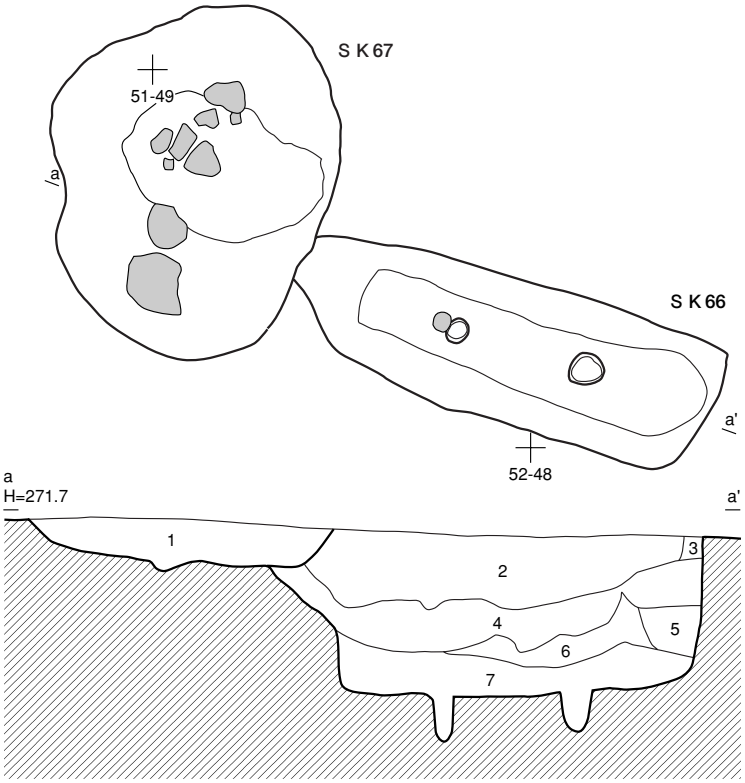




0　2m
1:40

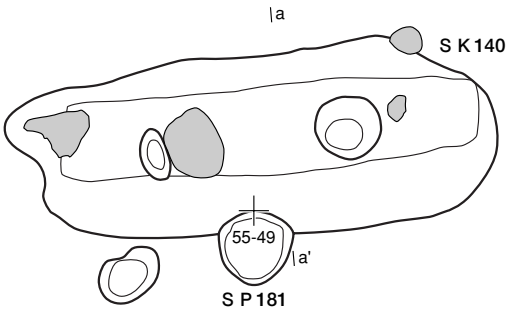
石　土器

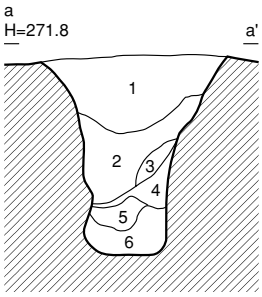
第 34 図　陥穴Ｄ群（ＳＫ 106 ・ 61）　貯蔵穴ＳＫ 107



S K 66・67

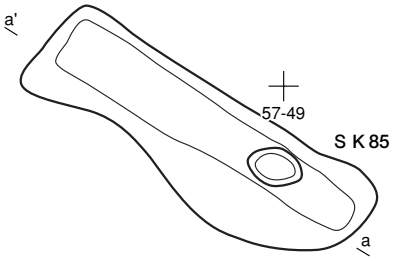
1.	10YR4/4褐色	シルト	SK67
2.	10YR2/2黒褐色	シルト	以下SK66
3.	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR6/6明黄褐色砂を含む
4.	10YR3/2黒褐色	シルト	10YR2/2黒褐色シルトと 10YR6/6明黄褐色砂を含む
5.	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	
6.	10YR6/6明黄褐色	砂	10YR3/3暗褐色シルトを含む
7.	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR6/6明黄褐色砂を含む

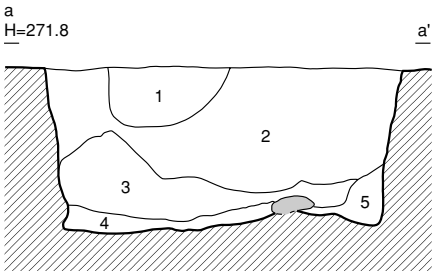




S K 140

1.	10YR2/2	黒褐色	シルト 以下覆土
2.	10YR2/1	黒色	シルト 10YR4/4褐色砂を含む
3.	10YR3/3	暗褐色	シルト 10YR1.7/1黒色シルトを含む
4.	10YR4/4	褐色	砂
5.	10YR1.7/1	黒色	シルト
6.	10YR3/4	暗褐色	シルト





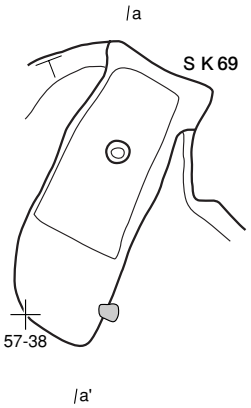
S K 85

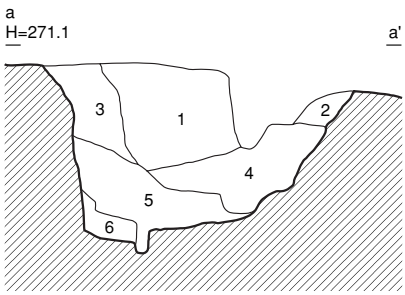
1.	10YR1.7/1	黒色	シルト 石を少し含む 炭化物を含む 以下覆土
2.	10YR3/1	黒褐色	シルト 10YR1.7/1黒色シルトと10YR4/1褐灰色砂質土を含む
3.	10YR2/1	黒色	シルト 炭化物を含む
4.	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト 10YR2/1黒色シルトを少し含む
5.	10YR4/4	褐色	シルト 地山土を含む

0 2m
1:40

石

第 35 図　陥穴Ｄ群（Ｓ Ｋ 66 ・ 140 ・ 85）





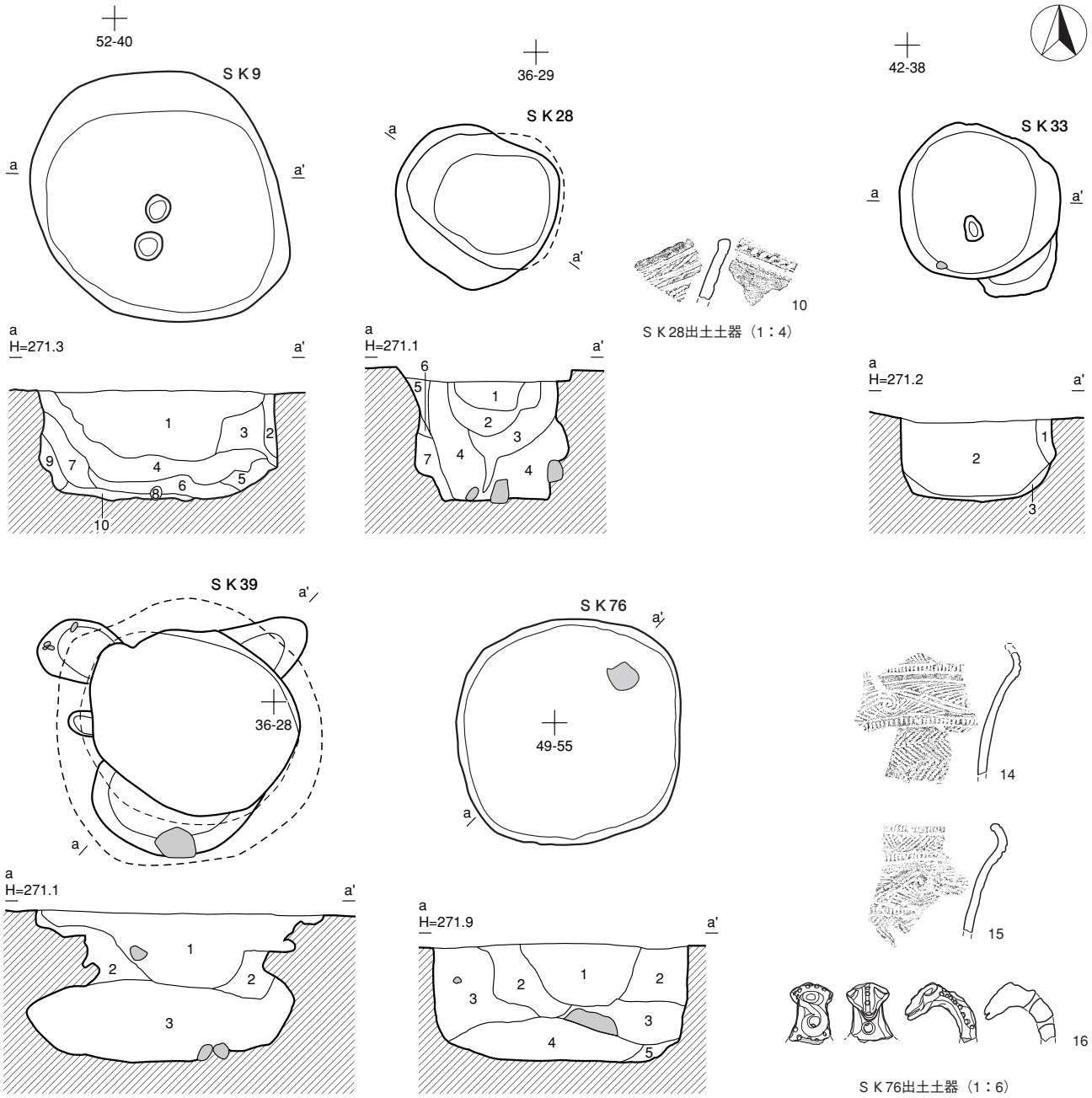
S K 69
1. 10YR3/1 黒褐色　シルト　炭化物を少し含む 以下覆土
2. 10YR4/6 褐色　砂質土　地山土を含む
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト　地山土を含む
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト　10YR3/3暗褐色シルトと地山土を含む
5. 10YR3/3 暗褐色　シルト　10YR4/4褐色砂質土を少し含む
6. 10YR4/6 褐色　砂質土　地山土を含

石

0　2m
1:40

陷穴調査状況（北から）

第 36 図　陷穴 E 群（S K 69）



ＳＫ９
1. 10YR3/4 暗褐色　シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR4/6褐色粘質土と10YR5/6黄褐色砂を含む
3. 10YR5/6 黄褐色　砂　10YR4/6褐色粘質土を含む
4. 10YR4/6 褐色　粘質土 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
5. 10YR5/4 にぶい黄　褐色砂 炭化物を少し含む
6. 10YR5/6 黄褐色砂質 シルト
7. 10YR5/6 黄褐色砂質 シルト 10YR2/3黒褐色シルトと炭化物を含む
8. 10YR2/1 黒色　シルト 炭化物と10YR4/4褐色砂を少し含む

ＳＫ28
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/6褐色シルトを含む
3. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色シルトと10YR1.7/1黒色シルトを含む
4. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR2/1黒色シルトを含む 礫を少し含む
5. 10YR3/4 暗褐色 シルト
6. 10YR5/6 黄褐色 シルト
7. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR4/6褐色シルトを含む

ＳＫ33
1. 10YR4/4 褐色　シルト 以下覆土
2. 10YR3/1 黒褐色　シルト
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 10YR2/3黒褐色シルト含む

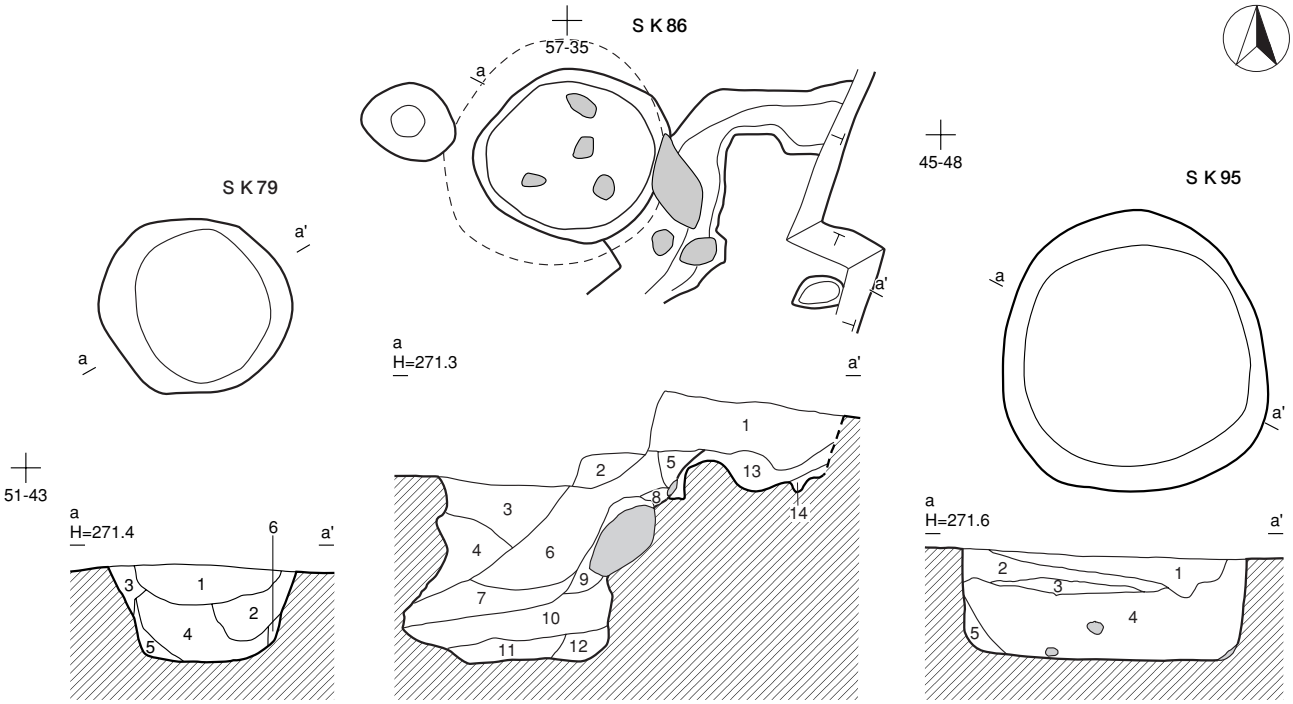
ＳＫ39
1. 10YR1.7/1黒色　シルト 炭化物を少し含む 以下覆土
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 炭化物を少し含む 石と地山土を含む
3. 10YR1.7/1黒色　シルト 炭化物を少し含む 石を含む

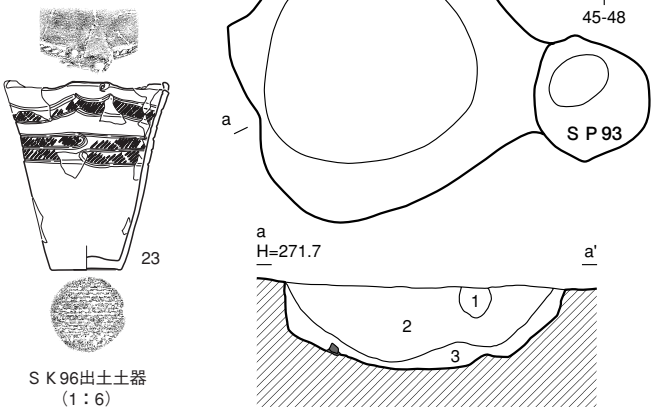
ＳＫ76
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR4/6褐色砂を含む 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色シルトと砂を含む
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色シルトと石と砂を含む
4. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂と10YR5/6黄褐色粘土と炭化物を含む
5. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む

石

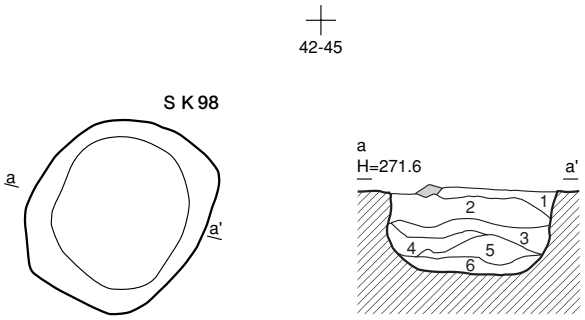
0　2m
1:40

第 37 図　貯蔵穴ＳＫ９・28・33・39・76





ＳＫ96出土土器
（1：6）



0　2m
1:40
石

ＳＫ79
1. 10YR2/2　黒褐色　シルト　以下覆土
2. 10YR3/3　暗褐色　シルト　10YR2/1黒色シルトと10YR6/4にぶい黄橙色砂を含む
3. 10YR2/3　黒褐色　シルト　10YR6/4にぶい黄橙色砂を含む
4. 10YR3/3　暗褐色　シルト
5. 10YR2/3　黒褐色　シルト
6. 10YR6/4　にぶい黄橙色　砂

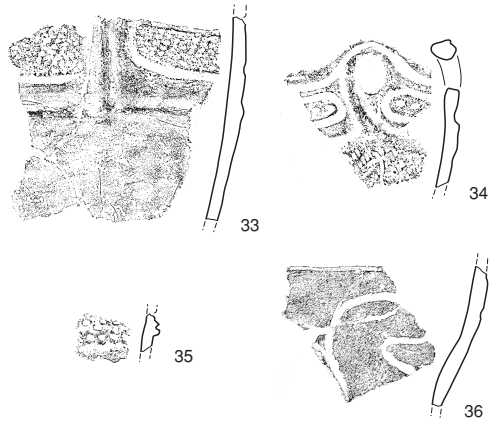
ＳＫ86
1. 10YR2/2 黒褐色　シルト　耕土
2. 10YR2/3 黒褐色　シルト　以下12層までＳＫ86
3. 10YR3/1 黒褐色　シルト
4. 10YR3/2 黒褐色　砂質土　10YR6/8明黄褐色シルトと10YR6/2灰黄褐色砂質土を含む
5. 10YR4/4 褐色　シルト
6. 10YR2/1 黒色　シルト
7. 10YR2/1 黒色　シルト　10YR4/2灰黄褐色砂質土含む
8. 10YR5/8 黄褐色　シルト
9. 10YR2/3 黒褐色　シルト
10. 10YR4/2 灰黄褐色　シルト　地山土（10YR6/8明黄褐色シルト）を含む
11. 10YR2/2 黒褐色　シルト
12. 10YR3/2 黒褐色　シルト
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色　シルト　漸移層
14. 10YR5/6 黄褐色　シルト　漸移層

ＳＫ95
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色　砂　以下覆土
2. 10YR3/4 暗褐色　シルト
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色　砂　10YR2/3黒褐色シルをト含む
4. 10YR2/2 黒褐色　シルト　炭化物と焼土と石を含む
5. 10YR6/6 明黄褐色　砂　地山崩落土

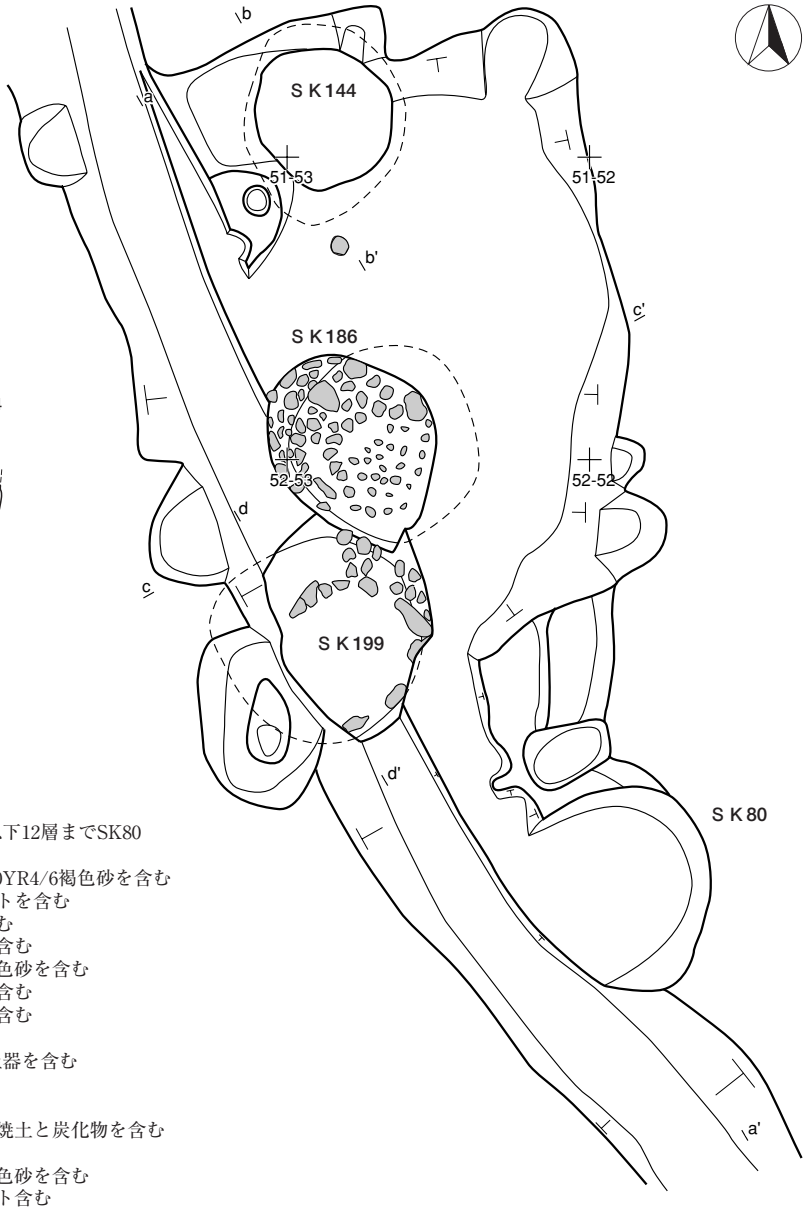
ＳＫ96
1. 10YR2/3 黒褐色　シルト　炭化物を含む ピット
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色　砂質土　炭化物を含む 以下覆土
3. 10YR4/2 灰黄褐色　砂質土　炭化物を含む 石と土器を含む

ＳＫ98
1. 10YR2/3 黒褐色　シルト　以下覆土
2. 10YR3/3 暗褐色　シルト　10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色　砂
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色　砂　10YR2/2黒褐色シルトを含む
5. 10YR4/6 褐色　砂
6. 10YR6/6 明黄褐色　細砂　10YR2/2黒褐色シルトを含む

第38図　貯蔵穴ＳＫ 79 ・ 86 ・ 95 ・ 96 ・ 98

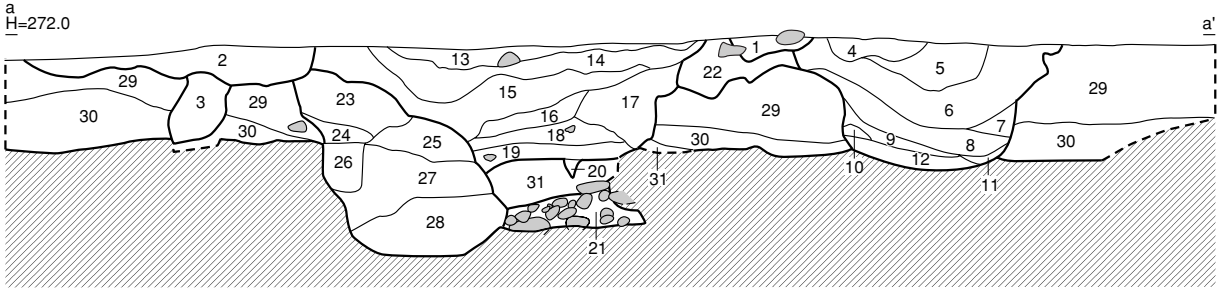


ＳＫ80出土の土器（1：4）



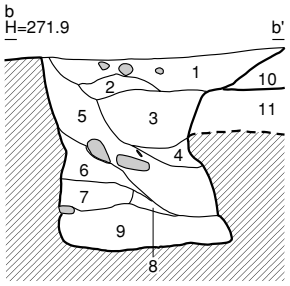
ＳＫ80・144・186・199 ａ－ａ'

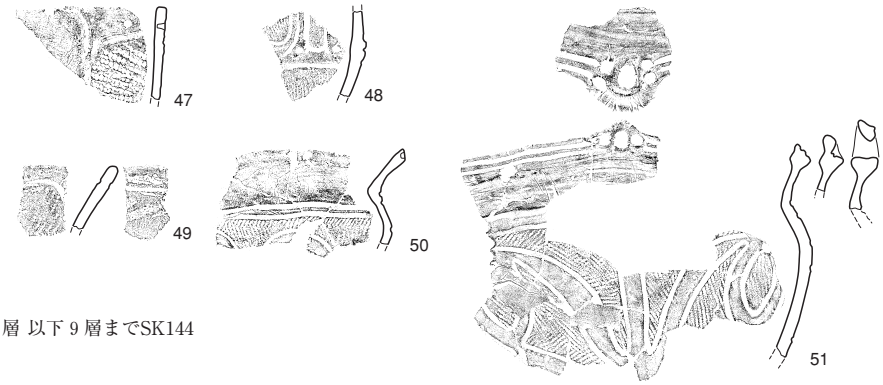
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 撹乱
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト SK144の1層
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト ピット
4. 10YR1.7/1 黒色 シルト 炭化物を多く含む 以下12層までSK80
5. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を多く含む
6. 10YR3/3 暗褐色 シルト 炭化物を多く含む 10YR4/6褐色砂を含む
7. 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂 10YR3/4暗褐色シルトを含む
8. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR4/4褐色砂を含む
9. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR3/4暗褐色砂を含む
10. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR6/4にぶい黄橙色砂を含む
11. 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂 10YR3/4暗褐色砂を含む
12. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
13. 10YR3/4 暗褐色 シルト 以下21層までSK199
14. 10YR1.7/1 黒色 シルト 炭化物を多く含む 土器を含む
15. 10YR2/3 黒褐色 シルト 焼土を多く含む
16. 10YR 2/2 黒褐色 シルト 焼土を含む
17. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR3/4暗褐色砂と焼土と炭化物を含む
18. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を含む
19. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
20. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂 10YR3/3暗褐色シルト含む
21. 10YR2/2 黒褐色 シルト 石を多く含む 底部付近でフラスコ状にオーバーハングする部分
22. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR4/4褐色砂と炭化物と石を含む 別の土坑
23. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂と焼土を含む 以下28層までSK186
24. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物を含む
25. 10YR3/3 暗褐色 シルト 小石を多く含む
26. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR6/6明黄褐色砂と炭化物を含む
27. 10YR3/2 黒褐色 シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂と小石と炭化物を含む
28. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色粘土と炭化物を含む
29. 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂 以下地山
30. 10YR7/4 にぶい黄橙色 細砂
31. 7.5YR 6/8 橙色 粘土



0 2m
1：50
石

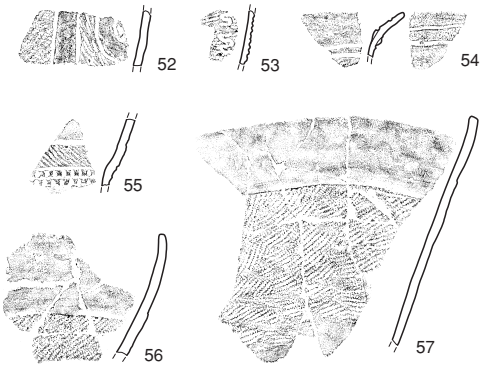
第39図 貯蔵穴ＳＫ 80 ・ 144 ・ 186 ・ 199

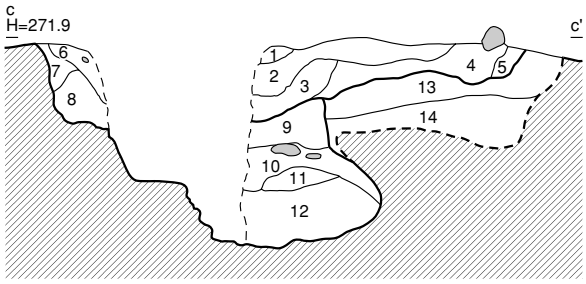




ＳＫ144 ｂ－ｂ'

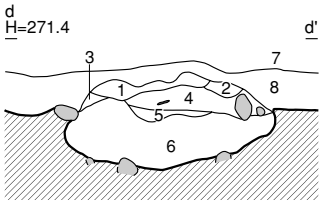
1. 10YR3/3 暗褐色　シルト ａ－ａ'の２層 以下９層までSK144
2. 10YR5/6 黄褐色　シルト
3. 10YR7/3 にぶい黄橙色 細砂
4. 10YR3/4 暗褐色　シルト 炭化物を少し含む
5. 10YR2/3 黒褐色　砂質土 炭化物を少し含む 10YR4/6褐色シルトと石を含む
6. 10YR4/6 褐色　砂質土 10YR5/6黄褐色シルトを含む
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質土
8. 10YR4/4 褐色　砂質土
9. 10YR2/3 黒褐色　シルト 炭化物を含む
10. 10YR2/3 黒褐色　シルト 焼土を多く含む ａ－ａ'の15層 ＳＫ199
11. 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂　ａ－ａ'の29層 地山





ＳＫ186・199 ｃ－ｃ'

1. 10YR3/4 暗褐色　シルト ａ－ａ'の13層 以下８層までSK199
2. 10YR1.7/1黒色　シルト 炭化物を多く含む 土器を含む ａ－ａ'の14層
3. 10YR2/3 黒褐色　シルト 焼土を多く含む ａ－ａ'の15層
4. 10YR3/3 暗褐色　シルト
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト
6. 10YR3/3 暗褐色　シルト 炭化物と石を含む
7. 10YR4/4 褐色　シルト
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 炭化物と10YR5/6黄褐色粘土を含む
9. 10YR3/3 暗褐色　シルト 小石を多く含む ａ－ａ'の25層 以下12層までSK186
10. 10YR3/2 黒褐色　シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂と小石と炭化物を含む ａ－ａ'の27層
11. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR5/6黄褐色粘土と10YR4/6褐色シルトを含む
12. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR6/6明黄褐色粘土と炭化物を含む ａ－ａ'の28層
13. 10YR6/6 明黄褐色　砂　ａ－ａ'の29層 地山
14. 10YR6/6 明黄褐色　細砂　ａ－ａ'の30層 地山



ＳＫ199 ｄ－ｄ'

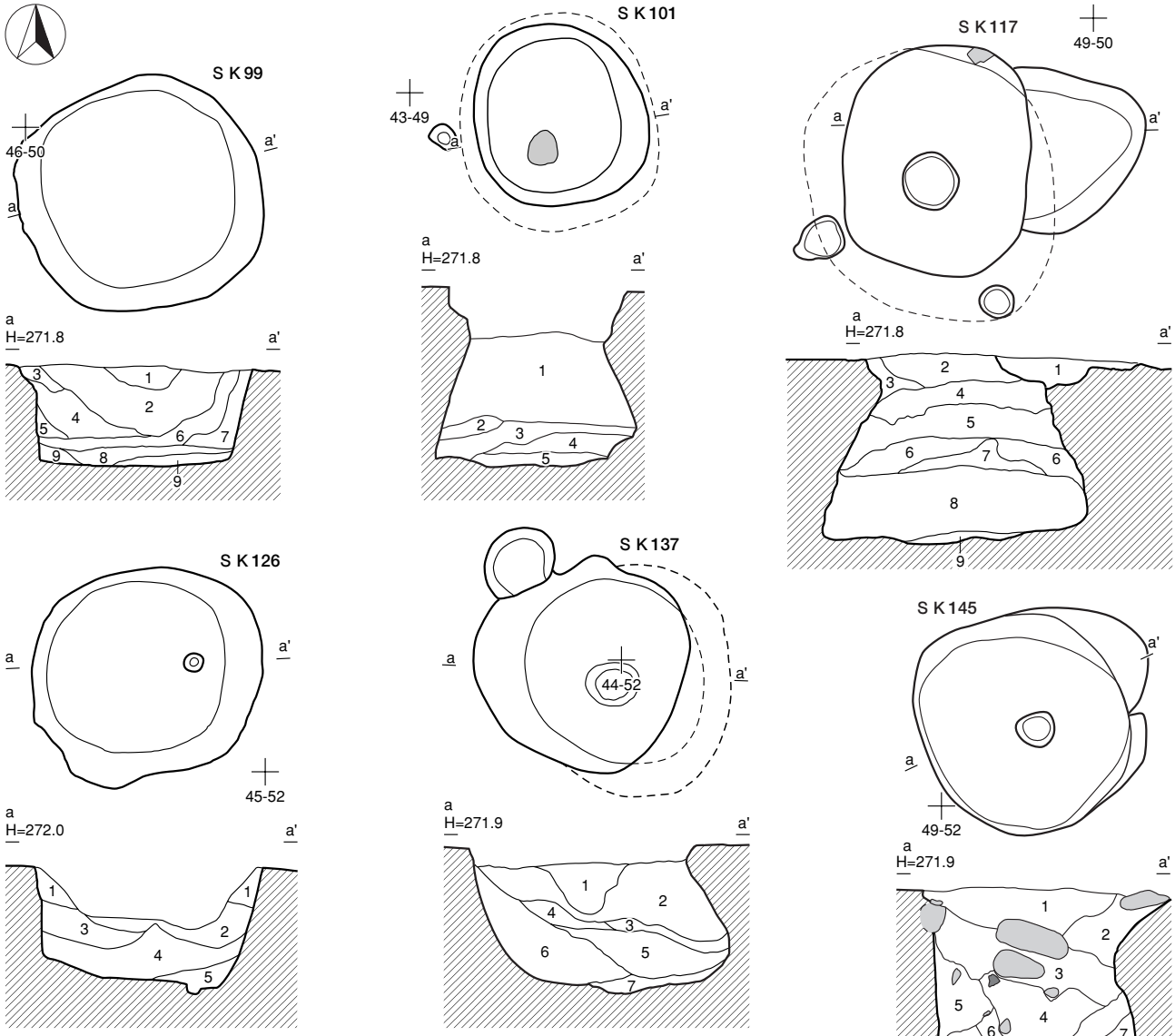
1. 10YR4/4 褐色　シルト 炭化物を少し含む 以下６層までSK199
2. 10YR5/6 黄褐色　砂質土
3. 10YR4/2 灰黄褐色　シルト 炭化物を少し含む
4. 10YR2/1 黒色　シルト 炭化物と石を含む
5. 10YR2/3 黒褐色　砂質土 10YR6/1褐灰色砂質土を含む
6. 10YR2/2 黒褐色　シルト 石を多く含む ａ－ａ'の21層
7. 10YR7/4 にぶい黄橙色 細砂　ａ－ａ'の30層 地山
8. 7.5YR6/8 橙色　粘土　ａ－ａ'の31層 地山

ＳＫ199出土の土器（1：6）

0　2m
1：50

石

第 40 図　貯蔵穴ＳＫ 144 ・ 186 ・ 199



S K 99
1. 10YR2/1 黒色 シルト 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 焼土と炭化物を含む
3. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
4. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
5. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR3/4暗褐色シルトを含む
6. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR3/4暗褐色シルトと炭化物を含む
7. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色砂を多く含む
8. 10YR2/3 黒褐色 シルト
9. 10YR6/6 明黄褐色 砂

S K 101
1. 10YR6/6 明黄褐色 砂質土 以下覆土
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト
3. 10YR2/1 黒色 シルト
4. 10YR5/6 黄褐色 シルト
5. 10YR1.7/1 黒色 シルト

S K 117
1. 10YR3/3 暗褐色 シルト ピット
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物を含む 以下 9 層までＳＫ117
3. 10YR5/6 黄褐色 砂
4. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色細砂を含む
5. 10YR5/6 黄褐色 細砂 10YR2/3黒褐色シルトを含む
6. 10YR6/6 明黄褐色 細砂
7. 10YR6/6 明黄褐色 細砂 10YR2/2黒褐色シルトを含む
8. 10YR6/6 明黄褐色 細砂
9. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR3/3暗褐色シルトを含む

S K 126
1. 10YR5/6 黄褐色 砂 以下覆土
2. 10YR6/6 明黄褐色 細砂
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
4. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR6/6明黄褐色細砂を含む
5. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR5/8黄褐色粘土を含む

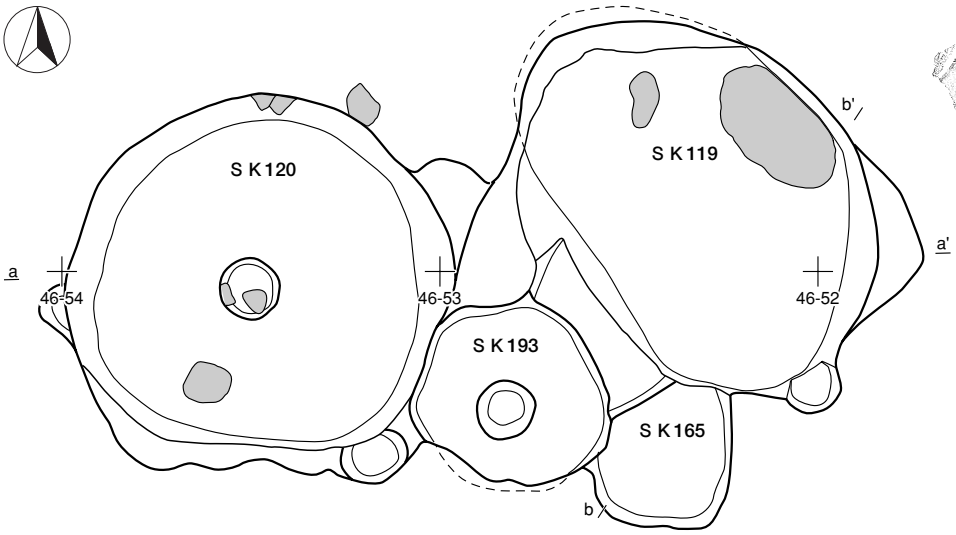
S K 137
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を含む 以下覆土
2. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土
3. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土
4. 10YR4/2 灰黄褐色 砂質土
5. 10YR5/6 黄褐色 砂質土
6. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物を含む
7. 10YR2/1 黒色 シルト

S K 145
1. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む 以下覆土
2. 10YR4/4 褐色 シルト 10YR4/6褐色シルトを含む
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
4. 10YR2/3 黒褐色 シルト
5. 10YR5/6 黄褐色 砂
6. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
7. 10YR5/6 黄褐色 砂
8. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
9. 10YR3/4 暗褐色 シルト

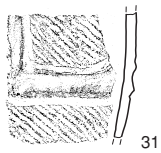
石
土器

0 2m
1:40

第 41 図 貯蔵穴ＳＫ 99 ・ 101 ・ 117 ・ 126 ・ 137 ・ 145

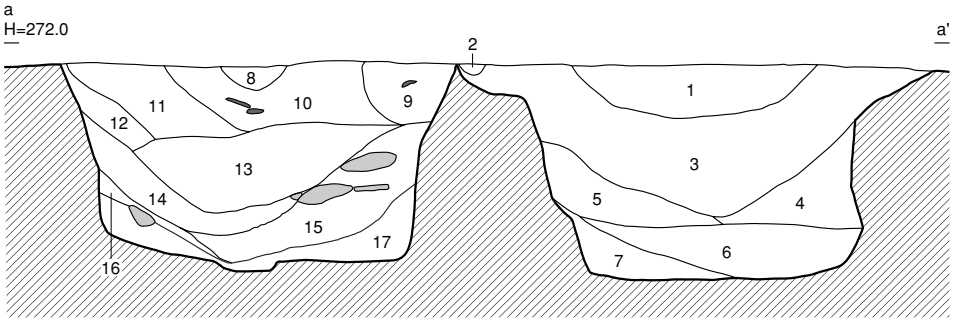


S K119出土土器（1：6）



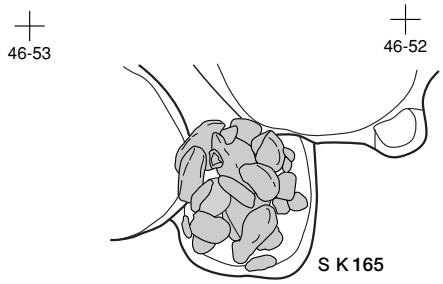
S K120出土土器（1：6）

S K193出土土器（1：3）

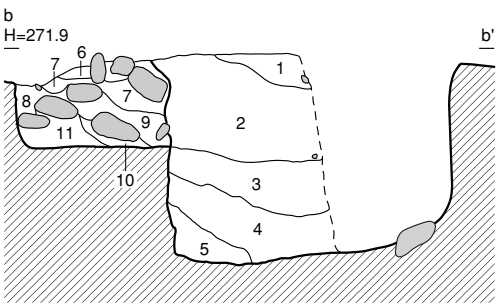


S K119・120 a－a'

1. 10YR2/1 黒色 シルト 炭化物を多く含む 以下7層までＳＫ119
2. 10YR3/3 暗褐色 シルト
3. 10YR3/3 暗褐色 シルト 炭化物と石を少し含む
4. 10YR6/4 にぶい黄橙色 粗砂
5. 10YR6/4 にぶい黄橙色 粗砂
6. 10YR6/3 にぶい黄橙色 砂
7. 10YR6/6 明黄褐色 砂質土 10YR3/1黒褐色シルトを含む
8. 10YR7/4 にぶい黄橙色 砂質土 以下17層までＳＫ120
9. 7.5YR 3/4 暗褐色 シルト 焼土と炭化物を含む
10. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物を含む
11. 10YR3/3 暗褐色 シルト 炭化物を含む
12. 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂質土 10YR3/1黒褐色シルトを含む 炭化物を少し含む
13. 10YR6/4 にぶい黄橙色 細砂 10YR6/6明黄褐色粘質土を含む
14. 10YR3/3 暗褐色 シルト 炭化物と地山土を含む
15. 7.5YR 3/4 暗褐色 シルト 炭化物と石を含む
16. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 炭化物を少し含む
17. 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂質土 石を含む



集石出土状況



S K165・119 b－b'

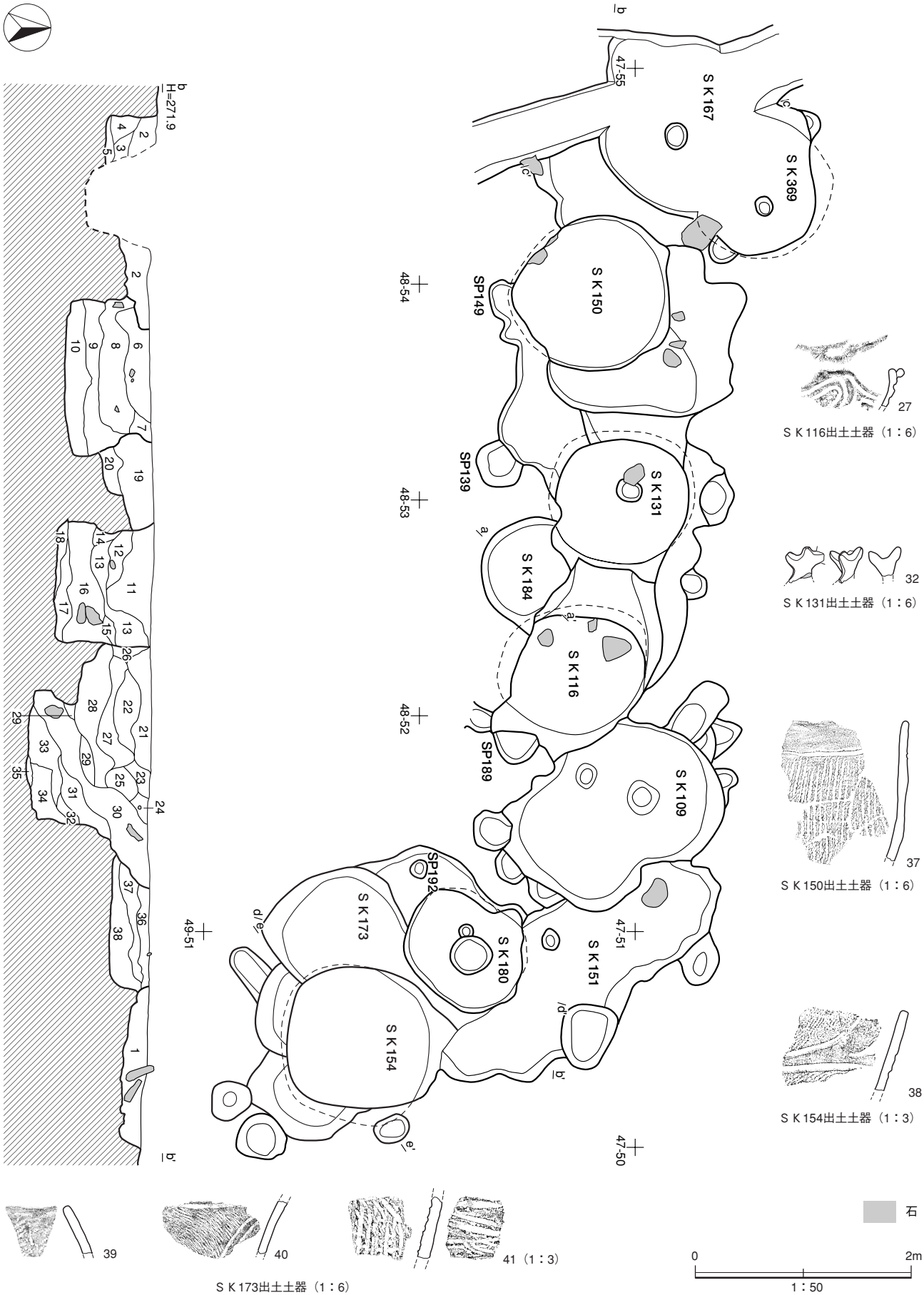
1. 10YR2/1 黒色 シルト 炭化物を多く含む ａ－ａ'の１層
   以下５層までＳＫ119
2. 10YR3/3 暗褐色 シルト 炭化物と石を少し含む ａ－ａ'の３層
3. 10YR6/4 にぶい黄橙色 粗砂 ａ－ａ'の４層
4. 10YR6/3 にぶい黄橙色 砂 ａ－ａ'の６層
5. 10YR6/6 明黄褐色 砂質土 10YR3/1黒褐色シルトを含む ａ－ａ'の７層
6. 10YR1.7/1 黒色 シルト 炭化物を多く含む 以下ＳＫ165
7. 10YR2/2 黒褐色 シルト 焼土を多く含む
8. 10YR2/3 黒褐色 シルト
9. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を多く含む
10. 10YR2/2 黒褐色 シルト 焼土と炭化物を含む
11. 10YR2/3 黒褐色 シルト 焼土を多く含む

石

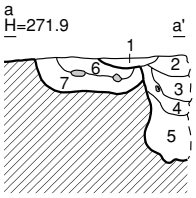
土器

0 2m
1:40

第 42 図　貯蔵穴ＳＫ 119 ・ 120 ・ 193　集石土坑ＳＫ 165

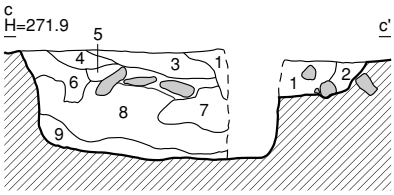


第 43 図　貯蔵穴ＳＫ 109 ・ 116 ・ 131 ・ 150 ・ 154 ・ 167 ・ 173 ・ 180　土坑ＳＫ 151 ・ 184



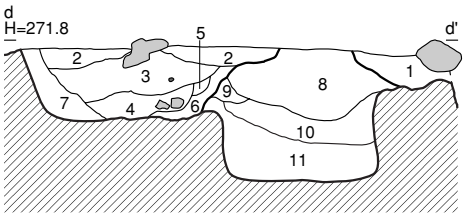
ＳＫ116・184 ａ－ａ’

1. 10YR2/2 黒褐色　シルト ビット
2. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR3/3暗褐色シルトと炭化物を含む ｂ－ｂ’の21層 以下５層までSK116
3. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む ｂ－ｂ’の22層に同じ
4. 10YR6/6 明黄褐色 砂　10YR3/3暗褐色シルトを含む ｂ－ｂ’の27層に同じ
5. 10YR2/1 黒色　シルト 10YR3/4暗褐色シルトと10YR6/6明黄褐色砂と炭化物を含む ｂ－ｂ’の28層
6. 10YR2/1 黒色　シルト 10YR2/2黒褐色シルトを含む 以下７層までSK184
7. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR4/6褐色砂を含む



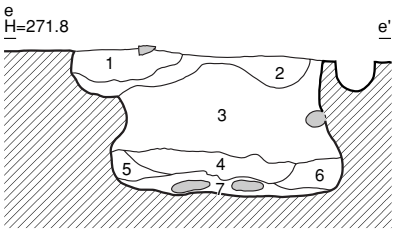
ＳＫ167 ｃ－ｃ’

1. 10YR2/3 黒褐色　シルト 炭化物を少し含む 以下覆土
2. 10YR3/3 暗褐色　シルト 炭化物を少し含む
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質土
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂質土
5. 10YR2/2 黒褐色　シルト 炭化物を少し含む 石を含む
6. 10YR4/4 褐色　砂質土
7. 10YR3/3 暗褐色　砂質土 10YR4/6褐色シルトを含む
8. 10YR4/6 褐色　シルト 10YR5/6黄褐色砂質土を含む
9. 10YR3/4 暗褐色　砂質土 炭化物を多く含む



ＳＫ151・173・180 ｄ－ｄ’

1. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む SK151
2. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR2/3黒褐色シルトと炭化物を含む 以下７層までSK173
3. 10YR2/1 黒色　シルト 10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/4褐色シルトと土器を含む
4. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR2/3黒褐色シルトと炭化物と石を含む
5. 10YR4/4 褐色　シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
6. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
7. 10YR5/6 黄褐色　砂　10YR3/3暗褐色シルトを含む
8. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR3/3暗褐色シルトと10YR2/3黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色砂と炭化物を含む 以下11層までSK180
9. 10YR5/6 黄褐色　砂　10YR2/3黒褐色シルトを含む
10. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
11. 10YR6/6 明黄褐色 砂　10YR2/2黒褐色シルトと10YR3/4暗褐色シルトを含む



ＳＫ154 ｅ－ｅ’

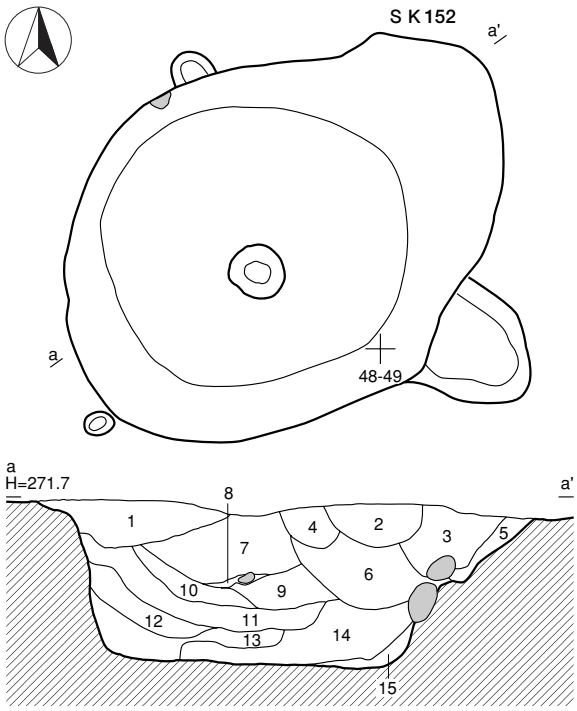
1. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR4/6褐色シルトと10YR2/2黒褐色シルトを含む 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
3. 10YR5/6 黄褐色　砂　10YR2/2黒褐色シルトを含む
4. 10YR6/6 明黄褐色 粘土　10YR2/1黒色シルトと10YR5/6黄褐色砂を含む
5. 10YR5/6 黄褐色　砂　10YR6/6明黄褐色粘土と10YR3/4暗褐色シルトを含む
6. 10YR5/6 黄褐色　砂　10YR2/2黒褐色シルトと10YR6/6明黄褐色粘土を含む
7. 10YR2/1 黒色　シルト 炭化物を多く含む

ＳＫ109・116・131・150・151・167 ｂ－ｂ’

1. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む SK151
2. 10YR4/4 褐色　シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む 炭化物を多く含む 以下５層までＳＫ167
3. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
4. 10YR6/6 明黄褐色　砂
5. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR6/6明黄褐色細砂を含む
6. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR4/6褐色砂と10YR6/6明黄褐色砂と石を含む 以下10層までSK150
7. 10YR3/4 暗褐色　シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
8. 10YR5/6 黄褐色　砂
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 10YR5/6横位褐色砂を含む
10. 10YR2/1 黒色　シルト 10YR3/4暗褐色シルトと10YR2/3黒褐色シルトを含む
11. 10YR1.7/1黒色　シルト 10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/6褐色砂と炭化物を含む 以下18層までSK131
12. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR4/6褐色砂を含む
13. 10YR3/4 暗褐色　シルト 10YR4/4褐色シルトを含む
14. 10YR6/6 明黄褐色　砂　10YR4/6褐色砂を含む
15. 10YR5/6 黄褐色　砂
16. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR4/4褐色シルトと10YR2/3黒褐色シルトと10YR6/6明黄褐色砂と10YR 5/8黄褐色粘土と炭化物と石を含む
17. 10YR6/6 明黄褐色　砂
18. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
19. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR2/3黒褐色シルトと10YR褐色4/4シルトと炭化物を含む 以下20層まで土坑の覆土
20. 10YR3/4 暗褐色　シルト 10YR4/6褐色砂と炭化物を含む
21. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR3/3暗褐色シルトと炭化物を含む 以下35層までSK116
22. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
23. 10YR3/4 暗褐色　シルト 10YR2/2黒褐色シルトを含む
24. 10YR6/6 明黄褐色　砂
25. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR4/4褐色砂を含む
26. 10YR3/4 暗褐色　シルト
27. 10YR6/6 明黄褐色　砂　10YR3/3暗褐色シルトを含む
28. 10YR2/1 黒色　シルト 10YR3/4暗褐色シルトと10YR6/6明黄褐色砂と炭化物を含む
29. 10YR6/6 明黄褐色　砂　10YR3/4暗褐色シルトを含む
30. 10YR1.7/1黒色　シルト 10YR3/3暗褐色シルトと石と炭化物を含む
31. 10YR6/6 明黄褐色　粗砂
32. 10YR6/4 にぶい黄褐色 粗砂
33. 10YR6/6 明黄褐色　砂
34. 10YR6/6 明黄褐色　細砂　10YR5/6黄褐色粘土を含む
35. 10YR3/3 暗褐色　シルト 炭化物を含む
36. 10YR2/3 黒褐色　シルト 砂と炭化物を含む 以下38層までSK109
37. 10YR5/6 黄褐色　砂
38. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR3/4暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色砂と炭化物を含む

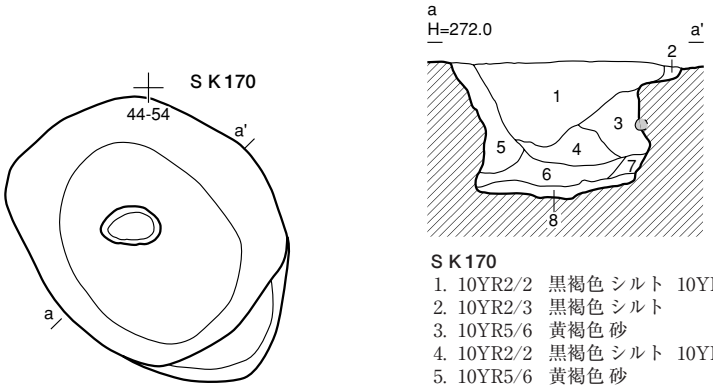
0　2m
1：50
石

第44図　貯蔵穴ＳＫ109・116・131・150・154・167・173・180　土坑ＳＫ151・184



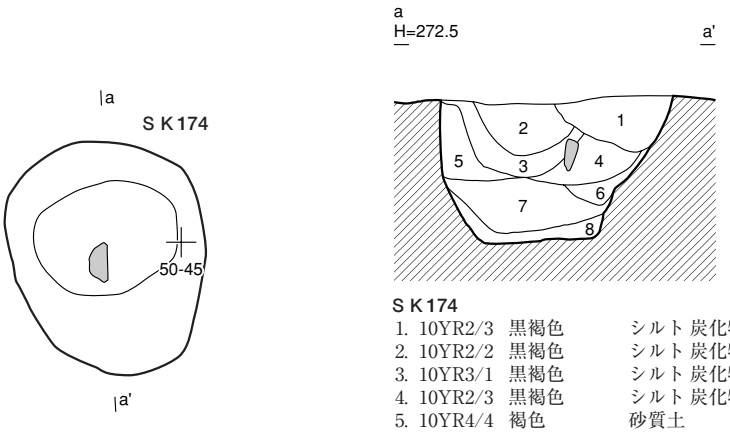
S K 152

1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR3/3暗褐色シルトを含む 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR4/6褐色砂を含む
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
4. 10YR2/2 黒褐色 シルト
5. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR4/3にぶい黄褐色シルトを含む
6. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂と炭化物を含む
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂
8. 10YR4/4 褐色 砂
9. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色砂を含む
10. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR3/3暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色粘土と炭化物を含む
11. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂 10YR5/6黄褐色粘土と10YR2/1黒色シルトを含む
12. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂 10YR3/3暗褐色シルトを含む
14. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
15. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂



S K 170

1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR3/3暗褐色シルトと10YR6/6明黄褐色砂を含む 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト
3. 10YR5/6 黄褐色 砂
4. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR4/6褐色砂と炭化物を含む
5. 10YR5/6 黄褐色 砂
6. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
7. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
8. 10YR4/6 褐色 砂 10YR2/3黒褐色シルトを含む

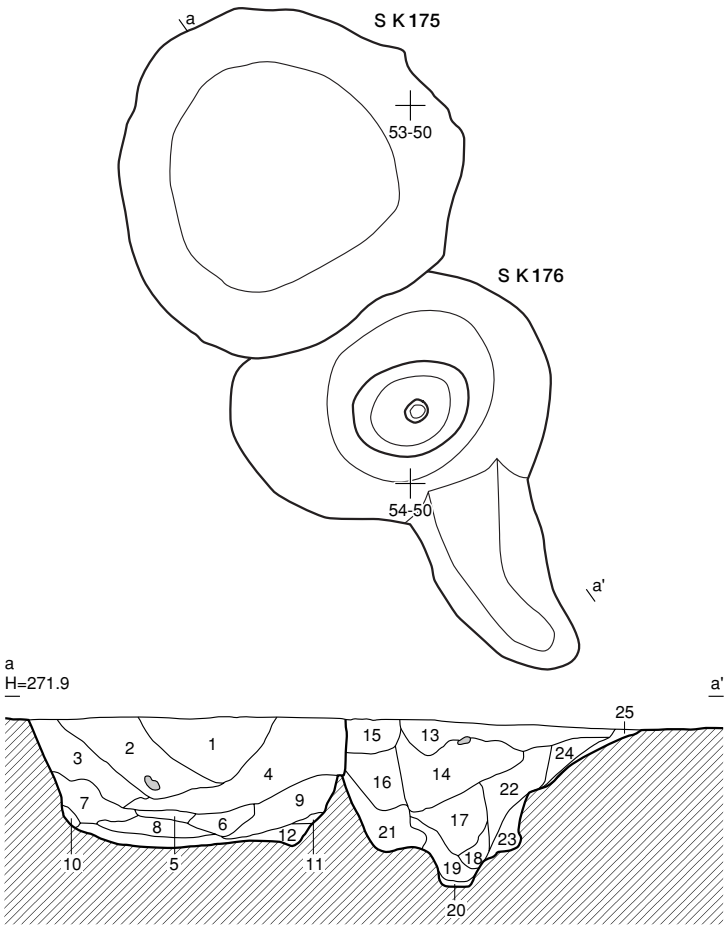


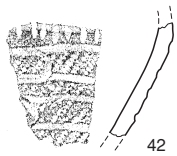
S K 174

1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む
3. 10YR3/1 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む 10YR3/4暗褐色砂質土を含む
4. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土を含む
5. 10YR4/4 褐色 砂質土
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質土 炭化物を少し含む
7. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR3/3暗褐色砂質土を含む 炭化物を少し含む
8. 10YR4/4 褐色 砂質土

0 2m
1:40
石

第 45 図 貯蔵穴ＳＫ 152 ・ 170 ・ 174

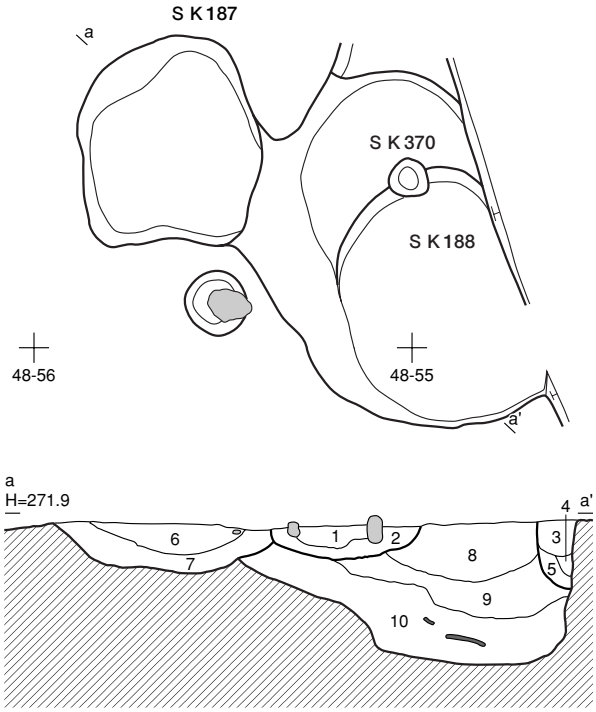


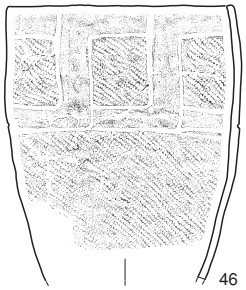


ＳＫ175出土土器（1：3）

ＳＫ175・176

1.	10YR2/1	黒色	シルト	炭化物を含む 以下12層まで SK175
2.	10YR2/2	黒褐色	シルト	炭化物を含む
3.	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を少し含む
4.	10YR2/2	黒褐色	シルト	
5.	10YR2/1	黒色	シルト	
6.	10YR2/2	黒褐色	シルト	炭化物を含む
7.	10YR4/4	褐色	砂質土	
8.	10YR2/3	黒褐色	シルト	炭化物を含む
9.	10YR2/2	黒褐色	砂質土	
10.	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	
11.	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	
12.	10YR4/4	褐色	砂質土	
13.	10YR2/1	黒色	シルト	炭化物を少し含む 以下25層までSK176
14.	10YR1.7/1	黒色	シルト	炭化物を少し含む
15.	10YR2/2	黒褐色	シルト	
16.	10YR2/2	黒褐色	シルト	
17.	10YR1.7/1	黒色	シルト	炭化物を含む
18.	10YR2/2	黒褐色	砂質土	
19.	10YR2/2	黒褐色	砂質土	
20.	10YR4/4	褐色	砂質土	
21.	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR4/6褐色砂質土を含む
22.	10YR2/2	黒褐色	シルト	
23.	10YR3/4	暗褐色	砂質土	
24.	10YR2/3	黒褐色	砂質土	
25.	10YR4/6	褐色	砂質土	





ＳＫ188出土土器（1：10）

ＥＬ177検出状況

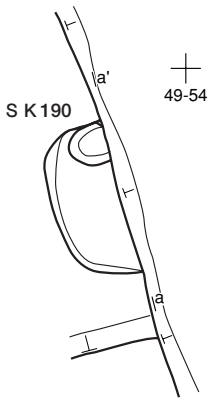
石　土器

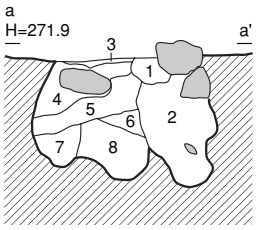
0　2m
1:40

ＳＫ187・188・ＥＬ177

1.	10YR1.7/1	黒色	シルト	炭化物を多く含む 以下２層までEL177
2.	10YR2/3	黒褐色	砂質土	10YR1.7/1黒色シルトを多く含む
3.	10YR2/3	黒褐色	砂質土	炭化物を少し含む 以下５層までピット
4.	10YR2/2	黒褐色	砂質土	炭化物を少し含む
5.	10YR3/4	暗褐色	砂質土	
6.	10YR2/3	黒褐色	シルト	炭化物を少し含む 以下７層までSK187
7.	10YR2/1	黒色	シルト	炭化物を多く含む
8.	10YR3/3	暗褐色	シルト	以下10層までSK188
9.	10YR3/4	暗褐色	シルト	炭化物を含む
10.	10YR2/3	黒褐色	シルト	炭化物を多く含む 10YR4/4褐色砂質土と土器を含む

第46図　貯蔵穴ＳＫ 175 ・ 188　石囲炉ＥＬ 177　土坑ＳＫ 176

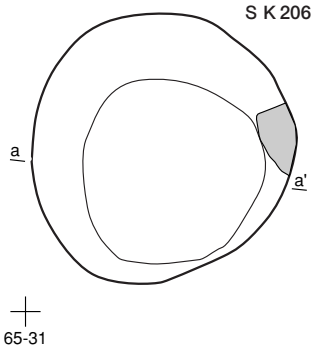


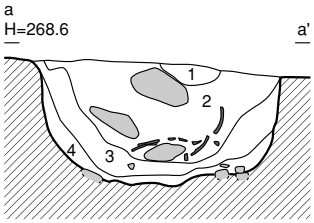


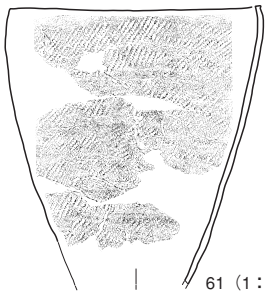
S K 190出土土器（1：3）

S K 190

1. 10YR3/3 暗褐色　シルト 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色　シルト 石を含む
3. 10YR2/2 黒褐色　シルト
4. 10YR3/4 暗褐色　シルト
5. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む
6. 10YR3/4 暗褐色　シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト
8. 10YR4/4 褐色　シルト 10YR2/3黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色粘土と10YR6/6明黄褐色砂を含む



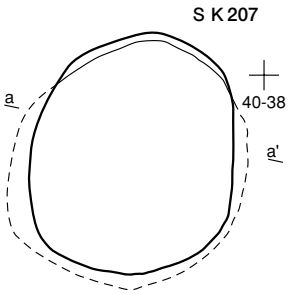


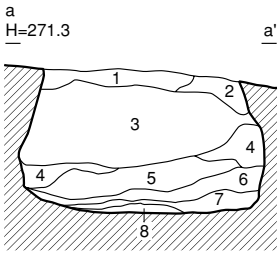


S K 206出土土器

S K 206

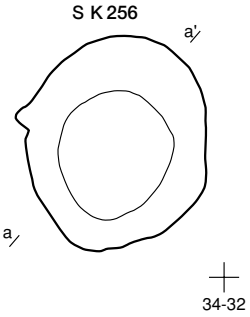
1. 10YR2/3 黒褐色　シルト 炭化物を含む 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色　シルト 石と土器と炭化物を少し含む
3. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土 炭化物を少し含む
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質土

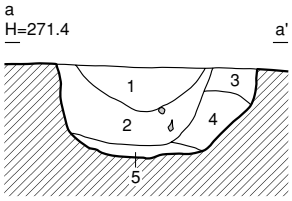




S K 207

1. 10YR4/6 褐色　砂　10YR4/6褐色粘土を含む 以下覆土
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
3. 10YR5/6 黄褐色　砂　10YR5/6黄褐色粘土と10YR2/1黒褐色シルトを少し含む
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
5. 10YR2/3 黒褐色　シルト　10YR3/4暗褐色シルトと10YR6/6明黄褐色砂を含む
6. 10YR1.7/1 黒色　シルト　10YR6/6明黄褐色砂を含む
7. 10YR6/6 明黄褐色　砂
8. 10YR2/1 黒色　シルト　10YR5/6黄褐色粘土と10YR5/6黄褐色砂を含む





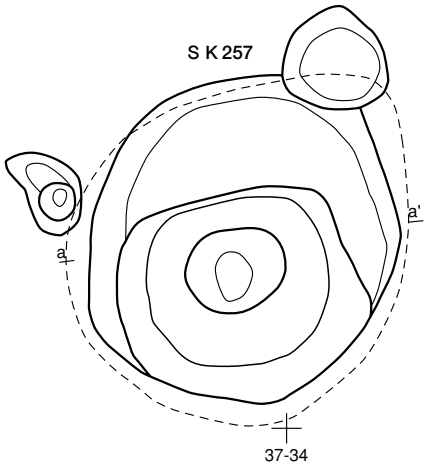
S K 256

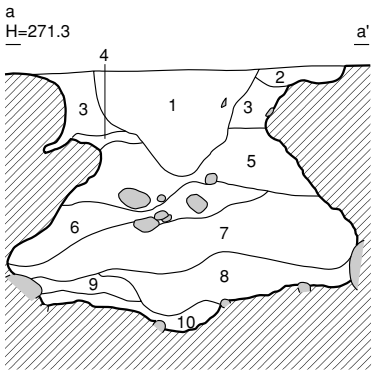
1. 10YR2/2 黒褐色　シルト 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR4/3にぶい黄褐色シルト含む
3. 10YR3/4 暗褐色　シルト
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト
5. 10YR3/3 暗褐色　シルト

0　2m
1:40

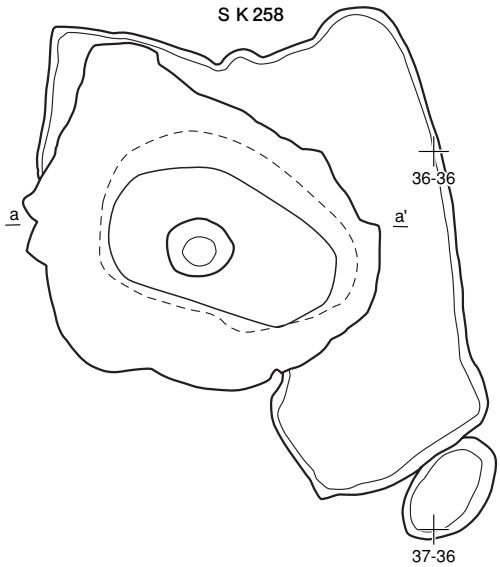
石　土器

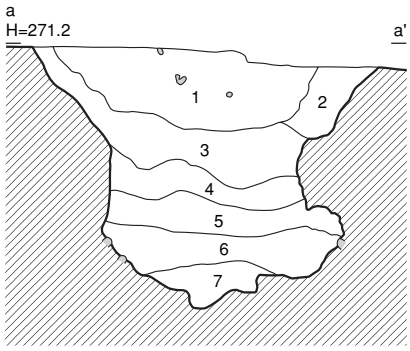
第 47 図　貯蔵穴ＳＫ 190 ・ 206 ・ 207 ・ 256



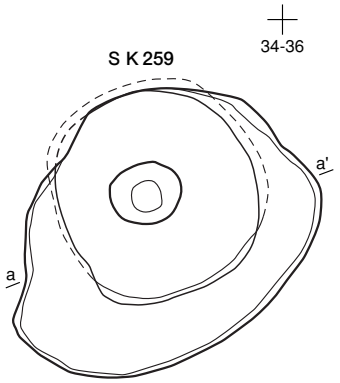


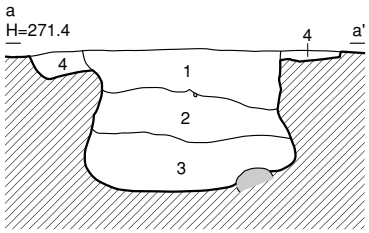
S K 257
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物と石を少し含む 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物と10YR3/3暗褐色シルトを含む
4. 10YR4/6 褐色 砂質土
5. 10YR2/1 黒色 シルト 炭化物を多く含む 10YR4/6褐色シルトと10YR4/4褐色砂質土と石を含む
6. 10YR3/4 暗褐色 シルト 石を含む
7. 10YR3/4 暗褐色 砂質土
8. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/4褐色砂質土を含む
9. 10YR4/4 褐色 砂質土
10. 10YR3/4 暗褐色 砂質土 炭化物と石を少し含む





S K 258
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 石を含む 炭化物を少し含む 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色砂と10YR4/6褐色シルトを含む
4. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物と10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
5. 10YR2/3 黒褐色 砂質土 10YR2/1黒色砂質土を含む
6. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR4/4褐色砂と石を少し含む
7. 10YR2/1 黒色 シルト 石を多く含む

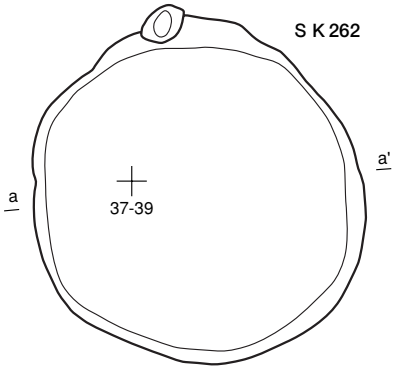


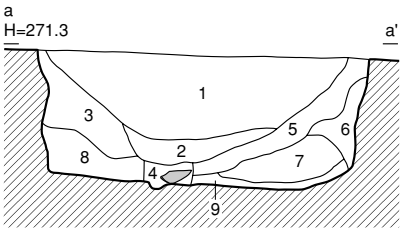


S K 259
1. 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR2/3黒褐色シルトと小石を少し含む 以下覆土
2. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR5/6黄褐色粘土と10YR3/4暗褐色シルトを少し含む
3. 10YR2/1 黒色 シルト10YR5/6黄褐色砂を少し含む
4. 10YR2/2 黒褐色 シルト10YR4/6褐色砂を含む

0 2m
1:40
石

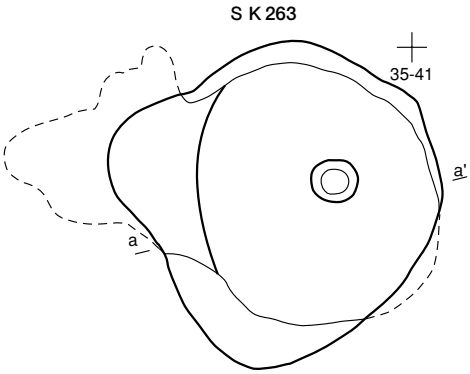
第 48 図 貯蔵穴ＳＫ 257 ・ 258 ・ 259

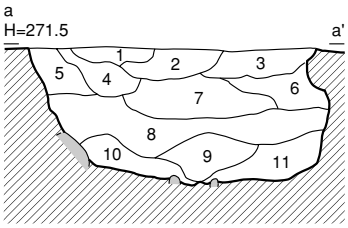




S K 262

1. 10YR2/1 黒色 シルト 炭化物を含む 以下覆土
2. 10YR1.7/1黒色 シルト 炭化物を含む
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを含む
4. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR4/6褐色粘質土と10YR2/2黒褐色シルトと石を含む
5. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土を含む
6. 10YR4/4 褐色 砂
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質土 10YR4/4褐色砂と10YR3/4暗褐色砂質土を含む
8. 10YR4/4 褐色 砂質土 10YR3/4暗褐色砂質土を含む
9. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR1.7/1黒色シルトと10YR4/4褐色砂を含む

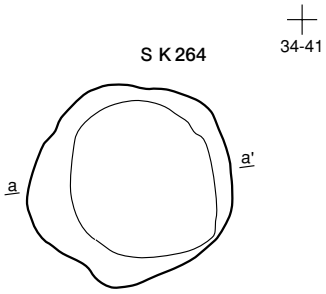


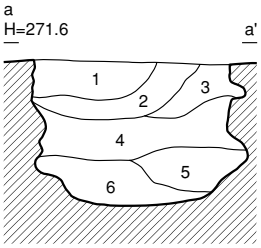


S K 263出土土器（1：4）

S K 263

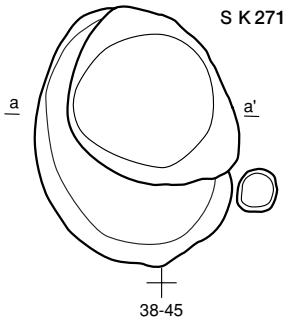
1. 10YR1.7/1黒色 シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む 以下覆土
2. 10YR2/1 黒色 シルト
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色粘土を含む
4. 10YR2/3 黒褐色 シルト
5. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR3/3暗褐色シルトと10YR3/4暗褐色シルトを含む
6. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
7. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR3/4暗褐色シルトを少し含む
8. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂と10YR2/1黒色シルトを含む
9. 10YR1.7/1黒色 シルト
10. 10YR3/4 暗褐色 砂 10YR5/6黄褐色砂を含む
11. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む

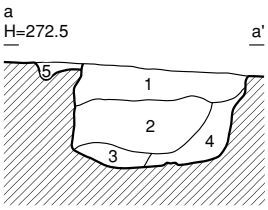


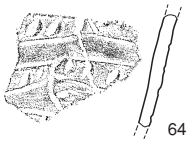


S K 264

1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト
4. 10YR2/1 黒色 シルト
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 10YR2/3黒褐色シルトと 10YR5/6黄褐色粘土を含む
6. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色シルトを含む







S K 271出土土器（1：4）

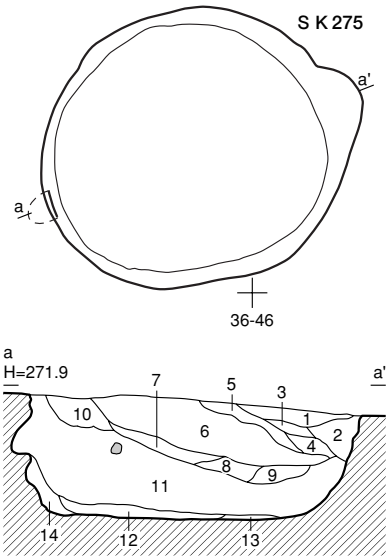
S K 271

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 炭化物を含む 以下覆土
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
3. 10YR3/4 暗褐色シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
4. 10YR2/3 黒褐色シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
5. 10YR2/2 黒褐色シルト

0 2m
1:40

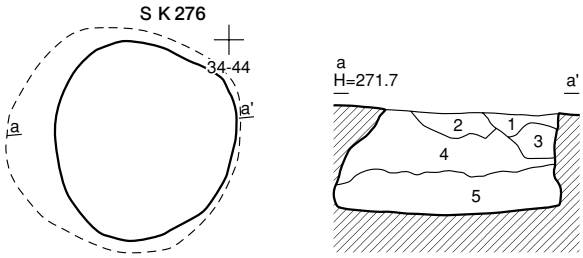
石

第 49 図 貯蔵穴ＳＫ 262 ・ 263 ・ 264 ・ 271



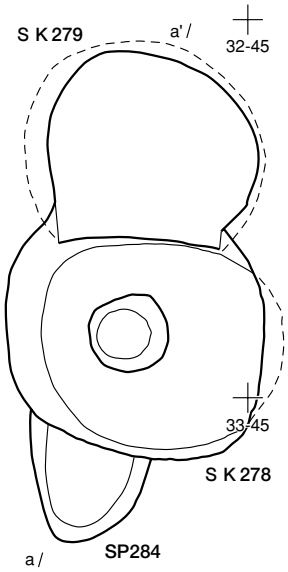
S K 275

1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/6褐色シルトを含む 以下覆土
2. 10YR3/4 暗褐色 砂質土
3. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR4/6褐色シルトを含む
4. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/8黄褐色砂質土を含む
5. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR2/1黒色シルトと10YR5/6黄褐色シルトを含む
6. 10YR5/8 黄褐色 粘質土 10YR2/1黒色シルトと炭化物を含む
7. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR4/6褐色砂質土と炭化物を含む
8. 10YR2/1 黒色 シルト 炭化物を含む
9. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR2/3黒褐色シルトと炭化物を少し含む
10. 10YR3/4 暗褐色 砂質土 10YR5/8黄褐色粘質土と10YR2/1黒色シルトを含む
11. 10YR4/6 褐色 砂 10YR3/3暗褐色砂と10YR2/1黒色シルトと炭化物を少し含む
12. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
13. 10YR5/6 黄褐色 微砂
14. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂



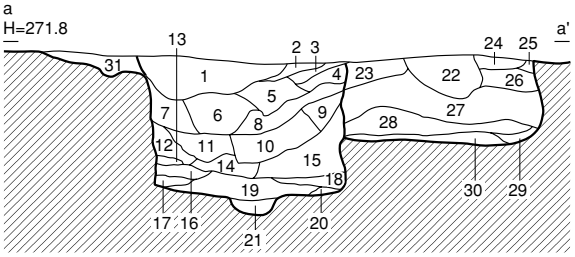
S K 276

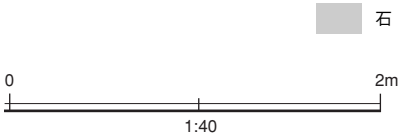
1. 10YR3/4 暗褐色 砂質土 10YR4/6褐色砂質土と10YR2/3黒褐色シルトを含む 以下覆土
2. 10YR4/6 褐色 砂質土
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む
4. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/6褐色粘質土と10YR5/4にぶい黄褐色砂と10YR2/2黒褐色シルトと炭化物を含む
5. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色砂を含む



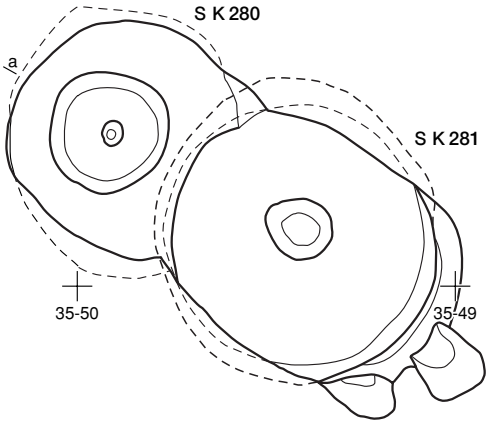
S K 278・279・S P 284

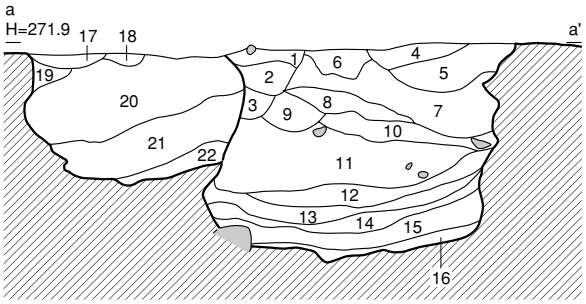
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む 10YR2/1黒色シルトを含む 以下21層までSK278
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト
3. 10YR2/1 黒色 シルト 炭化物を少し含む 10YR2/2黒褐色シルトを含む
4. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む 炭化物を少し含む
5. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物と10YR2/3黒褐色シルトを含む
6. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む 10YR3/3暗褐色シルトを含む
7. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR4/4褐色砂と炭化物を少し含む
8. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR2/3黒褐色砂質土 炭化物を少し含む
9. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR2/3黒褐色シルトと炭化物を少し含む
10. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR2/1黒色シルトと10YR3/4暗褐色砂質土と炭化物を少し含む
11. 10YR2/3 黒褐色 砂質土 10YR2/2黒褐色シルトと10YR2/1黒色シルトを含む
12. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂 炭化物を少し含む 10YR3/3暗褐色シルトを含む
13. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を含む
14. 10YR2/1 黒色 シルト
15. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR4/6褐色粘質土と炭化物を含む
16. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂 10YR3/3暗褐色シルトと炭化物を含む
17. 10YR4/4 褐色 砂 炭化物を多く含む
18. 10YR3/3 暗褐色 シルト 炭化物を少し含む
19. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR5/8黄褐色粘質土を含む
20. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR5/8黄褐色粘質土を含む
21. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む
22. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂質土 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土を含む 以下30層までSK279
23. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物を多く含む
24. 10YR2/3 黒褐色 シルト
25. 10YR3/4 暗褐色 シルト
26. 10YR3/4 暗褐色 砂質土 10YR5/4にぶい黄褐色シルトと炭化物を少し含む
27. 10YR3/4 暗褐色 砂質土 10YR5/4にぶい黄褐色シルトと炭化物を多く含む
28. 10YR2/3 黒褐色 シルト
29. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂質土
30. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR3/3暗褐色シルトを含む
31. 10YR2/3 黒褐色 砂質土 10YR4/4褐色砂を含む SP284

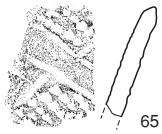




第 50 図 貯蔵穴S K 275 ・ 276 ・ 278 ・ 279



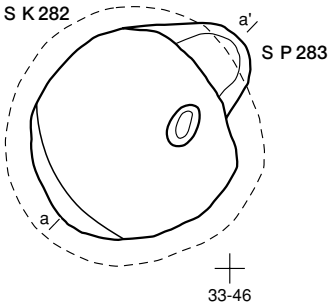


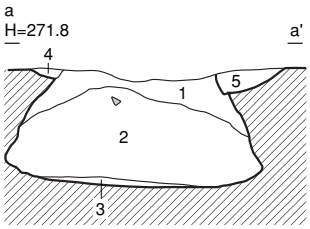


S K 280出土土器（1：4）

S K 280・281

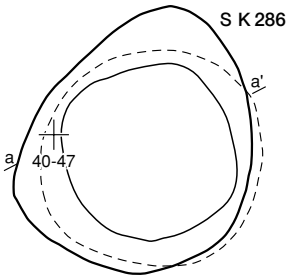
1.	10YR2/1 黒色	シルト	10YR3/4暗褐色砂質シルトを含む 以下16層までSK281
2.	10YR5/6 黄褐色	シルト	10YR4/6 褐色砂質シルト
3.	10YR4/2 灰黄褐色	砂	
4.	10YR2/1 黒色	シルト	10YR3/3暗褐色シルトを少し含む
5.	10YR4/6 褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルトを少し含む
6.	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂	10YR2/2黒褐色シルトを含む
7.	10YR3/2 黒褐色	砂	10YR4/4褐色シルトを少し含む
8.	10YR2/3 黒褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色砂を少し含む
9.	10YR5/6 黄褐色	砂	
10.	10YR4/4 褐色	砂	10YR2/3黒褐色シルトを少し含む
11.	10YR4/4 褐色	砂	小石を含む
12.	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR2/2黒褐色シルトを少し含む
13.	10YR2/2 黒褐色	シルト	
14.	10YR2/3 黒褐色	シルト	
15.	10YR5/6 黄褐色	砂	しまり強い
16.	10YR3/4 暗褐色	砂	10YR2/2黒褐色シルトを含む
17.	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	以下SK280
18.	10YR2/3 黒褐色	シルト	10YR4/4褐色砂を含む
19.	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	
20.	10YR6/6 明黄褐色	砂	
21.	10YR4/4 褐色	砂	10YR2/3黒褐色シルトを含む
22.	10YR4/6 褐色	砂	10YR3/3暗褐色シルトを含む

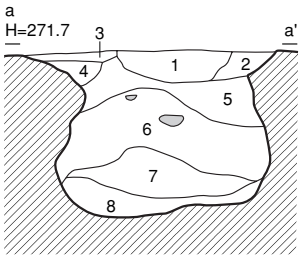




S K 282・S P 283

1.	10YR2/3 黒褐色	シルト	10YR4/3にぶい黄褐色シルトと炭化物を含む以下 4 層までSK282
2.	10YR4/6 褐色	粘質土	石を少し含む
3.	10YR2/2 黒褐色	シルト	
4.	10YR2/3 黒褐色	シルト	
5.	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物を含む SP283





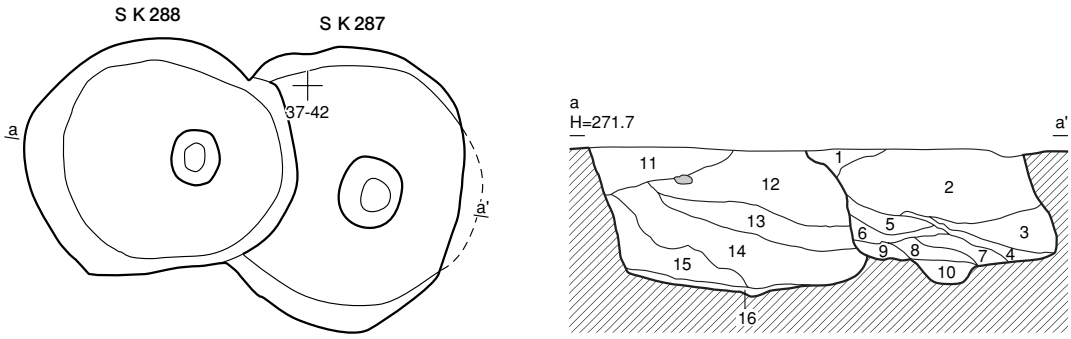
S K 286

1.	10YR4/6 褐色	シルト	10YR4/4褐色砂を含む 以下覆土
2.	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	10YR6/4にぶい黄褐色砂を含む
3.	10YR2/3 黒褐色	シルト	10YR4/4褐色シルトを含む
4.	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物を少し含む
5.	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR2/1黒色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色砂と炭化物を含む
6.	10YR4/4 褐色	砂質土	10YR3/4暗褐色砂質土と10YR2/1黒色シルトを含む
7.	10YR4/6 褐色	砂質土	
8.	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物を含む

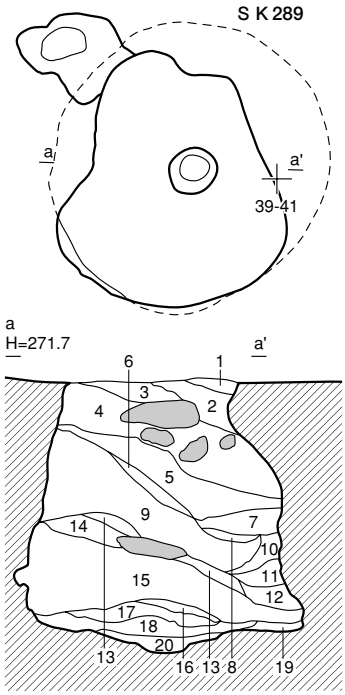
0 2m
1:40

石

第 51 図　貯蔵穴S K 280 ・ 281 ・ 282 ・ 286



S K 287・288
1. 10YR2/2 黒褐色 砂質土 炭化物を少し含む 以下10層までSK287
2. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
3. 10YR2/2 黒褐色 砂質土 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
4. 10YR2/3 黒褐色 砂 10YR2/2黒褐色砂質土を含む
5. 10YR2/3 黒褐色 砂質土 炭化物を少し含む
6. 10YR2/3 黒褐色 砂質土 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
7. 10YR2/2 黒褐色 砂質土 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
8. 10YR2/2 黒褐色 砂質土 10YR5/4にぶい黄褐色砂と炭化物を少し含む
9. 10YR2/1 黒色 シルト
10. 10YR2/2 黒褐色 砂質土 炭化物を少し含む
11. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む 10YR4/4褐色砂質土を含む 以下SK288
12. 10YR4/6 褐色 シルト 10YR2/1黒色シルトと10YR4/4褐色砂を含む 炭化物と石を少し含む
13. 10YR3/2 黒褐色 砂質土 10YR3/4暗褐色砂質土と炭化物を少し含む
14. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR2/3黒色砂質土と10YR4/4褐色砂質土を含む
15. 10YR4/4 褐色 砂
16. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR4/4褐色砂を含む

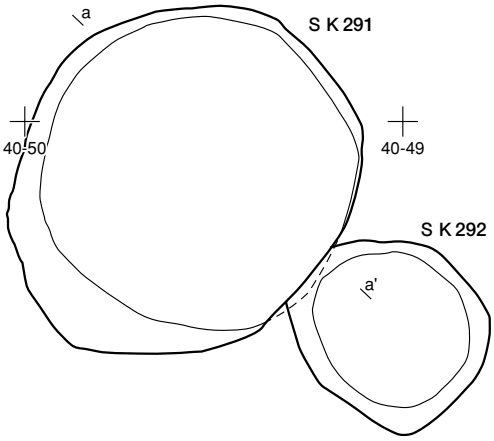


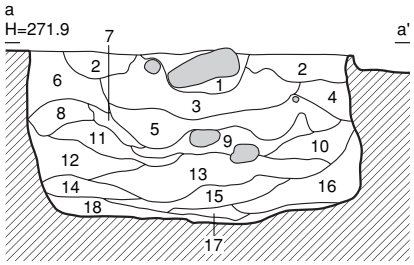
S K 289
1. 10YR3/4 暗褐色 砂質土 以下覆土
2. 10YR6/6 明黄褐色 砂
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 石を含む
5. 10YR5/6 黄褐色 粘質土
6. 10YR2/1 黒色 シルト
7. 10YR5/6 黄褐色 砂
8. 10YR5/6 黄褐色 砂 炭化物を多く含む
9. 10YR6/6 明黄褐色 微砂
10. 10YR4/4 褐色 砂質土
11. 10YR6/6 明黄褐色 砂 10YR5/8黄褐色粘質土を含む
12. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR5/6黄褐色粘土を含む 炭化物を少し含む
13. 10YR2/1 黒色 シルト 炭化物を含む
14. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR5/8黄褐色粘質土を含む
15. 10YR5/8 黄褐色 粘質土
16. 10YR2/2 黒褐色 シルト
17. 10YR5/6 黄褐色 砂
18.10YR2/2 黒褐色 シルト
19. 10YR4/6 褐色 シルト
20. 10YR2/1 黒色 シルト

石

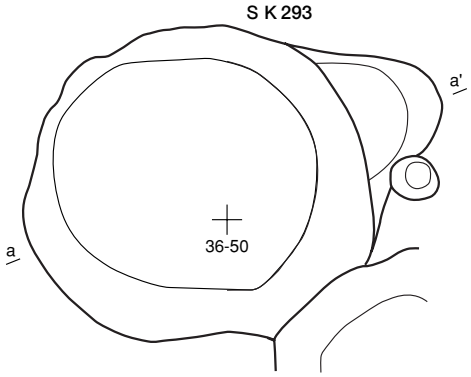
0 2m
1:40

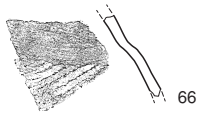
第 52 図 貯蔵穴ＳＫ 287 ・ 288 ・ 289



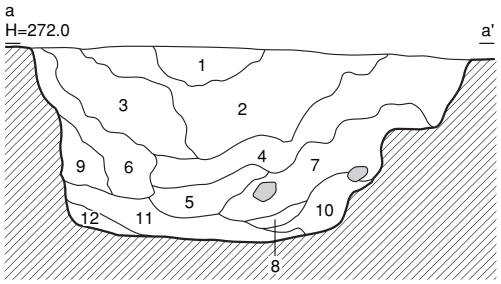


S K 291
1. 10YR2/1 黒色 シルト 石を含む 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト
3. 10YR6/6 明黄褐色 粘土
4. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR2/1黒色シルトと10YR5/6黄褐色砂を含む
5. 10YR6/6 明黄褐色 砂
6. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR2/2黒褐色シルトと10YR6/6明黄褐色砂を含む
7. 10YR6/6 明黄褐色 砂 10YR3/4暗褐色シルトを含む
8. 10YR6/6 明黄褐色 粘土
9. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR2/3黒褐色シルトと石を含む
10. 10YR6/6 明黄褐色 砂 10YR2/2黒褐色シルトを含む
11. 10YR6/6 明黄褐色 砂 10YR2/3黒褐色シルトを含む
12. 10YR7/6 明黄褐色 砂
13. 10YR5/6 黄褐色 粘土
14. 10YR5/6 黄褐色 砂
15. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
16. 10YR6/6 明黄褐色 粗砂
17. 10YR2/1 黒色 シルト
18. 10YR6/6 明黄褐色 砂 10YR7/6明黄褐色砂を含む





S K 293出土土器（1：6）

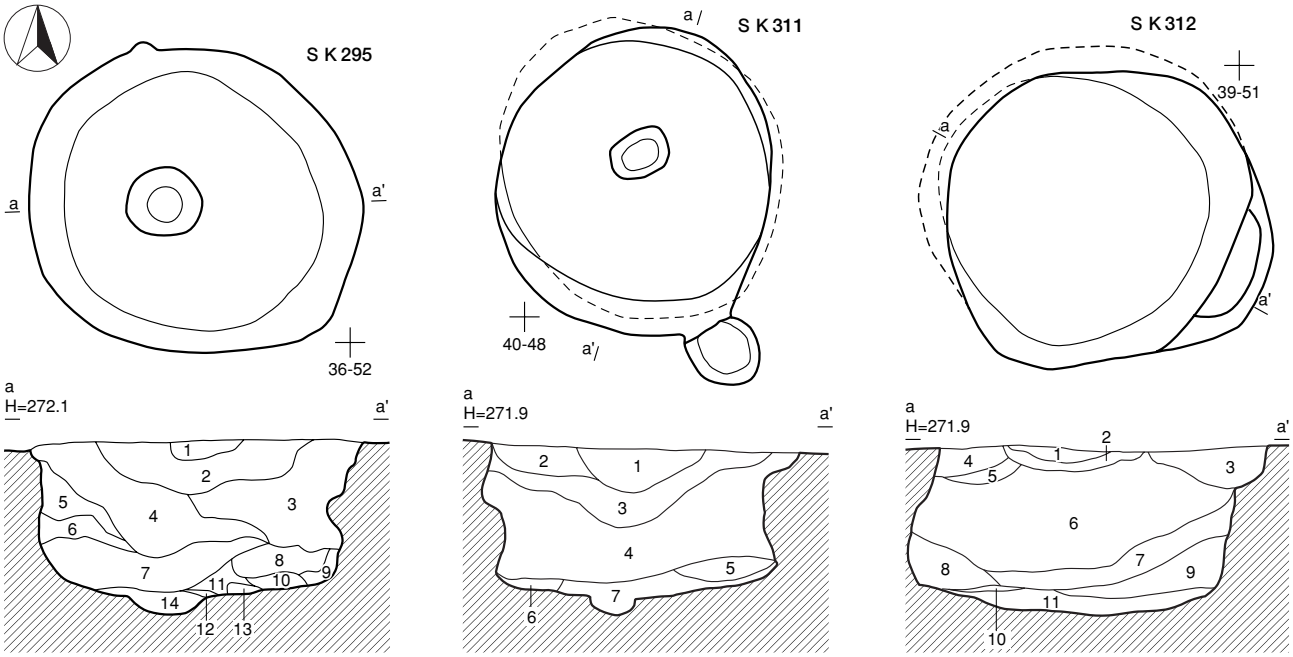


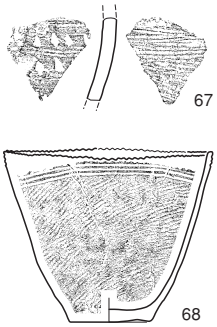
S K 293
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 焼土と炭を多く含む 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト
3. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む
4. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を少し含む
5. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色シルトと10YR5/6黄褐色砂を含む
6. 10YR4/6 褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂と10YR2/2黒褐色シルトを含む
7. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂と10YR2/1黒色シルトと石を含む
8. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR6/4にぶい黄橙色砂を含む
9. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR3/4暗褐色シルトを少し含む
10. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR3/4暗褐色シルトを少し含む
11. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
12. 10YR7/6 明黄褐色 砂 10YR2/1黒色シルトを含む

石

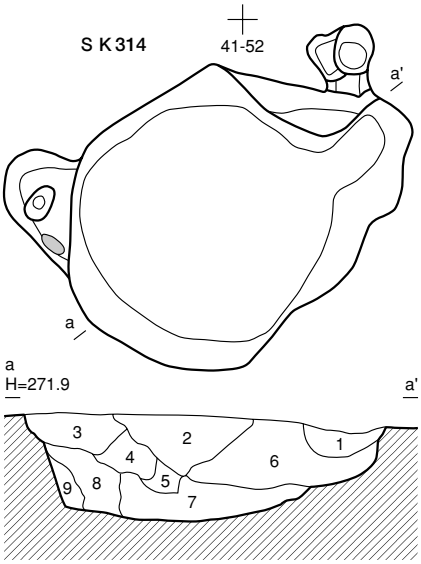
0 2m
1:40

第 53 図 貯蔵穴ＳＫ 291 ・ 293





S K 314出土土器（1：6）



石

0　2m
1:40

S K 295

1. 10YR3/3　暗褐色　シルト　以下覆土
2. 10YR1.7/1 黒色　シルト　10YR2/2黒褐色シルトと炭化物を含む
3. 10YR2/1　黒色　シルト　10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色砂と炭化物を含む
4. 10YR2/1　黒色　シルト　炭化物を少し含む
5. 10YR2/3　黒褐色　砂質土　炭化物を少し含む
6. 10YR5/4　にぶい黄褐色　砂
7. 10YR2/1　黒色　シルト　10YR4/4褐色砂と10YR1.7/1黒色シルトと炭化物を含む
8. 10YR4/6　褐色　砂　炭化物を少し含む
9. 10YR4/3　にぶい黄褐色　砂
10. 10YR4/6　褐色　砂
11. 10YR2/2　黒褐色　シルト　炭化物を多く含む
12. 10YR2/2　黒褐色　シルト
13. 10YR4/3　にぶい黄褐色　砂
14. 10YR2/1　黒色　シルト　炭化物を少し含む

S K 311

1. 10YR2/2　黒褐色　シルト　以下覆土
2. 10YR3/3　暗褐色　シルト
3. 10YR4/6　褐色　シルト　10YR2/3黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色砂を含む
4. 10YR5/6　黄褐色　砂　10YR2/1黒色シルトと10YR6/6明黄褐色砂を含む
5. 10YR6/6　明黄褐色　砂
6. 10YR5/6　黄褐色　シルト
7. 10YR1.7/1 黒色　シルト

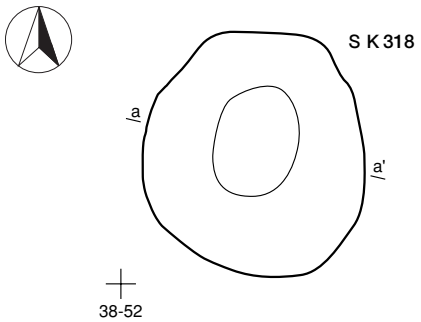
S K 312

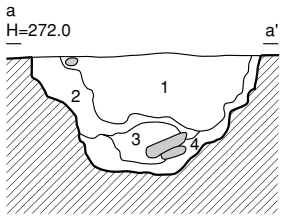
1. 10YR4/6　褐色　粘質土　以下覆土
2. 10YR2/1　黒色　シルト　炭化物を少し含む
3. 10YR5/6　黄褐色　砂質土
4. 10YR5/6　黄褐色　砂質土
5. 10YR5/6　黄褐色　砂質土　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土と炭化物を少し含む
6. 10YR5/6　黄褐色　砂
7. 10YR4/6　褐色　砂質土　10YR2/2黒褐色シルトと炭化物を含む
8. 10YR6/6　明黄褐色　砂　10YR4/6褐色砂質土と炭化物を少し含む
9. 10YR5/6　黄褐色　砂
10. 10YR5/6　黄褐色　砂
11. 10YR2/1　黒色　シルト　炭化物を多く含む　10YR4/6褐色砂質土を含む

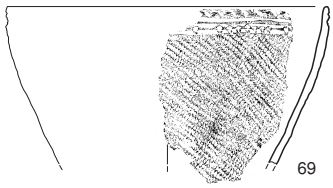
S K 314

1. 10YR3/4　暗褐色　シルト　以下覆土
2. 10YR3/3　暗褐色　シルト
3. 10YR2/3　黒褐色　シルト
4. 10YR3/2　黒褐色　シルト
5. 10YR3/4　暗褐色　シルト
6. 10YR3/3　暗褐色　シルト　10YR6/6明黄褐色砂を含む
7. 10YR4/4　褐色　シルト
8. 10YR2/2　黒褐色　シルト　10YR3/4暗褐色シルトを含む
9. 10YR5/6　黄褐色　砂

第 54 図　貯蔵穴 S K 295 ・ 311 ・ 312 ・ 314



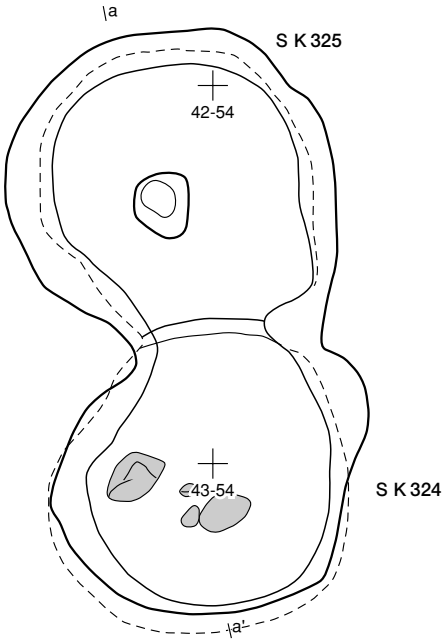


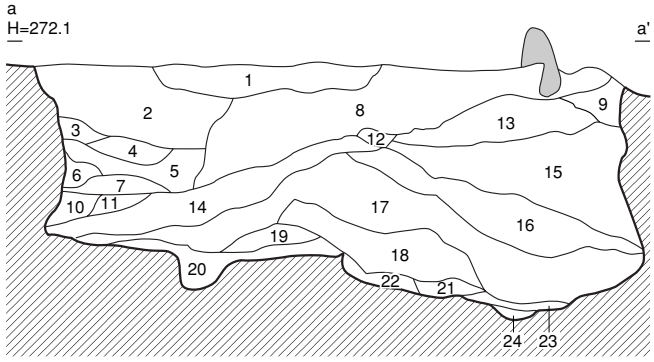


S K 318出土土器（1：6）

S K 318

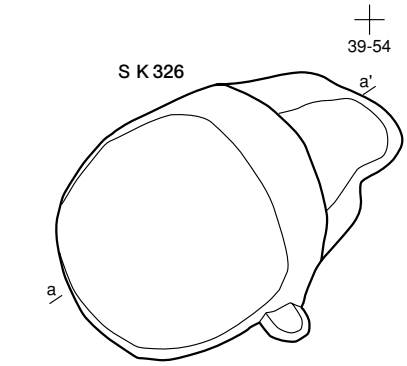
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を多く含む 石を少し含む 以下覆土
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色砂質土と炭化物を含む
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を多く含む 石を含む
4. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色細砂と炭化物を含む

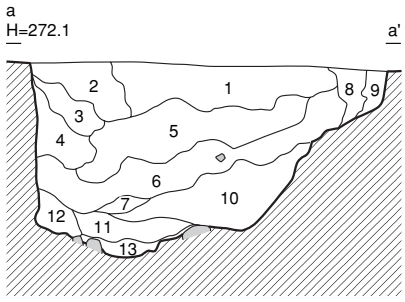




S K 324・325

1.	10YR1.7/1	黒色	シルト 10YR2/1黒色シルトを含む 以下覆土
2.	10YR2/3	黒褐色	シルト 10YR3/4暗褐色シルトと10YR1.7/1黒色シルトを含む
3.	10YR5/6	黄褐色	砂 10YR2/3黒褐色シルトを含む
4.	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR2/1黒色シルトを含む
5.	10YR1.7/1	黒色	シルト 10YR2/3黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色砂を含む
6.	10YR5/6	黄褐色	砂
7.	10YR2/3	黒褐色	シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
8.	10YR2/2	黒褐色	シルト 10YR3/3暗褐色シルトと小石を含む
9.	10YR2/2	黒褐色	シルト 10YR5/6黄褐色粘土と10YR4/6褐色砂を含む
10.	10YR6/6	明黄褐色	砂
11.	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土
12.	10YR2/3	黒褐色	シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む
13.	10YR5/6	黄褐色	粘土 10YR6/6明黄褐色砂を含む
14.	10YR2/3	黒褐色	シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
15.	10YR5/6	黄褐色	砂 10YR2/3黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色粘土を少し含む
16.	10YR2/2	黒褐色	シルト 10YR3/4暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色砂を含む
17.	10YR6/6	明黄褐色	砂 10YR5/6黄褐色粘土を含む
18.	10YR5/6	黄褐色	粘土 10YR5/6黄褐色砂を含む
19.	10YR5/6	黄褐色	細砂 10YR6/6明黄褐色砂を含む
20.	10YR3/4	暗褐色	シルト
21.	10YR6/6	明黄褐色	砂 10YR6/6明黄褐色粘土を少し含む
22.	10YR6/6	明黄褐色	細砂 10YR4/4褐色砂を含む
23.	10YR1.7/1	黒色	シルト
24.	10YR6/6	明黄褐色	砂 10YR4/4褐色シルトを含む





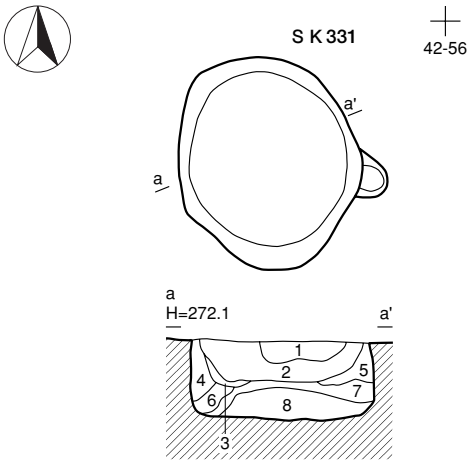
S K 326

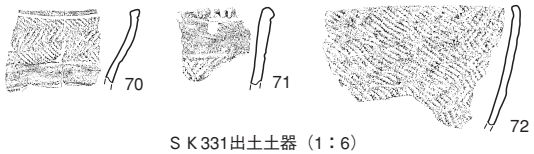
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
3. 10YR5/6 黄褐色 砂
4. 10YR6/6 明黄褐色砂
5. 10YR3/2 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
6. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
7. 10YR2/1 黒色 シルト
8. 10YR5/6 黄褐色 砂
9. 10YR3/3 暗褐色 シルト
10. 10YR3/4 暗褐色 シルト
11. 10YR2/2 黒褐色 シルト
12. 10YR6/6 明黄褐色砂
13. 10YR7/6 明黄褐色砂

0 2m
1:40

石

第 55 図 貯蔵穴S K 318 ・ 324 ・ 325 ・ 326

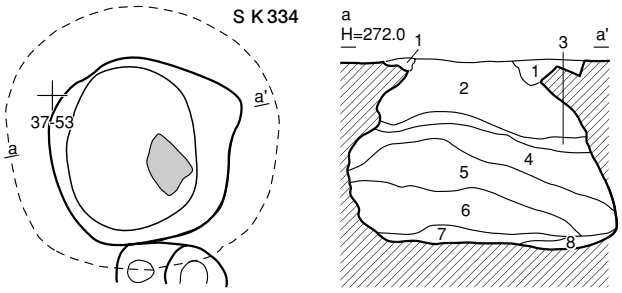




S K 331出土土器（1：6）

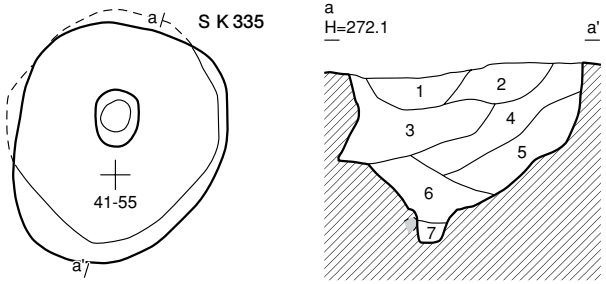
S K 331

1. 7.5YR4/4 褐色　砂　焼土を含む 以下覆土
2. 10YR3/3 暗褐色　砂　10YR3/3暗褐色シルトと焼土を含む
3. 10YR6/3 にぶい黄橙色 砂
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂　10YR3/3暗褐色シルを含む
5. 10YR4/4 褐色　砂　10YR3/3暗褐色シルを含む
6. 10YR4/4 褐色　砂　10YR2/3黒褐色シルトを少し含む
7. 10YR2/3 黒褐色　シルト 砂と焼土を少し含む
8. 10YR3/4 暗褐色　砂　炭化物を少し含む



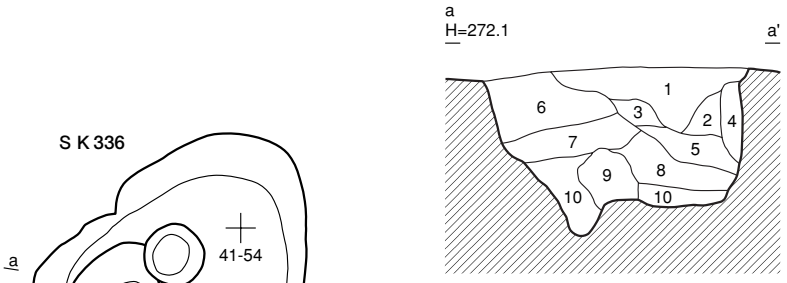
S K 334

1. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む以下覆土
2. 10YR5/6 黄褐色粗 砂
3. 10YR1.7/1 黒色　シルト
4. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR6/6明黄褐色粘土と 10YR5/6黄褐色砂を含む
5. 10YR5/6 黄褐色　粘土 10YR5/6黄褐色砂を含む
6. 10YR5/6 黄褐色　砂
7. 10YR2/2 黒褐色　シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む
8. 10YR5/6 黄褐色　粘土



S K 335

1. 10YR3/3 暗褐色 砂　10YR5/6黄褐色砂質土を含む 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/6褐色砂を含む
3. 10YR4/6 褐色　砂　10YR4/6褐色シルトを含む
4. 10YR5/6 黄褐色 砂　10YR4/6褐色シルトと10YR3/4暗褐色細砂を含む
5. 10YR5/6 黄褐色 砂
6. 10YR4/4 褐色　砂　10YR4/6褐色シルトを含む
7. 10YR5/6 黄褐色 微砂



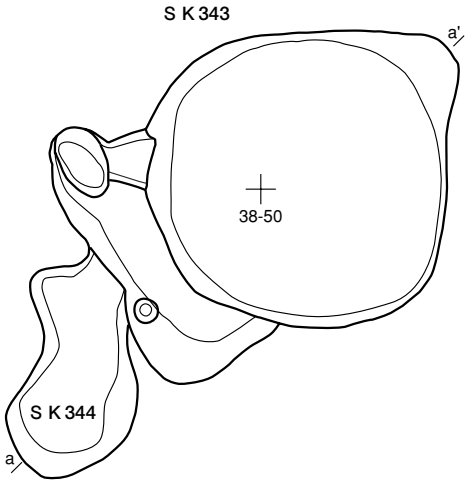
S K 336

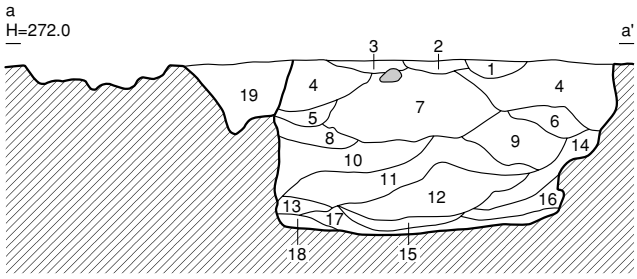
1. 10YR2/3 黒褐色　シルト 10YR4/6褐色砂質土と炭化物を少し含む 以下覆土
2. 10YR4/4 褐色　砂質土
3. 10YR4/6 褐色　砂質土
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂
5. 10YR4/4 褐色　砂質土
6. 10YR5/6 黄褐色　砂質土
7. 10YR5/6 黄褐色　砂
8. 10YR5/6 黄褐色　砂　10YR5/8黄褐色粘質土を含む
9. 10YR5/8 黄褐色　粘質土
10. 10YR5/6 黄褐色　砂　細砂と10YR5/8黄褐色粘質土を含む

0　2m
1:40

石

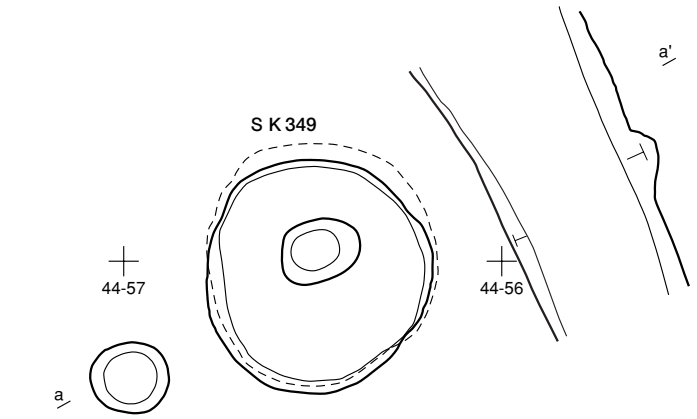
第 56 図　貯蔵穴ＳＫ 331 ・ 334 ・ 335 ・ 336

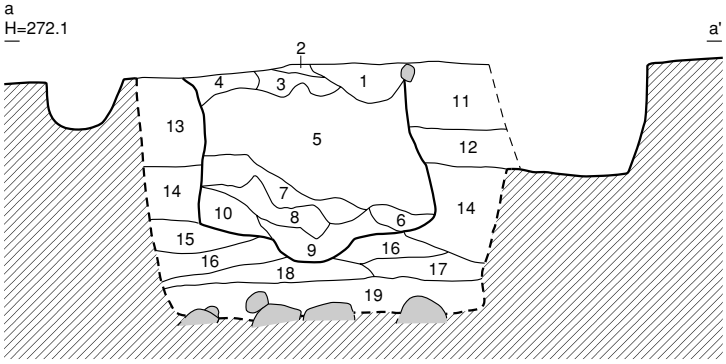




S K 343

1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 以下18層までSK343
2. 10YR1.7/1 黒色 シルト
3. 10YR2/1 黒色 シルト
4. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色粘土と10YR5/6黄褐色砂を含む
5. 10YR6/6 明黄褐色 砂 10YR3/4暗褐色シルトを含む
6. 10YR4/4 褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
7. 10YR6/6 明黄褐色 粘土 10YR6/6明黄褐色砂と10YR4/4褐色シルトを含む
8. 10YR6/6 明黄褐色 砂 10YR6/6明黄褐色粘土を含む
9. 10YR4/4 褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色粘土と10YR6/6明黄褐色砂を含む
10. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR6/6明黄褐色粘土を含む
11. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂と炭化物を含む
12. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色砂と10YR3/4暗褐色シルトを含む
13. 10YR6/6 明黄褐色 砂
14. 10YR6/6 明黄褐色 砂 10YR4/4褐色シルトを含む
15. 10YR1.7/1 黒色 シルト
16. 10YR6/6 明黄褐色 砂
17. 10YR5/6 黄褐色 砂
18. 10YR6/6 明黄褐色 砂 10YR5/6黄褐色砂を含む
19. 10YR3/3 暗褐色 シルト 焼土と炭化物を含む ピット





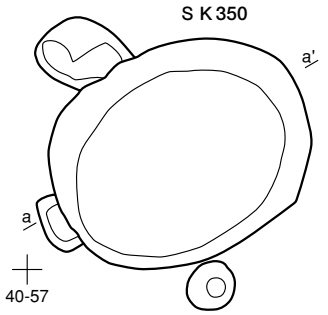
S K 349

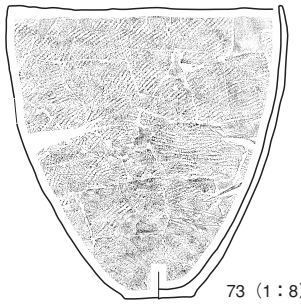
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト 炭化物を少し含む 10YR5/6黄褐色砂質土を含む 以下10層までSK349
2. 10YR2/1 黒色 シルト 炭化物を含む
3. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR2/1黒色シルトと10YR5/8黄褐色シルトと炭化物を少し含む
4. 10YR5/6 黄褐色 シルト
5. 10YR5/6 黄褐色 粘質土
6. 10YR4/6 褐色 砂
7. 10YR4/6 褐色 シルト 10YR4/6にぶい黄褐色砂と10YR3/4暗褐色砂質土を含む
8. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/6褐色粘質土を含む
9. 10YR3/3 暗褐色 砂質土 炭化物を少し含む
10. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂
11. 10YR5/4 にぶい黄褐色 粗砂 以下地山
12. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色 微砂
14. 10YR5/6 黄褐色 粘質土
15. 10YR5/8 黄褐色 砂質シルト
16. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂 砂と石を多く含む
17. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂
18. 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂
19. 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂 石を多く含む

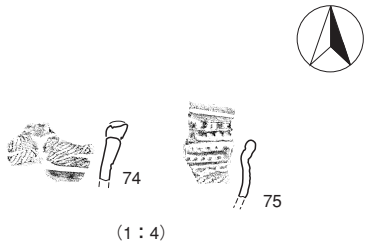
0 2m
1:40

石

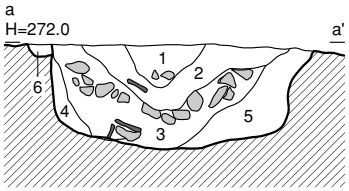
第 57 図 貯蔵穴ＳＫ 343 ・ 349





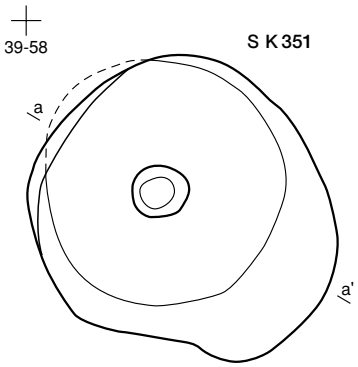


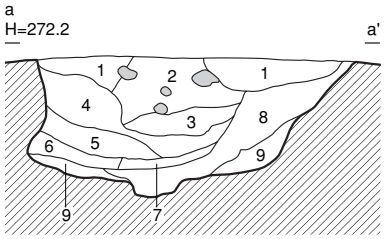
S K 350出土土器



S K 350

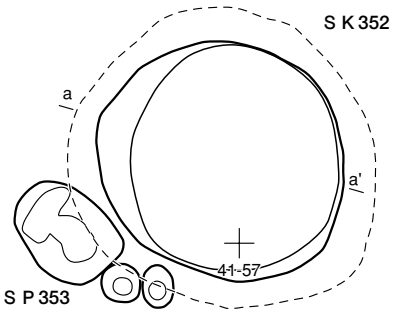
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト焼土と炭化物を含む 以下５層までSK350
2. 10YR2/1 黒色　シルト
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト石を多く含む
4. 10YR3/4 暗褐色 シルト10YR4/6褐色砂を含む
5. 10YR3/4 暗褐色 シルト10YR5/6黄褐色粘土と10YR5/6黄褐色砂を含む
6. 10YR2/2 黒褐色 シルトピット

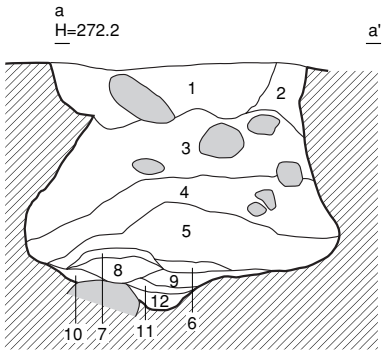




S K 351

1. 10YR2/3　黒褐色　シルト　以下覆土
2. 10YR6/6　明黄褐色　粘土　石を含む
3. 10YR5/6　黄褐色　粘土
4. 10YR3/4　暗褐色　シルト　10YR5/6黄褐色砂を含む
5. 10YR5/6　黄褐色　砂　10YR4/4褐色シルトを含む
6. 10YR5/6　黄褐色　砂　10YR2/3黒褐色シルトを含む
7. 10YR1.7/1黒色　シルト
8. 10YR3/3　暗褐色　シルト　10YR6/6明黄褐色砂と10YR5/6黄褐色砂を含む
9. 10YR6/6　明黄褐色　砂　10YR6/6明黄褐色粘土を含む





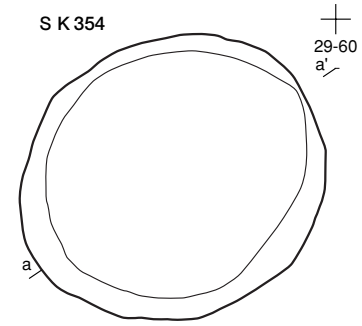
S K 352

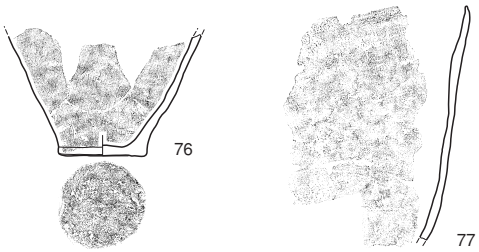
1. 10YR2/3　黒褐色　シルト　10YR2/1黒色シルトと炭化物を含む 以下覆土
2. 10YR3/4　暗褐色　砂質土
3. 10YR5/4　にぶい黄褐色　砂　石を多く含む
4. 10YR5/4　にぶい黄褐色　微砂　石を多く含む
5. 10YR4/6　褐色　シルト
6. 10YR3/3　暗褐色　シルト
7. 10YR1.7/1黒色　シルト
8. 10YR2/3　黒褐色　シルト
9. 10YR2/1　黒色　シルト
10. 10YR2/1　黒色　シルト
11. 10YR3/2　黒褐色　砂質土
12. 10YR2/3　黒褐色　シルト

石　土器

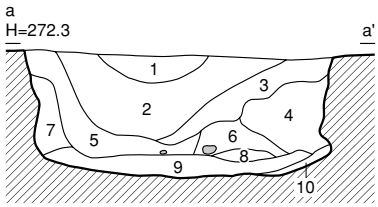
0　2m
1:40

第 58 図　貯蔵穴ＳＫ 350 ・ 351 ・ 352



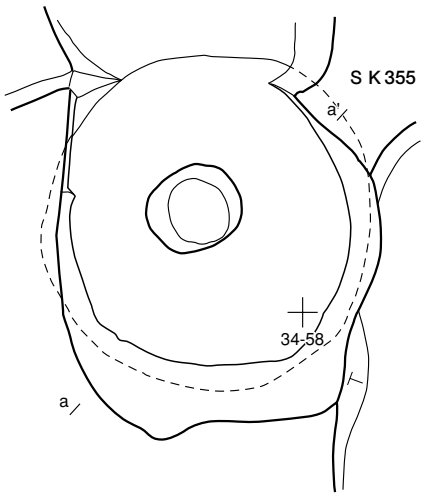


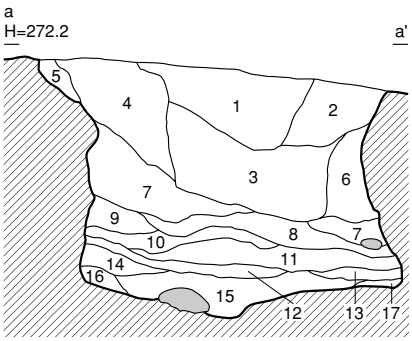
ＳＫ354出土土器（1：6）



ＳＫ354

1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物と焼土を多く含む 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物と焼土を多く含む
3. 10YR4/4 褐色 シルト 10YR3/3暗褐色シルトを含む
4. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR3/3暗褐色シルトと10YR6/6明黄褐色砂を含む
5. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色シルトを含む
6. 10YR4/6 褐色 シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む
7. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR4/4褐色シルトを含む
8. 10YR5/6 黄褐色 砂
9. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR3/4暗褐色シルトを含む
10. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR5/6黄褐色粘土を含む





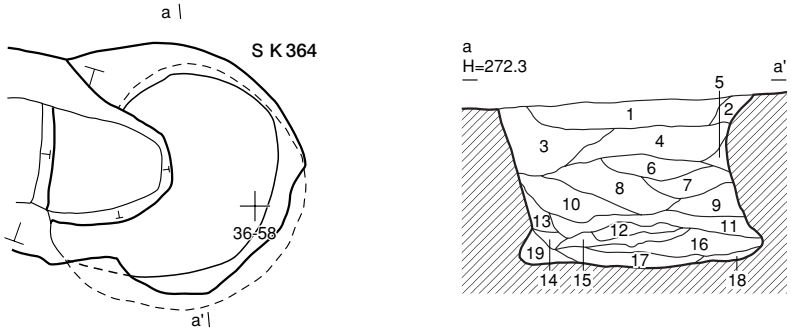
ＳＫ355

1. 10YR1.7/1 黒色 シルト 炭化物と焼土を多く含む 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR3/3暗褐色シルトを含む
3. 10YR2/1 黒色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む
4. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色粘土を含む
5. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR6/6明黄褐色砂を含む
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂 10YR2/2黒褐色シルトを含む
7. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR2/3黒褐色シルトと10YR6/6明黄褐色砂を含む
8. 10YR1.7/1 黒色 シルト 10YR5/6黄褐色砂含む
9. 10YR5/6 黄褐色 砂
10. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR1.7/1黒色シルトと10YR5/6黄褐色砂を含む
11. 10YR4/6 褐色 砂
12. 10YR1.7/1 黒色 シルト
13. 10YR6/6 明黄褐色 砂
14. 10YR4/6 褐色 砂 10YR5/6黄褐色砂を含む
15. 10YR2/1 黒色 シルト
16. 10YR5/6 黄褐色 砂 10YR3/3暗褐色シルトを含む
17. 10YR6/6 明黄褐色 細砂

0 2m
1:40

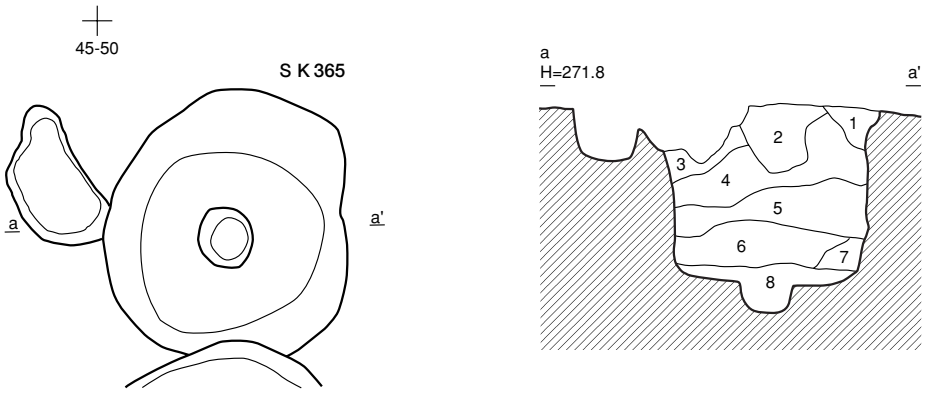
石

第 59 図 貯蔵穴ＳＫ 354 ・ 355



S K 364

1.	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR4/6褐色シルトを含む 以下覆土
2.	10YR5/6	黄褐色	砂質土
3.	10YR3/4	暗褐色	砂質土 10YR5/6黄褐色砂質土を含む
4.	10YR2/3	黒褐色	シルト 10YR2/2黒褐色シルトと炭化物を少し含む
5.	10YR5/6	黄褐色	砂 10YR2/3黒褐色砂質土を含む
6.	10YR2/3	黒褐色	砂質土
7.	10YR2/2	黒褐色	シルト 10YR3/3暗褐色砂質土を含む
8.	10YR3/3	暗褐色	砂質土 炭化物を少し含む 10YR5/6黄褐色砂質土を含む
9.	10YR5/6	黄褐色	砂 10YR2/2黒褐色シルトを含む
10.	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂 10YR2/3黒褐色シルトを含む
11.	10YR2/1	黒色	シルト 10YR5/6黄褐色砂と10YR4/3にぶい黄褐色砂質土を含む
12.	10YR4/6	褐色	砂質土
13.	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂
14.	10YR4/4	褐色	砂
15.	10YR4/6	褐色	砂質土 10YR2/1黒色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色砂質土を含む
16.	10YR4/1	褐灰色	粘質土 10YR4/4褐色砂質土と10YR3/4暗褐色砂質土を含む
17.	10YR1.7/1	黒色	シルト 10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/4褐色砂質土を含む
18.	10YR4/4	褐色	砂
19.	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂

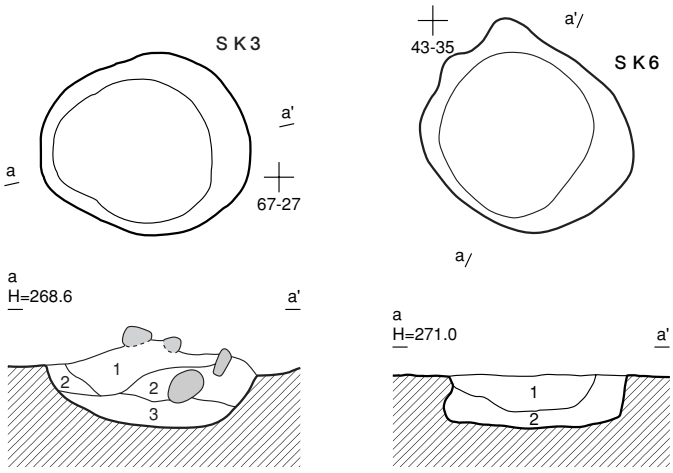


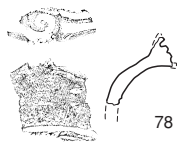
S K 365

1.	10YR3/4	暗褐色	シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む 以下覆土
2.	10YR2/3	黒褐色	シルト 10YR4/6褐色粘質土と10YR5/6黄褐色砂を含む
3.	10YR5/6	黄褐色	砂 10YR4/6褐色粘質土を含む
4.	10YR4/6	褐色	粘質土 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む
5.	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂 炭化物を少し含む
6.	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト
7.	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト 10YR2/3黒褐色シルトと炭化物を含む
8.	10YR2/1	黒色	シルト 炭化物と10YR4/4褐色砂を少し含む

0 2m
1:40

第 60 図　貯蔵穴 S K 364 ・ 365

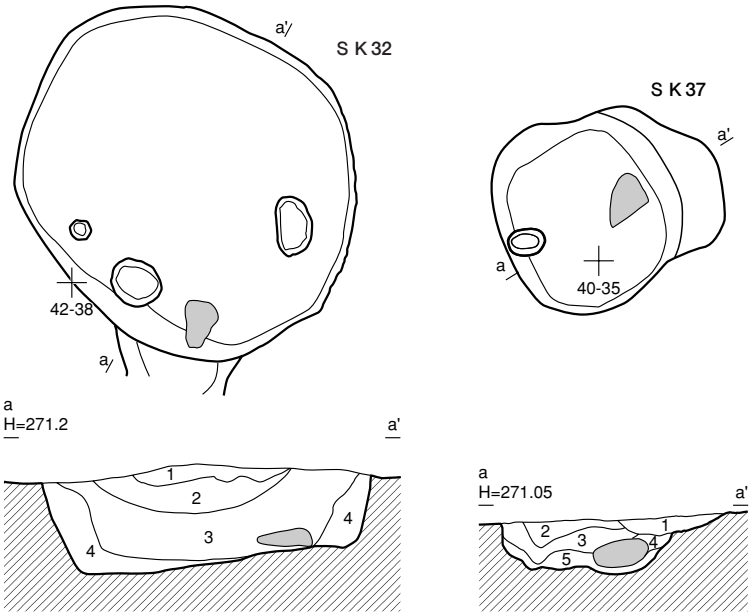




ＳＫ３出土土器（1：3）

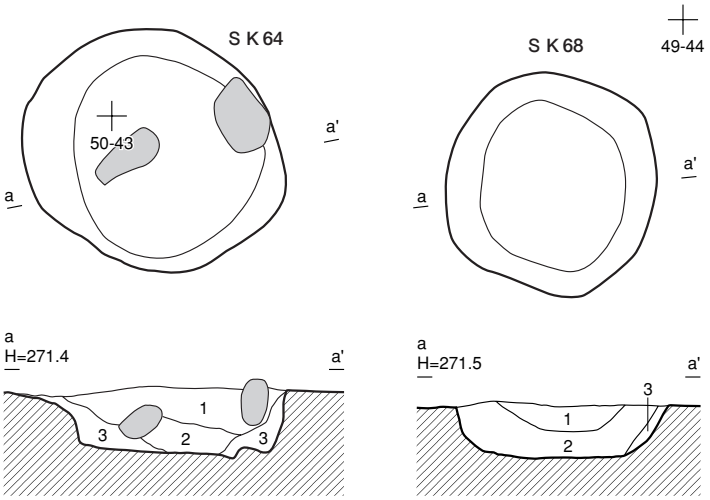
ＳＫ３
1. 10YR2/3 黒褐色　シルト 石を含む 以下覆土
2. 10YR3/4 暗褐色　シルト 石を含む 地山土を少し含む
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 地山土を少し含む

ＳＫ６
1. 10YR2/1 黒色　シルト 炭化物を少し含む 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 地山土を含む 炭化物を少し含む



ＳＫ32
1. 10YR3/3 暗褐色 シルト 焼土と灰を含む 以下覆土
2. 10YR3/3 暗褐色 シルト 強く被熱
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR4/4褐色シルトを含む
4. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR5/4にぶい黄褐色砂を含む

ＳＫ37
1. 10YR3/3 暗褐色　シルト 炭化物を含む 以下覆土
2. 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂質土 10YR1.7/1黒色シルトを含む
3. 10YR2/1 黒色　シルト 炭化物を含む
4. 10YR4/2 灰黄褐色　シルト
5. 10YR2/2 黒褐色　砂質土



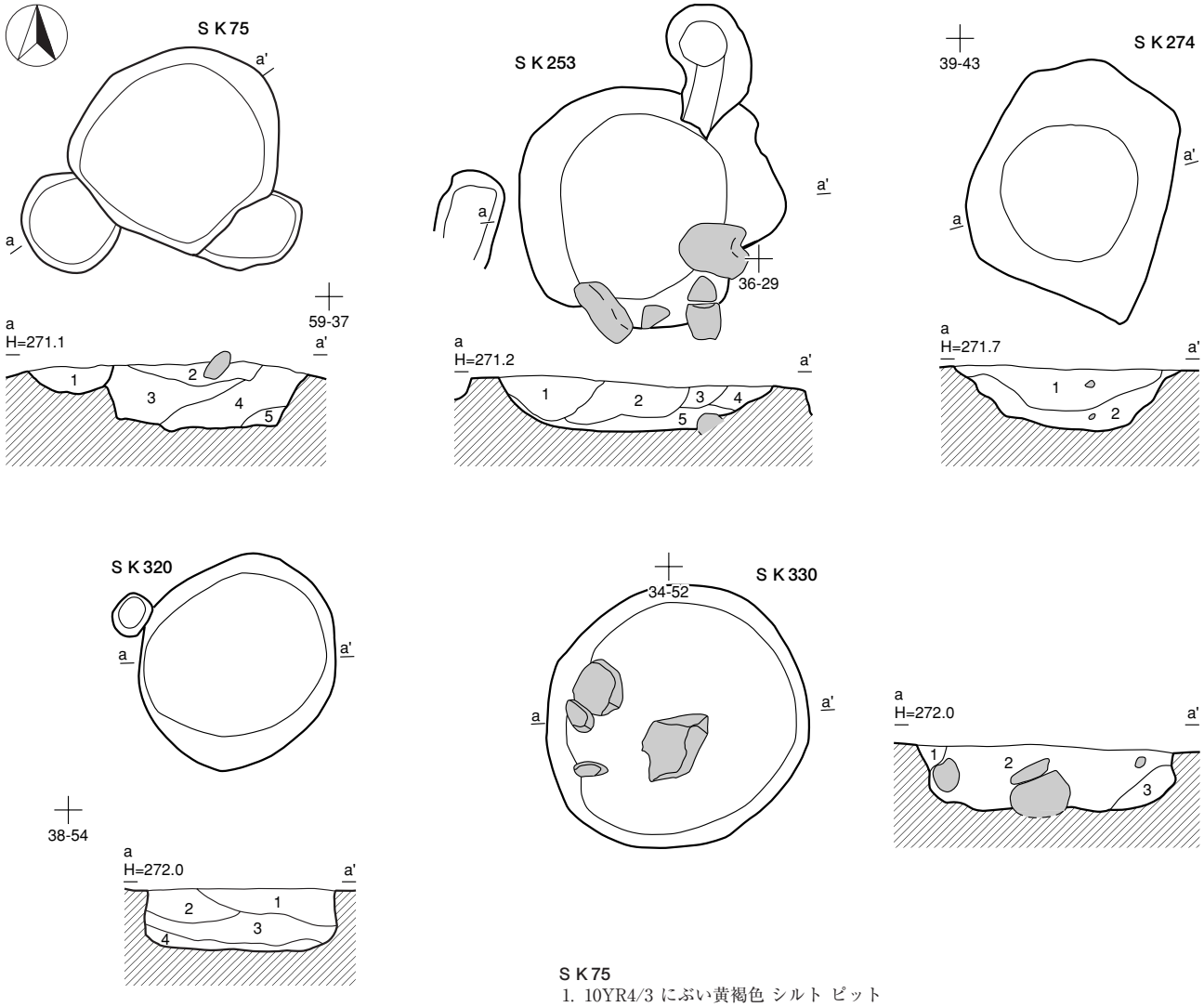
ＳＫ64
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を含む 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物と焼土を多く含む
3. 10YR3/4 暗褐色 シルト 10YR4/4褐色シルトを含む

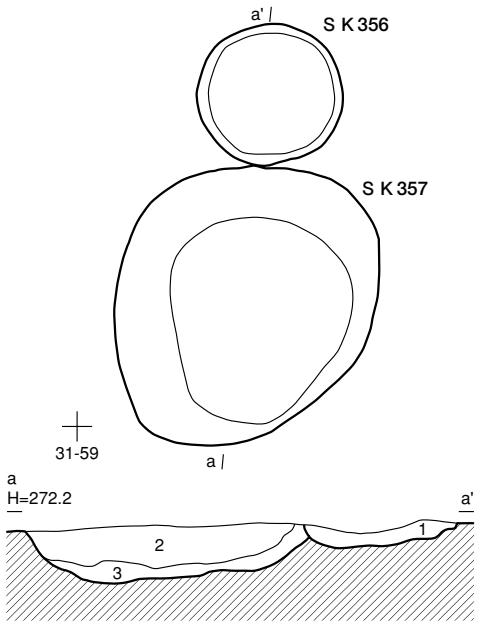
ＳＫ68
1. 10YR2/1 黒色　シルト 炭化物を少し含む 以下覆土
2. 10YR3/3 暗褐色　シルト 10YR3/3暗褐色砂質土と炭化物を含む
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 地山土を含む

0　2m
1:40

石

第 61 図　土坑ＳＫ３・６・32・37・64・68





S K 75
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト ピット
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 以下ＳＫ75
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む
4. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 10YR5/6黄褐色粘土を含む

S K 253
1. 10YR2/1 黒色 シルト 炭化物を少し含む 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 炭化物を含む
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む
4. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭化物を少し含む 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土を含む
5. 10YR2/3 黒褐色 砂質土 炭化物を少し含む

S K 274
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 以下覆土
2. 10YR2/3 黒褐色 シルト 10YR6/4にぶい黄橙色砂を含む

S K 320
1. 10YR3/3 暗褐色 シルト 炭化物を少し含む 以下覆土
2. 10YR6/6 明黄褐色細 砂
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 炭化物を少し含む 10YR5/6黄褐色砂を含む
4. 10YR5/6 黄褐色 砂 炭化物を少し含む

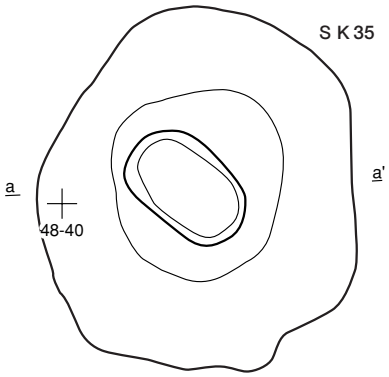
S K 330
1. 10YR3/3 暗褐色 シルト10YR6/6明黄褐色砂を含む 以下覆土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト炭化物と焼土を多く含む
3. 10YR3/3 暗褐色 シルト10YR6/6明黄褐色砂を含む

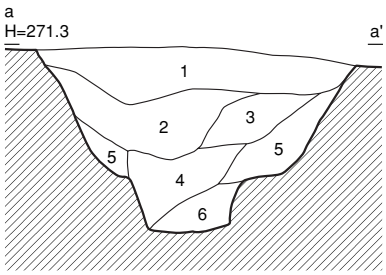
S K 357
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト 炭を多く含む ＳＫ356
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 以下３層までＳＫ357
3. 10YR3/3 暗褐色 シルト 10YR5/6黄褐色砂を含む

0 2m
1:40

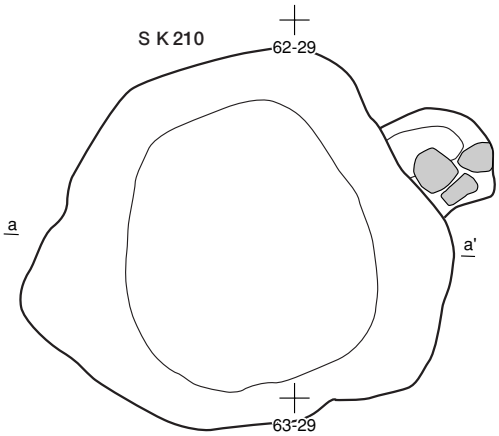
石

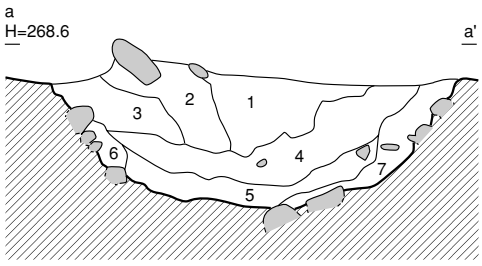
第 62 図　土坑ＳＫ 75 ・ 253 ・ 274 ・ 320 ・ 330 ・ 357



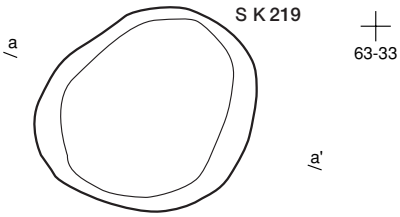


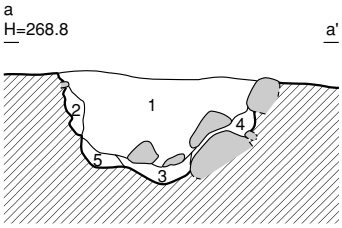
S K 35
1. 10YR1.7/1 黒色　シルト　以下覆土
2. 10YR2/2　黒褐色 シルト
3. 10YR2/3　黒褐色 シルト
4. 10YR3/3　暗褐色 シルト
5. 10YR3/3　暗褐色 シルト　10YR5/6黄褐色砂質土を含む
6. 10YR3/4　暗褐色 砂質土



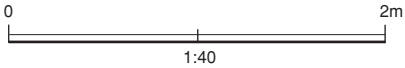


S K 210
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト 炭化物を少し含む　石を多く含む 以下覆土
2. 10YR2/2　黒褐色 シルト 石を含む
3. 10YR3/1　黒褐色 シルト
4. 10YR2/2　黒褐色 シルト 石を多く含む　炭化物を少し含む
5. 10YR2/1　黒色　シルト 炭化物を少し含む 石を含む
6. 10YR3/4　暗褐色 砂質土
7. 10YR3/3　暗褐色 シルト 石を多く含む



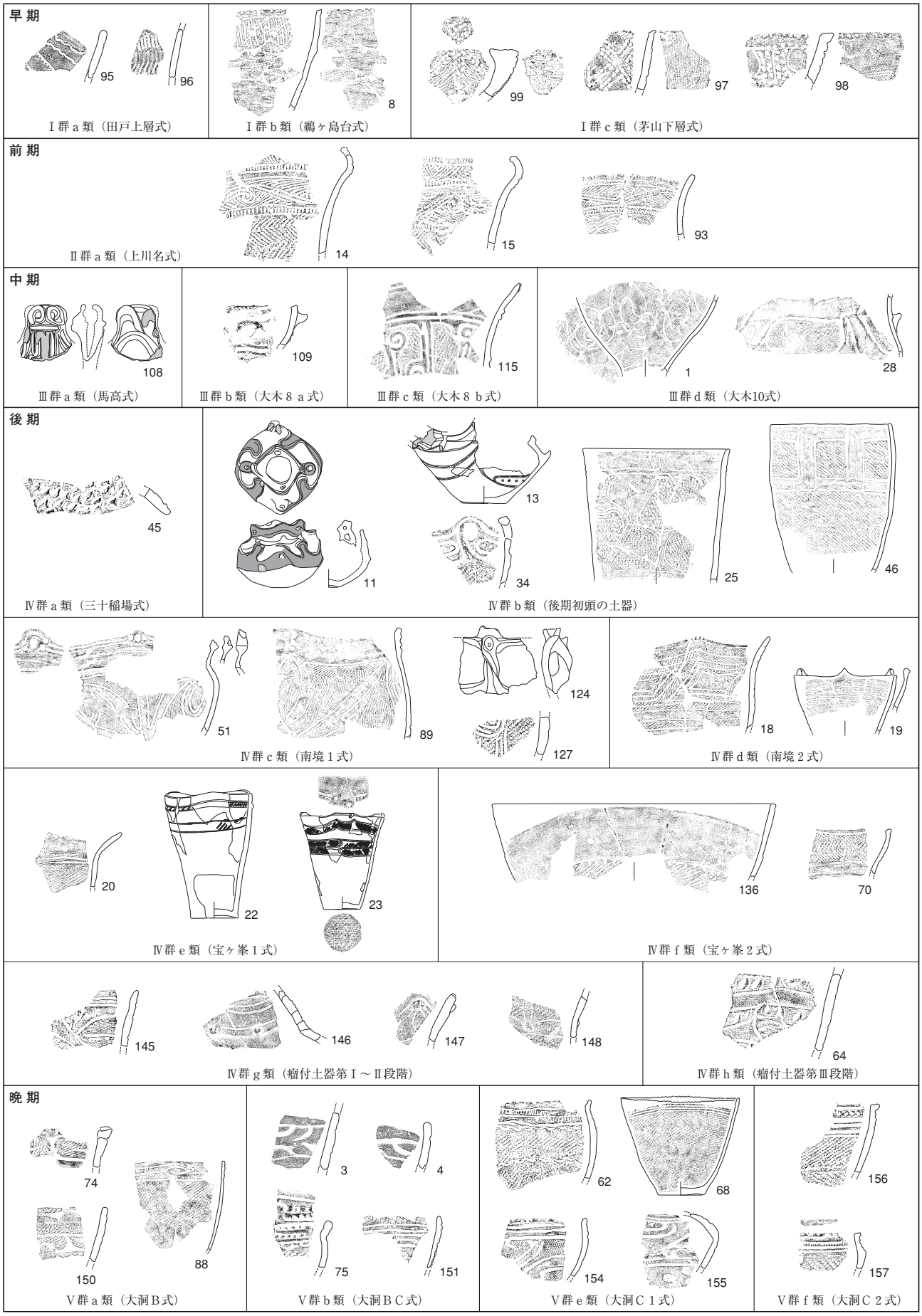


S K 219
1. 10YR2/1　黒色　シルト 炭化物と石を含む 以下覆土
2. 10YR2/2　黒褐色 シルト 石を含む
3. 10YR1.7/1 黒色　シルト 石を多く含む
4. 10YR2/3　黒褐色 シルト 炭化物を少し含む
5. 10YR3/4　暗褐色 砂質土 石を多く含む



石

第 63 図　土坑ＳＫ 35 ・ 210 ・ 219

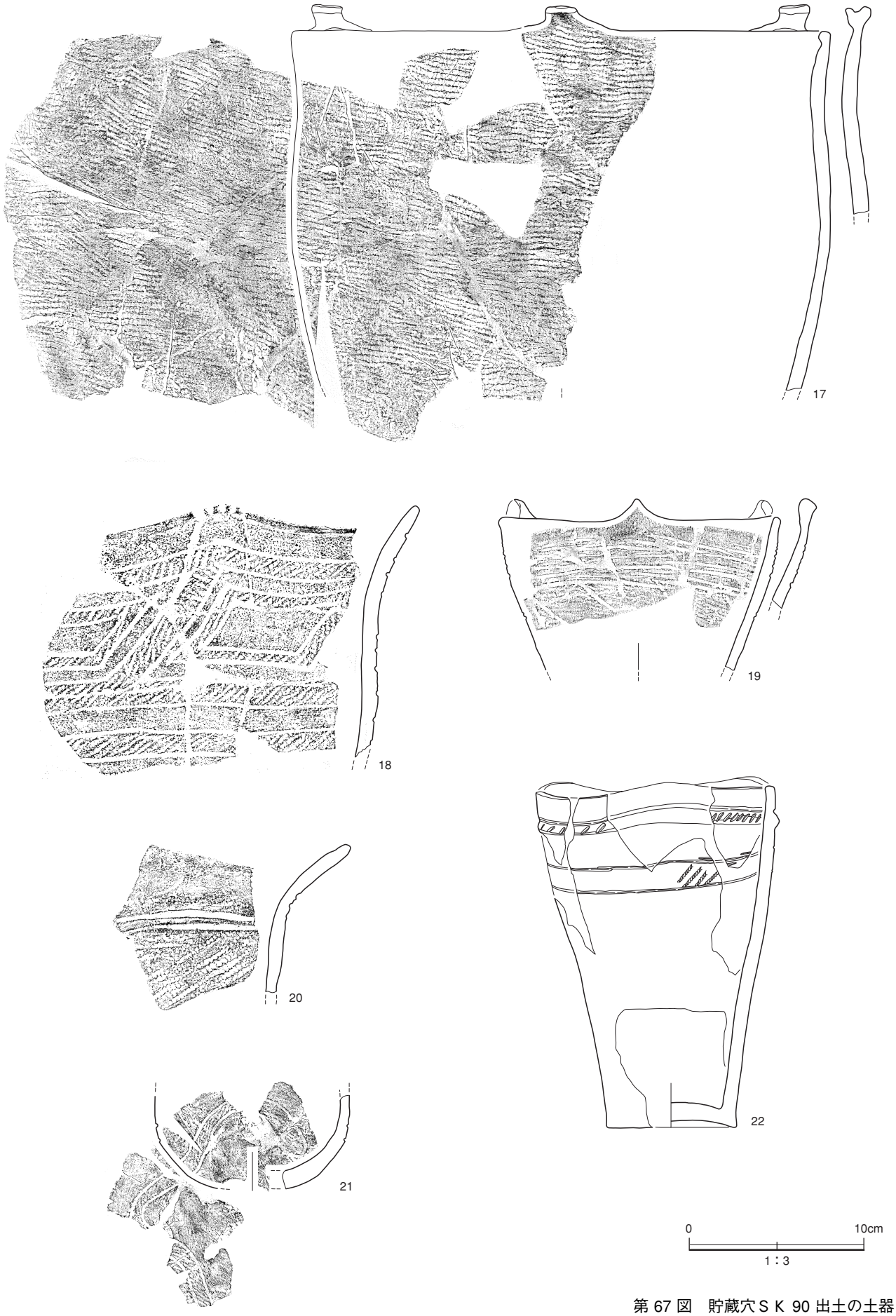


第 64 図　縄文土器分類図（縮尺は不同）

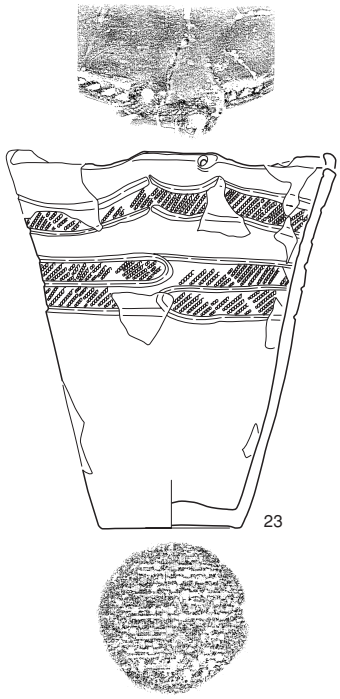
EL368	1
ST82	2
SB367(SP337)	3・4
SK61	5
SK89	6
SK104	7
SK141	8
SK209	9
SK28	10
SK72	11～13
SK76	14～16

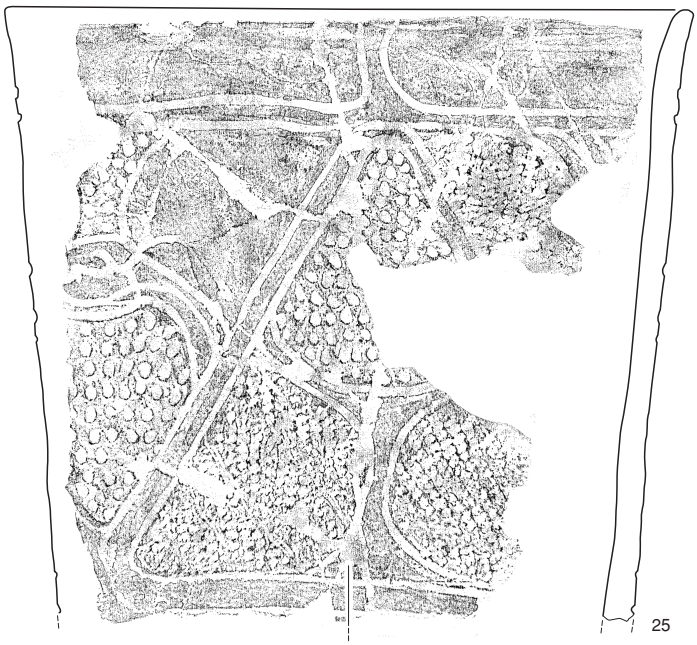
第 65 図　複式炉ＥＬ 368 ・竪穴住居ＳＴ 82 ・掘立柱建物ＳＢ 367 ・陥穴出土の土器

第 66 図　貯蔵穴ＳＫ 28 ・ 72 ・ 76 出土の土器

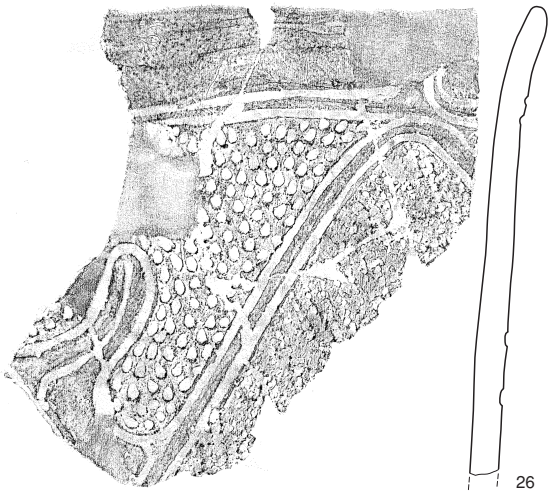


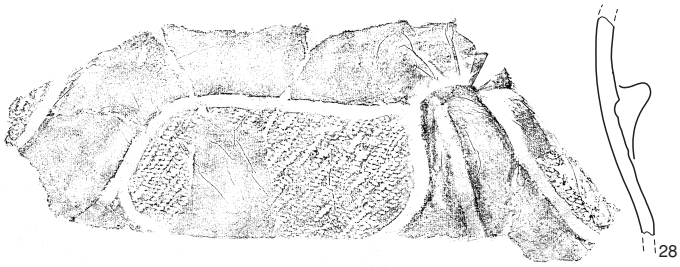
第 67 図　貯蔵穴ＳＫ 90 出土の土器





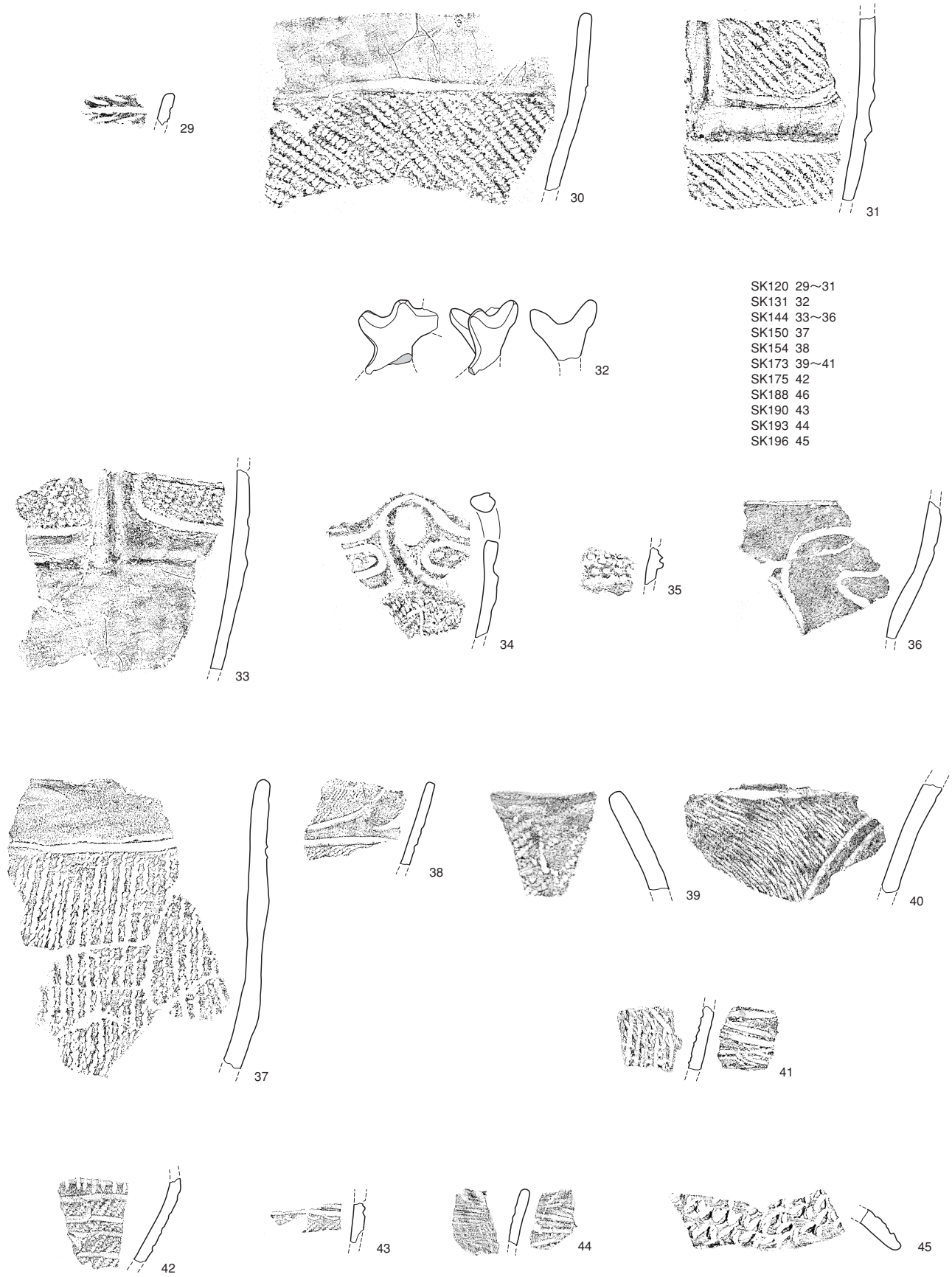
SK90　17～22
SK96　23
SK107　24～26
SK116　27
SK119　28



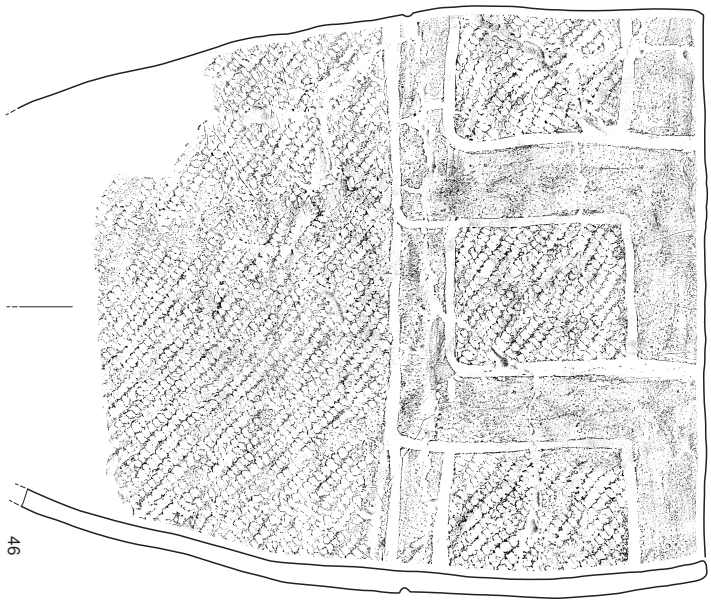


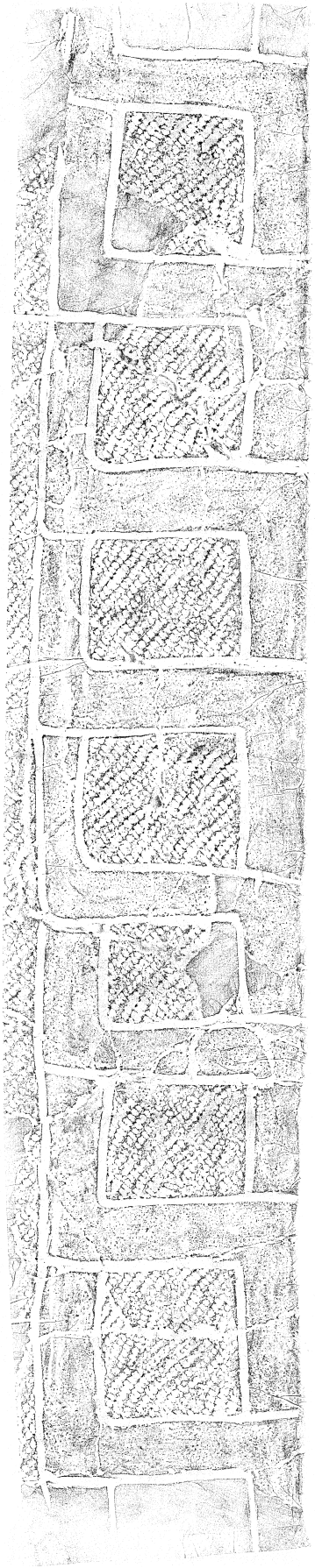
0　10cm
1：3

第 68 図　貯蔵穴ＳＫ 96 ・ 107 ・ 116 ・ 119 出土の土器



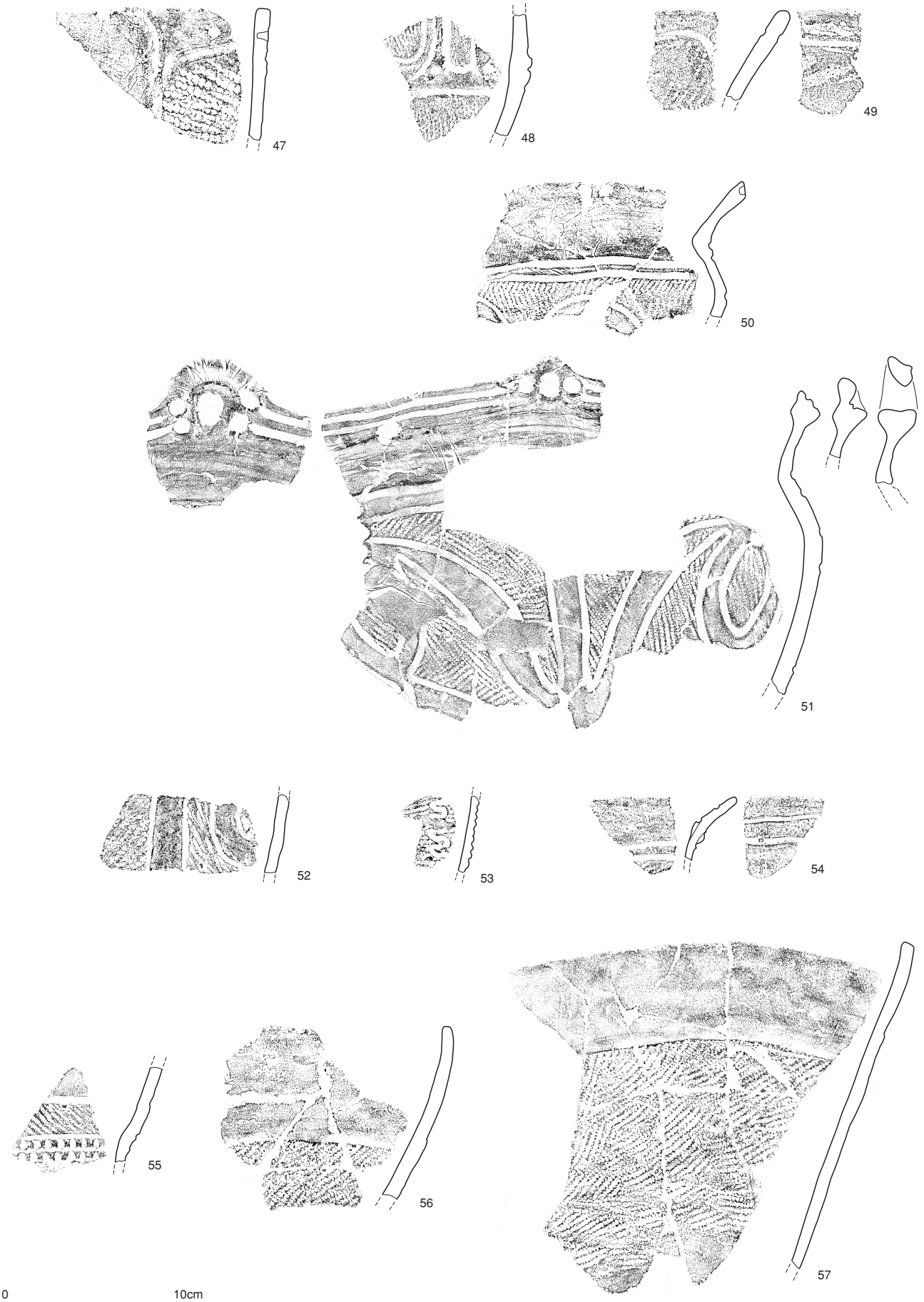
第 69 図　貯蔵穴ＳＫ 120 ・ 131 ・ 144 ・ 150 ・ 154 ・ 173 ・ 175 ・ 190 ・ 193 ・ 196 出土の土器



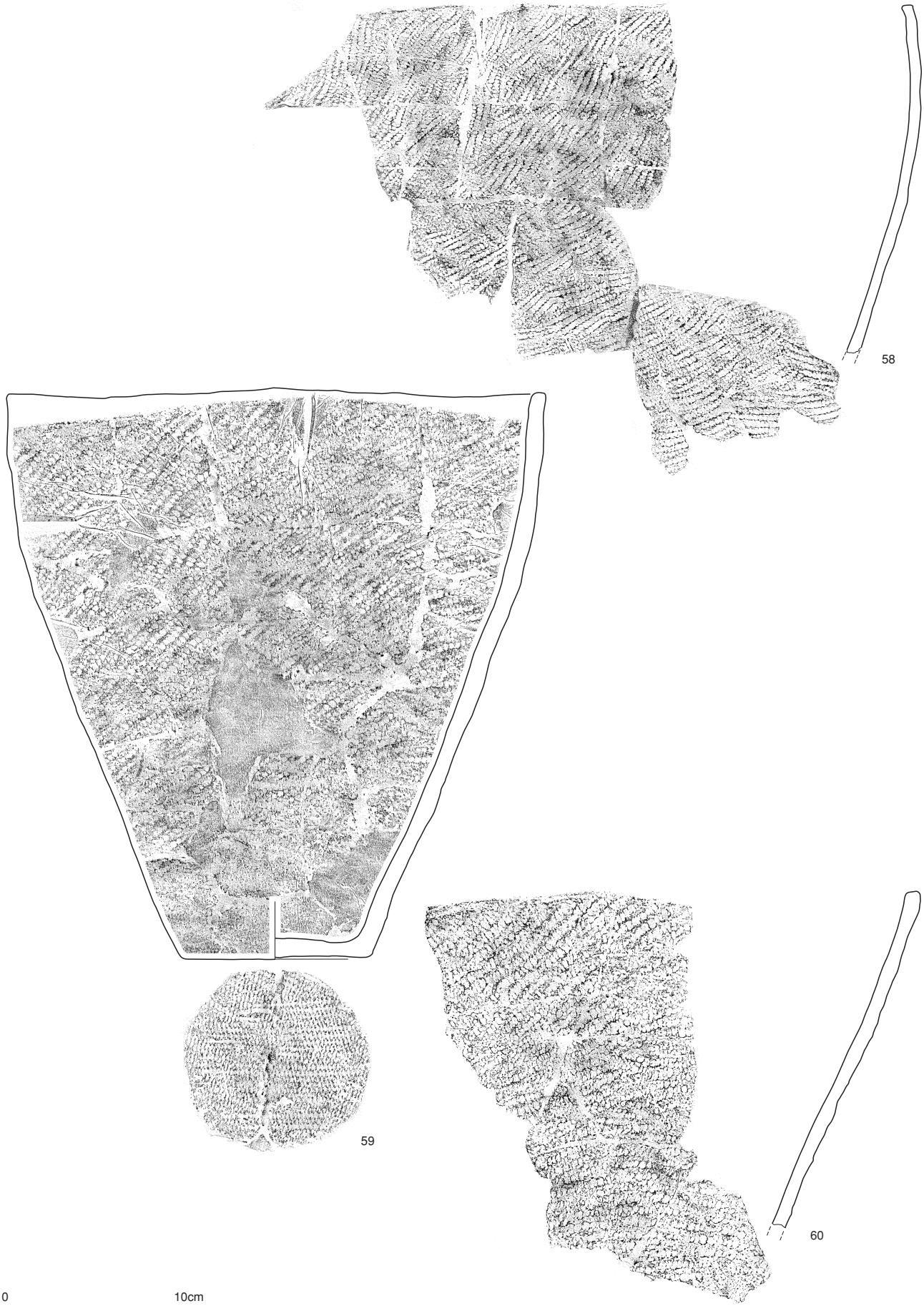


0　10cm
1：4

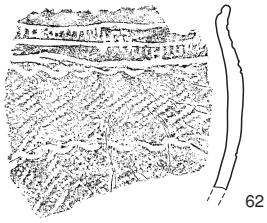
第 70 図　貯蔵穴ＳＫ 188 出土の土器

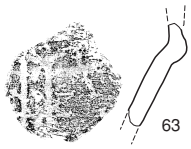


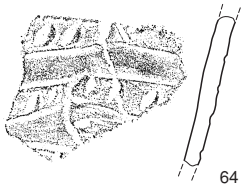
第 71 図　貯蔵穴ＳＫ 199 出土の土器



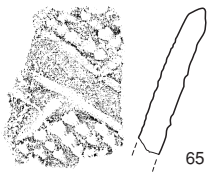
第 72 図　貯蔵穴ＳＫ 199 出土の土器

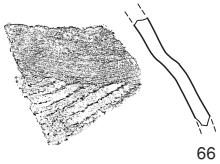


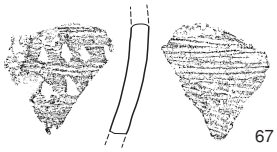


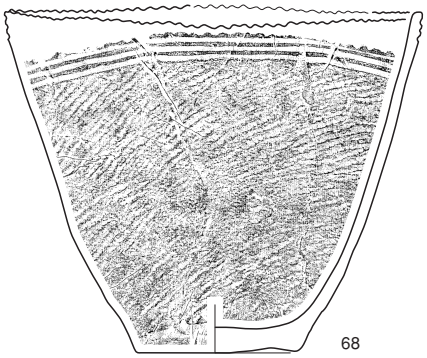


SK206 61・62
SK263 63
SK271 64
SK280 65
SK293 66
SK314 67・68
SK318 69
SK331 70～72
SK350 73～75
SK354 76・77



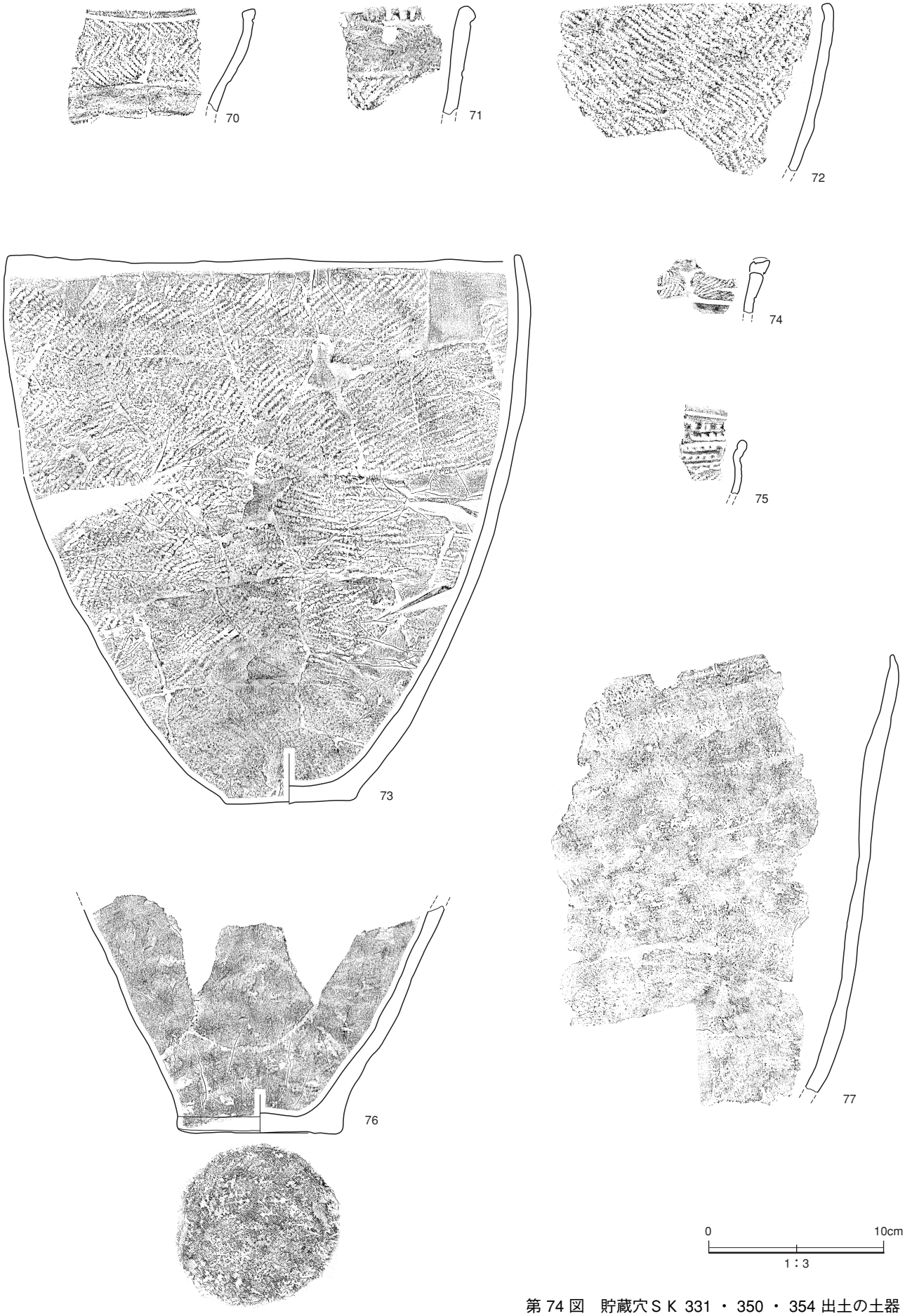




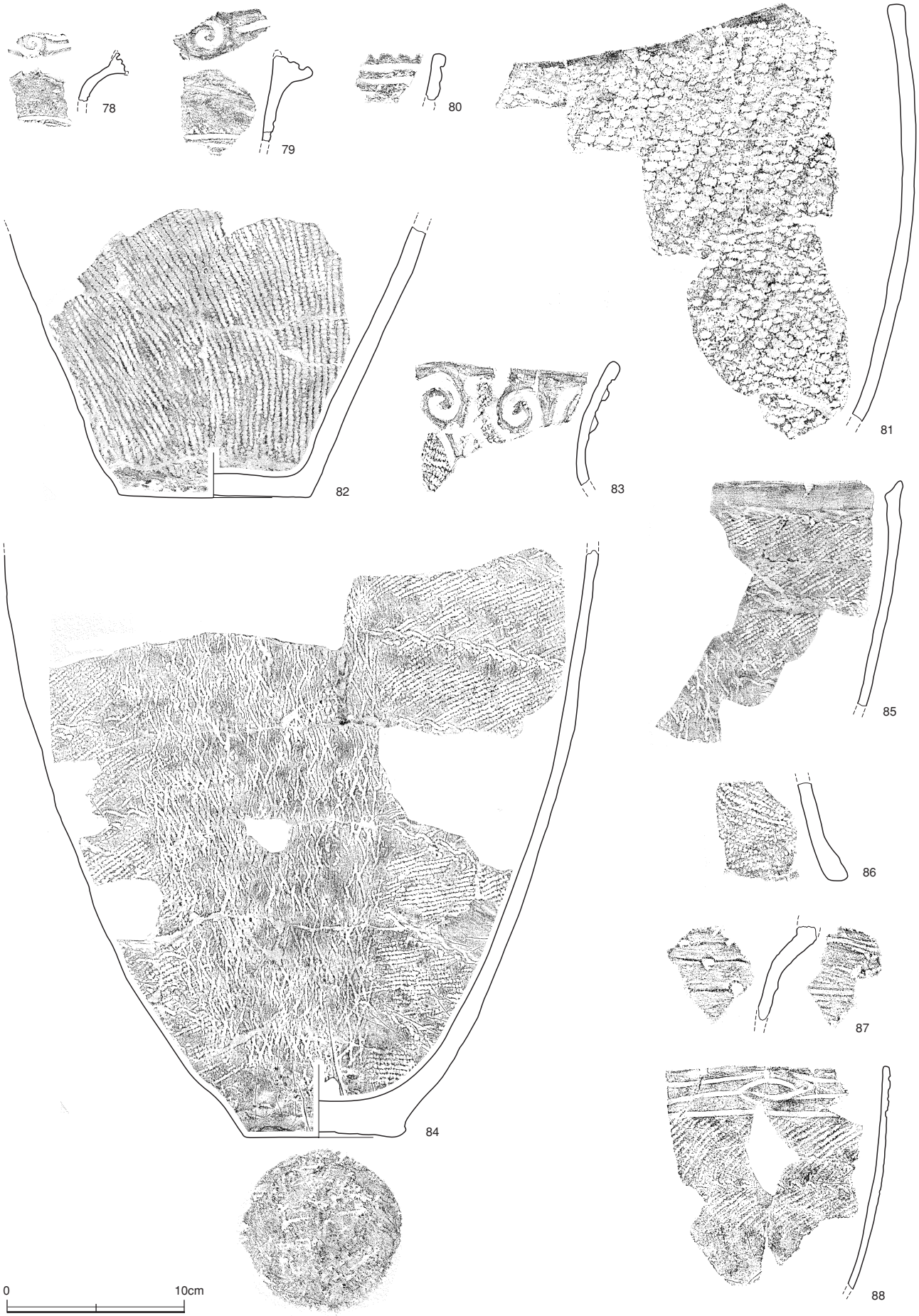


0 10cm
1：3

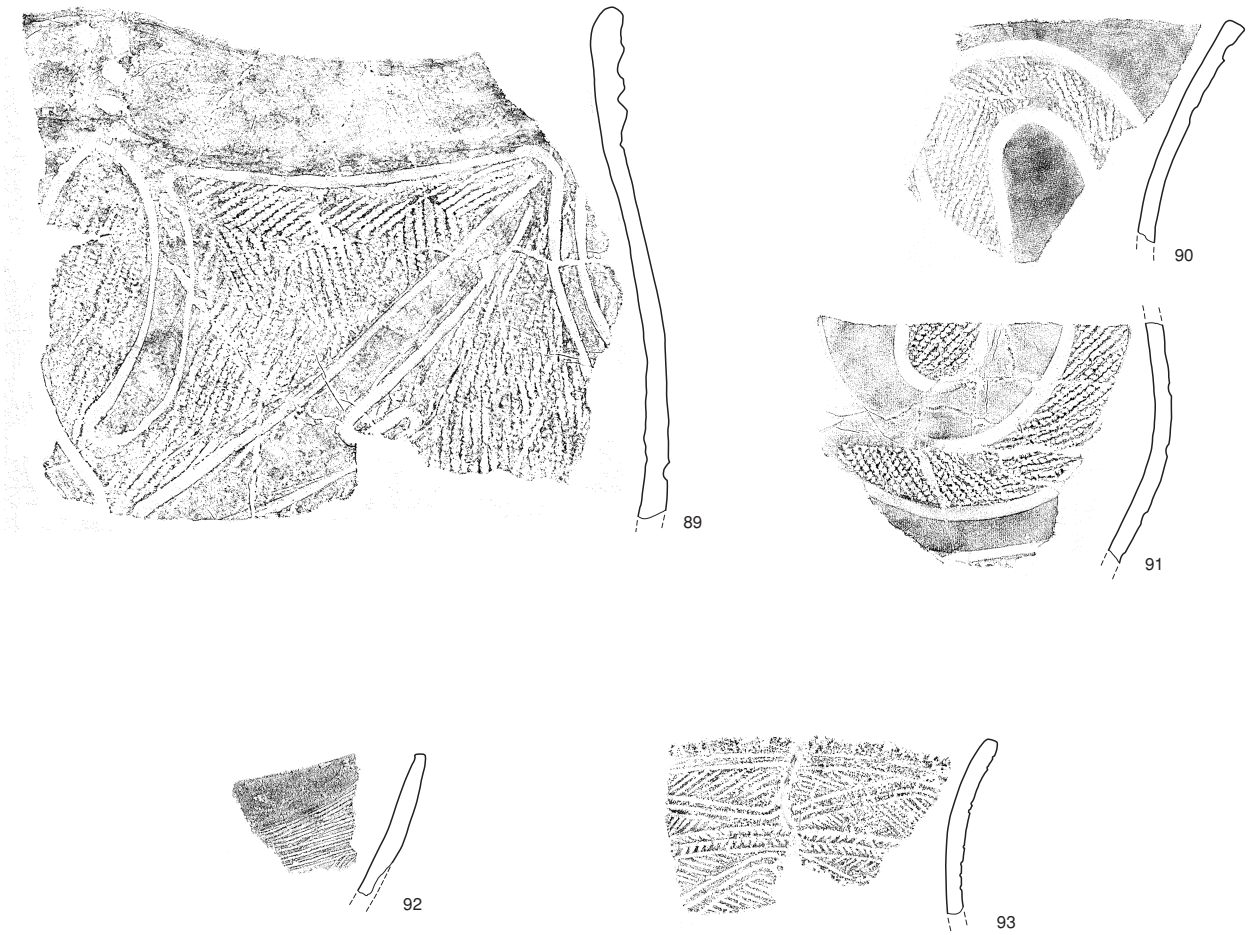
第 73 図　貯蔵穴ＳＫ 206 ・ 263 ・ 271 ・ 280 ・ 293 ・ 314 ・ 318 出土の土器



第 74 図　貯蔵穴ＳＫ 331 ・ 350 ・ 354 出土の土器



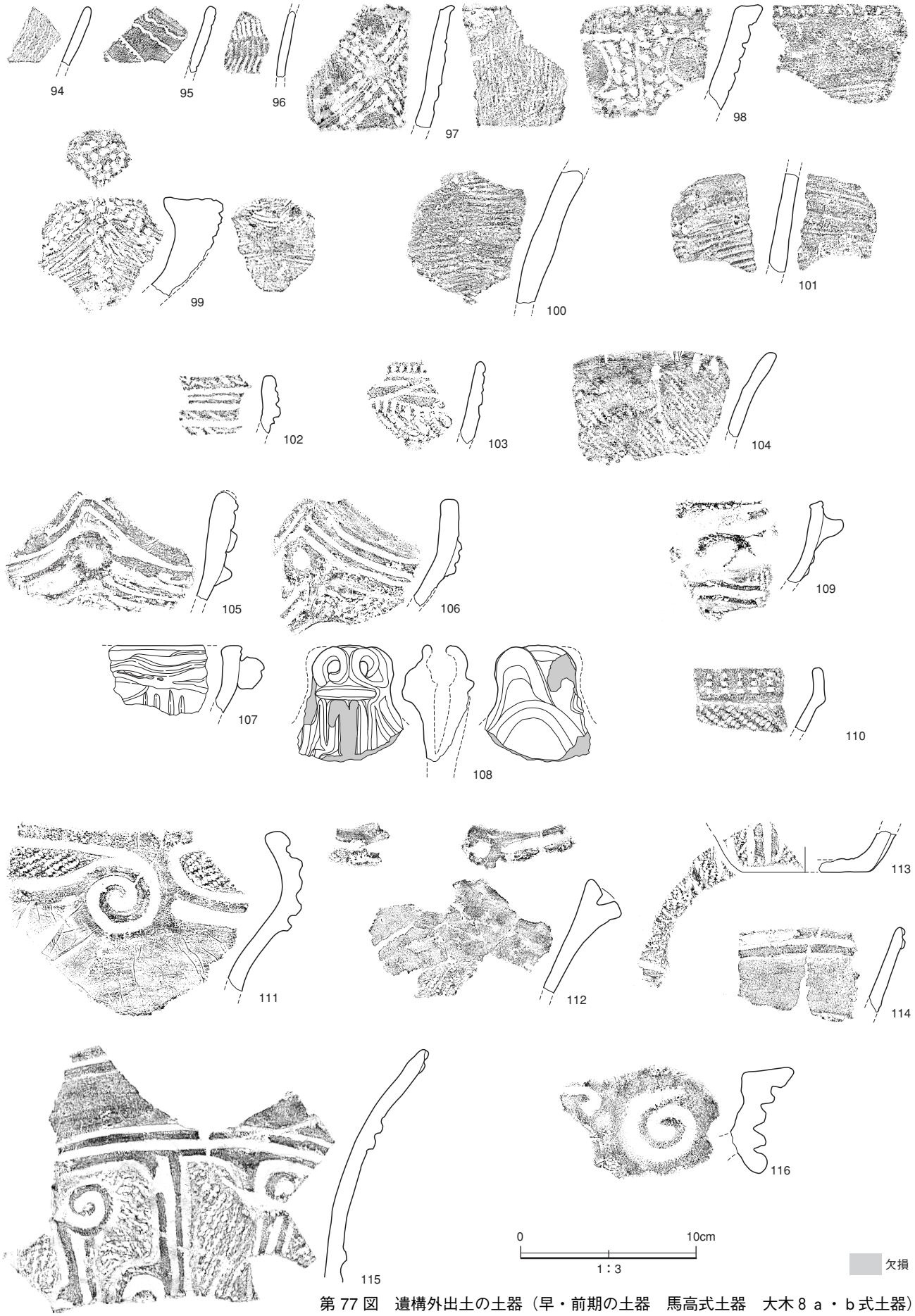
第 75 図　土坑ＳＫ３・４・40・160・212・222・229・316・323 出土の土器



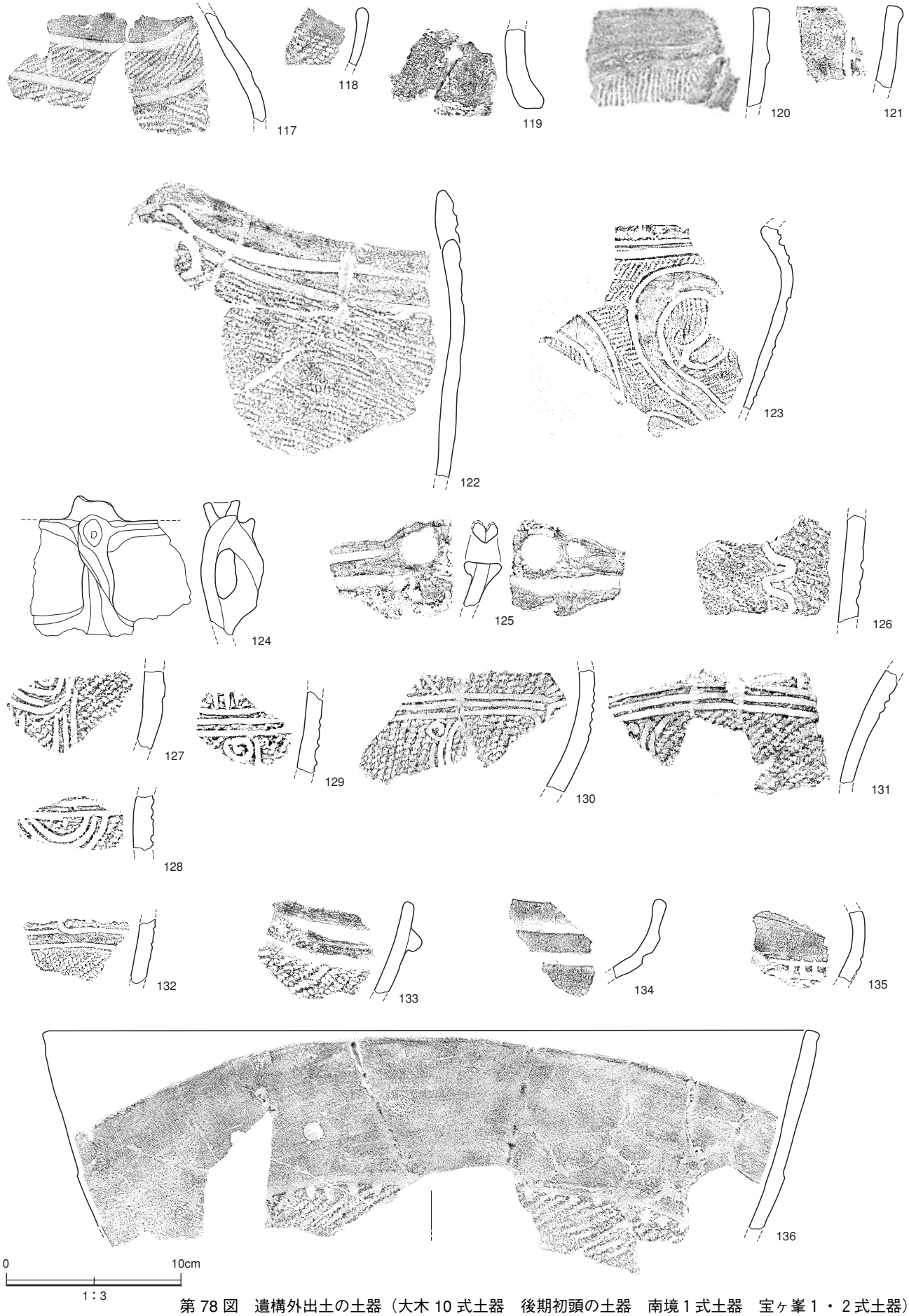
SK3　78
SK4　79
SK40　80
SK160　81
SK212　82・83
SK222　84・85
SK229　86
SK316　87
SK323　88
SP156　89
SP225　90・91
SP238　92
SX172　93

0　10cm
1：3

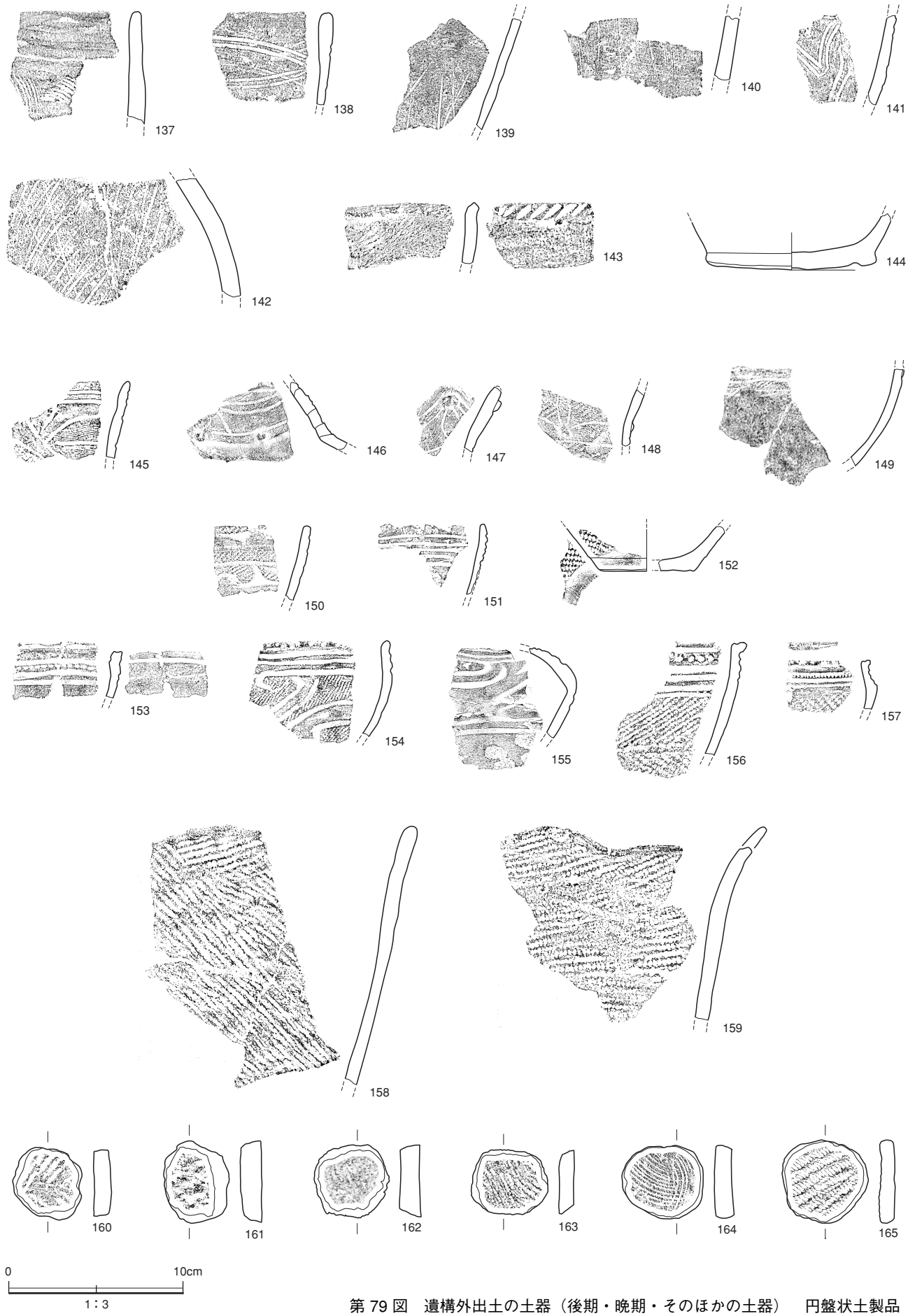
第 76 図　ピットＳＰ 156 ・ 225 ・ 238 ・倒木痕ＳＸ 172 出土の土器



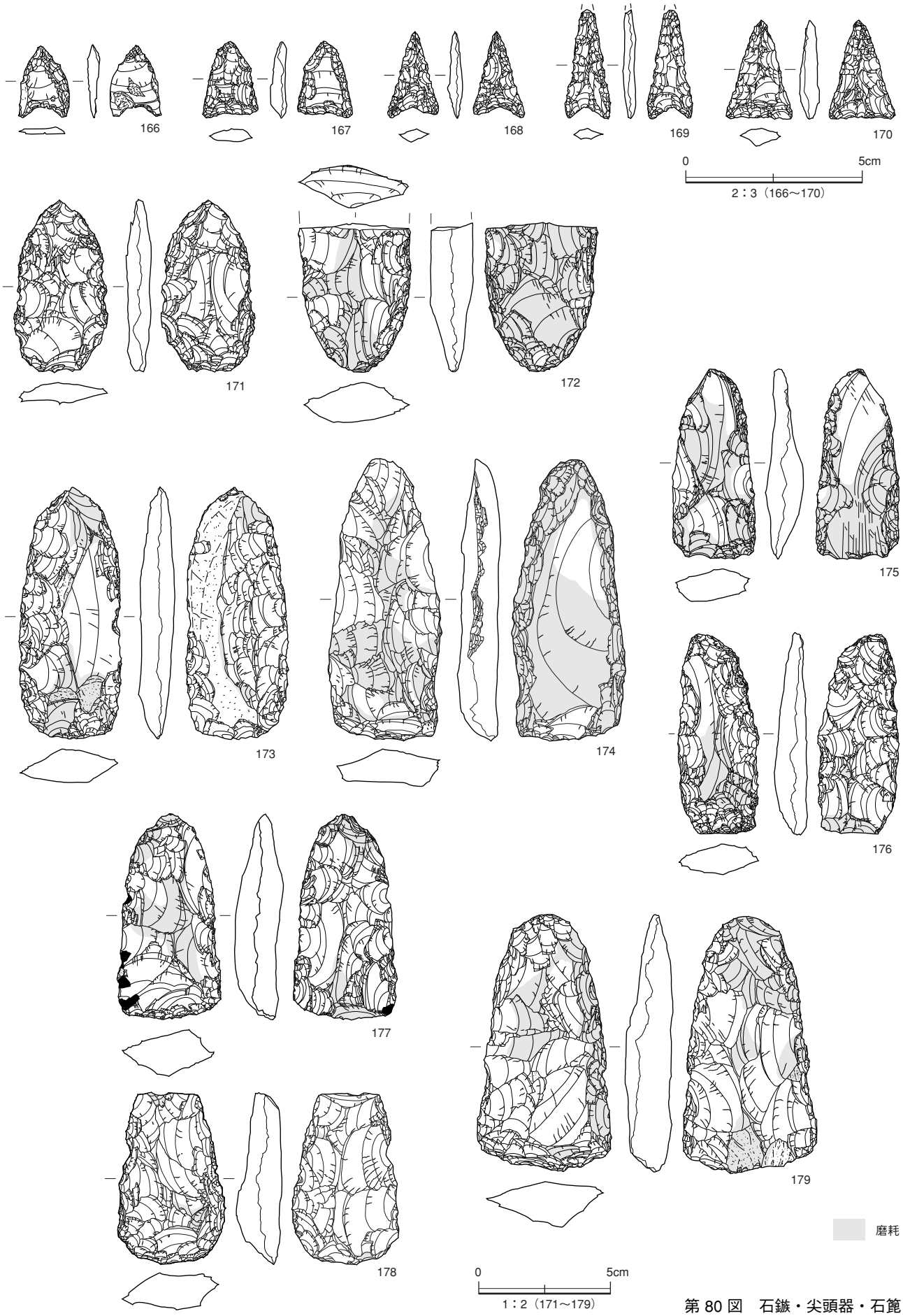
第 77 図　遺構外出土の土器（早・前期の土器　馬高式土器　大木８ａ・ｂ式土器）



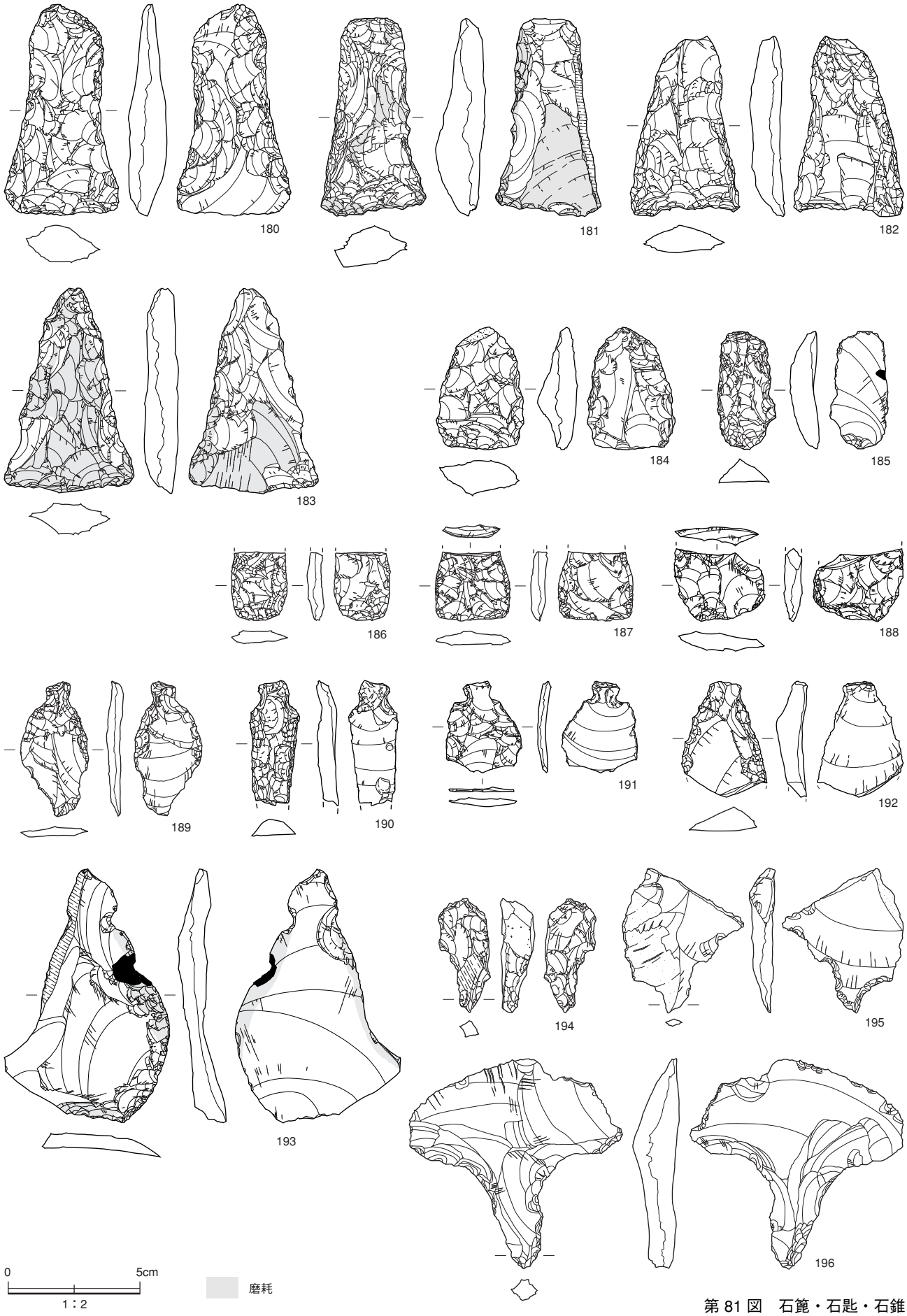
第 78 図　遺構外出土の土器（大木 10 式土器　後期初頭の土器　南境 1 式土器　宝ヶ峯 1 ・ 2 式土器）



第 79 図　遺構外出土の土器（後期・晩期・そのほかの土器）　円盤状土製品



第 80 図　石鏃・尖頭器・石篦

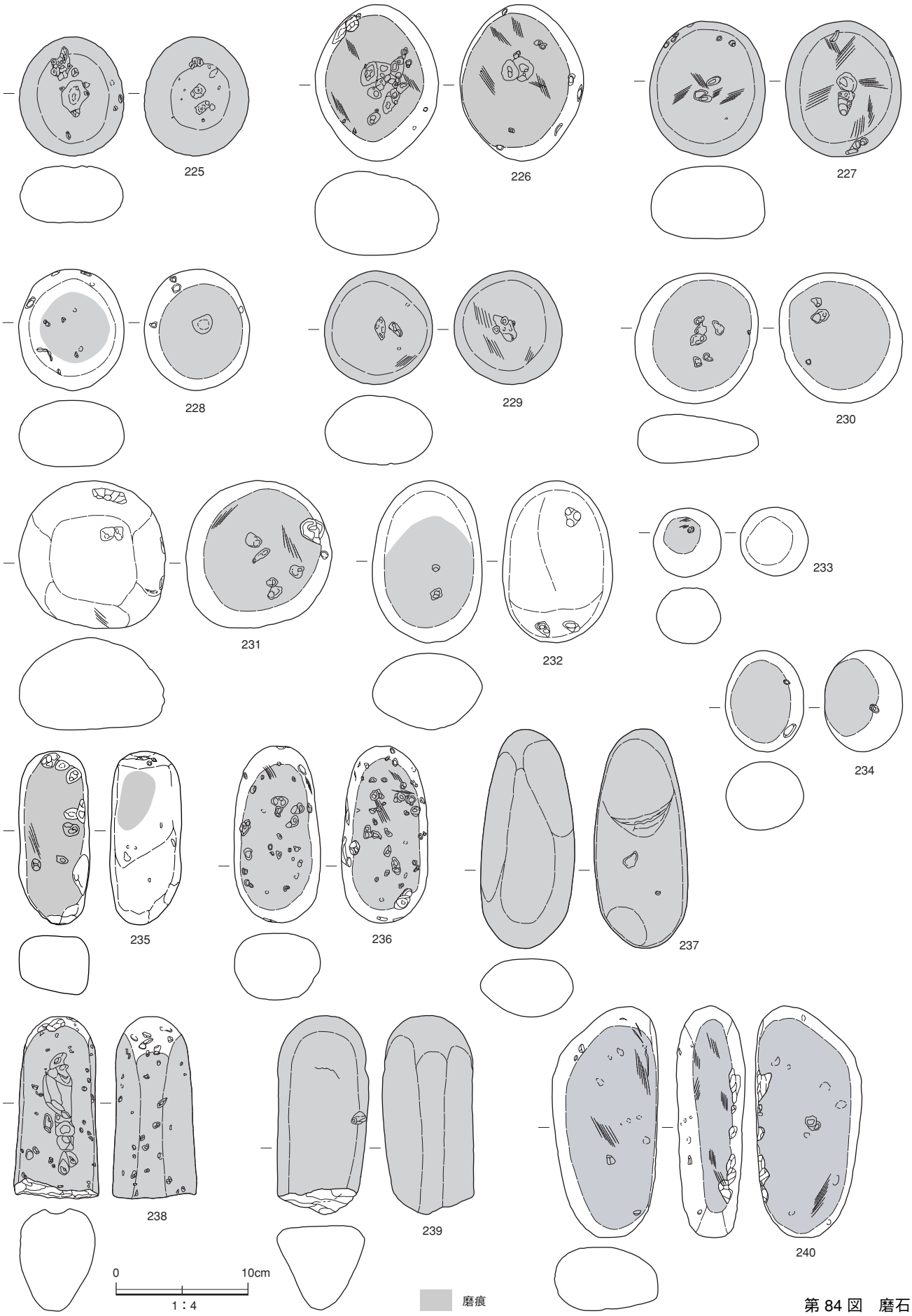

180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
0
5cm
1：2
磨耗

第 81 図　石篦・石匙・石錐

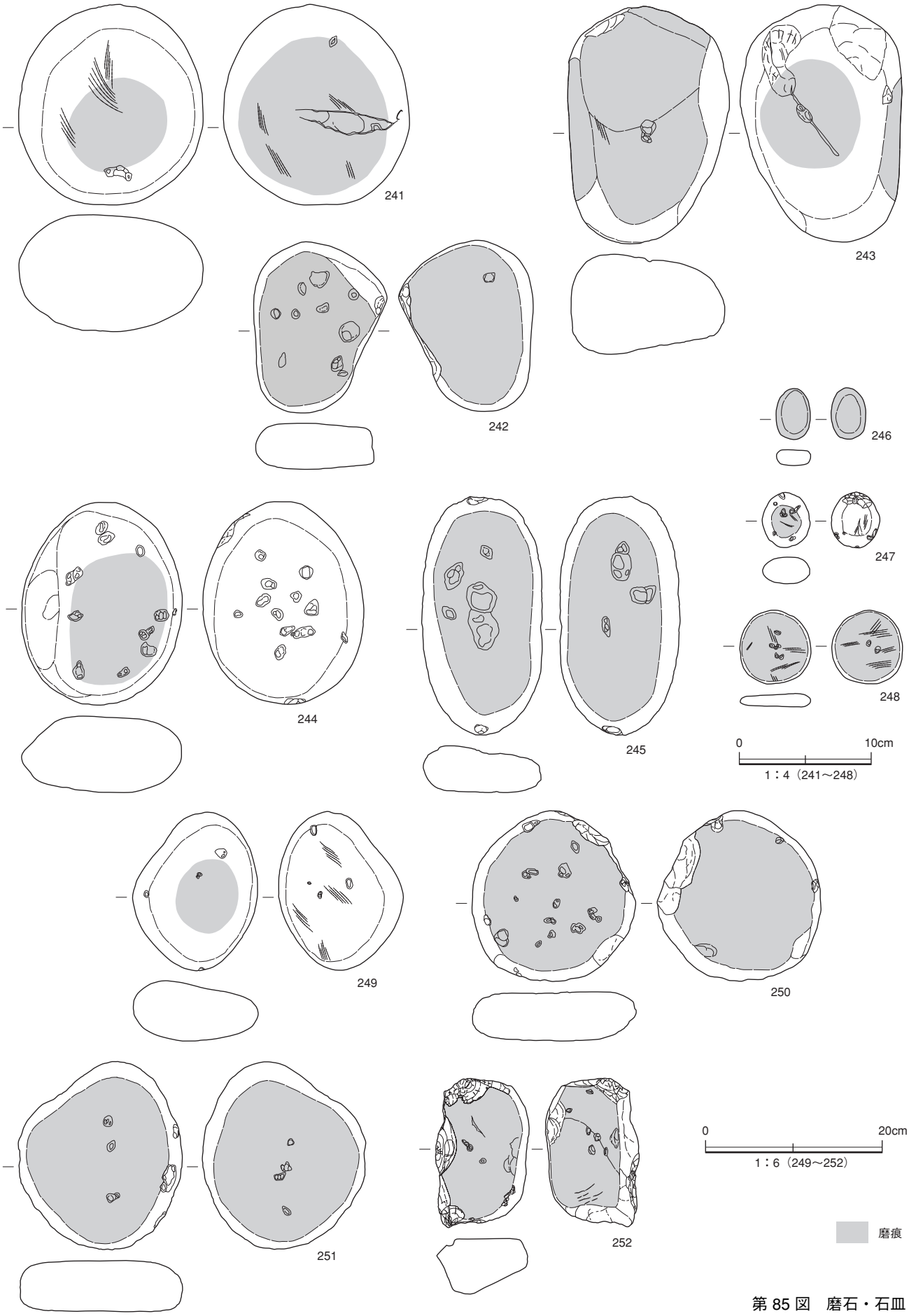
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
0
5cm
1：2

第 82 図　石錐・掻器・削器

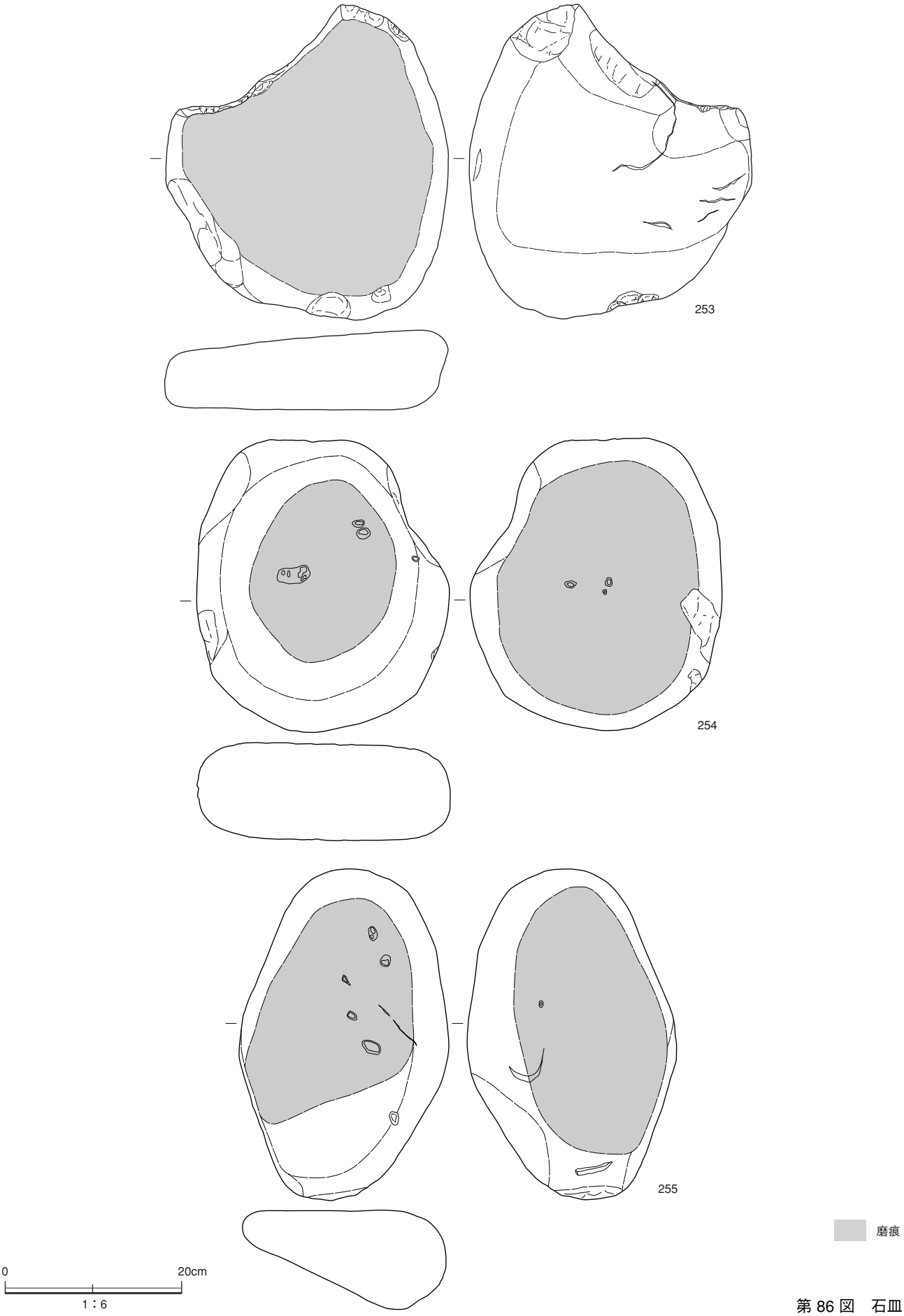
第 83 図　磨製石斧・スタンプ形石器・両面調整石器


225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
0
10cm
1：4
磨痕

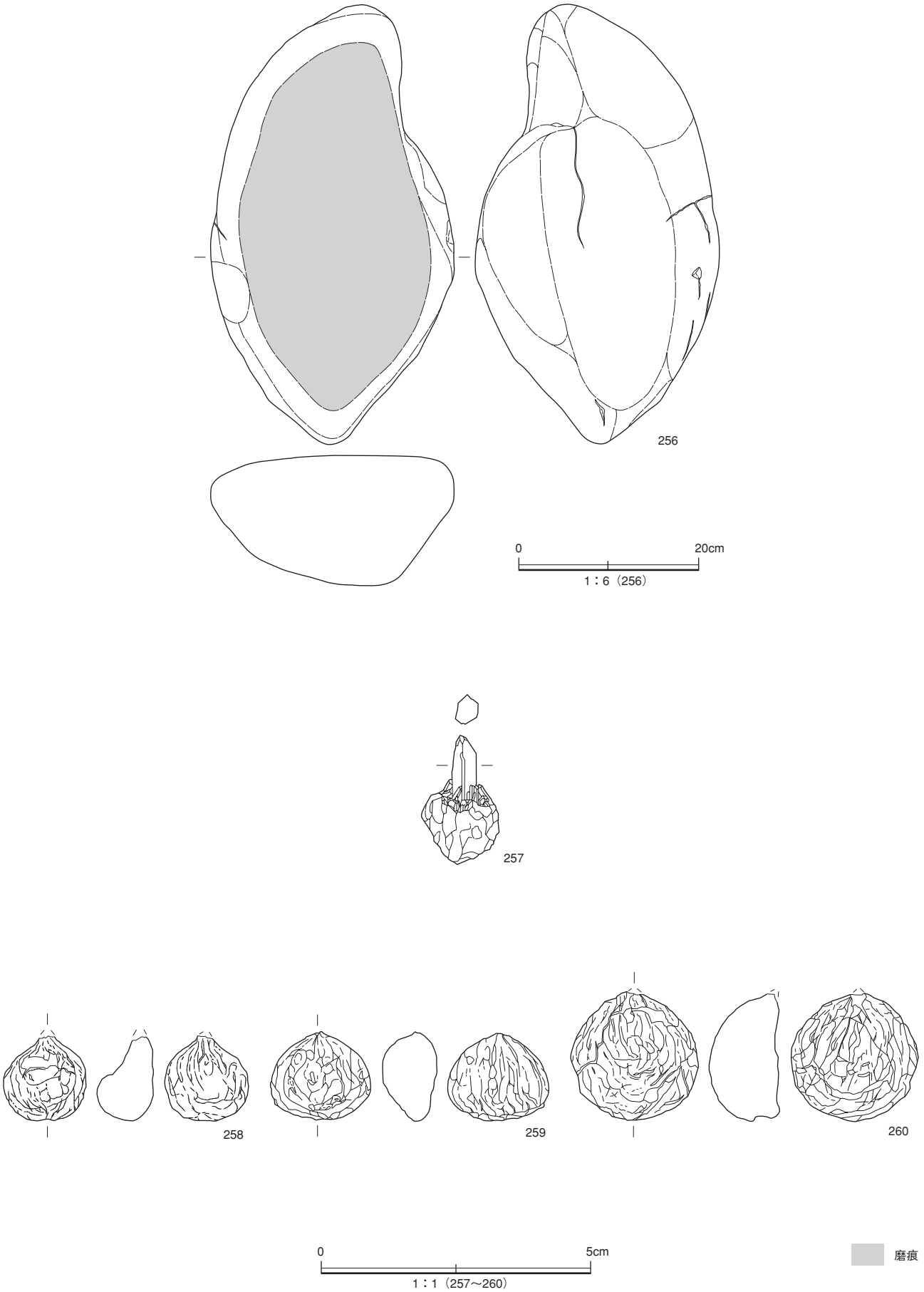
第 84 図　磨石


241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
0
10cm
1：4（241～248）
0
20cm
1：6（249～252）
磨痕

第 85 図　磨石・石皿



第 86 図　石皿



第 87 図　石皿・水晶・炭化したクリ

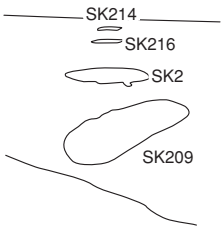
写真図版

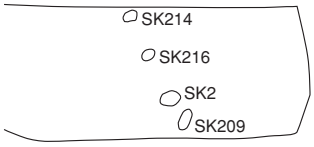
集石土坑ＳＫ 77

集石土坑ＳＫ 347

陷穴Ａ群（南西から）

陷穴Ａ群（上が北東）



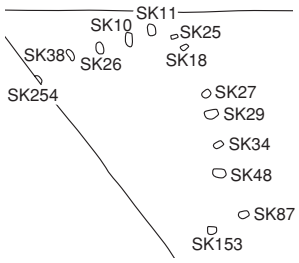


陷穴ＳＫ 214（西から）

陷穴ＳＫ 216（東から）

陷穴ＳＫ 2（西から）

陷穴ＳＫ 209（北東から）



陥穴Ｂ群（上が東）

陥穴ＳＫ 255（東から）

陥穴ＳＫ 254（東から）

陥穴ＳＫ 38（西から）

陥穴ＳＫ 26（西から）

陥穴ＳＫ 10（西から）

陥穴ＳＫ 11（西から）

陥穴ＳＫ 25（南から）

陥穴ＳＫ 18（南から）

陥穴ＳＫ 27（南から）

陥穴ＳＫ 29（南から）

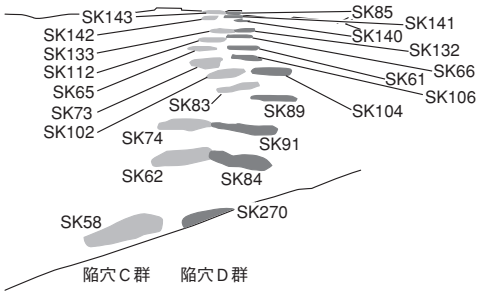
陥穴ＳＫ 34（南から）

陥穴ＳＫ 48（北から）

陥穴ＳＫ 153・91・貯蔵穴ＳＫ 90 断面
（北から）

陥穴ＳＫ 153（南西から）

陥穴ＳＫ 87（北から）


SK143
SK142
SK133
SK112
SK65
SK73
SK102
SK85
SK141
SK140
SK132
SK66
SK61
SK106
SK104
SK83
SK89
SK74
SK91
SK62
SK84
SK270
SK58
陥穴Ｃ群
陥穴Ｄ群

陥穴Ｃ・Ｄ群（北から）

陷穴Ｃ群

陷穴Ｃ・Ｄ群（上が北東）

陷穴ＳＫ 308・309 断面（南東から）

陷穴ＳＫ 308（東から）

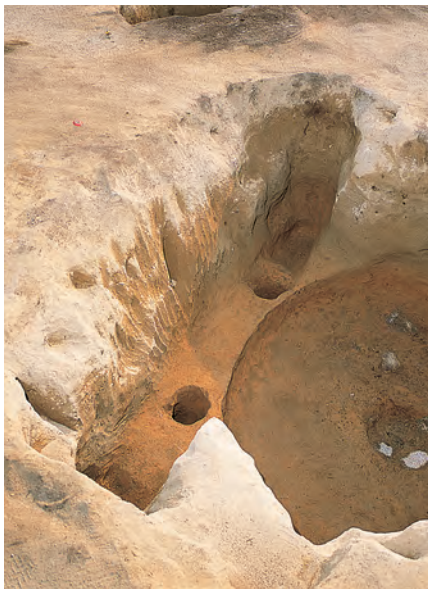
陷穴ＳＫ 58（東から）

陷穴ＳＫ 62（東から）

陷穴ＳＫ 74（東から）

陥穴ＳＫ 83（東から）

陥穴ＳＫ 102（東から）



陥穴ＳＫ 73（北東から）

陥穴ＳＫ 65（東から）

陥穴ＳＫ 112（東から）

陥穴ＳＫ 132・133 断面（西から）

陥穴ＳＫ 133（東から）

陥穴ＳＫ 142（東から）

陥穴ＳＫ 143（西から）

陥穴Ｄ群

陥穴ＳＫ 265（東から）

陥穴ＳＫ 266（西から）

陥穴ＳＫ 267（東から）

陥穴ＳＫ 268（東から）

陥穴ＳＫ 269（西から）

陥穴ＳＫ 309・貯蔵穴ＳＫ 307
（北西から）

陥穴ＳＫ 309・貯蔵穴ＳＫ 307 断面（北西から）

陥穴ＳＫ 270（南東から）

陥穴ＳＫ 84・62 断面（東から）

陥穴ＳＫ 84（南東から）

陥穴ＳＫ 91 断面（東から）

陥穴ＳＫ 89（東から）

陥穴ＳＫ 104（北東から）

陥穴ＳＫ 106・貯蔵穴ＳＫ 107 断面（南東から）

陥穴ＳＫ 106（東から）

陥穴ＳＫ 61（西から）

陥穴ＳＫ 66（南東から）

陥穴ＳＫ 132（西から）

陥穴ＳＫ 140（東から）

陥穴ＳＫ 141（東から）

陥穴ＳＫ 85 断面（東から）

陥穴ＳＫ 85（東から）

陥穴Ｅ群

陥穴ＳＫ 69（南西から）

陥穴ＳＫ 213 断面（北西から）

貯蔵穴

貯蔵穴ＳＫ９（北から）

貯蔵穴ＳＫ28（南西から）

貯蔵穴ＳＫ33断面（南から）

貯蔵穴ＳＫ39断面（南東から）

貯蔵穴ＳＫ39（南から）

貯蔵穴ＳＫ70・複式炉ＥＬ368断面（南西から）

貯蔵穴ＳＫ72・陥穴ＳＫ73断面（南西から）

貯蔵穴ＳＫ72・陥穴ＳＫ73（東から）

貯蔵穴ＳＫ 76（北から）

貯蔵穴ＳＫ 79（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 86 断面（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 86（東から）

貯蔵穴ＳＫ 90 断面（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 90　遺物出土状況（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 95 断面（南から）

貯蔵穴ＳＫ 96（南から）

貯蔵穴ＳＫ 98（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 99（南から）

貯蔵穴ＳＫ 101 断面（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 107（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 117 断面（南から）

貯蔵穴ＳＫ 117（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 119 断面（北から）

貯蔵穴ＳＫ 119・集石土坑ＳＫ 165 断面（東から）

貯蔵穴ＳＫ 119・集石土坑ＳＫ 165（北西から）

貯蔵穴ＳＫ 120（北から）

貯蔵穴ＳＫ 193（北から）

貯蔵穴ＳＫ 126 断面（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 137 断面（南から）

貯蔵穴ＳＫ 145（南から）

貯蔵穴ＳＫ 152 断面（南から）

貯蔵穴ＳＫ 170（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 174（東から）

貯蔵穴ＳＫ 175・土坑ＳＫ 176 断面（東から）

貯蔵穴ＳＫ 175（東から）

土坑ＳＫ 176（南から）

貯蔵穴ＳＫ 183（東から）

貯蔵穴群断面　第 43 図ｂ－ｂ’（北西から）

土坑ＳＫ 109（東から）

貯蔵穴ＳＫ 116 断面（北西から）

貯蔵穴ＳＫ 131 断面（北から）

貯蔵穴ＳＫ 150 断面（北西から）

貯蔵穴ＳＫ 150（北西から）

貯蔵穴ＳＫ 154 断面（北西から）

貯蔵穴ＳＫ 167・369（北東から）

貯蔵穴ＳＫ 173・180 断面（東から）

貯蔵穴ＳＫ 173（北西から）

貯蔵穴ＳＫ 180（東から）

土坑ＳＫ 184・貯蔵穴ＳＫ 116 断面（南東から）

第 43 図の貯蔵穴群完掘（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 80・144・186・199 断面　第 39 図ａ－ａ’
（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 80（西から）

貯蔵穴ＳＫ 144 断面（東から）

貯蔵穴ＳＫ 144（東から）

貯蔵穴ＳＫ 186 断面（西から）

貯蔵穴ＳＫ 186（西から）

貯蔵穴ＳＫ 199 断面（北東から）

貯蔵穴ＳＫ 199（北東から）

石囲炉ＥＬ 177（北西から）

石囲炉ＥＬ 177・貯蔵穴ＳＫ 188・土坑ＳＫ 187 断面（北西から）

貯蔵穴ＳＫ 188・370 遺物出土状況（北東から）

貯蔵穴ＳＫ 188・370（北西から）

貯蔵穴ＳＫ 190（東から）

貯蔵穴ＳＫ 194 断面（東から）

貯蔵穴ＳＫ 196 断面（東から）

貯蔵穴ＳＫ 196（東から）

貯蔵穴ＳＫ 206 遺物出土状況（南から）

貯蔵穴ＳＫ 206（北から）

貯蔵穴ＳＫ 207 断面（南から）

貯蔵穴ＳＫ 207（東から）

貯蔵穴ＳＫ 256（北から）

貯蔵穴ＳＫ 257 断面（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 257（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 258（北西から）

貯蔵穴ＳＫ 259 断面（南から）

貯蔵穴ＳＫ 259（西から）

貯蔵穴ＳＫ 262（東から）

貯蔵穴ＳＫ 263 断面（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 263（東から）

貯蔵穴ＳＫ 264（北から）

貯蔵穴ＳＫ 271 断面（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 271（北から）

貯蔵穴ＳＫ 275 断面（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 275（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 276 断面（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 276（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 278・279 断面（北東から）

貯蔵穴ＳＫ 278・279（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 282 断面（北から）

貯蔵穴ＳＫ 282（北西から）

貯蔵穴ＳＫ 286 断面（南から）

貯蔵穴ＳＫ 280・281 断面（南から）

貯蔵穴ＳＫ 280・281（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 287・288 断面（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 287・288（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 289 断面（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 289（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 291 断面（南西から）

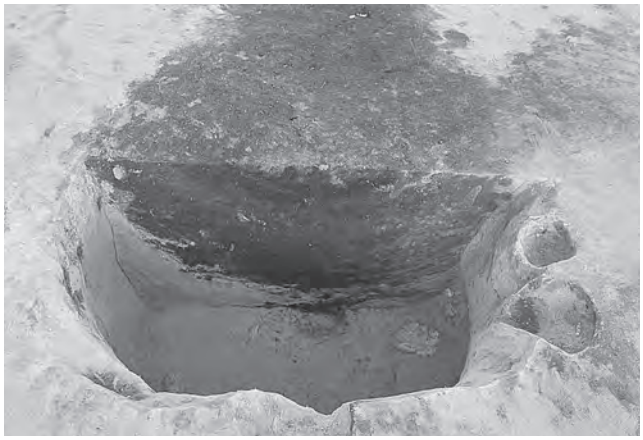
貯蔵穴ＳＫ 291（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 293 断面（北から）

貯蔵穴ＳＫ 293（南から）

貯蔵穴ＳＫ 295 断面（南から）

貯蔵穴ＳＫ 295（北から）



貯蔵穴ＳＫ 307 断面（西から）

貯蔵穴ＳＫ 307（南から）

貯蔵穴ＳＫ 311 断面（北西から）

貯蔵穴ＳＫ 311（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 312 断面（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 312（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 314 断面（東から）

深鉢 22 出土状況　貯蔵穴ＳＫ 314（南から）

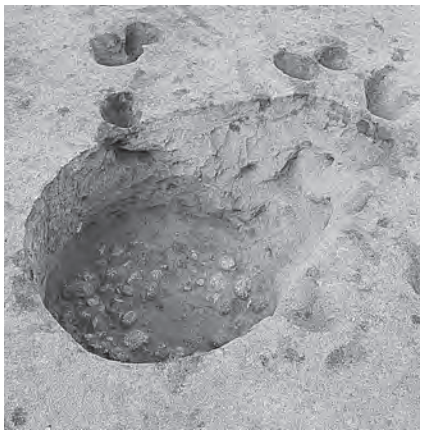
貯蔵穴ＳＫ 314（南から）

貯蔵穴ＳＫ 318 断面（西から）

貯蔵穴ＳＫ 324・325 断面（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 324・325（北から）

貯蔵穴ＳＫ 326 断面（東から）



貯蔵穴ＳＫ 326（南から）

貯蔵穴ＳＫ 331 断面（南から）

貯蔵穴ＳＫ 334 断面（南西から）

貯蔵穴ＳＫ 334（南から）

貯蔵穴ＳＫ 335（西から）

貯蔵穴ＳＫ 336 断面（南西から）

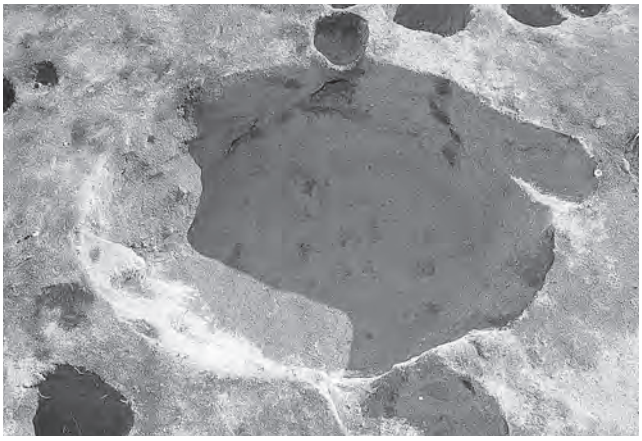
貯蔵穴ＳＫ 343 断面（北東から）

貯蔵穴ＳＫ 343（北西から）

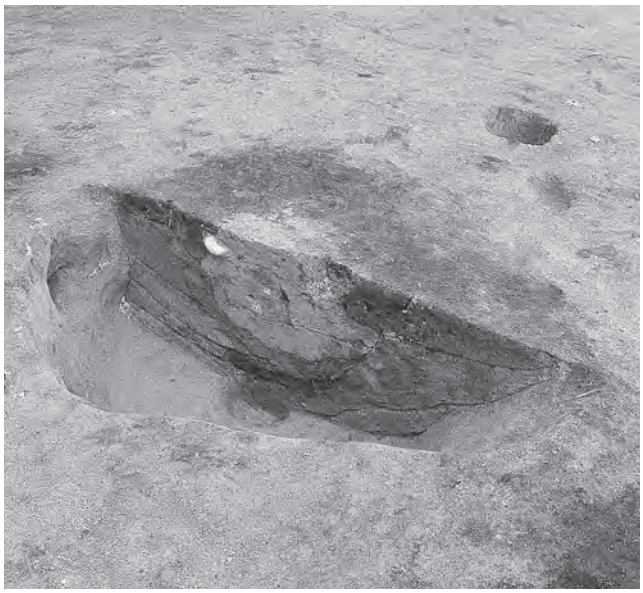
貯蔵穴ＳＫ 349 断面（南東から）

貯蔵穴ＳＫ 349（南から）

貯蔵穴ＳＫ 350 断面（東から）



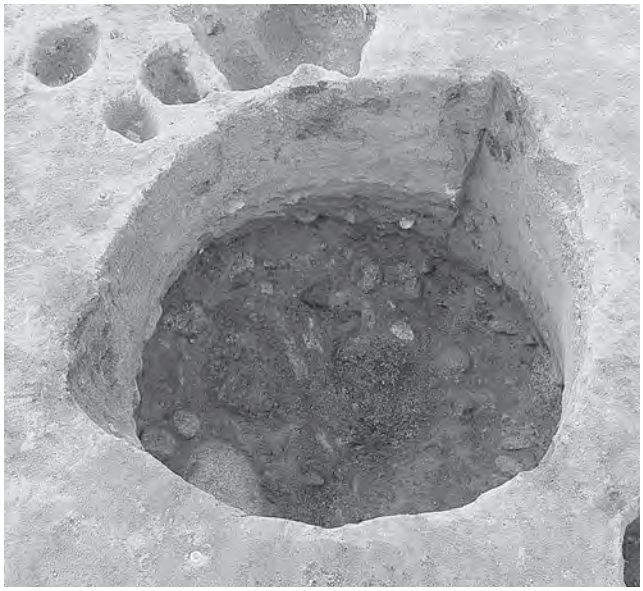
貯蔵穴ＳＫ 350（北西から）



貯蔵穴ＳＫ 351 断面（南から）

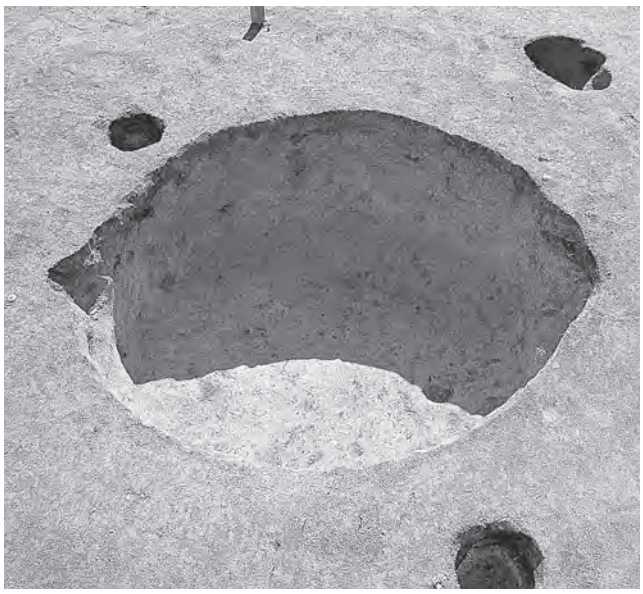
貯蔵穴ＳＫ 351（北東から）

貯蔵穴ＳＫ 352 断面（北西から）



貯蔵穴ＳＫ 352（東から）

貯蔵穴ＳＫ 354 断面（東から）



貯蔵穴ＳＫ 354（北から）

貯蔵穴ＳＫ 355 断面（東から）

貯蔵穴ＳＫ 355（北から）

貯蔵穴ＳＫ 364 断面（北西から）

貯蔵穴ＳＫ 364（西から）

貯蔵穴ＳＫ 365 断面（北から）

貯蔵穴ＳＫ 365（北から）

そのほかの土坑

土坑ＳＫ３断面（南から）

土坑ＳＫ６断面（南東から）

土坑ＳＫ32断面（南東から）

土坑ＳＫ32（東から）

土坑ＳＫ37断面（北から）

土坑ＳＫ64断面（南から）

土坑ＳＫ68断面（南から）

土坑ＳＫ75断面（南東から）

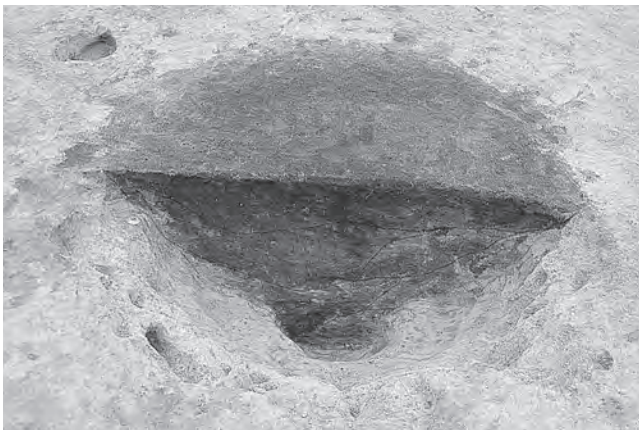
土坑ＳＫ253（南から）

土坑ＳＫ274断面（南から）

土坑ＳＫ320断面（南東から）

土坑ＳＫ330断面（南から）

土坑ＳＫ 357 断面（南東から）



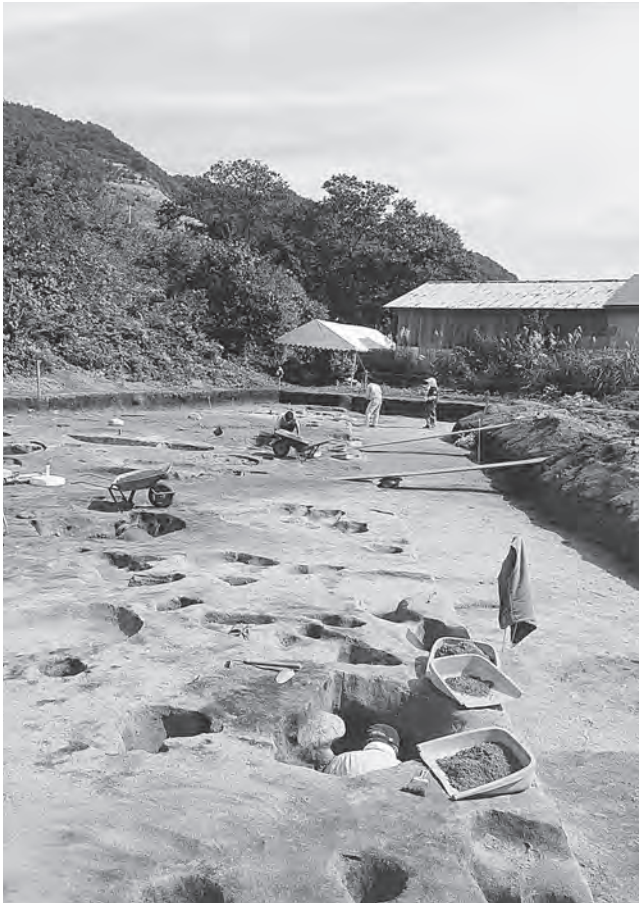
土坑ＳＫ 35 断面（南から）

土坑ＳＫ 35（北西から）

土坑ＳＫ 210 断面（南から）

土坑ＳＫ 210（南西から）

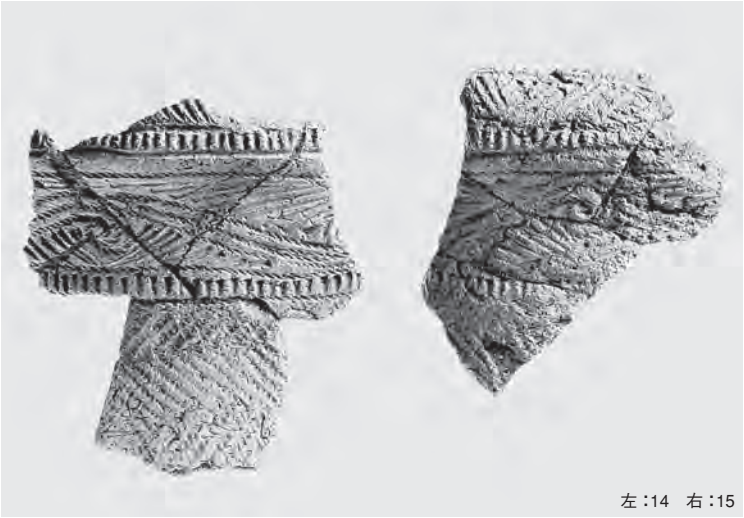
土坑ＳＫ 219 断面（南西から）



貯蔵穴調査状況（西から）

ST82	2
SK61	5
SK89	6
SK104	7
SK141	8
SK209	9
SK28	10
SK72	12・13

竪穴住居ＳＴ 82　陥穴ＳＫ 61・89・104・141・209　貯蔵穴ＳＫ 28・72



左：14　右：15

17

左：18　右上：20　右下：21

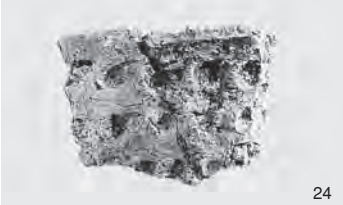
19

22

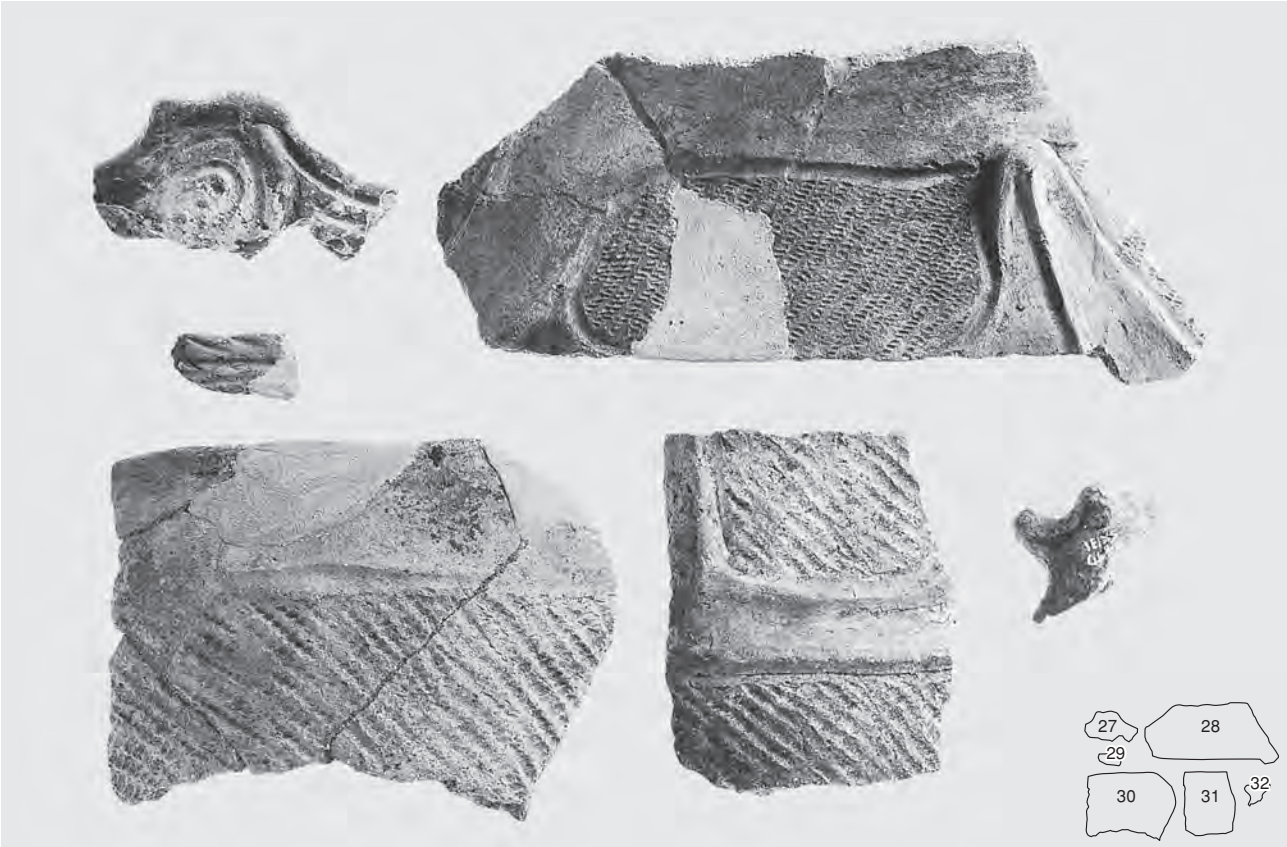
23

貯蔵穴ＳＫ 76・90・96

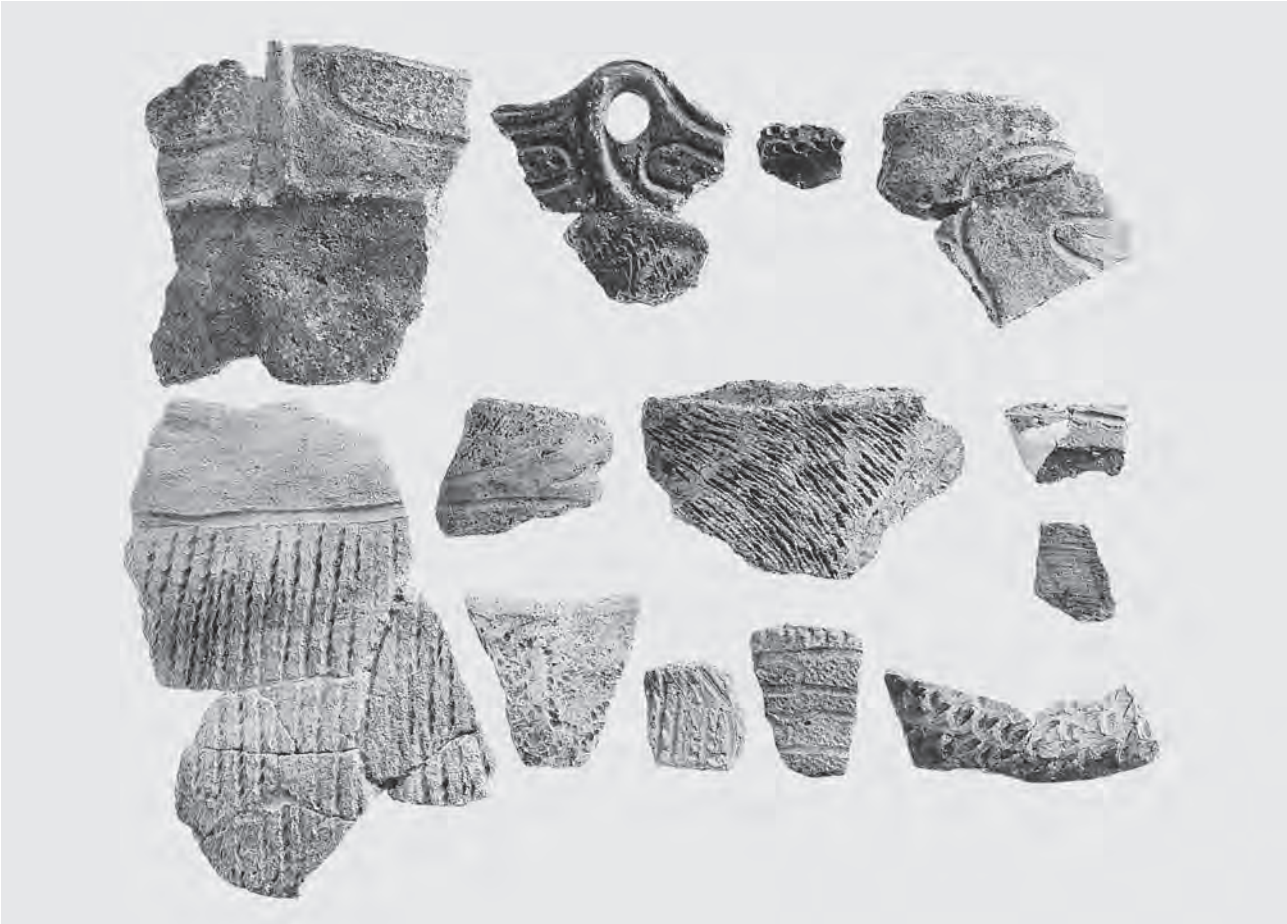
SK76　14・15
SK90　17～22
SK96　23
SK107　24～26
SK116　27
SK119　28
SK120　29～31
SK131　32


24

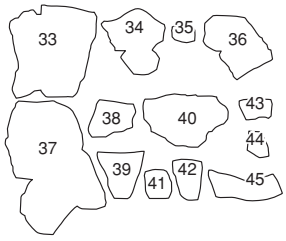
左：25　右：26



貯蔵穴ＳＫ 017・116・119・120・131

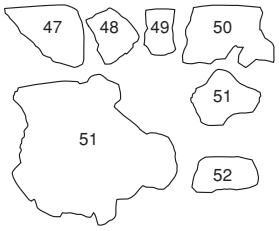


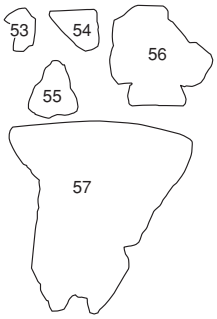
46



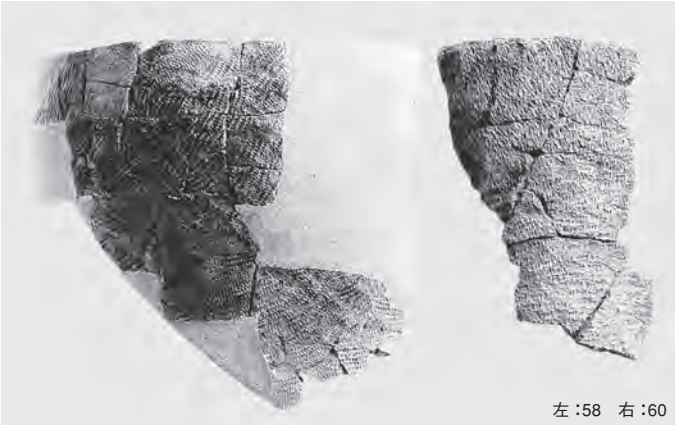
SK144	33～36
SK150	37
SK154	38
SK173	39～41
SK175	42
SK188	46
SK190	43
SK193	44
SK196	45

貯蔵穴ＳＫ 144・150・154・173・175
188・190・193・196





貯蔵穴ＳＫ 199



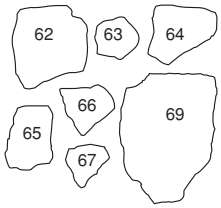
左：58　右：60

59

61

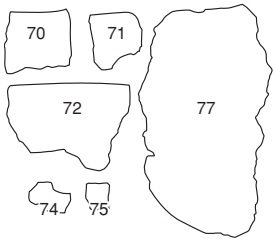
68

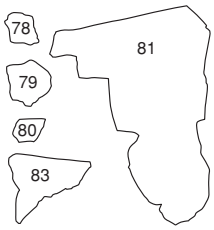
SK199　58 ～ 60
SK206　61・62
SK263　63
SK271　64
SK280　65
SK293　66
SK314　67・68
SK318　69



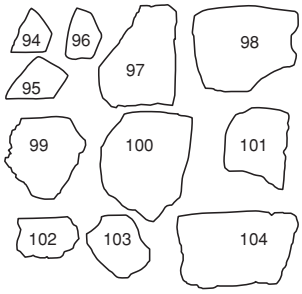
貯蔵穴ＳＫ 199・206・263・271
280・293・314・318

SK331　70 ～ 72
SK350　73 ～ 75
SK354　76・77
SK3　78
SK4　79
SK40　80
SK160　81
SK212　82・83

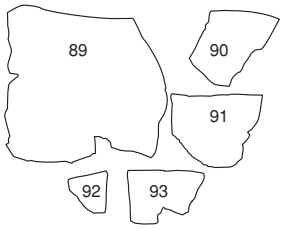




貯蔵穴ＳＫ 331・350・354　土坑ＳＫ 3・4・40・160・212

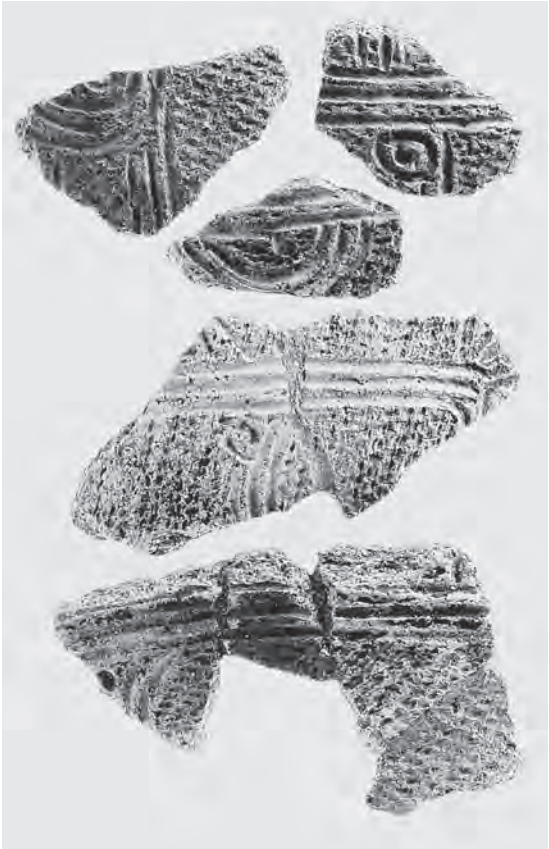


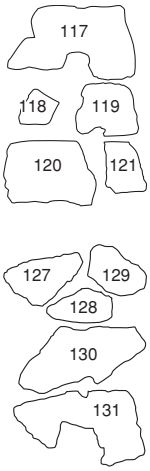
SK222	84・85
SK229	86
SK316	87
SK323	88
SP156	89
SP225	90・91
SP238	92
SX172	93



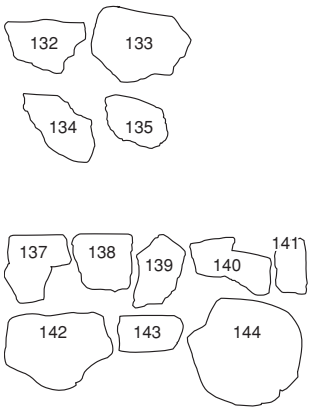
土坑ＳＫ 222・229・316・323　ピットＳＰ 156・225・238　倒木痕ＳＸ 172

遺構外出土の土器（上段：早・前期の土器　下段：馬高式土器・大木８ａ式土器）

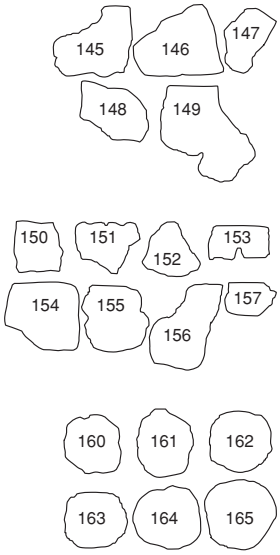




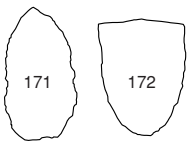
遺構外出土の土器（上段：大木８ｂ式土器　下段左：大木 10 式土器・中期末から後期初頭の土器　下段右：南境１式土器）

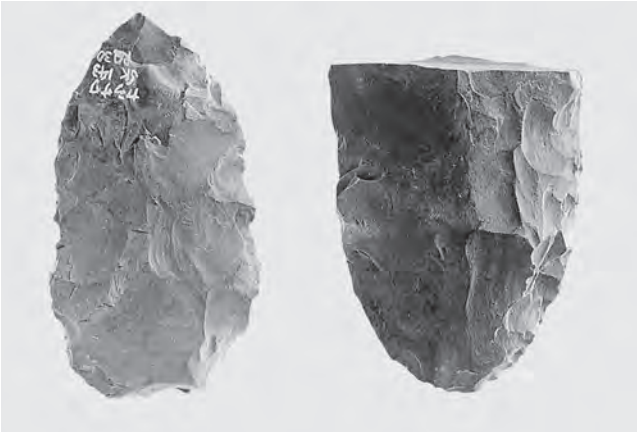


遺構外出土の土器（上段：南境１式土器　中段左：宝ヶ峯１・２式土器　中段右：そのほかの土器　下段：宝ヶ峯２式土器

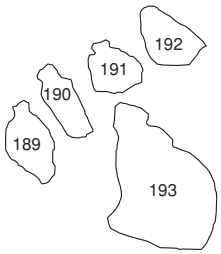


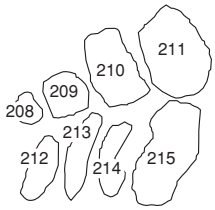
遺構外出土の土器（上段：後期後半の土器　中段：晩期の土器　下段左：そのほかの土器　下段右：円盤状土製品）

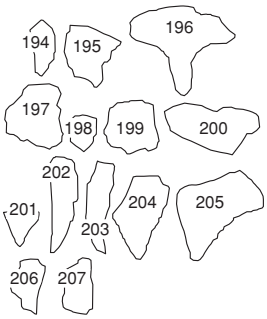




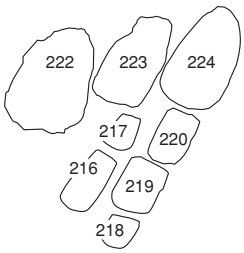
上段左：石鏃　上段右：尖頭器　下段：石篦

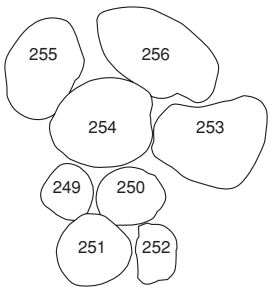


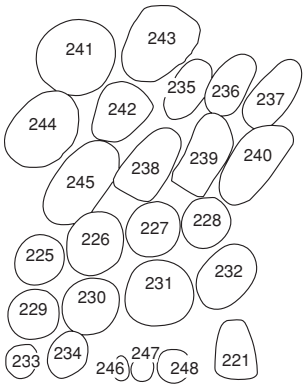




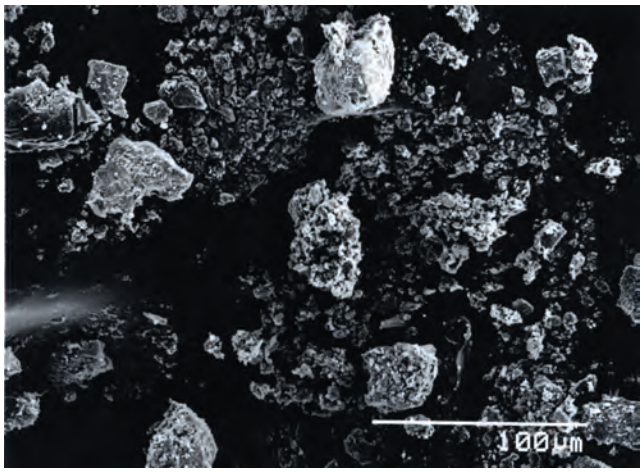
上段左：石匙　上段右：掻器と削器　下段：石錐



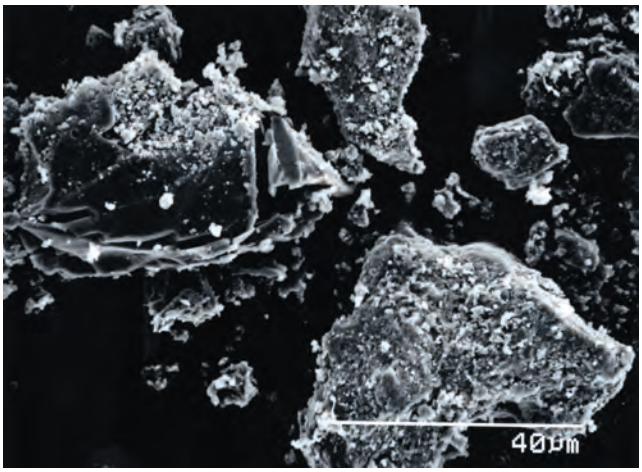




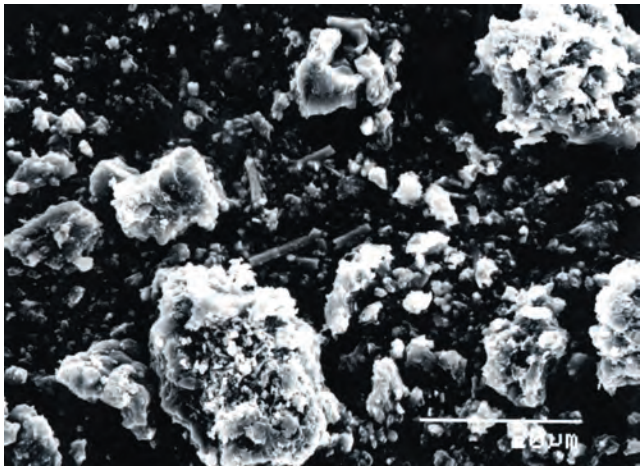
上段左：両面調整石器と磨製石斧　上段右：石皿　下段：磨石とスタンプ形石器



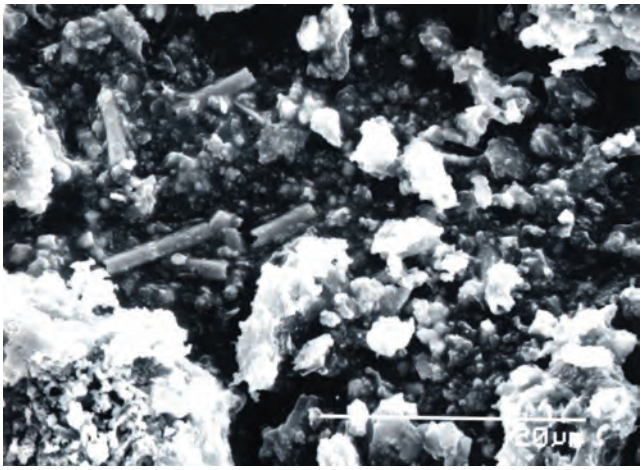
1　資料Ａ電子顕微鏡観察写真１



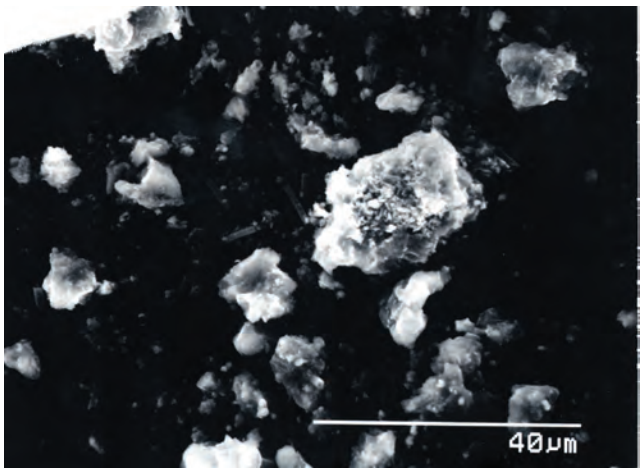
2　資料Ａ電子顕微鏡観察写真２



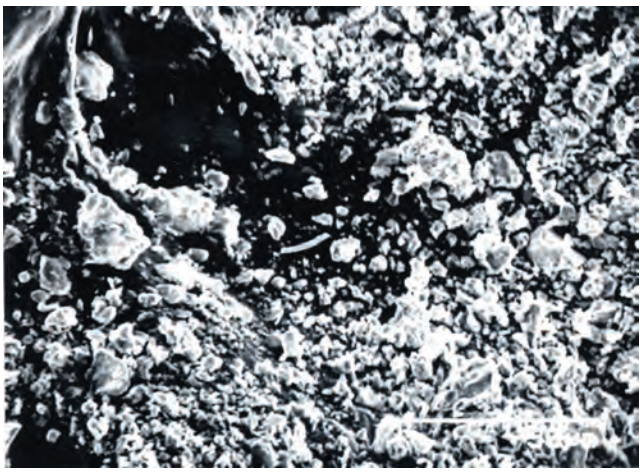
3　資料Ｂ電子顕微鏡観察写真１



4　資料Ｂ電子顕微鏡観察写真２



6　資料Ｃ電子顕微鏡観察写真



7　資料Ｄ電子顕微鏡観察写真

報告書抄録

ふりがな	からさわいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	空沢遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第144集
編著者名	水戸部秀樹　鈴木健太郎　阪英子　手代木美穂
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番1号　　ＴＥＬ　023-672-5301
発行年月日	2005年3月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
空沢遺跡（からさわいせき）	山形県（やまがたけん） 長井市（ながいし） 寺泉（てらいずみ） 字空沢西・入野川向（あざからさわにし・いりのがわむかい）	6201	昭和61年度 新規登録	38度 05分 40秒	139度 57分 48秒	20030609 ～ 20031031	4,100	新野川発電所建設

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落 狩猟場	縄文時代	竪穴住居　1 掘立柱建物　1 陥穴　50 貯蔵穴　90	縄文土器 石器 炭化したクリ・クルミ	県内では例が少ない後期初頭の土器がまとまって出土した。 独立棟持柱を持つ掘立柱建物が検出された。 （総出土箱数：80箱）

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 144 集

空沢遺跡発掘調査報告書

2005 年 3 月 28 日発行

発行　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒 999-3161　山形県上山市弁天二丁目 15 番 1 号
電話　(023)672-5301
印刷　藤庄印刷株式会社
〒 990-0821　山形県山形市北町 1 丁目 3 － 1
電話　(023)684-5555

付図　遺構実測図（1：200）

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第144集
空沢遺跡発掘調査報告書
2005年３月28日発行
財団法人山形県埋蔵文化財センター